

カリキュラムマップ【スポーツ総合課程】

科目区分	単位修得要件	学習目標	1 年		2 年		3 年		4 年	
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
一般科目	コミュニケーション 最低修得単位数： 10 単位 英語科目（英語Ⅰ・Ⅱ、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ）8 単位を必修とする	国内にはもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力を涵養する	英語Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅠ（再）	英語Ⅱ	上級英語コミュニケーション	上級英語		
			留学生のための英語	国語・文章表現法	英語コミュニケーションⅡ	現代日本事情	中国語	英語コミュニケーションⅡ（再編）		
			日本語演習Ⅰ	日本事情	日本語演習Ⅱ		韓国語	フランス語		
							ドイツ語			
			各国文化研究							
社会・文化・自然	最低修得単位数： 8 単位	社会の一員として、人間、社会、文化、自然及び環境に関する教養や態度を涵養する	倫理・哲学	人権論（1）		歴史学（1）	異文化理解			国際関係論
			日本文化論	ジェンダー論（1）		社会学（1）				
			生物化学論	日本国憲法						
			身体科学論	環境論						
総合	最低修得単位数： 4 単位 情報処理科目（情報処理A、B、C）は、1 科目以上修得しなければならない	社会の一員として、基礎的な情報リテラシー、表現力や討論力を身につける	情報処理A		情報処理C	情報処理B	総合演習A	総合演習C		
					総合演習D	総合演習B		プレゼンテーション・討論Ⅱ（1）		
					総合演習E	プレゼンテーション・討論Ⅰ（1）				
			交流リベラルアーツ							
キャリア形成科目	キャリアデザイン 最低修得単位数： 4 単位 キャリアデザインⅠ（2 単位）を必修とする。	実践的・創造的なリーダーとしての将来像を展望し、勤労観・職業観を醸成する	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインⅡ（1）		キャリアデザインⅢ（1）	キャリアセミナー（1）			
							キャリア対策セミナー（1）			
							企業実習1 週（1）			
							企業実習2 週			
			ボランティア活動（1）							
基礎 A	最低修得単位数： 14 単位	体育学の基礎となる人文・社会及び自然系の分野の内容を理解する	解剖生理学	運動生理学	スポーツ社会学	運動生理学（再）	スポーツ医学			
			体育・スポーツ哲学と倫理	スポーツ栄養学	スポーツ経営・管理学概論					
			体育・スポーツ史	スポーツ心理学	生涯スポーツ学概論					
			健康教育学		バイオメカニクス					
基礎 B	最低修得単位数： 10 単位	スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導・普及のための基礎的な内容を理解する		武道学概論	救急処置論・実習	トレーニング科学概論	スポーツと法	障がい者スポーツ論		
					スポーツカウンセリング論	運動学概論（1）				
						コーチ学概論（1）				
						学校保健				
応用	最低修得単位数： 10 単位	国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導し、普及させるための専門的、応用的な内容を身につける			武道史	アスレチックリハビリテーション論	マッサージ・テーピング論・実習	マッサージ・テーピング論・実習	ヘルスプロモーション論・実習	
					運動生化学	スポーツ産業論	生涯スポーツ実践論	体育・スポーツ行政学		
					スポーツ文化論	スポーツ老年学	アスレチックリハビリテーション実習（1）	武道文化論		
							スポーツトレーニング実践論	身体発育発達論		
							スポーツマーケティング論	スポーツ戦術実践論		
							イベント管理学概論	社会調査論		
								スポーツ運営論		
								体育・スポーツ統計学		
								運動処方論		
								応用スポーツ心理学		
						救急法実習（1）				
実験演習	最低修得単位数： 2 単位 体育学実験Ⅰ（2 単位）を必修とする。	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な科学的支援力や表現的能力を身につける		体育学実験Ⅰ	体育学実験Ⅱ（4）					
関連実技	最低修得単位数： 8 単位 スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な実技力を身につける	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な実技力を身につける	バスケットボール（1）	バスケットボール（1）	ラグビー（1）	テニス（1）	陸上・体操・水泳（2）		ダンス（1）	ダンス（1）
			サッカー（1）	サッカー（1）	テニス（1）	ソフトボール（1）	バレーボール（1）	バレーボール（1）	ゴルフ（1）	ゴルフ（1）
			柔道（1）	柔道（1）	ソフトボール（1）	ジョギング&ウォーキング（1）	卓球（1）	卓球（1）		弓道（1）
			剣道（1）	剣道（1）	夏季山岳レジャースポーツ実習（1）	冬季山岳レジャースポーツ実習（1）	バドミントン（1）	バドミントン（1）		
			生涯スポーツ・レクリエーション&ゲームズ（1）	エアロビックダンス（1）	海洋スポーツ（1）	ラグビー（1）	ダンス（1）	ダンス（1）		
					相撲（1）	なぎなた（1）				
					野外活動（1）	弓道（1）				
			体力トレーニング（1）							
	最低修得単位数： 14 単位 ゼミナールⅠ以外を必修とする	スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける関心あるテーマについて、体育学の知識を総合的に活用し、課題設定、解決、説明する能力を身につける			ゼミナールⅠ（4）		ゼミナールⅡ（4）		ゼミナールⅢ（4）	
									卒業研究（6）	
専攻科目	コアスリット系 最低修得単位数： 18 単位 論・実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは同一の種目であること。	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関して、年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や事業運営力を身につける	競技スポーツ論・実習Ⅰ（6）		競技スポーツ論・実習Ⅱ（6）		競技スポーツ論・実習Ⅲ（6）		競技スポーツ論・実習Ⅳ（6）	
	生涯スポーツ系 最低修得単位数： 6 単位 論・実習Ⅰ、Ⅱは同一のコースであること。		レジャー・レクリエーション論	施設・用具・プログラム論	生涯スポーツ論・演習Ⅰ	生涯スポーツ論・演習Ⅱ				
				1 科目以上選択		コミュニティスポーツ	コミュニティスポーツ			
					健康・体力	健康・体力				
					野外教育	野外教育				
指導実践	指導実践科目は、専攻科目で選択した同一の種目の実習を必修とする。	専攻科目等で身につけた体系的な実技指導力や事業運営力を実地的・実践的に活用し、深める		スポーツ指導実践概論（1）			【アスリート・コーチング系】 スポーツコーチ実習（1～2）	SCO-OP 実習（4）		SCO-OP 実習（4）
							【生涯スポーツ系】 生涯スポーツ指導実習			

注) 1. () 内の数字は単位数を示す。なお、表記のないものはすべて2 単位科目である。

2. 表中の色は以下のことを示す。なお、着色していない科目はすべて選択科目である。

- は必修科目を示す
- はアスリート・コーチング系の必修科目を示す。
- は生涯スポーツ系の必修科目を示す。
- は生涯スポーツ系の選択必修科目を示す。

カリキュラムマップ【武道課程】

科目区分	単位修得要件	学習目標	1 年		2 年		3 年		4 年		
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
一般科目	コミュニケーション 最低修得単位数：10単位 英語科目（英語Ⅰ・Ⅱ、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ）8単位を必修とする。	国内にはもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力を涵養する	英語Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅠ（再）	英語Ⅱ	上級英語コミュニケーション	上級英語			
			留学生のための英語	国語・文章表現法	英語コミュニケーションⅡ	現代日本事情	中国語	英語コミュニケーションⅡ（再・編）			
			日本語演習Ⅰ	日本事情	日本語演習Ⅱ		韓国語	フランス語			
							ドイツ語				
	各国文化研究										
	社会・文化・自然 最低修得単位数：8単位	社会の一員として、人間、社会、文化、自然及び環境に関する教養や態度を涵養する	倫理・哲学	人権論（1）		歴史学（1）	異文化理解				国際関係論
			日本文化論	ジェンダー論（1）		社会学（1）					
			生物化学論	日本国憲法							
			身体科学論	環境論							
	総合 最低修得単位数：4単位 情報処理科目（情報処理A、B、C）は、1科目以上修得しなければならない	社会の一員として、基礎的な情報リテラシー、表現力や討論力を身につける	情報処理A		総合演習D	総合演習B	総合演習A	総合演習C			
				総合演習E	情報処理B		プレゼンテーション・討論Ⅱ（1）				
				情報処理C	プレゼンテーション・討論Ⅰ（1）						
交流リベラルアーツ											
キャリア形成科目 キャリアデザイン 最低修得単位数：4単位 キャリアデザインⅠ（2単位）を必修とする。	実践的・創造的なリーダーとしての将来像を展望し、勤労観・職業観を醸成する	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインⅡ（1）		キャリアデザインⅢ（1）	キャリアセミナー（1）					
						キャリア対策セミナー（1）					
						企業実習1週（1）					
						企業実習2週					
ボランティア活動（1）											
専門科目	基礎A 最低修得単位数：14単位	体育学の基礎となる人文・社会及び自然系の分野の内容を理解する	解剖生理学	運動生理学	スポーツ社会学	運動生理学（再）	スポーツ医学				
			体育・スポーツ哲学と倫理	スポーツ栄養学	スポーツ経営・管理学概論						
			体育・スポーツ史	スポーツ心理学	生涯スポーツ学概論						
			健康教育学		バイオメカニクス						
	基礎B 最低修得単位数：10単位	スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導・普及のための基礎的な内容を理解する		武道学概論	救急処置論・実習	トレーニング科学概論	スポーツと法	障がい者スポーツ論			
					スポーツカウンセリング論	運動学概論（1）					
						コーチ学概論（1）					
						学校保健					
	応用 最低修得単位数：10単位	国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導し、普及させるための専門的、応用的な内容を身につける			武道史	アスレチックリハビリテーション論	マッサージ・テーピング論・実習	マッサージ・テーピング論・実習	ヘルスプロモーション・実習		
					運動生化学	スポーツ産業論	生涯スポーツ実践論	体育・スポーツ行政学			
				スポーツ文化論	スポーツ老年学	アスレチックリハビリテーション実習（1）	武道文化論				
						スポーツトレーニング実践論	身体発育発達論				
						スポーツマーケティング論	スポーツ戦術実践論				
						イベント管理学概論	社会調査論				
							スポーツ運営論				
							体育・スポーツ統計学				
救急法実習（1）											
実験演習 最低修得単位数：2単位 体育学実験Ⅰ（2単位）を必修とする。	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な科学的支援力や表現的能力を身につける		体育学実験Ⅰ	体育学実験Ⅱ（4）							
関連実技 最低修得単位数：8単位	スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な実技力を身につける	バスケットボール（1）	バスケットボール（1）	ラグビー（1）	テニス（1）	陸上・体操・水泳（2）		ダンス（1）	ダンス（1）		
		サッカー（1）	サッカー（1）	テニス（1）	ソフトボール（1）	バレーボール（1）	バレーボール（1）	ゴルフ（1）	ゴルフ（1）		
		柔道（1）	柔道（1）	ソフトボール（1）	ジョギング&ウォーキング（1）	卓球（1）	卓球（1）		弓道（1）		
		剣道（1）	剣道（1）	夏季山岳レジャースポーツ実習（1）	冬季山岳レジャースポーツ実習（1）	バドミントン（1）	バドミントン（1）				
		生涯スポーツ・レクリエーション&ゲームズ（1）	エアロビックダンス（1）	海洋スポーツ（1）	ラグビー（1）	ダンス（1）	ダンス（1）				
				相撲（1）	なぎなた（1）						
				野外活動（1）	弓道（1）						
					体力トレーニング（1）						
ゼミナール（卒業研究） 最低修得単位数：14単位				ゼミナールⅠ（4）		ゼミナールⅡ（4）		ゼミナールⅢ（4）			
専攻科目	武道系 最低修得単位数：18単位 論・実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは同一の種目であること。	専修武道論・実習Ⅰ（6）		専修武道論・実習Ⅱ（6）		専修武道論・実習Ⅲ（6）		専修武道論・実習Ⅳ（6）			
		生涯スポーツ系 最低修得単位数：6単位 論・実習Ⅰ、Ⅱは同一のコースであること。		レジャー・レクリエーション論	施設・用具・プログラム論	生涯スポーツ論・演習Ⅰ	生涯スポーツ論・演習Ⅱ				
			1科目以上選択		コミュニティスポーツ	コミュニティスポーツ					
					健康・体力	健康・体力					
	指導実践 指導実践科目は、専攻科目で選択した同一の種目の実習を必修とする。	専攻科目等で身につけた体系的な実技指導力や事業運営力を実地的・実践的に活用し、深める		スポーツ指導実践概論（1）			【武道系】 武道指導実習（1～2）	SCO-OP実習（4）		SCO-OP実習（4）	
						【生涯スポーツ系】 生涯スポーツ指導実習					

注) 1. () 内の数字は単位数を示す。なお、表記のないものはすべて2単位科目である。

2. 表中の色は以下のことを示す。なお、着色していない科目はすべて選択科目である。

- は必修科目を示す
- は武道課程に特化した必修科目を示す。
- に示す2科目のうち1科目以上を選択必修
- は生涯スポーツ系の必修科目を示す。
- は生涯スポーツ系の選択必修科目を示す。

※関連実技科目について、剣道、柔道、なぎなた、弓道の中から2科目（各1単位）以上修得しなければならない。

体育学部のディプロマポリシーで目指す12の資質・能力と授業科目との関係一覧表

大分類	中分類	科目	資質・能力	専門的知識・能力	コミュニケーション能力	リーダーシップ	キャリアデザイン力	問題解決力	社会貢献・倫理	国際的視野	科学的振興力	専門的知識・教養				
一般科目	コミュニケーション科目	英語Ⅰ(基礎①)			●											
		英語Ⅰ(基礎②)			●											
		英語Ⅰ(初級A)			●											
		英語Ⅰ(初級B)			●											
		英語Ⅰ(初級C)			●											
		英語Ⅰ(中級)			●											
		英語Ⅱ(基礎①)			●											
		英語Ⅱ(基礎②)			●											
		英語Ⅱ(初級A)			●											
		英語Ⅱ(初級B)			●											
		英語Ⅱ(初級C)			●											
		英語Ⅱ(中級)			●											
		上級英語			●											
		英語コミュニケーションⅠ(基礎①)			●											
		英語コミュニケーションⅠ(基礎②)			●											
		英語コミュニケーションⅠ(初級A)			●											
		英語コミュニケーションⅠ(初級B)			●											
		英語コミュニケーションⅠ(初級C)			●											
		英語コミュニケーションⅡ(中級)			●											
		英語コミュニケーションⅡ(基礎①)			●											
		英語コミュニケーションⅡ(基礎②)			●											
		英語コミュニケーションⅡ(初級A)			●											
		英語コミュニケーションⅡ(初級B)			●											
		英語コミュニケーションⅡ(初級C)			●											
		英語コミュニケーションⅡ(中級)			●											
		上級英語コミュニケーション			●											
		中国語			●											
		韓国語			●											
		韓国語・文章読解法			●											
		ドイツ語			●											
		留学生のための英語			●											
		日本語演習Ⅰ			●											
		日本語演習Ⅱ			●											
		現代日本語			●											
		日本語			●											
		韓国語・習字			●											
		人権論			●											
		ジェンダー論			●											
		歴史学			●											
		社会学			●											
		日本語学			●											
		異文化理解			●											
		国際関係論			●											
		生物化学論			●											
		身体科学論			●											
		環境論			●											
		総合演習A			●											
		総合演習E			●											
		情報処理A			●											
		情報処理B			●											
		プレゼンテーション・討論Ⅰ			●											
		プレゼンテーション・討論Ⅱ			●											
		キャリアデザインⅠ			●											
		キャリアデザインⅡ			●											
		キャリアデザインⅢ			●											
		キャリアセミナー			●											
		キャリアコミュニケーション			●											
		企業実習			●											
		キャリア対策セミナー(教員)			●											
		キャリア対策セミナー(一般企業)			●											
		キャリア対策セミナー(公務員)			●											
		ポアンティア活動			●											
		専門科目	基礎科目A	解剖生理学										●		
				体育・スポーツ哲学と倫理										●		
				体育・スポーツ史										●		
				体育・スポーツ学										●		
				運動生理学										●		
				スポーツ栄養学										●		
				スポーツ社会学										●		
				スポーツ経営・管理学概論										●		
				生涯スポーツ学概論										●		
				スポーツ心理学										●		
				バイオメカニクス										●		
				衛生学・公衆衛生学										●		
				スポーツ医学										●		
				基礎科目B	総合演習論・実習											●
					トレーニング科学概論											●
					スポーツカウンセリング論											●
					運動学概論											●
					学校保健											●
					スポーツと法											●
					コーチ学概論											●
					障がい者スポーツ論											●
					武道学概論											●
					マッサージ・テーピング論											●
				応用科目	生体スポーツ実践論											●
					武道史											●
					運動生化学											●
					アスレチックリハビリテーション論											●
					アスレチックリハビリテーション実習											●
					スポーツ産業論											●
					スポーツ老年学											●
					スポーツ文化論											●
					スポーツトレーニング実践論											●
					体育・スポーツ行政学											●
				実践演習科目	武道文化論											●
					身体発達論											●
					スポーツ医療論											●
					社会調査論											●
					スポーツ運営論											●
スポーツマーケティング論														●		
運動処方論														●		
応用スポーツ心理学														●		
イベント管理論														●		
ヘルスプロモーション論・実習														●		
その他	体育学概論Ⅰ													●		
	体育学概論Ⅱ-運動生理学-													●		
	体育学概論Ⅱ-バイオメカニクス-													●		
	体育学概論Ⅱ-スポーツ心理学-													●		
	体育学概論Ⅱ-衛生学・公衆衛生学													●		
	スポーツ実論学													●		
	向上・体適・水泳													●		
	バスケットボール											●				
	サッカー											●				

授業科目名	英語 I (基礎①)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (コミュニケーション科目)	
担当教員名	吉重 美紀			補助担当者名	TA1名	
単位数	2 単位	履修年次	1 年次	受け入れ人数	25名程度	
授業の概要	指導者として海外においても活躍できるように、英語の基礎力は不可欠である。本授業では、英語を実際に運用する際に必要な基本的文法知識の習得に焦点を絞って指導する。これにより、学生が将来どのような場面においても使える基礎的英語力が身につくことが期待される。学生には授業前に自宅で課題をノートに行なって来てもらう。					
授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法			
	D Pで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 (専門的な知識・教養)	授業期間		定期試験	割合%
			授業	テスト	レポート	発表
	■認知的領域	英語の基本的文法事項について理解し、それを応用できるようになる。	○	○	○	30
	■情意的領域	毎回の課題に主体的に取り組む。異なる国々の文化や習慣に関心を持つ。	○	○		30
■技能的領域	英語で話し、聞き、書き、読めるよう基本的4技能を身につける。また英語の発音に慣れる。	○	○	○	40	
成績評価の基準	授業で扱う課の問題をノートにして来て、それを授業中に毎回チェックしポイントを獲得。毎回の小テスト、課題、定期試験(中間、期末)の得点を合計し60点以上を合格。なお、4月受験の英語プレイズメントテストの得点も評価に加味される(10%)。					
テキスト、教材参考書	テキスト：『English Missions Starter ミッション型大学英語の総合演習：入門編』 (Robert Hickling, 白倉 美里 著, 金星堂, 2019, 1800円+税) 補助教材：『「英語基礎」ワークブック』(吉重美紀 編著, 鹿屋体育大学国際交流センター発行, 2013) 参考書：『アスリートたちの英語トレーニング術』(岡田圭子・野村隆宏著, 岩波ジュニア新書) 『<意味順>英作文のすすめ』(田地野彰著, 岩波ジュニア新書)					
履修条件・関連科目	4月受験の英語プレイズメントテストの結果でこのクラスに指定された学生。上級生で受講希望の学生は、事前に相談に来るように。	備考(教員メッセージ含む)	辞書必携。専用ノート1冊を準備下さい。			
オフィス・アワー	木曜日：昼休み、午後4時～5時 図書館2階吉重教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	吉重 美紀	事前アンケート、コースおよび課題の説明、Pre-Unit	1課 p.16～17 予習する (1時間)			
2	〃	Unit 1 Welcome to Vancouver 他動詞	2課 p.21～22 予習する (1時間)			
3	〃	Unit 2 Ryo Loves San Francisco 一般動詞の現在形	4課 p.31～32 予習する (1時間)			
4	〃	Unit 4 L.A. Style 進行形	5課 p.35～36 予習する (1時間)			
5	〃	Unit 5 The Canadian Rockies 時と場所を表す前置詞	6課 p.37～38 予習する (1時間)			
6	〃	Unit 6 The Grand Canyon 可算/不可算名詞	7課 p.45～46 予習する (1時間)			
7	〃	Unit 7 T.O.? Toronto, Ontario 一般動詞の過去形	U.1～U.7の復習,配布プリント課題 (1.5時間)			
8	〃	前半の総復習、中間試験(U.1～U.7)	8課 p.51～52 予習する (1時間)			
9	〃	Unit 8 Big Texas 疑問詞	9課 p.56～57 予習する (1時間)			
10	〃	Unit 9 Ottawa? The Capital 接続詞	10課 p.61～62 予習する (1時間)			
11	〃	Unit 10 Funky New Orleans 動名詞/不定詞	11課 p.66～67 予習する (1時間)			
12	〃	Unit 11 Charming Quebec City 未来形	12課 p.71～72 予習する (1時間)			
13	〃	Unit 12 Florida Sunshine 現在完了形	14課 p.81～82 予習する (1時間)			
14	〃	Unit 14 N.Y.C.? The Big Apple 助動詞, 学期末試験の説明	15課 p.86～87 予習する (1時間)			
15	〃	Unit 15 Niagara Falls 受動態	学期末試験に備え総復習する (2.5時間)			
16	〃	学期末試験(筆記+リスニング, 中間試験含む)				

第21回 教育課程改訂に関する特別委員会議事メモ

1. 日時 令和2年3月12日(火) 16:10～18:00
2. 場所 事務局大会議室
3. 議題

(1) 第20回議事要旨の確認について(資料1)

委員長から資料に基づき説明があった後、諮られ、原案のとおり確認された。

(2) 審議事項

① ナンバリング案について(資料2)

委員長から資料に基づき説明があった後、諮られ、種々意見交換の結果、国重委員から提案のあった「総合英語IV」4科目のレベル別コードを「A」から「B」への変更を行うこととなり、それ以外については原案のとおり了承された。また、金高委員から教職科目の教職科目について、ナンバリング案の確認をすべきではないかとの提案があり、併せて了承された。

② 令和3年度開設授業科目及び授業担当教員一覧(案)について(資料3)

委員長から資料に基づき説明があった後、諮られ、以下の点を修正することとなり、それ以外については原案のとおり了承された。

- ・資料における担当教員欄の「不開講」及び「－」の記載について、記載を統一する。
- ・「スポーツ経営・管理学概論」及び「スポーツ運営論」の科目名変更については、カリキュラムマップはすでに決定していることから、変更を行わない。
- ・「スポーツ経営・管理学概論」及び「スポーツ運営論」の授業担当教員について、隅野講師の担当が削除され、竹下教授の後任教員1名(「(*)」の記載)が単独で配置されているが、後任教員の担当授業科目等の人事マネジメント方針は本委員会の審議事項ではないため、担当削除は行わない。また、両科目及び「スポーツマーケティング論」の萩原准教授の担当削除も同様に行わない。なお、人事マネジメント方針に係る後任人事については、スポーツ人文・応用社会科学系から学長に提案し、了承があった場合に本委員会における担当教員の変更を行うこととなった。
- ・「歴史学」についても授業担当教員欄の「(*)」を「()」に戻す。
- ・「スポーツ国際開発学」を「スポーツ国際開発論」に変更する。
- ・「トレーニング科学概論」の授業担当教員について、「高井准教授」「山本教授」の順に変更する。

また、荻田委員から授業担当教員については、現在の配置のまま審議を進めることが原則ではないかとの意見があり、了承された。

なお、本件について系会議に確認を依頼することとなった。

③ 教養教育等検討ワーキンググループの設置について

委員長から総合演習の各科目等の担当教員について検討する必要があることの説明があった後、諮られ、「教養教育等検討ワーキンググループ」の設置が了承された。なお、ワーキンググループ委員は、委員長、森克己委員、北村委員、国重委員及び金高委員とすることとなった。

また、今後の検討スケジュールとして、5月の教授会に、ナンバリング案、授業担当教員の配置及び時間割について提案をすることを目標とすることが確認された。

(3) その他

- ① 次回開催日程について

大学教育の満足度に関するアンケート調査結果（平成28年度～令和元年度）

－卒業生による本学の教育評価－

●回答者数

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
計	178/195	91.3%	180/191	94.2%	179/191	93.7%	171/185	92.4%

●あなたの本学での目標は何でしたか？（複数回答可）

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
スポーツ・武道についての専門的知識や技能の修得	115	31.5%	127	28.9%	126	32.9%	117	29.5%
スポーツ・武道についての実践的な指導能力の修得	72	19.7%	84	19.1%	76	19.8%	74	18.7%
スポーツ・武道についての専門的資格の修得	51	14.0%	44	10.0%	54	14.1%	56	14.1%
自分の専門とする競技に専念し、競技力の向上	74	20.3%	111	25.3%	75	19.6%	91	23.0%
社会人基礎力（汎用的能力）の向上	42	11.5%	58	13.2%	39	10.2%	42	10.6%
漠然としていた	5	1.4%	13	3.0%	8	2.1%	14	3.5%
その他	3	0.8%	2	0.5%	5	1.3%	2	0.5%
無回答	3	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	365		439		383		396	

その他内訳 教員免許状取得のため（4名）、体育教師になるため（4名）、課外活動で成果を上げるため（4名）、
スポーツトレーナーになるため（2名）、専門知識・技術習得のため（2名）、スポーツ指導者になるため、
プロのアスリートになるため

●あなたが卒業時まで身に付けた力の満足度についてお伺いします。下の項目についてそれぞれ選択してください。

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
実技力	1. 大変満足している		45	25.0%	62	34.6%	52	30.4%
	2. 満足している		106	58.9%	90	50.3%	98	57.3%
	3. あまり満足していない		23	12.8%	26	14.5%	16	9.4%
	4. 全く満足していない		6	3.3%	1	0.6%	5	2.9%
	計		180		179		171	

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
実技指導力	1. 大変満足している		33	18.4%	46	25.7%	47	27.5%
	2. 満足している		106	59.2%	108	60.3%	100	58.5%
	3. あまり満足していない		31	17.3%	22	12.3%	20	11.7%
	4. 全く満足していない		9	5.0%	3	1.7%	4	2.3%
	計		179		179		171	

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
事業運営力	1. 大変満足している		28	15.6%	32	17.9%	27	15.8%
	2. 満足している		85	47.2%	93	52.0%	99	57.9%
	3. あまり満足していない		55	30.6%	46	25.7%	38	22.2%
	4. 全く満足していない		12	6.7%	8	4.5%	7	4.1%
	計		180		179		171	

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
指導者基礎力	未実施		35	19.4%	41	22.9%	40	23.4%
1. 大変満足している			106	58.9%	112	62.6%	106	62.0%
2. 満足している			33	18.3%	23	12.8%	23	13.5%
3. あまり満足していない			6	3.3%	3	1.7%	2	1.2%
4. 全く満足していない			180		179		171	
計								

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
コミュニケーション力	未実施		57	31.7%	65	36.3%	69	40.4%
1. 大変満足している			100	55.6%	93	52.0%	85	49.7%
2. 満足している			20	11.1%	17	9.5%	14	8.2%
3. あまり満足していない			3	1.7%	4	2.2%	3	1.8%
4. 全く満足していない			180		179		171	
計								

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
リーダーシップ	未実施		41	22.8%	37	20.7%	45	26.3%
1. 大変満足している			89	49.4%	110	61.5%	94	55.0%
2. 満足している			44	24.4%	30	16.8%	27	15.8%
3. あまり満足していない			6	3.3%	2	1.1%	5	2.9%
4. 全く満足していない			180		179		171	
計								

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
キャリアデザイン力	未実施		26	14.4%	38	21.2%	45	26.3%
1. 大変満足している			89	49.4%	101	56.4%	94	55.0%
2. 満足している			53	29.4%	37	20.7%	24	14.0%
3. あまり満足していない			12	6.7%	3	1.7%	8	4.7%
4. 全く満足していない			180		179		171	
計								

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
課題解決力	未実施		37	20.6%	51	28.5%	48	28.1%
1. 大変満足している			105	58.3%	109	60.9%	107	62.6%
2. 満足している			32	17.8%	19	10.6%	15	8.8%
3. あまり満足していない			6	3.3%	0	0.0%	1	0.6%
4. 全く満足していない			180		179		171	
計								

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
一般教養・倫理	未実施		18	10.0%	34	19.0%	29	17.0%
1. 大変満足している			104	57.8%	101	56.4%	111	64.9%
2. 満足している			49	27.2%	38	21.2%	28	16.4%
3. あまり満足していない			9	5.0%	6	3.4%	3	1.8%
4. 全く満足していない			180		179		171	
計								

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
科学的支援力	未実施		20	11.1%	41	22.9%	27	15.8%
1. 大変満足している			90	50.0%	82	45.8%	98	57.3%
2. 満足している			57	31.7%	51	28.5%	42	24.6%
3. あまり満足していない			13	7.2%	5	2.8%	4	2.3%
4. 全く満足していない			180		179		171	
計								

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
科学的表現力	未実施		19	10.6%	37	20.7%	25	14.6%
1. 大変満足している			85	47.2%	88	49.2%	106	62.0%
2. 満足している			62	34.4%	48	26.8%	37	21.6%
3. あまり満足していない			14	7.8%	6	3.4%	3	1.8%
4. 全く満足していない			180		179		171	
計								

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
専門的な知識・ 教養	未実施		46	25.6%	62	34.6%	59	34.5%
1. 大変満足している			106	58.9%	105	58.7%	101	59.1%
2. 満足している			24	13.3%	11	6.1%	10	5.8%
3. あまり満足していない			4	2.2%	1	0.6%	1	0.6%
4. 全く満足していない			180		179		171	
計								

●あなたの本学における勉学の満足度についてお伺いします。

区分	28年度		29年度		30年度		元年度			
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率		
Q1. 本学4年間（編入生は2年 間）での自分自身の成長について 満足していますか。	未実施		59	33.1%	87	48.3%	81	45.3%	80	46.8%
1. 大変満足している			106	59.6%	71	39.4%	88	49.2%	82	48.0%
2. 満足している			11	6.2%	19	10.6%	10	5.6%	8	4.7%
3. あまり満足していない			0	0.0%	3	1.7%	0	0.0%	1	0.6%
4. 全く満足していない			2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答			178		180		179		171	
計										

区分	28年度		29年度		30年度		元年度			
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率		
Q2. 本学に入学したことについて 満足していますか。	未実施		105	59.0%	96	53.3%	101	56.4%	108	63.2%
1. 大変満足している			66	37.1%	69	38.3%	68	38.0%	53	31.0%
2. 満足している			2	1.1%	10	5.6%	8	4.5%	7	4.1%
3. あまり満足していない			0	0.0%	5	2.8%	2	1.1%	3	1.8%
4. 全く満足していない			5	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答			178		180		179		171	
計										

●各授業科目区分での学びはあなたを満足させるものでしたか。下の項目についてそれぞれ選択してください。

区分	28年度		29年度		30年度		元年度			
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率		
「基礎科目A」は、「体育学の基礎 となる内容」を理解する科目とし て満足させるものでしたか？	未実施		51	28.7%	33	18.3%	41	22.9%	41	24.0%
1. 大変満足している			109	61.2%	118	65.6%	118	65.9%	113	66.1%
2. 満足している			13	7.3%	23	12.8%	19	10.6%	16	9.4%
3. あまり満足していない			1	0.6%	6	3.3%	1	0.6%	1	0.6%
4. 全く満足していない			4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答			178		180		179		171	
計										

区分	28年度		29年度		30年度		元年度			
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率		
「基礎科目B」は、「スポーツ・武 道及び体育・健康づくりについて の指導・普及に役立つ基礎的な内 容」を理解する科目として満足さ せるものでしたか？	未実施		56	31.5%	32	17.8%	34	19.0%	43	25.1%
1. 大変満足している			108	60.7%	118	65.6%	124	69.3%	108	63.2%
2. 満足している			9	5.1%	24	13.3%	20	11.2%	19	11.1%
3. あまり満足していない			1	0.6%	6	3.3%	1	0.6%	1	0.6%
4. 全く満足していない			4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答			178		180		179		171	
計										

「応用科目」は、「スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導・普及に役立つ応用的な内容」を身につける科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	52	29.2%	40	22.2%	50	27.9%	57	33.3%
2. 満足している	115	64.6%	115	63.9%	111	62.0%	103	60.2%
3. あまり満足していない	6	3.4%	18	10.0%	17	9.5%	10	5.8%
4. 全く満足していない	1	0.6%	7	3.9%	1	0.6%	1	0.6%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「実験演習科目」は、「スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な科学的支援力や表現力」を身につける科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	59	33.1%	48	26.7%	57	31.8%	55	32.2%
2. 満足している	98	55.1%	113	62.8%	107	59.8%	106	62.0%
3. あまり満足していない	12	6.7%	14	7.8%	14	7.8%	9	5.3%
4. 全く満足していない	1	0.6%	5	2.8%	1	0.6%	1	0.6%
0. 未受講	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「関連実技科目」は、「スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な実技力」を身につける科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	78	43.8%	67	37.2%	73	40.8%	70	40.9%
2. 満足している	92	51.7%	101	56.1%	92	51.4%	95	55.6%
3. あまり満足していない	4	2.2%	8	4.4%	13	7.3%	5	2.9%
4. 全く満足していない	0	0.0%	4	2.2%	1	0.6%	1	0.6%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「ゼミナール」「卒業研究」は、「スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける関心のあるテーマについて、これまでの知識を総合的に活用し、課題設定、解決、説明する能力」を身につける科目としてあなたを満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	91	51.1%	78	43.3%	101	56.4%	93	54.4%
2. 満足している	79	44.4%	85	47.2%	68	38.0%	67	39.2%
3. あまり満足していない	4	2.2%	11	6.1%	9	5.0%	10	5.8%
4. 全く満足していない	0	0.0%	6	3.3%	1	0.6%	1	0.6%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「専修科目」は、「スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関して、年齢、目的に応じた体系的な実技指導力や事業運営能力」を身につける科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	63	35.4%	48	26.7%	53	29.6%	55	32.2%
2. 満足している	101	56.7%	115	63.9%	104	58.1%	102	59.6%
3. あまり満足していない	10	5.6%	11	6.1%	21	11.7%	12	7.0%
4. 全く満足していない	0	0.0%	6	3.3%	1	0.6%	2	1.2%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「指導実践科目」は、「専修科目で身につけた体系的な実技指導力や事業運営能力を実地的・実践的に活用」できる科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	64	36.0%	55	30.6%	53	29.6%	58	33.9%
2. 満足している	97	54.5%	108	60.0%	110	61.5%	100	58.5%
3. あまり満足していない	9	5.1%	11	6.1%	15	8.4%	11	6.4%
4. 全く満足していない	1	0.6%	6	3.3%	1	0.6%	2	1.2%
0. 未受講	3	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「コミュニケーション科目」は、「国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力」を身につける科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	53	29.8%	38	21.1%	46	25.7%	46	26.9%
2. 満足している	89	50.0%	111	61.7%	108	60.3%	103	60.2%
3. あまり満足していない	28	15.7%	26	14.4%	22	12.3%	17	9.9%
4. 全く満足していない	4	2.2%	5	2.8%	3	1.7%	5	2.9%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「社会・文化・自然科目」は、「人間、社会、文化、自然および環境に関する教養や態度」を身につける科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	52	29.2%	30	16.7%	38	21.2%	36	21.1%
2. 満足している	96	53.9%	113	62.8%	112	62.6%	104	60.8%
3. あまり満足していない	24	13.5%	30	16.7%	26	14.5%	27	15.8%
4. 全く満足していない	2	1.1%	7	3.9%	3	1.7%	4	2.3%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「総合科目」は、「基礎的な情報リテラシー、表現力や討論力」を身につける科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	50	28.1%	30	16.7%	41	22.9%	46	26.9%
2. 満足している	102	57.3%	117	65.0%	120	67.0%	100	58.5%
3. あまり満足していない	21	11.8%	27	15.0%	16	8.9%	20	11.7%
4. 全く満足していない	1	0.6%	6	3.3%	2	1.1%	5	2.9%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

「キャリアデザイン科目」は、「実践的、創造的なリーダーとしての将来を展望し、勤労感・職業観及びキャリアデザイン力」を醸成する科目として満足させるものでしたか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	49	27.5%	36	20.0%	48	26.8%	44	25.7%
2. 満足している	92	51.7%	110	61.1%	99	55.3%	98	57.3%
3. あまり満足していない	22	12.4%	23	12.8%	27	15.1%	22	12.9%
4. 全く満足していない	9	5.1%	11	6.1%	5	2.8%	7	4.1%
0. 未受講	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

教職科目について満足していますか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		38	21.1%	49	27.4%	55	32.2%
2. 満足している			106	58.9%	87	48.6%	83	48.5%
3. あまり満足していない			23	12.8%	34	19.0%	19	11.1%
4. 全く満足していない			13	7.2%	9	5.0%	14	8.2%
0. 未受講			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計			180		179		171	

教職の専門科目について満足していますか？

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
1. 大変満足している	未実施		47	26.1%	47	26.3%	53	31.0%
2. 満足している			111	61.7%	99	55.3%	91	53.2%
3. あまり満足していない			14	7.8%	24	13.4%	16	9.4%
4. 全く満足していない			8	4.4%	9	5.0%	11	6.4%
0. 未受講			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計			180		179		171	

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
教育実習について満足していますか？								
1. 大変満足している	69	38.8%	78	43.3%	76	42.5%	75	43.9%
2. 満足している	62	34.8%	52	28.9%	46	25.7%	41	24.0%
3. あまり満足していない	6	3.4%	6	3.3%	5	2.8%	5	2.9%
4. 全く満足していない	2	1.1%	3	1.7%	1	0.6%	2	1.2%
5. 履修していない	36	20.2%	41	22.8%	51	28.5%	48	28.1%
無回答	3	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	178		180		179		171	

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
生涯スポーツ実習について満足していますか？								
1. 大変満足している	42	23.6%	未実施		未実施		未実施	
2. 満足している	77	43.3%						
3. あまり満足していない	10	5.6%						
4. 全く満足していない	2	1.1%						
5. 履修していない	44	24.7%						
無回答	3	1.7%						
計	178							

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
スポーツ指導実習について満足していますか？								
1. 大変満足している	未実施		84	46.7%	90	50.3%	85	49.7%
2. 満足している			80	44.4%	74	41.3%	71	41.5%
3. あまり満足していない			11	6.1%	10	5.6%	13	7.6%
4. 全く満足していない			1	0.6%	4	2.2%	1	0.6%
5. 履修していない			4	2.2%	1	0.6%	1	0.6%
無回答			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計			180		179		171	

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
介護等体験について満足していますか？								
1. 大変満足している	未実施		53	29.4%	53	29.6%	58	33.9%
2. 満足している			73	40.6%	55	30.7%	51	29.8%
3. あまり満足していない			5	2.8%	5	2.8%	6	3.5%
4. 全く満足していない			5	2.8%	1	0.6%	1	0.6%
5. 履修していない			44	24.4%	65	36.3%	55	32.2%
無回答			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計			180		179		171	

●あなたが履修した科目で満足度の高い授業科目名とその理由を記入してください。（複数記述可）

【解答例】スポーツ栄養学、スポーツ心理学：自分の競技に役立つ
記載省略

●4年次の前後期それぞれ、1週間あたりの平均学修時間（授業時間以外に自分で学修した時間、就活の時間は含んで良い）を選択してください。

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
Q1. 【前期】1週間あたり授業以外で学修した時間								
1. 0-1時間	未実施		未実施		61	34.1%	55	32.2%
2. 1-3.5時間					71	39.7%	61	35.7%
3. 3.5-7.5時間					22	12.3%	25	14.6%
4. 7.5-15時間					9	5.0%	10	5.8%
5. 15-30時間					10	5.6%	11	6.4%
6. 30時間以上					6	3.4%	9	5.3%
計					179		171	

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
Q2. 【後期】1週間あたり授業以外で学修した時間								
1. 0-1時間					62	34.6%	60	35.1%

外で学修した時間	2. 1-3.5時間	未実施	未実施	73	40.8%	66	38.6%
	3. 3.5-7.5時間			21	11.7%	20	11.7%
	4. 7.5-15時間			10	5.6%	11	6.4%
	5. 15-30時間			4	2.2%	4	2.3%
	6. 30時間以上			9	5.0%	10	5.8%
	計			179		171	

●授業科目の履修状況についてお伺いします。

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
Q1. 教養科目（一般科目及びキャリア形成科目）は希望どおり履修できて満足していますか？	1. 大変満足している	68	38.2%	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施
	2. 満足している	89	50.0%					
	3. あまり満足していない	8	4.5%					
	4. 全く満足していない	2	1.1%					
	無回答	11	6.2%					
	計	178						

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
Q2. 専門科目は希望どおり履修できて満足していますか？	1. 大変満足している	69	38.8%	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施
	2. 満足している	87	48.9%					
	3. あまり満足していない	10	5.6%					
	4. 全く満足していない	1	0.6%					
	無回答	11	6.2%					
	計	178						

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
授業科目は希望どおりの履修ができて満足していますか？	1. 大変満足している	未実施	88	48.9%	92	51.4%	78	45.6%
	2. 満足している		86	47.8%	84	46.9%	86	50.3%
	3. あまり満足していない		5	2.8%	2	1.1%	6	3.5%
	4. 全く満足していない		1	0.6%	1	0.6%	1	0.6%
	無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計		180		179		171	

履修できなかった科目名を教えてください。

上級英語

弓道

関連実技科目で人気な競技をほとんどできたかった。体育大学ならもっとたくさんの競技の授業実技科目各学年で取らなければいけない授業をとってきたのにもかかわらず、4年で余っていたのがとってきたもの教職難しかったから

ゴルフ

●サークル活動（部活動）についてお伺いします。

区分	28年度		29年度		30年度		元年度	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
部活動に参加していましたか？	参加した	未実施	159	88.3%	165	92.2%	154	90.1%
	参加したが途中でやめた		15	8.3%	9	5.0%	10	5.8%
	最初から参加していない		6	3.3%	5	2.8%	7	4.1%
	計		180		179		171	

【上の質問で部活動に参加したと回答した方のみ】部活動の取り組みは、あなたを満足させるものでしたか。

以下の項目ごとに回答してください。

区分	28年度		29年度		30年度		元年度		
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	
Q1. サークル活動はあなたの「社会性や人間性の成長」を満足させるものでしたか？	1. 大変満足している	120	67.4%	99	59.3%	113	63.1%	103	60.2%
	2. 満足している	32	18.0%	57	34.1%	54	30.2%	48	28.1%
	3. あまり満足していない	5	2.8%	6	3.6%	6	3.4%	7	4.1%
	4. 全く満足していない	1	0.6%	5	3.0%	6	3.4%	2	1.2%
	0. 参加していない	8	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	12	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	11	6.4%
	計	178		167		179		171	

区分	28年度		29年度		30年度		元年度		
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	
Q2. サークル活動はあなたの「競技力の向上」を満足させるものでしたか？	1. 大変満足している	111	62.4%	93	55.7%	103	57.5%	85	49.7%
	2. 満足している	38	21.3%	60	35.9%	54	30.2%	56	32.7%
	3. あまり満足していない	7	3.9%	9	5.4%	15	8.4%	15	8.8%
	4. 全く満足していない	2	1.1%	5	3.0%	7	3.9%	4	2.3%
	0. 参加していない	8	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	12	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	11	6.4%
	計	178		167		179		171	

区分	28年度		29年度		30年度		元年度		
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	
Q3. サークル活動はあなたの「実践的指導能力の修得」を満足させるものでしたか？	1. 大変満足している	111	62.4%	96	57.5%	99	55.3%	89	52.0%
	2. 満足している	38	21.3%	51	30.5%	61	34.1%	52	30.4%
	3. あまり満足していない	7	3.9%	13	7.8%	13	7.3%	16	9.4%
	4. 全く満足していない	2	1.1%	7	4.2%	6	3.4%	1	0.6%
	0. 参加していない	8	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	12	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	13	7.6%
	計	178		167		179		171	

区分	28年度		29年度		30年度		元年度		
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	
Q4. サークル活動をする環境（人的・施設等）は、あなたにとって満足でしたか？	1. 大変満足している	114	64.0%	96	57.5%	106	59.2%	92	53.8%
	2. 満足している	39	21.9%	53	31.7%	53	29.6%	52	30.4%
	3. あまり満足していない	4	2.2%	11	6.6%	13	7.3%	14	8.2%
	4. 全く満足していない	1	0.6%	7	4.2%	7	3.9%	1	0.6%
	0. 参加していない	8	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	12	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	12	7.0%
	計	178		167		179		171	

●最後に、卒業後のスポーツリーダー／指導者としての意気込みをお伺いします。

区分	28年度		29年度		30年度		元年度		
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	
Q1. あなたは、卒業後、有給・無給に関わらず、家庭、職場、地域等でスポーツ指導者あるいはリーダーとしてどのように関わろうと考えていますか？	1. 積極的に関わりたい	74	41.6%	98	54.4%	90	50.3%	86	50.3%
	2. 要請があれば関わりたい	72	40.4%	60	33.3%	67	37.4%	63	36.8%
	3. 無給では関わりたくない	9	5.1%	14	7.8%	17	9.5%	17	9.9%
	4. 全く関わりたくない	1	0.6%	8	4.4%	5	2.8%	5	2.9%
	無回答	22	12.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	178		180		179		171	

●最後に、本学の教育課程や教育について、意見・感想があればお願いします。（令和元年度のみ記載）

記載省略

平成28年度前期 授業評価集計表

調査科目 : 14科目 (一般科目3科目、専門科目10科目、専攻科目1科目)

授業評価回答数 : 674件

質問項目	全体平均	一般科目	専門科目	専攻科目	講義科目	演習科目	講義演習科目	講義実習科目	実技科目	一般科目		専門科目				専攻科目
										講義科目	演習科目	講義科目	演習科目	講義実習科目	実技科目	
授業内容について、興味を持つことができた。	4.19	4.34	4.11	4.47	3.95	4.50	4.47	4.42	4.67	4.31	4.41	3.75	5.00	4.42	4.67	4.47
新しい知識、考え方が身につき、さらに勉強したくなるような内容だった。	3.96	4.15	3.81	4.67	3.83	4.25	4.67	4.38		4.13	4.18	3.66	4.70	4.38		4.67
シラバスどおりに授業は進められていた。	4.27	4.38	4.22	4.47	4.23	4.30	4.47	4.23	4.41	4.43	4.25	4.11	4.60	4.23	4.41	4.47
授業の進行の速さは適切であった。	4.09	4.06	4.10	4.40	4.02	4.40	4.40	4.15		3.95	4.33	4.06	4.80	4.15		4.40
配布資料やプレゼンテーション資料は、授業の理解に役立った。	4.19	4.34	4.08	4.40	4.17	4.31	4.40	4.10		4.38	4.23	4.05	4.80	4.10		4.40
学生が授業に参加できるよう配慮されていた。	4.23	4.51	4.12	4.40	3.91	4.58	4.40	4.38		4.36	4.51	3.91	5.00	4.38		4.40
学生の質問などについて適切に対応していた。	4.10	4.25	4.00	4.47	3.95	4.66	4.47	4.52		4.11	4.60	3.86	5.00	4.52		4.47
私語や遅刻等、受講する学生の態度について、適切に注意を促していた。	4.09	4.42	3.87	4.40	4.05	4.18	4.40	4.27		4.56	4.07	3.76	4.80	4.27		4.40
板書、プレゼンテーション資料及び配付資料は見やすかった。	4.16	4.25	4.12	4.40	4.11	4.36	4.40	3.96		4.28	4.25	4.11	5.00	3.96		4.40
成績評価について、明確に説明されていた。	4.37	4.48	4.32	4.53	4.27	4.57	4.53	4.38	4.60	4.47	4.51	4.15	4.90	4.38	4.60	4.53
資料配付や出欠確認に時間をとられず、スムーズに授業が進められた。	4.14	4.36	3.94		4.14							3.94				
教員の話し方は聞き取りやすかった。	4.12	4.28	3.97		4.12							3.97				
当該種目を「できるようになる」又は「指導できるようになる」ような授業内容で構成されていた。	4.44		4.44						4.44						4.44	
当該種目の特性、ルール、専門用語等についても教授していた。	4.48		4.48						4.48						4.48	
デモンストレーションは授業の理解に役立っていた。	4.45		4.45						4.45						4.45	
運動時間が適切に確保されていた。	4.66		4.66						4.66						4.66	
対象者のレベルにあわせた工夫がされていた。	4.43		4.43						4.43						4.43	
授業は時間内に終了するように配慮されていた。	4.64		4.64						4.64						4.64	
事故防止や安全確認について、常に配慮されていた。	4.53		4.53						4.53						4.53	
季節や天候を考慮した授業が進められていた。	4.61		4.61						4.61						4.61	
実技の実施や指導を行う点から、受講生のグルーピングは適切であった。	4.51		4.51						4.51						4.51	

平成28年度後期 授業評価集計表

調査科目 : 16科目 (一般科目5科目、専門科目10科目、教職科目1科目)

授業評価回答数 : 1242件

質問項目	全体平均	一般科目	専門科目	教職科目	講義科目	演習科目	講義演習科目	実技科目	一般科目		専門科目		教職科目
									演習科目	講義演習科目	講義科目	実技科目	講義科目
授業内容について、興味を持つことができた。	4.13	4.10	4.23	3.79	3.96	4.23	3.89	4.53	4.23	3.89	4.03	4.53	3.79
新しい知識、考え方が身につき、さらに勉強したくなるような内容だった。	3.88	3.94	3.92	3.62	3.84	4.06	3.74		4.06	3.74	3.92		3.62
シラバスどおりに授業は進められていた。	4.22	4.28	4.23	4.03	4.08	4.26	4.33	4.42	4.26	4.33	4.10	4.42	4.03
授業の進行の速さは適切であった。	3.88	4.11	3.61	3.99	3.72	4.05	4.23		4.05	4.23	3.61		3.99
配布資料やプレゼンテーション資料は、授業の理解に役立った。	4.01	4.09	3.96	3.92	3.95	4.09	4.10		4.09	4.10	3.96		3.92
学生が授業に参加できるよう配慮されていた。	4.12	4.28		3.86		4.28			4.28				3.86
学生の質問などについて適切に対応していた。	3.99	4.24	3.79	3.89	3.82	4.27	4.20		4.27	4.20	3.79		3.89
私語や遅刻等、受講する学生の態度について、適切に注意を促していた。	3.88	3.95	3.89	3.65	3.83	4.03	3.83		4.03	3.83	3.89		3.65
板書、プレゼンテーション資料及び配付資料は見やすかった。	4.17	4.20		4.11		4.20			4.20				4.11
成績評価について、明確に説明されていた。	4.20	4.24	4.27	3.78	4.00	4.30	4.14	4.53	4.30	4.14	4.09	4.53	3.78
資料配付や出欠確認に時間をとられず、スムーズに授業が進められた。	4.11	4.29	4.04		3.99		4.29			4.29	4.04		
教員の話し方は聞き取りやすかった。	3.86	4.24	3.71		3.82		4.24			4.24	3.71		
当該種目を「できるようになる」又は「指導できるようになる」ような授業内容で構成されていた。	4.35		4.35					4.35				4.35	
当該種目の特性、ルール、専門用語等についても教授していた。	4.44		4.44					4.44				4.44	
デモンストレーションは授業の理解に役立っていた。	4.46		4.46					4.46				4.46	
運動時間が適切に確保されていた。	4.44		4.44					4.44				4.44	
対象者のレベルにあわせた工夫がされていた。	4.31		4.31					4.31				4.31	
授業は時間内に終了するように配慮されていた。	4.64		4.64					4.64				4.64	
事故防止や安全確認について、常に配慮されていた。	4.44		4.44					4.44				4.44	
季節や天候を考慮した授業が進められていた。	4.38		4.38					4.38				4.38	
実技の実施や指導を行う点から、受講生のグルーピングは適切であった。	4.36		4.36					4.36				4.36	

平成29年度前期・鹿屋体育大学授業振り返りアンケート結果分析表

授業科目名	コミュニケーション科目平均		社会・文化・自然科目平均		総合科目平均		キャリアデザイン科目平均		基礎科目A平均		基礎科目B平均		応用科目平均		実験演習科目平均		生涯系専修科目平均		教職平均		教職専門平均		講義・演習科目全体平均	関連実技科目全体平均	全体平均																					
	多人数	少人数	多人数	少人数	多人数	少人数	多人数	少人数	多人数	少人数	多人数	少人数	多人数	少人数	多人数	少人数	多人数	少人数	多人数	少人数	多人数	少人数	全体	全体	全体																					
区分	8	1	1	1	1	4	2	2	6	2	2	2	6	2	1	2	3	2	3	2	2	2	44	18	62																					
科目数	185	191	5	32	204	255	21	787	114	251	260	163	3	363	242	3073	476	57																												
回答者数(のべ人数)																																														
内容について	全科目共通	授業内容について、興味を持つことができた。																								4.25	3.94	5.00	4.25	4.24	3.96	4.19	3.62	4.09	3.74	3.96	4.40	4.70	4.53	3.77	4.03	4.13	4.34	4.17		
	講義・演習共通	新しい知識、考え方が身につく、さらに勉強しなくなるような内容だった。																								4.13	3.73	4.50	4.28	4.09	3.89	4.00	3.57	3.99	3.69	3.87	4.28	4.70	4.26	3.75	4.02	4.00		4.04		
	実技科目	当該種目を「できるようになる」又は「指導できるようになる」ような授業内容で構成されていた。																																										4.12	4.12	
	実技科目	当該種目の特性、ルール、専門用語等についても教授していた。																																											4.13	4.13
進め方について	全科目共通	シラバスどおりに授業は進められていた。																								4.02	3.91	4.50	4.13	4.05	3.97	4.07	3.89	4.06	3.82	3.97	4.37	4.30	4.48	4.04	3.98	4.08	4.10	4.10		
	講義・演習共通	授業の進行の速さは適切であった。																								4.14	3.38	4.33	4.06	3.93	3.94	4.14	3.72	3.96	3.76	3.79	4.37	4.70	4.59	3.96	3.83	3.99		4.03		
	講義・演習共通	配付資料やプレゼンテーション資料は、授業の理解に役立った。																								4.11	4.03	4.17	4.16	4.08	3.96	4.14	3.81	4.08	3.66	3.98	4.37	5.00	4.37	3.88	3.98	4.05		4.11		
	講義・演習少人数	学生が授業に参加できるよう配慮されていた。																								4.40	3.60	4.60	4.34	4.11	4.01	4.14	3.83	3.80	3.69	4.01	4.40	5.00	4.51	3.90	3.95	4.09		4.14		
	講義・演習共通	学生の質問などについて適切に対応していた。																								4.31	4.22	4.33	4.19	4.21	3.86	4.05	3.62	3.95	3.63	4.05	4.29	4.30	4.41	3.95	3.92	4.07		4.08		
	講義・演習多人数	資料配付や出欠確認に時間をとられず、スムーズに授業が進められた。																									3.93		4.09		3.66		3.67		3.49		3.70		3.89			3.78		3.78		
	実技科目	デモンストレーションは授業の理解に役立っていた。																																										4.21	4.21	
	実技科目	運動時間が適切に確保されていた。																																											4.28	4.28
	実技科目	対象者のレベルにあわせた工夫がされていた。																																											4.02	4.02
	実技科目	授業は時間内に終了するように配慮されていた。																																												4.19
環境について	講義・演習共通	私語や遅刻等、受講する学生の態度について、適切に注意を促していた。																								4.04	3.86	4.17	4.00	3.72	3.99	3.71	3.64	3.62	3.66	3.88	4.07	3.70	3.97	4.02	3.86	3.88		3.87		
	講義・演習少人数	板書、プレゼンテーション資料及び配付資料は見やすかった。																								4.19		4.17	4.23		3.90		3.99			4.31	4.30	4.42			4.15		4.19			
	講義・演習多人数	教員の話し方は聞き取りやすかった。																									3.79		4.16		3.80		3.86		3.71		3.80		3.93		4.00	3.86		3.88		
	実技科目	事故防止や安全確認について、常に配慮されていた。																																										4.23	4.23	
	実技科目	季節や天候を考慮した授業が進められていた。																																										4.10	4.10	
評価について	全科目共通	成績評価について、明確に説明されていた。																								4.14		4.17	4.31	3.76		4.29				4.28		4.30		4.02		3.87	4.10	4.16	4.13	

[5段階評価 …… 5：非常にそう思う 4：そう思う 3：どちらともいえない 2：そう思わない 1：全くそう思わない]

平成29年度後期・鹿屋体育大学授業振り返りアンケート結果分析表 [講義・演習科目]

2018.6.28

授業科目群名：	コミュニケーション科目 平均	社会・文化・自然 平均	キャリアデザイン 科目 平均	基礎 A 平均	基礎 B 平均	応用科目 平均	生涯系専 修科目 平均	指導実践 科目 平均	教職科目 平均	講義・演 習 科目 平均
科目数	6	6	2	2	7	8	3	1	8	43
回答者数 (のべ人数)	253	424	207	299	552	330	36	186	915	3202

《自己学修に関する設問》

設問1：あなたは、レポートや課題に対して納得いくまで取り組みましたか。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]大いに思う	44%	40%	32%	41%	37%	32%	46%	32%	34%	37%
[2]そう思う	47%	52%	59%	51%	57%	62%	54%	60%	59%	56%
[3]そう思わない	6%	5%	6%	4%	4%	4%	0%	6%	4%	4%
[4]全くそう思わない	0%	1%	1%	0%	1%	0%	0%	1%	1%	0%
未回答	3%	3%	2%	4%	2%	2%	0%	1%	2%	2%

設問2：あなたは、授業に対して「単位さえもらえればよい」という気持ちで出席しましたか。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]大いに思う	18%	14%	21%	13%	12%	9%	14%	8%	13%	13%
[2]そう思う	31%	34%	30%	26%	30%	25%	24%	28%	34%	30%
[3]そう思わない	37%	31%	36%	32%	41%	44%	18%	53%	37%	37%
[4]全くそう思わない	11%	17%	10%	25%	16%	19%	11%	10%	15%	15%
未回答	4%	3%	2%	3%	2%	2%	33%	1%	2%	5%
[1]と[2]の合計割合	49%	48%	51%	39%	42%	34%	38%	36%	47%	43%

設問3：この授業の内容はよく理解できましたか。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]大いに思う	41%	23%	31%	38%	25%	35%	63%	24%	26%	33%
[2]そう思う	51%	66%	55%	54%	65%	60%	35%	68%	66%	59%
[3]そう思わない	3%	6%	8%	5%	8%	1%	0%	5%	4%	4%
[4]全くそう思わない	1%	1%	2%	0%	1%	0%	0%	3%	0%	1%
未回答	3%	4%	3%	4%	2%	4%	2%	1%	3%	3%

《達成度に関する質問》

設問4：シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]十分に達成できた	31%	21%	25%	27%	23%	27%	51%	11%	22%	26%
[2]ある程度達成できた	53%	58%	50%	53%	58%	60%	36%	57%	59%	56%
[3]あまり達成できなかった	7%	10%	13%	12%	8%	8%	6%	18%	10%	9%
[4]達成できなかった	0%	2%	2%	1%	1%	0%	0%	2%	2%	1%
[5]到達目標がわからない	2%	2%	3%	0%	3%	1%	0%	3%	1%	2%
[6]シラバスを読んでいない	3%	4%	5%	4%	6%	2%	7%	8%	4%	4%
未回答	3%	4%	2%	4%	2%	3%	0%	1%	2%	2%

《授業改善に関する質問》

設問5：この授業で担当教員に改善してほしい事項をチェックして下さい。(複数可)。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1] 特になし	65%	65%	69%	73%	72%	79%	93%	48%	69%	72%
[2] 授業への熱意	7%	5%	6%	4%	4%	2%	0%	7%	7%	5%
[3] 学生に対する対応	5%	4%	17%	3%	7%	2%	0%	19%	3%	5%
[4] 説明のわかりやすさ	10%	16%	16%	10%	13%	3%	0%	22%	5%	9%
[5] 板書、教材、PowerPoint等のわかりやすさ	7%	11%	3%	8%	6%	6%	2%	10%	6%	7%
[6] シラバスのわかりやすさ	1%	1%	3%	1%	1%	1%	0%	4%	1%	1%
[7] 授業の計画性・進行	7%	7%	4%	3%	7%	3%	2%	10%	6%	5%
[8] 授業の内容 (情報)	3%	4%	3%	2%	3%	1%	2%	11%	2%	3%
[9] 成績評価の方法	2%	2%	2%	1%	2%	1%	0%	4%	1%	1%
[10] iPad等のICT機器の活用	6%	4%	2%	3%	4%	3%	2%	10%	4%	4%
[11] 予習・復習を促す課題等 (の工夫)	2%	1%	1%	0%	3%	1%	0%	5%	2%	2%
[12] 学生が参加できる授業づくり (質疑応答・発表・グループワーク等)	2%	2%	2%	0%	2%	1%	0%	10%	4%	2%
未回答	7%	3%	2%	4%	2%	3%	0%	2%	4%	3%

《授業への興味・関心に関する質問》

設問6：授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]大いに思う	41%	32%	28%	45%	35%	46%	64%	24%	30%	38%
[2]そう思う	49%	51%	58%	47%	55%	47%	34%	61%	56%	51%
[3]そう思わない	7%	10%	8%	3%	6%	3%	2%	10%	11%	7%
[4]全くそう思わない	0%	3%	2%	0%	1%	0%	0%	3%	0%	1%
未回答	3%	4%	4%	5%	2%	3%	0%	1%	3%	3%

《授業成果に関する質問》

設問7：授業を通じて、特に身についた力をチェックしてください（3つまで可）。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]実技力	18%	6%	12%	8%	18%	18%	21%	9%	9%	14%
[2]実技指導力	2%	3%	3%	7%	18%	6%	32%	22%	10%	10%
[3]事業運営力	1%	2%	3%	2%	2%	10%	13%	3%	4%	5%
[4]指導者基礎力	3%	3%	8%	9%	18%	14%	30%	54%	26%	15%
[5] コミュニケーション力	63%	17%	36%	4%	11%	11%	57%	27%	23%	26%
[6] リーダーシップ	1%	2%	4%	1%	4%	2%	17%	6%	3%	3%
[7] キャリアデザイン力	5%	3%	50%	2%	4%	5%	5%	11%	2%	6%
[8] 課題解決力	15%	6%	5%	6%	11%	17%	28%	22%	14%	13%
[9] 一般教養・倫理	34%	47%	8%	24%	15%	12%	6%	23%	31%	24%
[10] 科学的支援力	1%	0%	0%	2%	4%	4%	0%	2%	1%	2%
[11] 科学的表現力	1%	2%	0%	4%	3%	6%	0%	4%	2%	3%
[12] 専門的な知識・教養	30%	58%	24%	74%	67%	58%	49%	24%	53%	53%
未回答	3%	5%	3%	4%	3%	3%	0%	4%	2%	3%

設問8：設問7で選んだ身につけた能力について満足していますか。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]十分満足している	30%	31%	29%	38%	29%	36%	57%	15%	24%	32%
[2]満足している	52%	52%	55%	50%	60%	55%	39%	58%	63%	55%
[3]あまり満足していない	14%	12%	10%	8%	8%	6%	4%	23%	10%	10%
[4]全く満足していない	1%	1%	3%	1%	1%	0%	0%	3%	1%	1%
未回答	3%	4%	3%	4%	2%	3%	0%	2%	2%	3%

《総合評価（満足度）》

設問9：総合的に判断して、この授業は意義のあるものでしたか。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]大いに思う	49%	37%	36%	52%	36%	48%	51%	25%	38%	42%
[2]そう思う	42%	49%	54%	42%	57%	48%	49%	63%	56%	51%
[3]そう思わない	6%	8%	5%	2%	4%	1%	0%	9%	4%	4%
[4]全くそう思わない	0%	2%	2%	1%	1%	0%	0%	3%	1%	1%
未回答	3%	4%	3%	4%	2%	3%	0%	1%	2%	2%

平成29年度後期・鹿屋体育大学授業振り返りアンケート結果分析表 【実技科目】

授業科目群名：	関連実技 平均	専修論・ 実習平均	実技科目 平均
科目数	11	8	19
回答者数（のべ人数）	235	187	422

《自己学修に関する設問》

設問1：あなたは、レポートや課題に対して納得いくまで取り組みましたか。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]大いにそう思う	54%	48%	52%
[2]そう思う	42%	49%	45%
[3]そう思わない	2%	2%	2%
[4]全くそう思わない	0%	0%	0%
未回答	2%	1%	1%

設問2：あなたは、授業に対して「単位さえもらえればよい」という気持ちで出席しましたか。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]大いにそう思う	11%	12%	11%
[2]そう思う	21%	18%	20%
[3]そう思わない	36%	40%	38%
[4]全くそう思わない	30%	29%	30%
未回答	2%	1%	2%
[1]と[2]の合計割合	31%	30%	31%

設問3：この授業の内容はよく理解できましたか。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]大いにそう思う	57%	45%	52%
[2]そう思う	37%	53%	44%
[3]そう思わない	5%	1%	3%
[4]全くそう思わない	0%	0%	0%
未回答	1%	1%	1%

《達成度に関する質問》

設問4：シラバスに書かれている到達目標をあなたほどの程度達成できたと思いますか。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]十分に達成できた	46%	36%	42%
[2]ある程度達成できた	44%	43%	44%
[3]あまり達成できなかった	4%	3%	3%
[4]達成できなかった	1%	2%	1%
[5]到達目標がわからない	1%	0%	1%
[6]シラバスを読んでいない	2%	1%	1%
未回答	1%	2%	2%

《授業改善に関する質問》

設問5：この授業で担当教員に改善してほしい事項をチェックして下さい（複数可）。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1] 特になし	79%	82%	80%
[2] 授業への熱意	5%	5%	5%
[3] 技能レベルに合わせた学生への対応	8%	3%	6%
[4] 指示、示範、デモンストレーションのわかりやすさ	4%	2%	3%
[5] 教材、教具、環境の適切さ	3%	1%	2%
[6] シラバスのわかりやすさ	2%	1%	1%
[7] 授業の進行・計画性	1%	5%	3%
[8] 授業内容：ルール、記録、文化等の知識に関する内容	3%	1%	2%
[9] 授業内容：運動技能を評価し、指導する能力に関する内容	2%	2%	2%
[10] 授業内容：安全面への配慮、運営・管理能力に関する内容	2%	1%	2%
[11] 成績評価の方法	1%	1%	1%
[12] iPad等のICT機器の活用	2%	1%	2%
[13] 予習・復習を促す課題等（の工夫）	1%	1%	1%

《授業への興味・関心に関する質問》

設問6：授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]大いに思う	60%	50%	56%
[2]思う	35%	49%	41%
[3]そう思わない	2%	1%	2%
[4]全くそう思わない	1%	0%	0%
未回答	1%	1%	1%

《授業成果に関する質問》

設問7： 授業を通じて、特に身についた力をチェックしてください (3つまで可)。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]実技力	84%	76%	81%
[2]実技指導力	34%	47%	40%
[3]事業運営力	3%	10%	6%
[4]指導者基礎力	14%	23%	18%
[5] コミュニケーション力	26%	28%	27%
[6] リーダーシップ	3%	6%	5%
[7] キャリアデザイン力	2%	2%	2%
[8] 課題解決力	12%	10%	11%
[9] 一般教養・倫理	3%	4%	3%
[10] 科学的支援力	0%	2%	1%
[11] 科学的表現力	0%	1%	1%
[12] 専門的な知識・教養	21%	53%	34%
未回答	1%	1%	1%

設問8： 設問7で選んだ身につけた能力について満足していますか。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]十分満足している	51%	49%	50%
[2]満足している	44%	47%	45%
[3]あまり満足していない	3%	3%	3%
[4]全く満足していない	0%	0%	0%
未回答	1%	1%	1%

《総合評価（満足度）》

設問9： 総合的に判断して、この授業は意義のあるものでしたか。	平均 (%)	平均 (%)	平均 (%)
[1]大いにそう思う	65%	60%	63%
[2]そう思う	31%	37%	34%
[3]そう思わない	2%	1%	1%
[4]全くそう思わない	0%	1%	1%
未回答	1%	2%	2%

平成30年度前期・鹿屋体育大学授業振り返りアンケート結果 [講義・演習科目]

授業科目名	コミュニケーション科目平均	社会・文化・自然科目平均	総合科目平均	キャリアデザイン科目平均	基礎科目A平均	基礎科目B平均	応用科目	実験演習科目平均	生涯系専修科目平均	教職平均	教職専門平均	講義・演習科目全体
科目数	18	2	6	6	10	3	5	3	3	3	2	29
回答者数	408	211	298	408	1167	338	314	30	67	349	247	2512

Q1.<自己学習に関する設問> あなたは、レポートや課題に対して納得いくまで取り組みましたか。	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	平均(%)
1.大いにそう思う	46%	51%	51%	53%	39%	44%	50%	53%	46%	40%	51%	46%	46%
2.そう思う	51%	49%	47%	45%	56%	52%	49%	47%	51%	58%	48%	51%	51%
3.そう思わない	3%	0%	2%	2%	5%	3%	1%	0%	3%	2%	1%	3%	3%
4.全くそう思わない	0%	0%	1%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

Q2.あなたは、授業に対して「単位さえもらえればよい」という気持ちで出席しましたか。	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	平均(%)
1.大いにそう思う	14%	10%	8%	13%	12%	19%	12%	13%	18%	16%	15%	13%	13%
2.そう思う	27%	27%	25%	28%	34%	27%	25%	20%	31%	26%	23%	29%	29%
3.そう思わない	37%	39%	46%	38%	35%	34%	42%	13%	36%	39%	39%	37%	37%
4.全くそう思わない	22%	24%	21%	21%	19%	20%	22%	53%	15%	19%	24%	21%	21%

Q3.あなたは、この授業に対して授業時間外で総時間どれくらいの自己学習（予習・復習・レポート・試験勉強含む）を行いましたか。	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	平均(%)
1.1時間未満	32%	49%	38%	35%	50%	57%	48%	23%	34%	50%	29%	45%	45%
2.1.0時間以上～3.5時間未満（1受講あたり、平均して15分未満）	34%	30%	32%	29%	31%	26%	30%	30%	33%	29%	35%	31%	31%
3.3.5時間以上～7.5時間未満（1受講あたり、平均して15分以上～30分未満）	24%	16%	22%	26%	14%	12%	16%	17%	25%	14%	28%	18%	18%
4.7.5時間以上～15時間未満（1受講あたり、平均して30分以上～60分未満）	7%	3%	6%	8%	4%	5%	4%	17%	4%	6%	5%	5%	5%
5.15時間以上～30時間未満（1受講あたり、平均して60分以上～120分未満）	2%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	13%	1%	1%	2%	1%	1%
6.30時間以上（1受講あたり、平均して120分以上）	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	1%	0%	0%	0%

Q4.<授業理解に関する質問> この授業の内容はよく理解できましたか。	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	平均(%)
1.大いにそう思う	38%	33%	34%	43%	26%	40%	35%	60%	39%	33%	38%	34%	34%
2.そう思う	54%	60%	59%	54%	63%	56%	62%	37%	57%	58%	59%	59%	59%
3.そう思わない	8%	7%	5%	3%	10%	4%	3%	3%	4%	7%	3%	6%	6%
4.全くそう思わない	1%	0%	2%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	2%	0%	1%	1%

Q5.<達成度に関する質問> シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	平均(%)
1.十分に達成できた	29%	27%	26%	35%	23%	41%	33%	47%	36%	31%	31%	30%	30%
2.ある程度達成できた	54%	58%	54%	56%	54%	46%	55%	50%	54%	55%	59%	54%	54%
3.あまり達成できなかった	11%	9%	14%	6%	14%	7%	6%	0%	4%	9%	6%	10%	10%
4.達成できなかった	1%	1%	1%	0%	2%	0%	0%	0%	1%	1%	0%	1%	1%
5.到達目標がわからない	1%	3%	2%	2%	3%	1%	1%	0%	0%	2%	0%	2%	2%
6.シラバスを読んでいない	4%	2%	3%	1%	4%	5%	5%	3%	4%	2%	4%	3%	3%

Q6.<授業改善に関する質問> この授業で担当教員に改善してほしい事項はありますか（複数可）。	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	平均(%)
1.特になし	79%	83%	83%	80%	78%	84%	81%	97%	79%	76%	75%	80%	80%
2.授業への熱意	3%	3%	5%	2%	4%	6%	3%	3%	4%	6%	3%	4%	4%
3.学生への対応	3%	2%	6%	7%	6%	4%	2%	0%	6%	7%	8%	5%	5%
4.板書、教材、PowerPoint等のわかりやすさ	5%	5%	3%	5%	7%	4%	4%	0%	4%	11%	10%	5%	5%
5.シラバスのわかりやすさ	0%	2%	1%	0%	1%	1%	1%	0%	1%	2%	1%	1%	1%
6.授業の計画性・進行	7%	4%	7%	3%	5%	4%	10%	0%	4%	5%	5%	5%	5%
7.授業の内容（情報）	8%	3%	4%	3%	5%	4%	3%	0%	4%	7%	4%	4%	4%

8.成績評価の方法	2%	1%	2%	2%	2%	1%	1%	0%	1%	2%	2%	2%	
9.iPad等のICT機器の活用	3%	8%	4%	6%	7%	2%	3%	0%	1%	3%	7%	5%	
10.予習・復習を促す課題等（の工夫）	3%	1%	1%	2%	2%	1%	1%	0%	1%	2%	3%	2%	
11.学生が参加できる授業づくり（質疑応答・発表・グループワーク等）	2%	2%	2%	2%	2%	0%	2%	0%	1%	3%	2%	2%	
Q7.<授業への興味・関心に関する質問>													
授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	平均(%)
1.大いにそう思う	37%	36%	38%	40%	30%	42%	42%	80%	45%	29%	49%	37%	
2.そう思う	56%	59%	56%	54%	59%	50%	54%	20%	48%	61%	47%	55%	
3.そう思わない	6%	5%	6%	5%	10%	7%	4%	0%	7%	8%	4%	7%	
4.全くそう思わない	0%	0%	0%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	1%	0%	1%	
Q8.<授業成果に関する質問>													
授業を通じて、特に身についた力がありますか（3つまで可）。	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	平均(%)
1.実技力	19%	14%	47%	20%	12%	33%	10%	27%	13%	10%	24%	19%	
2.実技指導力	5%	3%	5%	4%	5%	9%	6%	3%	15%	10%	37%	8%	
3.事業運営力	1%	2%	8%	1%	3%	3%	10%	0%	9%	3%	4%	4%	
4.指導者基礎力	2%	3%	2%	3%	6%	7%	7%	3%	9%	24%	40%	9%	
5.コミュニケーション力	63%	1%	9%	64%	6%	8%	8%	20%	13%	10%	26%	21%	
6.リーダーシップ	1%	1%	3%	5%	2%	3%	1%	0%	0%	3%	7%	2%	
7.キャリアデザイン力	2%	0%	5%	53%	2%	2%	4%	0%	7%	2%	3%	8%	
8.課題解決力	10%	7%	20%	13%	9%	12%	12%	27%	13%	9%	6%	11%	
9.一般教養・倫理	32%	40%	26%	19%	35%	27%	30%	17%	25%	33%	31%	31%	
10.科学的支援力	0%	4%	2%	0%	3%	3%	5%	13%	0%	0%	1%	2%	
11.科学的表現力	0%	5%	2%	1%	3%	2%	4%	17%	0%	1%	1%	2%	
12.専門的な知識・教養	37%	72%	55%	17%	67%	66%	77%	83%	75%	54%	55%	57%	
Q9.問8で選んだ身につけた能力について満足していますか。													
1.十分満足している	34%	33%	33%	34%	26%	43%	34%	57%	39%	29%	34%	32%	
2.満足している	52%	61%	55%	59%	60%	49%	58%	40%	48%	58%	56%	57%	
3.あまり満足していない	13%	6%	11%	7%	13%	7%	7%	3%	12%	12%	10%	10%	
4.全く満足していない	1%	0%	1%	0%	2%	1%	0%	0%	1%	1%	0%	1%	
Q10.<総合評価（満足度）>													
総合的に判断して、この授業は意義のあるものでしたか。	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	平均(%)
1.大いにそう思う	43%	43%	50%	48%	34%	43%	46%	73%	40%	34%	51%	42%	
2.そう思う	52%	56%	47%	49%	58%	51%	51%	27%	52%	61%	46%	53%	
3.そう思わない	5%	1%	1%	3%	7%	5%	3%	0%	7%	4%	3%	4%	
4.全くそう思わない	1%	0%	1%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	1%	0%	1%	

平成30年度前期・鹿屋体育大学授業振り返りアンケート結果 [実技科目]

授業科目名	関連実技科目 合計
科目数	23
回答者数	650

Q1. <自己学修に関する設問> あなたは、レポートや課題に対して納得いくまで取り組みましたか。	平均(%)
1.大いにそう思う	60%
2.そう思う	38%
3.そう思わない	1%
4.全くそう思わない	0%

Q2.あなたは、授業に対して「単位さえもらえればよい」という気持ちで出席しましたか。	平均(%)
1.大いにそう思う	12%
2.そう思う	19%
3.そう思わない	36%
4.全くそう思わない	33%

Q3.あなたは、この授業に対して授業時間外で総時間どれくらいの自己学習（予習・復習・レポート・試験勉強含む）を行いましたか。	平均(%)
1.1時間未満	53%
2.1.0時間以上～3.5時間未満（1受講あたり、平均して15分未満）	26%
3.3.5時間以上～7.5時間未満（1受講あたり、平均して15分以上～30分未満）	12%
4.7.5時間以上～15時間未満（1受講あたり、平均して30分以上～60分未満）	5%
5.15時間以上～30時間未満（1受講あたり、平均して60分以上～120分未満）	2%
6.30時間以上（1受講あたり、平均して120分以上）	1%

Q4. <授業理解に関する質問> この授業の内容はよく理解できましたか。	平均(%)
1.大いにそう思う	58%
2.そう思う	42%
3.そう思わない	1%
4.全くそう思わない	0%

Q5. <達成度に関する質問> シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。	平均(%)
1.十分に達成できた	46%
2.ある程度達成できた	46%
3.あまり達成できなかった	4%
4.達成できなかった	1%
5.到達目標がわからない	1%
6.シラバスを読んでいない	2%

Q6. <授業改善に関する質問> この授業で担当教員に改善してほしい事項はありますか（複数可）。	平均(%)
1.特になし	85%
2.授業への熱意	4%
3.技能レベルに合わせた学生への対応	4%
4.指示、示範、デモンストレーションのわかりやすさ	3%
5.教材、教具、環境の適切さ	2%

6.シラバスのわかりやすさ	0%
7.授業の計画性・進行	2%
8.【授業内容】ルール、記録、文化等の知識に関する内容	2%
9.【授業内容】運動技能を評価し、指導する能力に関する内容	2%
10.【授業内容】安全面への配慮、運営・管理能力に関する内容	2%
11.成績評価の方法	2%
12.iPad等のICT機器の活用	3%
13.予習・復習を促す課題等（の工夫）	0%

Q7.◀ 授業への興味・関心に関する質問 ▶ 授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。	平均(%)
1.大いにそう思う	61%
2.そう思う	37%
3.そう思わない	2%
4.全くそう思わない	0%

Q8.◀ 授業成果に関する質問 ▶ 授業を通じて、特に身についた力がありますか（3つまで可）。	平均(%)
1.実技力	89%
2.実技指導力	31%
3.事業運営力	4%
4.指導者基礎力	10%
5.コミュニケーション力	29%
6.リーダーシップ	6%
7.キャリアデザイン力	1%
8.課題解決力	8%
9.一般教養・倫理	4%
10.科学的支援力	0%
11.科学的表現力	0%
12.専門的な知識・教養	32%

Q9. 問8で選んだ身につけた能力について満足していますか。	平均(%)
1.十分満足している	51%
2.満足している	45%
3.あまり満足していない	3%
4.全く満足していない	0%

Q10.◀ 総合評価（満足度） ▶ 総合的に判断して、この授業は意義のあるものでしたか。	平均(%)
1.大いにそう思う	66%
2.そう思う	33%
3.そう思わない	1%
4.全くそう思わない	0%

平成30年度後期・鹿屋体育大学授業振り返りアンケート結果 [講義・演習科目]

授業科目名	コミュニケーション科目	社会・文化・自然科目	総合科目	キャリアデザイン科目	基礎科目A	基礎科目B	応用科目	実験演習科目	専修科目(生涯スポーツ系)	指導実践科目	教職	教職専門	全体	
科目数	14	7	5	2	4	6	10	2	3	1	7	3	65	
回答者数	438	704	105	279	520	708	329	128	49	190	860	212	4570	
Q1. <自己学習に関する設問> あなたは、レポートや課題に対して納得いくまで取り組みましたか。														
	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	54%	42%	42%	47%	46%	46%	43%	55%	47%	52%	42%	60%	46%	
2. そう思う	44%	55%	51%	53%	52%	50%	54%	45%	53%	47%	56%	39%	51%	
3. そう思わない	2%	2%	6%	0%	2%	3%	3%	0%	0%	1%	2%	1%	2%	
4. 全く思わない	0%	1%	1%	0%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
Q2. あなたは、授業に対して「単位さえもらえればよい」という気持ちで出席しましたか。														
	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	13%	16%	9%	13%	11%	17%	14%	9%	10%	7%	12%	14%	13%	
2. そう思う	23%	29%	25%	28%	22%	29%	26%	24%	29%	26%	25%	18%	26%	
3. そう思わない	33%	33%	44%	34%	36%	34%	37%	24%	33%	49%	37%	39%	36%	
4. 全く思わない	31%	23%	23%	25%	31%	20%	24%	43%	29%	18%	26%	29%	26%	
Q3. あなたは、この授業に対して授業時間外で総時間どれくらいの自己学習(予習・復習・レポート・試験勉強含む)を行いましたか。														
	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 1時間未満	26%	67%	21%	41%	27%	39%	50%	20%	22%	31%	49%	20%	41%	
2. 1.0時間以上～3.5時間未満(1受講あたり、平均して15分未満)	36%	23%	31%	23%	30%	23%	29%	20%	29%	21%	30%	33%	27%	
3. 3.5時間以上～7.5時間未満(1受講あたり、平均して15分以上～30分未満)	25%	7%	33%	25%	22%	17%	14%	25%	33%	29%	16%	32%	19%	
4. 7.5時間以上～15時間未満(1受講あたり、平均して30分以上～60分未満)	10%	2%	12%	11%	13%	15%	4%	25%	10%	16%	4%	12%	9%	
5. 15時間以上～30時間未満(1受講あたり、平均して60分以上～120分未満)	2%	0%	1%	0%	7%	5%	2%	9%	4%	3%	1%	2%	3%	
6. 30時間以上(1受講あたり、平均して120分以上)	1%	0%	1%	1%	3%	1%	0%	2%	2%	1%	0%	0%	1%	
Q4. <授業理解に関する質問> この授業の内容はよく理解できましたか。														
	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	45%	35%	23%	39%	36%	32%	40%	45%	43%	33%	37%	42%	37%	
2. そう思う	53%	60%	65%	58%	59%	58%	56%	54%	57%	64%	60%	54%	58%	
3. そう思わない	2%	5%	12%	3%	5%	8%	3%	2%	0%	3%	3%	5%	4%	
4. 全く思わない	1%	1%	0%	0%	1%	2%	1%	0%	0%	0%	1%	0%	1%	
Q5. <達成度に関する質問> シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。														
	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 十分に達成できた	42%	33%	22%	38%	29%	30%	37%	45%	29%	17%	35%	38%	33%	
2. ある程度達成できた	47%	53%	59%	51%	54%	56%	55%	48%	61%	66%	55%	50%	54%	
3. あまり達成できなかった	5%	8%	14%	6%	11%	8%	3%	5%	4%	11%	5%	7%	7%	
4. 達成できなかった	2%	1%	0%	1%	2%	1%	1%	0%	0%	1%	0%	1%	1%	
5. 到達目標がわからない	1%	2%	1%	1%	1%	1%	2%	0%	0%	2%	0%	0%	1%	
6. シラバスを読んでいない	3%	3%	4%	4%	3%	4%	3%	3%	6%	3%	4%	4%	4%	
Q6. <授業改善に関する質問> この授業で担当教員に改善してほしい事項はありますか(複数可)。														
	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 特になし	89%	88%	86%	86%	89%	80%	88%	94%	88%	78%	91%	81%	87%	
2. 授業への熱意	2%	3%	2%	2%	2%	4%	5%	1%	6%	3%	3%	1%	3%	
3. 学生への対応	4%	3%	4%	7%	3%	7%	3%	2%	0%	13%	2%	5%	4%	
4. 板書、教材、PowerPoint等のわかりやすさ	2%	4%	2%	3%	3%	7%	2%	1%	0%	3%	3%	4%	3%	
5. シラバスのわかりやすさ	1%	1%	3%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	2%	1%	2%	1%	
6. 授業の計画性・進行	3%	4%	5%	4%	2%	5%	2%	1%	4%	7%	2%	3%	3%	
7. 授業の内容(情報)	3%	3%	5%	3%	1%	6%	2%	1%	2%	8%	2%	4%	3%	
8. 成績評価の方法	2%	1%	0%	0%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	0%	2%	1%	
9. iPad等のICT機器の活用	2%	3%	0%	1%	2%	2%	2%	2%	2%	3%	2%	5%	2%	
10. 予習・復習を促す課題等(の工夫)	1%	1%	1%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	2%	0%	4%	1%	
11. 学生が参加できる授業づくり(質疑応答・発表・グループワーク等)	2%	1%	1%	1%	0%	2%	1%	0%	2%	3%	1%	1%	1%	
Q7. <授業への興味・関心に関する質問> 授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。														
	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	46%	33%	34%	40%	48%	37%	46%	56%	49%	34%	41%	45%	41%	

2. そう思う	48%	56%	60%	54%	49%	55%	51%	44%	49%	61%	55%	51%	53%
3. そう思わない	6%	10%	6%	5%	2%	7%	3%	0%	2%	6%	4%	3%	5%
4. 全くそう思わない	0%	1%	0%	1%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%
Q8. <授業成果に関する質問> 授業を通じて、特に身についた力はありますか（3つまで可）。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 実技力	12%	7%	50%	13%	7%	16%	14%	29%	14%	8%	11%	17%	13%
2. 実技指導力	4%	3%	2%	6%	7%	15%	12%	17%	20%	45%	10%	19%	11%
3. 事業運営力	1%	1%	2%	3%	2%	3%	8%	2%	20%	5%	4%	5%	3%
4. 指導者基礎力	2%	4%	1%	7%	12%	15%	8%	10%	20%	59%	23%	34%	14%
5. コミュニケーション力	53%	7%	7%	24%	3%	8%	8%	21%	43%	25%	14%	34%	16%
6. リーダーシップ	1%	1%	1%	5%	1%	3%	2%	4%	2%	7%	2%	8%	2%
7. キャリアデザイン力	5%	3%	1%	59%	1%	4%	5%	4%	16%	8%	5%	3%	7%
8. 課題解決力	15%	9%	23%	11%	9%	12%	13%	23%	14%	22%	12%	14%	12%
9. 一般教養・倫理	41%	43%	22%	13%	25%	19%	17%	15%	22%	11%	33%	29%	28%
10. 科学的支援力	0%	1%	2%	1%	4%	3%	3%	13%	4%	0%	1%	2%	2%
11. 科学的表現力	2%	1%	3%	0%	6%	4%	2%	12%	4%	0%	1%	1%	3%
12. 専門的な知識・教養	40%	63%	63%	28%	83%	65%	71%	84%	53%	26%	62%	57%	61%
Q9. 問8で選んだ身につけた能力について満足していますか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 十分満足している	40%	32%	28%	36%	37%	34%	37%	46%	41%	22%	37%	36%	35%
2. 満足している	49%	58%	65%	56%	53%	56%	55%	51%	57%	68%	56%	53%	56%
3. あまり満足していない	9%	9%	8%	9%	8%	9%	6%	2%	11%	7%	10%	8%	8%
4. 全く満足していない	1%	1%	0%	0%	1%	2%	1%	1%	0%	0%	1%	1%	1%
Q10. <総合評価（満足度）> 総合的に判断して、この授業は意義のあるものでしたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	51%	37%	49%	44%	54%	40%	50%	60%	57%	36%	48%	49%	46%
2. そう思う	47%	56%	49%	53%	44%	55%	47%	40%	43%	61%	49%	49%	50%
3. そう思わない	1%	6%	2%	3%	1%	5%	3%	0%	0%	3%	3%	1%	3%
4. 全くそう思わない	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	2%	1%

平成30年度後期・鹿屋体育大学授業振り返りアンケート結果 [実技科目]

授業科目名	関連実技科目	専修科目(フット・コーチング系)	専修科目(武道系)	合計
科目数	24	30	7	61
回答者数	641	278	173	1089

Q1. <自己学修に関する設問> あなたは、レポートや課題に対して納得いくまで取り組みましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いにそう思う	63%	55%	65%	62%
2. そう思う	36%	44%	34%	37%
3. そう思わない	1%	1%	1%	1%
4. 全くそう思わない	0%	0%	0%	0%

Q2. あなたは、授業に対して「単位さえもらえればよい」という気持ちで出席しましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いにそう思う	13%	9%	16%	12%
2. そう思う	20%	20%	10%	19%
3. そう思わない	33%	37%	34%	34%
4. 全くそう思わない	34%	35%	40%	35%

Q3. あなたは、この授業に対して授業時間外で総時間どれくらいの自己学習(予習・復習・レポート・試験勉強含む)を行いましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 1時間未満	62%	43%	37%	53%
2. 1.0時間以上～3.5時間未満 (1受講あたり、平均して15分未満)	23%	31%	34%	27%
3. 3.5時間以上～7.5時間未満 (1受講あたり、平均して15分以上～30分未満)	11%	17%	14%	13%
4. 7.5時間以上～15時間未満 (1受講あたり、平均して30分以上～60分未満)	2%	4%	10%	4%
5. 15時間以上～30時間未満 (1受講あたり、平均して60分以上～120分未満)	2%	4%	4%	3%
6. 30時間以上 (1受講あたり、平均して120分以上)	0%	2%	1%	1%

Q4. <授業理解に関する質問> この授業の内容はよく理解できましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いにそう思う	60%	47%	60%	56%
2. そう思う	39%	52%	39%	43%
3. そう思わない	1%	1%	1%	1%
4. 全くそう思わない	0%	0%	0%	0%

Q5. <達成度に関する質問> シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 十分に達成できた	50%	36%	55%	47%
2. ある程度達成できた	43%	54%	39%	45%
3. あまり達成できなかった	3%	4%	4%	3%
4. 達成できなかった	1%	0%	0%	1%
5. 到達目標がわからない	0%	1%	1%	1%
6. シラバスを読んでいない	3%	4%	0%	2%

Q6. <授業改善に関する質問> この授業で担当教員に改善してほしい事項はありますか(複数可)。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 特になし	91%	89%	87%	90%
2. 授業への熱意	2%	4%	3%	3%
3. 技能レベルに合わせた学生への対応	5%	4%	5%	4%
4. 指示、示範、デモンストレーションのわかりやすさ	2%	3%	4%	3%
5. 教材、教具、環境の適切さ	1%	2%	2%	1%
6. シラバスのわかりやすさ	0%	1%	1%	1%
7. 授業の計画性・進行	1%	3%	3%	2%
8. 【授業内容】ルール、記録、文化等の知識に関する内容	1%	2%	1%	1%
9. 【授業内容】運動技能を評価し、指導する能力に関する内容	1%	2%	1%	1%
10. 【授業内容】安全面への配慮、運営・管理能力に関する内容	1%	1%	1%	1%
11. 成績評価の方法	0%	1%	4%	1%
12. iPad等のICT機器の活用	1%	3%	2%	2%
13. 予習・復習を促す課題等(の工夫)	0%	1%	1%	0%

Q7. <授業への興味・関心に関する質問> 授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いにそう思う	59%	54%	65%	59%
2. そう思う	39%	44%	35%	40%
3. そう思わない	1%	1%	1%	1%
4. 全くそう思わない	1%	0%	0%	0%

Q8. <授業成果に関する質問> 授業を通じて、特に身についた力がありますか（3つまで可）。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 実技力	88%	73%	89%	84%
2. 実技指導力	33%	59%	62%	44%
3. 事業運営力	3%	6%	2%	4%
4. 指導者基礎力	11%	29%	33%	19%
5. コミュニケーション力	31%	28%	7%	26%
6. リーダーシップ	6%	10%	3%	6%
7. キャリアデザイン力	1%	2%	1%	1%
8. 課題解決力	6%	10%	4%	7%
9. 一般教養・倫理	4%	4%	5%	4%
10. 科学的支援力	0%	1%	0%	1%
11. 科学的表現力	1%	2%	1%	1%
12. 専門的な知識・教養	34%	57%	53%	43%
Q9. 問8で選んだ身につけた能力について満足していますか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 十分満足している	54%	43%	58%	52%
2. 満足している	40%	50%	39%	43%
3. あまり満足していない	5%	6%	3%	5%
4. 全く満足していない	0%	0%	0%	0%
Q10. <総合評価（満足度）> 総合的に判断して、この授業は意義のあるものでしたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いにそう思う	66%	58%	73%	65%
2. そう思う	33%	41%	26%	34%
3. そう思わない	1%	0%	1%	1%
4. 全くそう思わない	1%	0%	0%	0%

令和元年度前期・鹿屋体育大学授業振り返りアンケート結果 [講義・演習科目]

科目群	コミュニケーション科目	社会・文化・自然科目	総合科目	キャリアデザイン科目	基礎科目A	基礎科目B	応用科目	実験演習科目	専修科目(生涯スポーツ系)	教職	教職専門	合計
科目数	16	4	6	6	10	3	10	3	3	4	2	67
回答者数	379	419	238	301	1162	213	431	30	31	207	233	3644

Q1. <<自己学修に関する設問>> あなたは、レポートや課題に対して納得いくまで取り組みましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	49%	48%	53%	56%	44%	46%	42%	60%	52%	61%	61%	49%
2. そう思う	47%	49%	45%	43%	52%	52%	56%	40%	48%	37%	38%	49%
3. そう思わない	3%	2%	3%	1%	3%	1%	1%	0%	0%	1%	0%	2%
4. 全く思わない	1%	1%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

Q2. あなたは、授業に対して「単位さえもらえればよい」という気持ちで出席しましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	10%	9%	9%	12%	12%	17%	14%	10%	10%	11%	13%	12%
2. そう思う	22%	23%	21%	15%	26%	29%	28%	23%	16%	16%	19%	23%
3. そう思わない	37%	43%	41%	38%	36%	28%	29%	17%	32%	40%	31%	36%
4. 全く思わない	31%	25%	29%	34%	26%	26%	28%	50%	42%	33%	36%	29%

Q3. あなたは、この授業に対して授業時間外で総時間どれくらいの自己学習(予習・復習・レポート・試験勉強含む)を行いましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 1時間未満	34%	40%	29%	37%	42%	43%	51%	23%	13%	50%	22%	39%
2. 1.0時間以上～3.5時間未満(1受講あたり、平均して15分未満)	27%	30%	31%	29%	31%	32%	33%	40%	23%	29%	42%	31%
3. 3.5時間以上～7.5時間未満(1受講あたり、平均して15分以上～30分未満)	23%	15%	20%	19%	15%	19%	12%	23%	26%	13%	24%	17%
4. 7.5時間以上～15時間未満(1受講あたり、平均して30分以上～60分未満)	12%	10%	14%	11%	9%	4%	4%	7%	29%	5%	11%	9%
5. 15時間以上～30時間未満(1受講あたり、平均して60分以上～120分未満)	4%	5%	5%	3%	2%	2%	1%	7%	10%	3%	1%	3%
6. 30時間以上(1受講あたり、平均して120分以上)	1%	1%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%

Q4. <<授業理解に関する質問>> この授業の内容はよく理解できましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	41%	33%	32%	51%	33%	43%	39%	43%	32%	46%	52%	39%
2. そう思う	52%	60%	62%	47%	59%	52%	56%	53%	61%	51%	45%	55%
3. そう思わない	6%	6%	6%	1%	7%	5%	4%	3%	3%	2%	3%	5%
4. 全く思わない	1%	1%	1%	1%	1%	0%	1%	0%	3%	1%	0%	1%

Q5. <<達成度に関する質問>> シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 十分に達成できた	35%	25%	22%	43%	26%	35%	36%	50%	26%	45%	37%	32%
2. ある程度達成できた	51%	55%	58%	51%	55%	54%	51%	43%	52%	46%	53%	53%
3. あまり達成できなかった	7%	12%	12%	2%	11%	8%	9%	3%	19%	6%	6%	9%
4. 達成できなかった	2%	1%	2%	1%	2%	0%	1%	0%	3%	1%	0%	1%
5. 到達目標がわからない	3%	5%	4%	1%	4%	1%	1%	0%	0%	0%	1%	3%
6. シラバスを読んでいない	2%	1%	2%	3%	2%	1%	2%	3%	0%	2%	3%	2%

Q6. <<授業改善に関する質問>> この授業で担当教員に改善してほしい事項をチェックして下さい（複数可）。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 特になし	87%	81%	87%	91%	82%	90%	88%	93%	90%	86%	87%	85%
2. 授業への熱意	2%	5%	3%	2%	4%	2%	3%	3%	0%	3%	2%	3%
3. 学生に対する対応	4%	3%	5%	3%	4%	1%	3%	0%	3%	5%	3%	4%
4. 説明のわかりやすさ	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%
5. 板書、教材、PowerPoint等のわかりやすさ	4%	6%	3%	1%	7%	4%	4%	0%	6%	4%	2%	5%
6. シラバスのわかりやすさ	1%	1%	1%	2%	2%	2%	1%	0%	0%	2%	1%	1%
7. 授業の計画性・進行	3%	4%	5%	2%	4%	2%	2%	0%	3%	6%	4%	4%
8. 授業の内容（情報）	6%	5%	4%	2%	4%	1%	3%	0%	0%	5%	3%	4%
9. 成績評価の方法	3%	2%	2%	1%	2%	1%	1%	0%	6%	2%	0%	2%
10. iPad等のICT機器の活用	4%	5%	4%	1%	4%	1%	3%	0%	0%	3%	4%	4%
11. 予習・復習を促す課題等（の工夫）	2%	1%	2%	1%	2%	3%	0%	3%	3%	1%	0%	2%
12. 学生が参加できる授業づくり（質疑応答・発表・グループワーク等）	2%	3%	3%	1%	2%	3%	1%	0%	0%	2%	1%	2%

Q7. <<授業への興味・関心に関する質問>> 授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いにそう思う	42%	40%	43%	51%	37%	48%	43%	60%	48%	49%	56%	43%
2. そう思う	50%	53%	51%	47%	54%	46%	54%	40%	52%	47%	40%	51%
3. そう思わない	6%	7%	5%	2%	8%	5%	2%	0%	0%	3%	3%	5%
4. 全くそう思わない	2%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	0%	0%	1%	1%	1%

Q8. <<授業成果に関する質問>> 授業を通じて、特に身についた力をチェックしてください（3つまで可）。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 実技力	19%	16%	52%	26%	10%	21%	18%	23%	16%	17%	26%	19%
2. 実技指導力	3%	8%	5%	5%	6%	8%	7%	20%	10%	14%	38%	9%
3. 事業運営力	2%	3%	10%	3%	5%	4%	4%	3%	10%	2%	3%	4%
4. 指導者基礎力	2%	6%	3%	4%	6%	11%	6%	13%	6%	23%	37%	8%
5. コミュニケーション力	63%	6%	4%	58%	6%	9%	4%	20%	16%	31%	52%	21%
6. リーダーシップ	2%	1%	1%	6%	3%	4%	3%	0%	3%	4%	11%	3%
7. キャリアデザイン力	2%	3%	7%	47%	4%	3%	2%	0%	16%	6%	5%	8%
8. 課題解決力	10%	14%	14%	13%	13%	17%	7%	27%	19%	16%	17%	13%
9. 一般教養・倫理	36%	34%	29%	17%	38%	27%	28%	17%	35%	38%	34%	33%
10. 科学的支援力	0%	8%	3%	1%	5%	3%	7%	20%	0%	1%	0%	4%
11. 科学的表現力	1%	11%	4%	1%	7%	4%	3%	20%	6%	0%	1%	5%
12. 専門的な知識・教養	44%	73%	64%	26%	69%	72%	73%	83%	81%	57%	52%	62%

Q9. 問8で選んだ身につけた能力について満足していますか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 十分満足している	34%	32%	34%	48%	32%	42%	41%	47%	35%	45%	42%	37%
2. 満足している	53%	60%	56%	46%	57%	49%	52%	50%	48%	47%	46%	53%
3. あまり満足していない	12%	8%	9%	6%	10%	8%	6%	3%	16%	8%	11%	9%
4. 全く満足していない	2%	0%	1%	1%	1%	0%	1%	0%	0%	0%	1%	1%

Q10. <<総合評価（満足度）>> 総合的に判断して、この授業は意義のあるものでしたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いにそう思う	51%	47%	56%	58%	43%	51%	44%	60%	42%	58%	64%	49%
2. そう思う	44%	50%	42%	41%	51%	44%	53%	40%	58%	39%	35%	47%
3. そう思わない	3%	3%	1%	0%	5%	4%	2%	0%	0%	2%	1%	3%
4. 全くそう思わない	2%	0%	1%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	1%	0%	1%

令和元年度前期・鹿屋体育大学授業振り返りアンケート結果 [実技科目]

科目群	関連実技科目	合計
科目数	22	22
回答数	591	591

Q1. <<自己学修に関する設問>> あなたは、レポートや課題に対して納得いくまで取り組みましたか。	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	59%	59%
2. そう思う	39%	39%
3. そう思わない	2%	2%
4. 全くそう思わない	1%	1%

Q2. あなたは、授業に対して「単位さえもらえればよい」という気持ちで出席しましたか。	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	11%	11%
2. そう思う	16%	16%
3. そう思わない	34%	34%
4. 全くそう思わない	39%	39%

Q3. あなたは、この授業に対して授業時間外で総時間どれくらいの自己学習（予習・復習・レポート・試験勉強含む）を行いましたか。	割合 (%)	割合 (%)
1. 1時間未満	50%	50%
2. 1.0時間以上～3.5時間未満（1受講あたり、平均して15分未満）	25%	25%
3. 3.5時間以上～7.5時間未満（1受講あたり、平均して15分以上～30分未満）	16%	16%
4. 7.5時間以上～15時間未満（1受講あたり、平均して30分以上～60分未満）	7%	7%
5. 15時間以上～30時間未満（1受講あたり、平均して60分以上～120分未満）	2%	2%
6. 30時間以上（1受講あたり、平均して120分以上）	1%	1%

Q4. <<授業理解に関する質問>> この授業の内容はよく理解できましたか。	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	58%	58%
2. そう思う	40%	40%
3. そう思わない	2%	2%
4. 全くそう思わない	1%	1%

Q5. <<達成度に関する質問>> シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。	割合 (%)	割合 (%)
1. 十分に達成できた	44%	44%
2. ある程度達成できた	46%	46%
3. あまり達成できなかった	5%	5%
4. 達成できなかった	1%	1%
5. 到達目標がわからない	2%	2%
6. シラバスを読んでいない	3%	3%

Q6. <<授業改善に関する質問>> この授業で担当教員に改善してほしい事項をチェックして下さい（複数可）。	割合 (%)	割合 (%)
1. 特になし	91%	91%
2. 授業への熱意	2%	2%
3. 技能レベルに合わせた学生への対応	3%	3%
4. 指示、示範、デモンストレーションのわかりやすさ	3%	3%
5. 教材、教具、環境の適切さ	0%	0%
6. シラバスのわかりやすさ	0%	0%
7. 授業の計画性・進行	2%	2%
8. 授業内容：ルール、記録、文化等の知識に関する内容	1%	1%
9. 授業内容：運動技能を評価し、指導する能力に関する内容	0%	0%
10. 授業内容：安全面への配慮、運営・管理能力に関する内容	0%	0%
11. 成績評価の方法	1%	1%
12. iPad等のICT機器の活用	1%	1%
13. 予習・復習を促す課題等（の工夫）	1%	1%

Q7. <<授業への興味・関心に関する質問>> 授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いにそう思う	63%	63%
2. そう思う	34%	34%
3. そう思わない	3%	3%
4. 全くそう思わない	0%	0%

Q8. <<授業成果に関する質問>> 授業を通じて、特に身についた力をチェックしてください（3つまで可）。	割合 (%)	割合 (%)
1. 実技力	87%	87%
2. 実技指導力	34%	34%
3. 事業運営力	4%	4%
4. 指導者基礎力	11%	11%
5. コミュニケーション力	38%	38%
6. リーダーシップ	6%	6%
7. キャリアデザイン力	0%	0%
8. 課題解決力	10%	10%
9. 一般教養・倫理	3%	3%
10. 科学的支援力	0%	0%
11. 科学的表現力	1%	1%
12. 専門的な知識・教養	39%	39%

Q9. 問8で選んだ身につけた能力について満足していますか。	割合 (%)	割合 (%)
1. 十分満足している	52%	52%
2. 満足している	42%	42%
3. あまり満足していない	6%	6%
4. 全く満足していない	0%	0%

Q10. <<総合評価（満足度）>> 総合的に判断して、この授業は意義のあるものでしたか。	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いにそう思う	68%	68%
2. そう思う	30%	30%
3. そう思わない	1%	1%
4. 全くそう思わない	1%	1%

令和元年度後期・鹿屋体育大学授業振り返りアンケート結果 [講義・演習科目]

科目群	コミュニケーション科目	社会・文化・自然科目	総合科目	キャリアデザイン科目	基礎科目A	基礎科目B	応用科目	実験演習科目	専修科目(生涯スポーツ系)	指導実践科目	教職	教職専門	合計
科目数	15	7	3	2	4	6	11	4	3	1	6	3	65
回答者数	376	609	96	288	504	696	435	525	53	159	704	192	4637

Q1. <<自己学修に関する設問>> あなたは、レポートや課題に対して納得いくまで取り組みましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	55%	43%	60%	48%	45%	46%	45%	58%	53%	52%	53%	56%	50%
2. そう思う	43%	53%	38%	51%	51%	50%	51%	40%	45%	44%	46%	43%	47%
3. そう思わない	2%	2%	1%	1%	4%	4%	3%	2%	2%	3%	1%	1%	2%
4. 全く思わない	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	0%	1%	0%	0%	1%

Q2. あなたは、授業に対して「単位さえもらえればよい」という気持ちで出席しましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	11%	14%	8%	15%	13%	13%	18%	12%	19%	8%	12%	9%	13%
2. そう思う	21%	31%	23%	28%	21%	31%	29%	23%	30%	18%	24%	26%	26%
3. そう思わない	34%	30%	31%	28%	36%	32%	28%	25%	17%	50%	34%	32%	32%
4. 全く思わない	34%	25%	38%	30%	31%	24%	25%	40%	34%	25%	31%	33%	30%

Q3. あなたは、この授業に対して授業時間外で総時間どれくらいの自己学習(予習・復習・レポート・試験勉強含む)を行いましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 1時間未満	29%	59%	17%	34%	30%	36%	43%	34%	32%	36%	42%	23%	38%
2. 1.0時間以上～3.5時間未満(1受講あたり、平均して15分未満)	35%	26%	22%	28%	27%	23%	34%	28%	38%	25%	32%	29%	29%
3. 3.5時間以上～7.5時間未満(1受講あたり、平均して15分以上→30分未満)	22%	10%	28%	23%	21%	19%	18%	18%	21%	25%	18%	26%	19%
4. 7.5時間以上～15時間未満(1受講あたり、平均して30分以上→60分未満)	11%	3%	25%	12%	14%	14%	4%	12%	4%	11%	6%	16%	10%
5. 15時間以上～30時間未満(1受講あたり、平均して60分以上→120分未満)	3%	1%	5%	2%	6%	7%	1%	7%	4%	3%	1%	5%	4%
6. 30時間以上(1受講あたり、平均して120分以上)	1%	0%	2%	1%	2%	1%	0%	1%	2%	1%	0%	0%	1%

Q4. <<授業理解に関する質問>> この授業の内容はよく理解できましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	48%	36%	41%	39%	32%	35%	40%	46%	45%	36%	45%	42%	40%
2. そう思う	48%	57%	53%	57%	60%	54%	53%	50%	53%	60%	52%	56%	54%
3. そう思わない	3%	6%	5%	4%	7%	10%	6%	3%	2%	2%	3%	2%	5%
4. 全く思わない	0%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	0%	2%	0%	1%	1%

Q5. <<達成度に関する質問>> シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 十分に達成できた	41%	36%	35%	39%	28%	34%	36%	43%	36%	24%	41%	40%	37%
2. ある程度達成できた	48%	52%	48%	52%	57%	51%	51%	48%	55%	62%	50%	54%	52%
3. あまり達成できなかった	5%	7%	6%	3%	10%	9%	7%	4%	2%	10%	4%	2%	6%
4. 達成できなかった	1%	0%	4%	1%	2%	2%	1%	1%	2%	1%	0%	2%	1%
5. 到達目標がわからない	1%	1%	5%	1%	0%	1%	2%	0%	2%	0%	1%	2%	1%
6. シラバスを読んでいない	3%	3%	1%	3%	3%	3%	4%	3%	4%	3%	3%	1%	3%

Q6. <<授業改善に関する質問>> この授業で担当教員に改善してほしい事項をチェックして下さい（複数可）。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 特になし	85%	87%	88%	81%	86%	81%	85%	93%	96%	77%	88%	84%	86%
2. 授業への熱意	2%	3%	1%	4%	3%	4%	3%	3%	0%	4%	2%	2%	3%
3. 学生に対する対応	4%	3%	2%	9%	3%	7%	3%	1%	2%	11%	2%	4%	4%
4. 説明のわかりやすさ	7%	5%	5%	8%	4%	11%	8%	3%	0%	8%	5%	7%	6%
5. 板書、教材、PowerPoint等のわかりやすさ	2%	4%	2%	4%	5%	6%	4%	2%	2%	4%	3%	5%	4%
6. シラバスのわかりやすさ	1%	1%	0%	2%	2%	1%	0%	0%	0%	1%	0%	1%	1%
7. 授業の計画性・進行	2%	5%	3%	5%	3%	4%	3%	1%	2%	7%	3%	4%	3%
8. 授業の内容（情報）	2%	2%	2%	3%	2%	4%	2%	1%	2%	3%	3%	4%	2%
9. 成績評価の方法	2%	1%	1%	2%	2%	2%	1%	1%	0%	3%	0%	2%	1%
10. iPad等のICT機器の活用	2%	2%	2%	1%	2%	2%	1%	1%	0%	2%	4%	3%	2%
11. 予習・復習を促す課題等（の工夫）	1%	1%	2%	1%	2%	2%	1%	0%	0%	3%	1%	3%	1%
12. 学生が参加できる授業づくり（質疑応答・発表・グループワーク等）	1%	1%	3%	2%	1%	2%	2%	1%	0%	3%	1%	1%	1%

Q7. <<授業への興味・関心に関する質問>> 授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いにそう思う	45%	35%	48%	39%	49%	34%	42%	49%	57%	37%	46%	44%	42%
2. そう思う	49%	54%	46%	54%	45%	56%	52%	46%	42%	54%	49%	53%	51%
3. そう思わない	6%	9%	6%	6%	4%	8%	5%	3%	2%	8%	4%	3%	6%
4. 全くそう思わない	1%	2%	0%	1%	2%	1%	1%	1%	0%	1%	0%	1%	1%

Q8. <<授業成果に関する質問>> 授業を通じて、特に身についた力をチェックしてください（3つまで可）。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 実技力	13%	10%	42%	12%	12%	13%	17%	22%	11%	15%	11%	18%	14%
2. 実技指導力	4%	5%	4%	6%	12%	22%	6%	15%	15%	52%	12%	29%	13%
3. 事業運営力	3%	4%	6%	6%	3%	3%	10%	4%	21%	6%	3%	3%	4%
4. 指導者基礎力	4%	4%	3%	7%	14%	21%	5%	11%	9%	59%	21%	35%	14%
5. コミュニケーション力	53%	8%	7%	32%	5%	8%	8%	9%	34%	34%	26%	40%	18%
6. リーダーシップ	4%	2%	3%	5%	2%	4%	2%	1%	8%	13%	4%	6%	4%
7. キャリアデザイン力	5%	5%	7%	59%	3%	5%	6%	2%	21%	7%	4%	7%	8%
8. 課題解決力	12%	9%	20%	17%	15%	16%	9%	16%	17%	28%	13%	18%	14%
9. 一般教養・倫理	50%	50%	25%	20%	29%	24%	27%	19%	28%	20%	32%	33%	31%
10. 科学的支援力	2%	2%	2%	1%	9%	4%	3%	14%	2%	1%	2%	1%	4%
11. 科学的表現力	2%	1%	9%	3%	9%	5%	4%	17%	8%	1%	1%	1%	5%
12. 専門的な知識・教養	41%	58%	74%	26%	73%	63%	74%	72%	60%	29%	66%	64%	61%

Q9. 問8で選んだ身につけた能力について満足していますか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 十分満足している	45%	35%	35%	38%	39%	33%	40%	45%	38%	32%	42%	42%	39%
2. 満足している	47%	56%	60%	56%	53%	56%	50%	50%	53%	55%	52%	51%	53%
3. あまり満足していない	8%	7%	4%	5%	6%	9%	10%	4%	9%	11%	6%	6%	7%
4. 全く満足していない	1%	1%	0%	1%	1%	1%	0%	1%	0%	1%	0%	1%	1%

Q10. <<総合評価（満足度）>> 総合的に判断して、この授業は意義のあるものでしたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いにそう思う	52%	42%	59%	43%	51%	39%	43%	55%	53%	44%	52%	48%	47%
2. そう思う	43%	52%	38%	53%	47%	54%	52%	43%	45%	50%	45%	50%	48%
3. そう思わない	3%	5%	3%	2%	2%	5%	4%	2%	0%	3%	3%	2%	3%
4. 全くそう思わない	1%	2%	0%	1%	1%	2%	1%	1%	2%	3%	0%	0%	1%

令和元年度後期・鹿屋体育大学授業振り返りアンケート結果 [実技科目]

科目群	関連実技科目	専修科目 (アスリート・コーチング系)	専修科目 (武道系)	合計
科目数	25	30	7	62
回答者数	570	307	145	1022

Q1. <<自己学修に関する設問>> あなたは、レポートや課題に対して納得いくまで取り組みましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	64%	60%	68%	64%
2. そう思う	35%	38%	30%	35%
3. そう思わない	1%	1%	2%	1%
4. 全く思わない	0%	0%	0%	0%

Q2. あなたは、授業に対して「単位さえもらえればよい」という気持ちで出席しましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	15%	14%	15%	14%
2. そう思う	19%	11%	14%	16%
3. そう思わない	29%	36%	25%	30%
4. 全く思わない	38%	39%	46%	40%

Q3. あなたは、この授業に対して授業時間外で総時間どれくらいの自己学習 (予習・復習・レポート・試験勉強含む) を行いましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 1時間未満	53%	38%	34%	46%
2. 1.0時間以上～3.5時間未満 (1受講あたり、平均して15分未満)	28%	26%	38%	29%
3. 3.5時間以上～7.5時間未満 (1受講あたり、平均して15分以上～30分未満)	13%	14%	14%	13%
4. 7.5時間以上～15時間未満 (1受講あたり、平均して30分以上～60分未満)	5%	11%	10%	8%
5. 15時間以上～30時間未満 (1受講あたり、平均して60分以上～120分未満)	1%	7%	3%	3%
6. 30時間以上 (1受講あたり、平均して120分以上)	0%	3%	2%	1%

Q4. <<授業理解に関する質問>> この授業の内容はよく理解できましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	61%	55%	59%	59%
2. そう思う	37%	43%	41%	39%
3. そう思わない	1%	1%	0%	1%
4. 全く思わない	0%	0%	0%	0%

Q5. <<達成度に関する質問>> シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 十分に達成できた	53%	50%	56%	53%
2. ある程度達成できた	39%	45%	38%	41%
3. あまり達成できなかった	4%	2%	4%	3%
4. 達成できなかった	1%	0%	1%	0%
5. 到達目標がわからない	0%	1%	0%	0%
6. シラバスを読んでいない	3%	3%	1%	3%

Q6. <<授業改善に関する質問>> この授業で担当教員に改善してほしい事項をチェックして下さい (複数可)。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 特になし	91%	94%	85%	91%
2. 授業への熱意	2%	2%	3%	2%
3. 技能レベルに合わせた学生への対応	4%	3%	7%	4%
4. 指示、示範、デモンストレーションのわかりやすさ	2%	1%	3%	2%
5. 教材、教具、環境の適切さ	1%	1%	2%	1%
6. シラバスのわかりやすさ	0%	1%	1%	0%
7. 授業の計画性・進行	2%	1%	2%	2%
8. 授業内容：ルール、記録、文化等の知識に関する内容	1%	1%	0%	1%
9. 授業内容：運動技能を評価し、指導する能力に関する内容	1%	0%	1%	1%
10. 授業内容：安全面への配慮、運営・管理能力に関する内容	1%	0%	1%	1%
11. 成績評価の方法	2%	1%	3%	2%
12. iPad等のICT機器の活用	1%	0%	3%	1%
13. 予習・復習を促す課題等 (の工夫)	0%	0%	0%	0%

Q7. <<授業への興味・関心に関する質問>> 授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	60%	64%	65%	62%
2. そう思う	37%	34%	34%	36%
3. そう思わない	3%	2%	1%	2%
4. 全く思わない	0%	0%	1%	0%

Q8. <<授業成果に関する質問>> 授業を通じて、特に身についた力をチェックしてください（3つまで可）。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 実技力	91%	73%	88%	86%
2. 実技指導力	38%	59%	63%	48%
3. 事業運営力	2%	8%	6%	4%
4. 指導者基礎力	12%	37%	28%	22%
5. コミュニケーション力	24%	32%	11%	24%
6. リーダーシップ	5%	9%	7%	7%
7. キャリアデザイン力	1%	3%	3%	2%
8. 課題解決力	5%	13%	8%	8%
9. 一般教養・倫理	4%	5%	8%	5%
10. 科学的支援力	1%	2%	1%	1%
11. 科学的表現力	1%	2%	2%	2%
12. 専門的な知識・教養	37%	54%	63%	46%

Q9. 問8で選んだ身につけた能力について満足していますか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 十分満足している	55%	53%	57%	55%
2. 満足している	41%	41%	40%	41%
3. あまり満足していない	3%	6%	3%	4%
4. 全く満足していない	1%	0%	0%	1%

Q10. <<総合評価（満足度）>> 総合的に判断して、この授業は意義のあるものでしたか。	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
1. 大いに思う	67%	66%	69%	67%
2. そう思う	31%	33%	30%	31%
3. そう思わない	2%	1%	1%	1%
4. 全く思わない	1%	0%	1%	0%

[«トップページに戻る](#)

[«アンケート一覧に戻る](#)

アンケート集計結果 / []年度前期【講義・演習：15回】授業振り返りアンケート/キャリアコミュニケーション

実施期間：
講評 (未入力)

[集計結果をエクスポート](#)

[講評を入力する](#)

授業改善等に関わる特筆すべき自由記述（授業者の判断でWebClassより適宜ペーストして下さい）。

最大文字数：400

現在 0 文字。あと 400 文字入力できます。

授業者の振り返り（①アンケート結果の分析、②今後の改善点や取組、③その他として記述して下さい）。

最大文字数：400

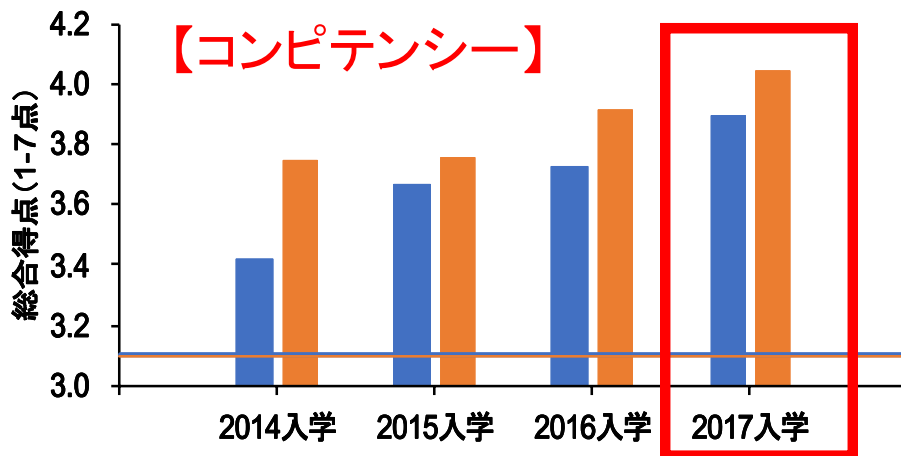
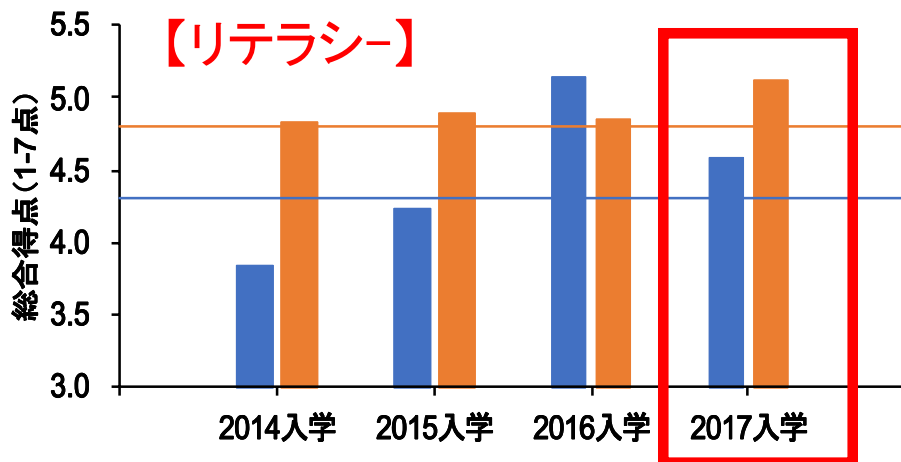
現在 0 文字。あと 400 文字入力できます。

[講評の保存](#)

[閉じる](#)

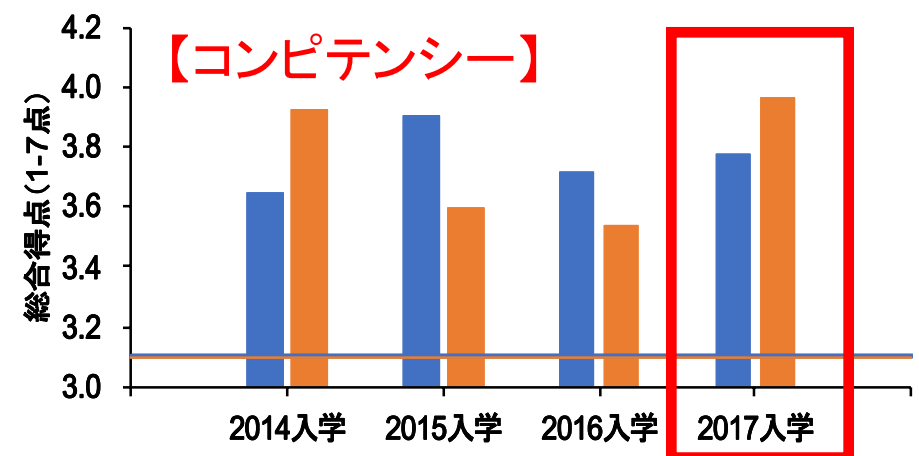
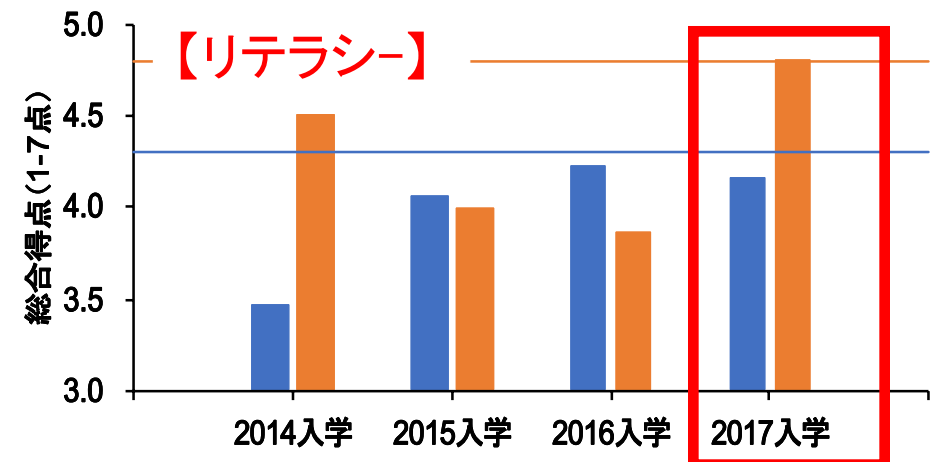
汎用的能力 (PROGテスト) の1年次から3年次へ変化

スポーツ総合課程



■ スポーツ総合 1年 ■ スポーツ総合 3年
— 全国平均(1年) — 全国平均(3年)

武道課程



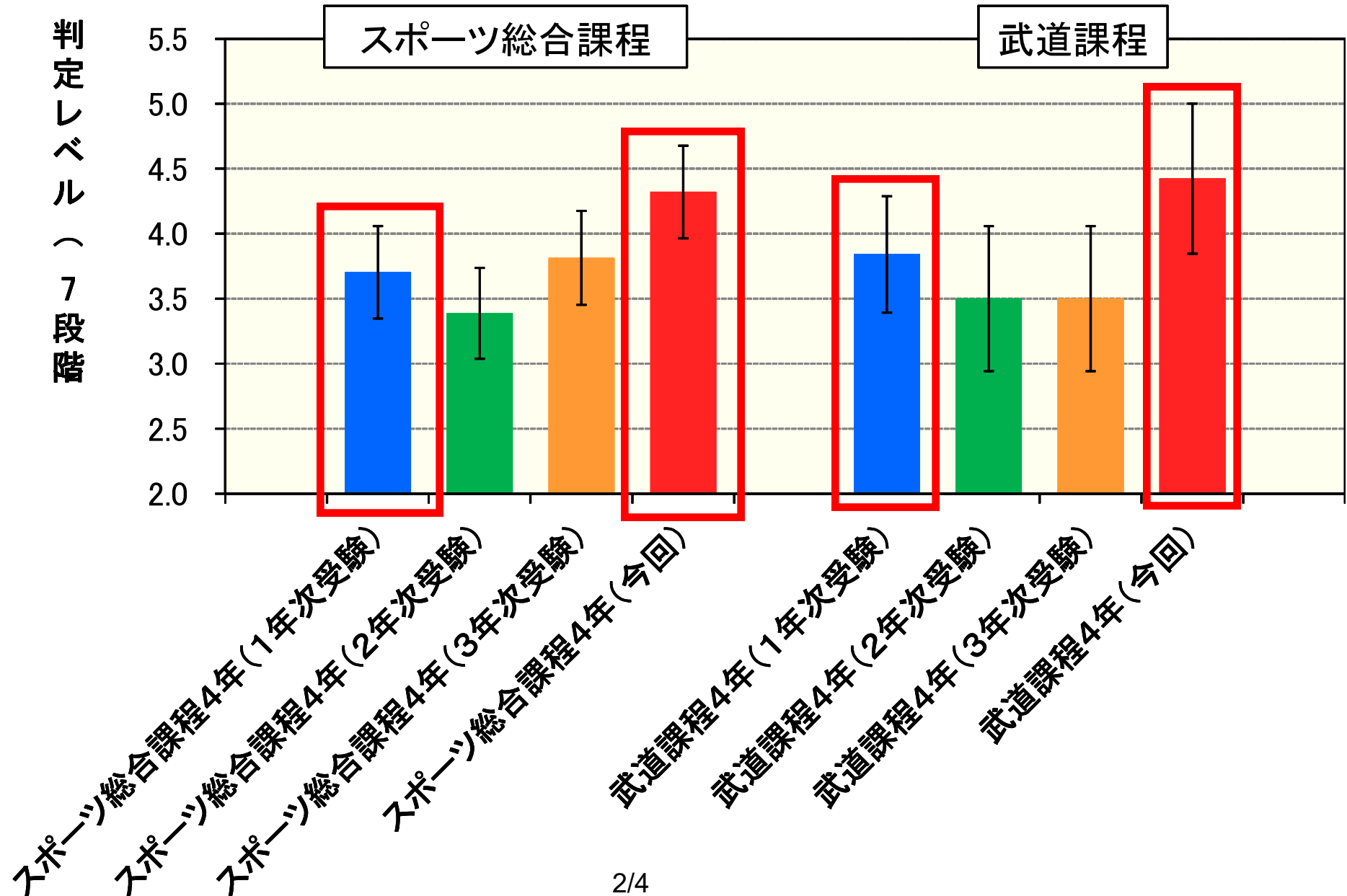
■ スポーツ総合 1年 ■ スポーツ総合 3年
— 全国平均(1年) — 全国平均(3年)

体育大生のコンピテンシーは、入学時から全国平均値よりも高く、3年次でも高いことが特徴です。一方リテラシーは、これまで低い傾向が続いていました。しかし、新教育課程3年目に入学した2017年入学(新4年生)の3年次の平均値は、初めて全国(大学3年次)の値を上回りました。武道課程の学生も初めて平均値に並びました。

これは、本学の教育や学修によって課題解決する資質・能力が向上したことを示しています。それ故に、本学学生は自分たちの学びにもっと自信を持って下さい(AP-News Vol.7より、2020.3)。

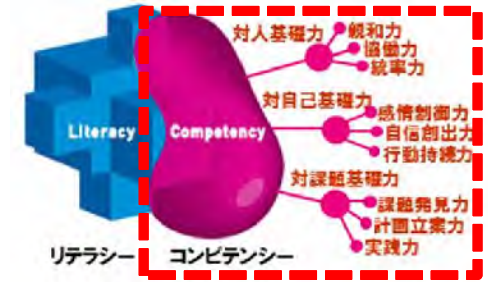
汎用的能力 (PROGテスト) の1年次から4年次へ変化

コンピテンシー総合(2019年度卒業生)

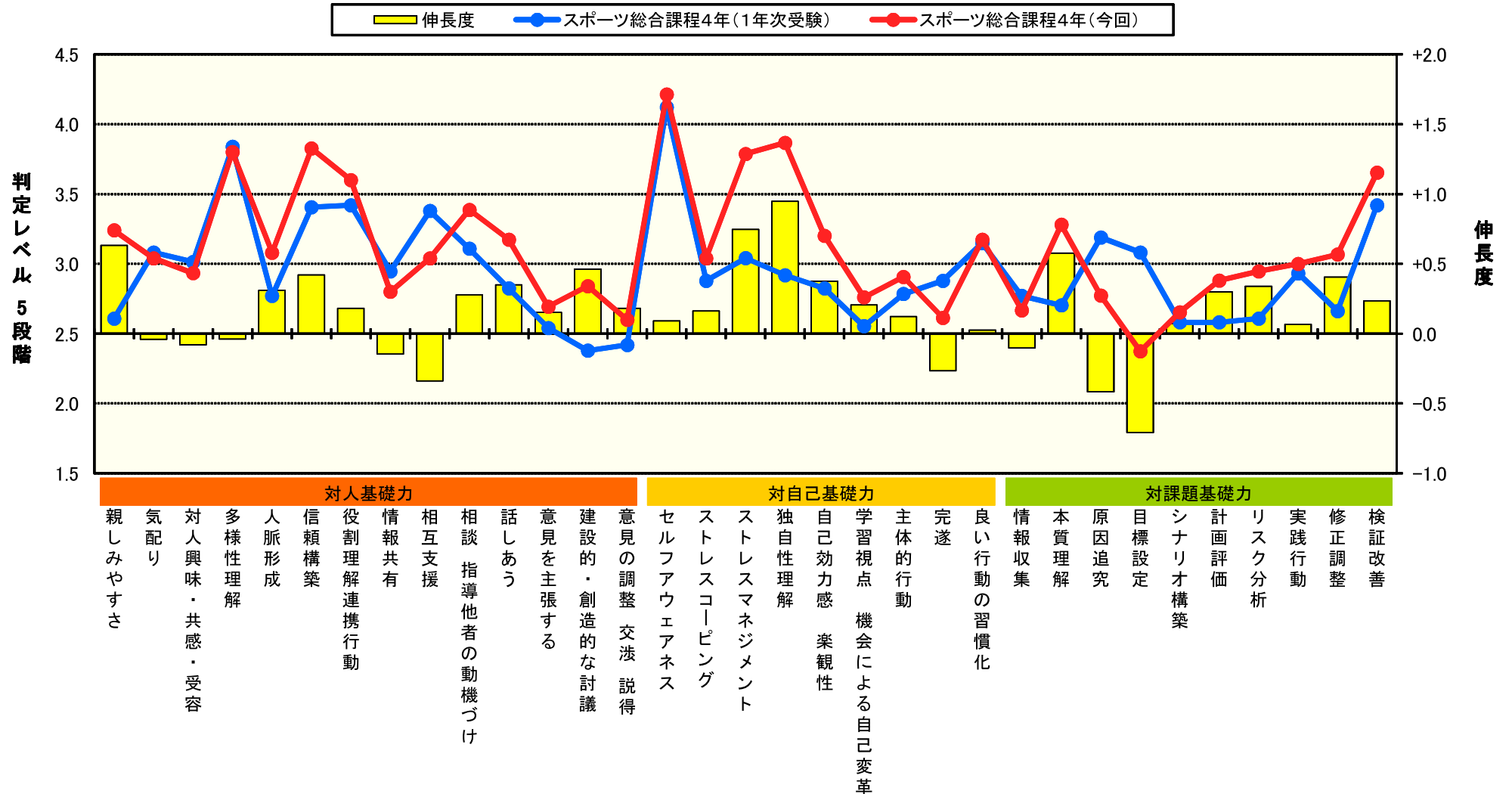


コンピテンシー小分類要素 成長分析 ①

【スポーツ総合課程4年】

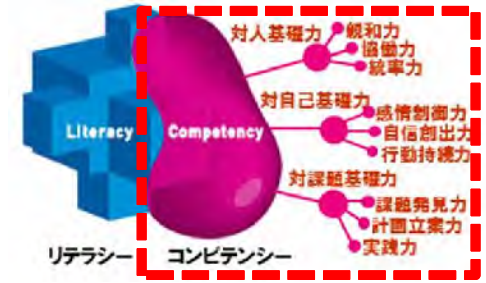


コンピテンシー小分類要素

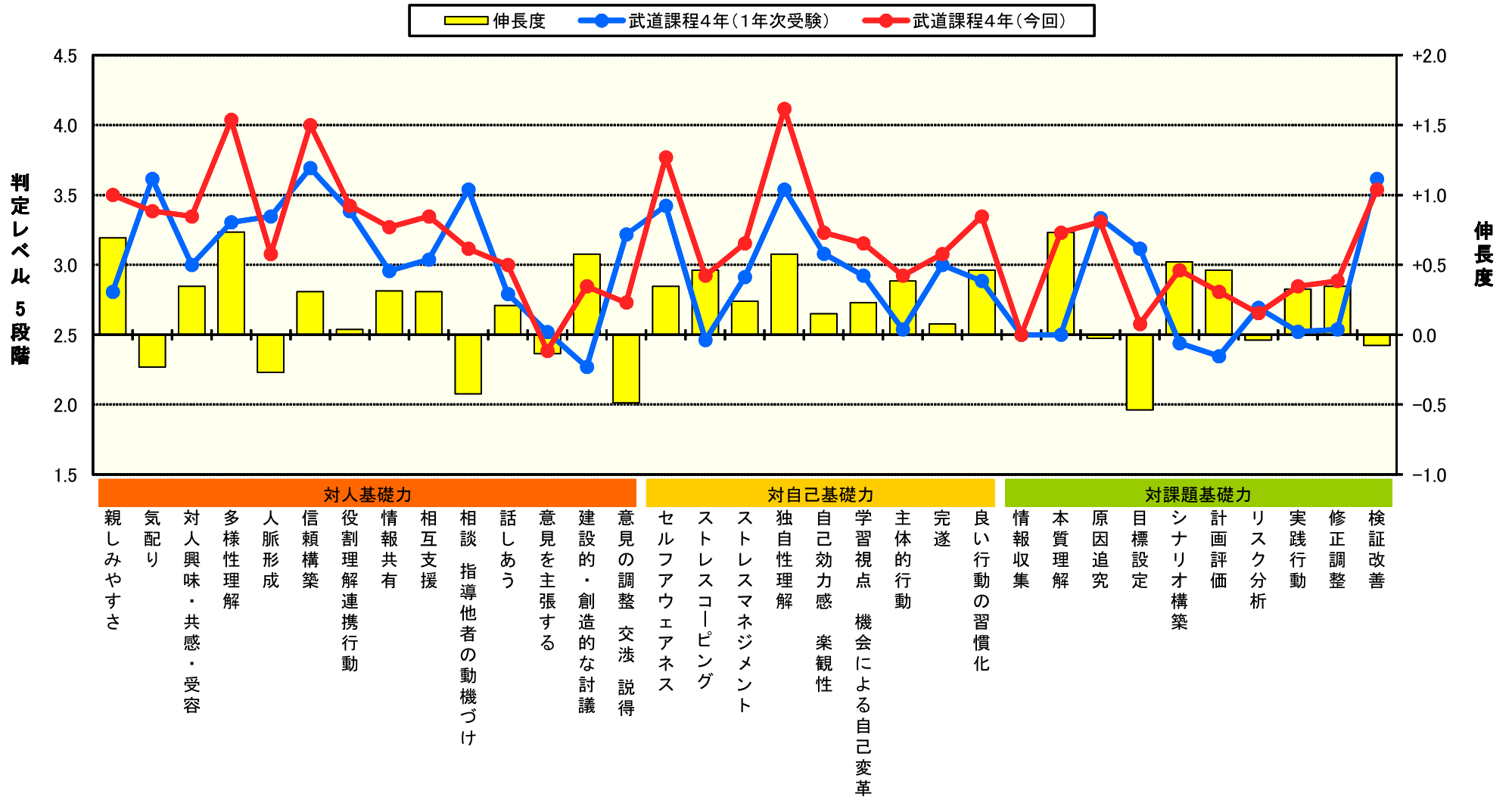


コンピテンシー小分類要素 成長分析 ②

【武道課程4年】



コンピテンシー小分類要素



鹿屋体育大学 Sports Coaching Competency Test(SCCOT)の概要

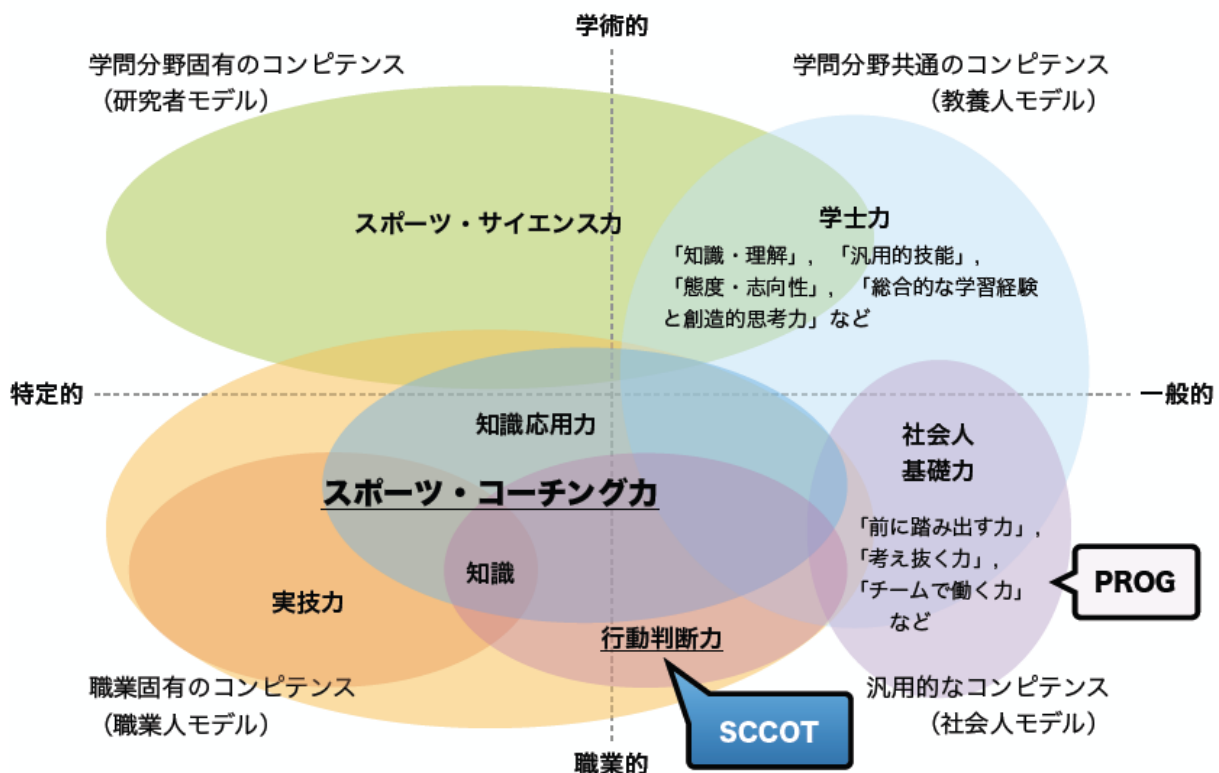
スポーツ指導者には、多様で複雑なコーチング活動の中で状況に対応しながら、適切な行動判断を行う能力が求められている。そのようなことから体育・スポーツに関連する教育機関では、そのようなコーチングが行える資質・能力の育成に力を注いでいる。一方で、コーチングの資質・能力の変化を把握することや、育成プログラムの改善に役立つ情報を得るための測定・評価方法については、十分に整備されていない。

鹿屋体育大学では、AP事業の取り組みを通じて、Sports Coaching Competency Test(SCCOT)として、スポーツ指導に必要な能力である「どのようなコーチング場面にも移転可能な行動・判断力」を可視化するための標準テストを開発してきた^(注1)。このテスト開発では、社会人基礎力を可視化するテストである「PROG」を開発した株式会社リアセックの協力を得て、そのノウハウを援用した。具体的には、従来型の心理尺度やアンケートと異なり、社会的な望ましさを意識することによって回答傾向を操作することが難しい、より客観的な測定方法を採用した(次項参照)。また SCCOT は、現在日本のスポーツ界が目指している「プレーヤー中心の考えに基づいたコーチングを行うための行動・判断スキル」を測ろうとしている。このスキルが高く判定されるほど、昨今スポーツ界で問題視されている体罰等について、「体罰は指導に有効ではない」「スポーツ指導に体罰は必要ない」という態度を強く持っていることがわかる^(注2)。

今後は SCCOT を用いて、鹿屋体育大学における学生の学修成果と教育効果の測定を行うとともに、その他の体育系大学やスポーツ競技団体等においてもコーチ育成プログラムや競技・指導経験による Sports Coaching Competency の成長を把握することや、スポーツ指導者のための適性判断に活用できる、環境整備を進められればと考えている。

- (注1) 本テストの開発は、「大学教育再生加速プログラム(AP)事業:テーマV(卒業時における質保証の取り組みの強化)」の一部として文部科学省の支援を受け実施している(<http://ap.nifs-k.ac.jp>)。
- (注2) 本テスト開発では、日本スポーツ振興センター、日本スポーツ協会、筑波大学、日本体育大学、大阪体育大学から外部評価委員を招へいして進めている。

体育系高等教育機関で育成するコンピテンスとSCCOTの位置づけ



PROG白書(リアセック, 2015)を基に, 鹿屋体育大学教育企画・評価室にて引用改変

【SCCOTの質問内容】…質問項目は約120問で、テスト時間は30-40分程度。

主観式 (従来型)

従来、態度や行動スタイルを測定するテストは、下の例にあるように、「あてはまる」～「あてはまらない」といった、個人の主観評価を用いるものが多く、肯定的な自己意識の程度が回答に反映されたり、社会的な価値観による反応歪曲(虚偽の回答)が起こり易いといった測定上の課題があった。

<従来型のテスト例>

非常にあてはまる…4、ややあてはまる…3、あまりあてはまらない…2、まったくあてはまらない…1

項目	4	3	2	1
1 難しいと思えることほど、やってみたくなる				
2 初対面でも積極的に声をかけて仲良くなることができる				
3 自分の言い訳が分かってもらえなくても、いらいらを顔に出さない				

客観式

従来のテストの課題を解決するために、SCCOTでは下の例にあるように、一見してどちらが正解か分からないような、双方に意味のある設問を提示し、個人の判断に基づいて選択させる出題形式を取ることにした。これによって、回答時における反応歪曲等の課題の軽減を図った。

<SCCOTの両側選択形式の例>

A		B	
あA	あB	あA	あB
てに	てに	てに	てに
は	は	は	は
ま	ま	ま	ま
る	る	る	る
1	スポーツを通じて、創意工夫して身体技術を会得する楽しさを学ぶことができる	1	スポーツを通じて、激しいトレーニングを積み重ね、達成感や粘り強さを学ぶことができる
2	スポーツは、競い合い、勝利することが重要だ	2	スポーツは、勝ち負けよりも、楽しむことが重要だ

資料作成・提供：株式会社リアセック(鹿屋体育大学教育企画・評価室にて一部改変)

【返却用のプロフィールシート】

スポーツコーチング・コンピテンシーテスト(SCCOT) 個人結果報告

所属組織名: ●●ベースボール ▼▼道場
氏名: ●●▼▼さん
個人コード/学籍番号: AB20181134C
報告書出力日: 2018/11/19

(1) コンピテンシー全体傾向

自分の得意・不得意の領域を確認し、大きくバランスが崩れている場合には改善を目標とします。

(2) コンピテンシー要請の傾向

比較対象となるグループ平均と比較して、更に伸ばさねばならない要素、見落すべき不得意要素を確認してください。

領域	No.	要素	要請内容	スコア	グループ平均
専門知識力	1	スポーツ科学の知識	プレーヤーの安全管理や運動継続に必要な十分な身体的な心身を育むための基礎的知識があること	3	5.0
	2	情報収集・選択	プレーヤーに必要な情報や発達段階や状況に応じて収集・選択し、適切な解釈を加えて分かりやすく提供する知識のこと	6	4.8
	3	学習に関する知識	幅広い指定しない幅広い情報収集、アドバイザーの役割、遠征トラベルやエナジーの回復等の学習に関する知識のこと	4	4.7
対他者力	4	自律性支援行動力	プレーヤーの成果に対して適切な評価・対応を行い、プレーヤーの主体的行動判断を促すこと	5	4.7
	5	自律性制行動力	プレーヤーの状況にあわせて、介入するの、見守るのかを判断し、特にむねを促すプレーヤーの主体的行動を引き出すこと	4	4.7
対自己力	6	自己認識力	コーチ自身やプレーヤーの健康的な心身を育むことを軸としながら、時々に合わせた指導方法の見直しとコーチングの向上に努めること	4	4.8
	7	省察力	コーチとしての役割や使命を自ら認識し、競技力だけでなく、プレーヤーの成長支援の方法についても探求し続けること	4	4.7

(3) コンピテンシー詳細傾向

要素の内容を意識して取り組むことが、コンピテンシーを効果的に変化させます。

領域	要素 No.	詳細要素	詳細要素内容	不足	充足
専門知識力	1	健康に関する科学的知識	安全確保の知識や、運動継続に必要な科学的知識を習得するための基礎的知識があること		
	2	正しい情報の収集・選択	多くの情報の中から必要に応じて適切な情報を選択し、適切な解釈を加えて分かりやすく提供すること		
	3	状況に応じた情報の選択	指導する相手や指導するシーン、場に応じて、適切な情報を提供すること		
対他者力	4	選手学習(フォーマル・ノンフォーマル学習)	フォーマル学習(教習所やスクールでの学習)とノンフォーマル学習(現場での学習)の両方から学ぶこと		
	5	多様な学習(インフォーマル学習)	インフォーマル学習(教育機関で学ぶ学習)とノンフォーマル学習(現場での学習)の両方から学ぶこと		
	6	選択的の提示	一定のルール・規範を設けた上で、プレーヤーに適した提示を行うこと		
	7	模範の提示	プレーヤーの模範を示すことができるように、指導者の模範を示すこと		
	8	多様性の承認	多様なプレーヤーの個性や能力、自己意識を尊重し、承認すること		
	9	主体的行動機会の提供	自主的に行動しようとするプレーヤーの主体的行動や成長を促すこと		
自律性支援行動力	10	主体的判断の許容	コーチが「主体的判断を許容する」ことが、プレーヤーの主体的行動や成長を促すこと		
	11	解放行動の促進	プレーヤーは自分の考えや考えを押し付けず、思い通りに行動し、自主的に行動すること		
	12	プレーヤーの自己関与の促進	個人の内面だけでなく、プレーヤー自身の成長やチームの成長に責任を持って取り組むこと		
	13	有目的の模範の提示	プレーヤーの成長を促す行動や考えに、模範を示すこと		
自律性制行動力	14	制約的フィードバックの提示	プレーヤーの成長を促す行動や考えに、制約を示すこと		
	15	適度な個人制約の提示	プレーヤーの成長を促す行動や考えに、適度な個人制約を示すこと		
	16	肯定的な成長の促進	成長を促す行動や考えに、肯定的な成長を促すこと		
	17	自己関与の促進	プレーヤー自身が主体的に行動し、自己関与を促すこと		
対自己力	18	条件づけと報酬の提示	プレーヤーの成長を促す行動や考えに、条件づけと報酬を示すこと		
	19	先入観の把握	自分の先入観や、他人の先入観を把握すること		
	20	運動・指導経験の振り返り	自分の過去の経験や、他人の過去の経験を振り返ること		
	21	出来事への把握	自分の過去の出来事や、他人の過去の出来事を把握すること		
	22	役割認識	自分の役割や、他人の役割を認識すること		
	23	課題設定	自分の課題や、他人の課題を設定すること		
	24	明確な生成	自分の生成や、他人の生成を明確にすること		
25	評価	自分の評価や、他人の評価を評価すること			
26	試行	自分の試行や、他人の試行を試行すること			

Sports Coaching Competency Test(SCCOT)の普及について

本テストの開発は、以下の様に AP 事業申請時より普及を考慮して取り組んでいる。

本事業で開発する「スポーツ指導者の指導力等の客観的評価テスト」(理想的な指導者を基本としたプロフィール型テスト)は、2013年に発表された新しい時代にふさわしいコーチング及びコーチを確立するための提言(「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議(タスクフォース)報告書」平成25年7月)でも求められているものであり、平成26-27年度の「コーチング・イノベーション事業」(日本スポーツ振興センター)でも検討されてきたテストである。先の事業では、スポーツ指導者の資質や能力の評価指針等が示されたが、本学が目指すようなスポーツ指導力等を具体的に評価するテストの開発までには至っていない。

本事業の成果物である新たなテストは、広く日本のスポーツ指導者養成団体(日本スポーツ振興センターや日本スポーツ協会等)でも用いることができるばかりでなく、各大学における教養科目としての体育や小中高の体育を教える教員養成、様々なスポーツ指導者の養成や再研修の場で用いることによりスポーツ指導力の現状や変化を知ることができるため、新しい時代にふさわしいスポーツ振興や指導者養成に寄与することが期待できる。

右は SCCOT を受験した本学学生のコメントである。本テストが、本学や日本のスポーツ界が目指している「プレーヤー中(センタードアスリート)」を目指したコーチング行動や判断スキルを問えるものとなっていることがうかがえる。

回答した学生からのコメント(抜粋)

- 指導に関する指導力の適性について問われたと思う。勝ちにこだわる指導をするのか、スポーツの楽しさを教える指導をするのか考える問題が1番悩んだ。勝ちにこだわるのも大切だが、こだわりすぎると体罰などにつながる原因にもなる。そのバランスを考えて指導することがとても難しいように思う。
- 勝負がスポーツの真髄なのか、スポーツを楽しむことが大事なのかを迷った。また、多少の叱咤激励も必要なのではないかと考えるようになった。
- 選手が主体になって動くのかコーチが主体になって動くのか、結果を求めるのかプロセスを重視するのかを問われたと思う。悩んだのは、結果を求めるのかプロセスを重視するのかで、プロセスを重視したいところだが結果が全てと思うので悩んだ。
- プレーヤーの意見や考えている事を引き出し自分たちで考えさせ、良い方向へ導くように指導する事が自分はいいと思う。
- 競技成績が全てではなく、スポーツの楽しさや体を動かす楽しさを伝えたり感じたりすることが大切だと思った。

SCCOT受験者概要(リリース以降)

実施時期	人数		内訳
	学内	学外	
2019年1-2月	437	295	学内：1-4年生・修士・博士 学外：中高教員向けスポーツ指導者研修受講者25名、大阪体育大学スポーツ心理・カウンセリングコース、スポーツマネジメント学科計270名
2019年2月	13	25	学内：本学教員 学外：一般指導者1名、ハンドボール学会員24名（筑波大学体育専門学群研究生、国際武道大学体育学部体育学科、日本体育大学大学院コーチング学専攻等）
2019年6月	172	197	学内：1年生 学外：山梨学院大学 スポーツ科学部192名、筑波大学大学院、福岡大学スポーツ科学部、法政大学大学院人文科学研究科他計5名
2019年11月	189	225	学内：1年生・3年次編入生 学外：山梨学院大学スポーツ科学部スポーツ科学科225名
2019.11-2020.1	488	84	学内：2-4年生 学外：鹿児島県中体連（陸上指導者）18名、日本スポーツ協会計33名（日本大学スポーツ科学部、東京学芸大学他）、広島修道大学教員9名、高校指導教員陸上合宿受講者24名
2020.1-2020.2	13	170	学内：2-4年生 学外：大阪体育大学体育学部スポーツ教育学科、健康・スポーツマネジメント学科計114名、廿日市市教育委員会スポーツ指導者35名、ジュニア研修コーチ（JAAF）6名、広島城北中・高教員7名、本学OBOG8名
計	1312	996	
受験者延べ人数	2308		

鹿屋体育大学大学教育再生加速プログラムに係る
平成28年度第1回外部評価委員会 議事次第

日 時 平成29年2月27日(月) 14:30～16:00

場 所 筑波大学東京キャンパス文京校舎内320講義室
鹿屋体育大学演習室IV(大学院棟2階)
※2つの会場を遠隔講義システムで中継して実施

出席者 【外部評価委員】

- *岡 達生(公益財団法人日本体育協会スポーツ指導者育成部部长)
- *久保田 潤(独立行政法人日本スポーツ振興センター
スポーツ開発事業推進部研究員)

*伊藤 雅充(日本体育大学児童スポーツ教育学部准教授)

【鹿屋体育大学】

- ・金久 博昭(鹿屋体育大学理事・副学長)
- *金高 宏文(鹿屋体育大学教授 教育企画・評価室長)
- ・国重 徹(鹿屋体育大学教授 教育企画・評価室副室長)
- ・前阪 茂樹(鹿屋体育大学教授 教育企画・評価室員)
- ・和田 智仁(鹿屋体育大学准教授 教育企画・評価室員)
- ・奥谷 謙吾(鹿屋体育大学講師 教育企画・評価室員)
- ・有馬 正人(鹿屋体育大学教務課長 教育企画・評価室員)
- ・有馬 規雄(鹿屋体育大学経営戦略課副課長 教育企画・評価室員)
- ・吉原 大智(鹿屋体育大学学術図書情報課主任 教育企画・評価室員)

【スポーツ指導力評価テスト 委託業者】

- *松村 直樹(株式会社リアセック 代表取締役)
- *石川 純一(株式会社リアセック キャリア総合研究所主任研究員)

【陪席】

- *渡部ジョー(公益財団法人日本体育協会職員)
- *野村 浩史(鹿屋体育大学教務課副課長)
- *近藤 亮介(鹿屋体育大学特任助教)
- *濱中 良(鹿屋体育大学教務課特任専門員)
- ・岡田あゆみ(鹿屋体育大学教務課事務補佐員)

(注: *は筑波大学東京キャンパス会場への出席者を示す)

次 第 14:30～14:35 金久理事 挨拶
14:35～14:40 採択された大学教育再生加速プログラムの概要説明
(金高教授)
14:40～15:05 スポーツ指導力評価テストの概要説明 [(株)リアセック]
15:05～15:55 質疑応答・意見交換
16:00 閉会

鹿屋体育大学大学教育再生加速プログラムに係る
平成29年度第1回外部評価委員会 議事次第

日 時 平成30年3月13日(火) 13:00~15:00

場 所 筑波大学東京キャンパス文京校舎内577講義室
鹿屋体育大学演習室IV(大学院棟2階)
※2つの会場を遠隔講義システムで中継して実施

出席者 【外部評価委員】

- * 會田 宏 (筑波大学 体育系 教授)
- * 渡部 丞 (公益財団法人日本体育協会スポーツ指導者育成部育成課)
- * 久保田 潤 (独立行政法人日本スポーツ振興センター
スポーツ開発事業推進部研究員)

列席者 【鹿屋体育大学 教育企画・評価室】

- ・ 金久 博昭 (鹿屋体育大学理事・副学長)
- * 金高 宏文 (鹿屋体育大学教授 教育企画・評価室長)
- ・ 中垣内真樹 (鹿屋体育大学教授 教育企画・評価室員)
- ・ 和田 智仁 (鹿屋体育大学准教授 教育企画・評価室員)
- ・ 中本 浩揮 (鹿屋体育大学准教授 教育企画・評価室員)
- ・ 與谷 謙吾 (鹿屋体育大学講師 教育企画・評価室員)
- ・ 有馬 正人 (鹿屋体育大学事務局次長兼教務課長 教育企画・評価室員)
- ・ 藤田 康朗 (鹿屋体育大学経営戦略課副課長 教育企画・評価室員)
- ・ 吉原 大智 (鹿屋体育大学学術図書情報課主任 教育企画・評価室員)

【スポーツ指導力評価テスト 委託業者】

- * 松村 直樹 (株式会社リアセック 代表取締役)
- * 石川 純一 (株式会社リアセック キャリア総合研究所主任研究員)

【陪席】

- ・ 加治 裕文 (鹿屋体育大学教務課副課長)
- ・ 元明 勇二 (鹿屋体育大学教務課副課長)
- ・ 鈴木 拓朗 (鹿屋体育大学教務課教育支援係長)
- * 近藤 亮介 (鹿屋体育大学特任助教)
- ・ 濱中 良 (鹿屋体育大学教務課特任専門員)
- ・ 岡田あゆみ (鹿屋体育大学教務課事務補佐員)

(注: *は筑波大学東京キャンパス会場への出席者を示す)

次 第 13:00~13:05 金久理事 挨拶
13:05~13:25 平成29年度の大学教育再生加速プログラムの取組概要の説明等
13:25~13:55 質疑応答・意見交換
14:00~15:00 体育系大学における実践的指導力の可視化と教育改善
15:00 閉会

鹿屋体育大学大学教育再生加速プログラムに係る
平成30年度第1回外部評価委員会（スポーツ指導実習関連） 議事次第

日 時 平成30年7月10日（火） 13:30～15:30

場 所 鹿屋体育大学演習室Ⅲ（大学院棟2階）

出席者 【外部評価委員】

川南 匡人（株式会社東大阪スタジアム）
永江 恒志（NPO 法人かのや健康・スポーツクラブ 事務局長）
内倉 康孝（鹿屋市役所ふるさと PR 課（田崎武道館指導者））
幸福 恵吾（特定非営利活動法人 DREAM ウェルネス 代表）

列席者 【鹿屋体育大学 教育企画・評価室】

森 司朗（鹿屋体育大学理事・副学長）
金高 宏文（鹿屋体育大学教授 教育企画・評価室長
兼スポーツ指導実習小委員会副委員長）
中垣内真樹（鹿屋体育大学教授 教育企画・評価室副室長
兼スポーツ指導実習小委員会委員）
前阪 茂樹（鹿屋体育大学教授 教育企画・評価室員
兼スポーツ指導実習小委員会委員）
国重 徹（鹿屋体育大学教授 教育企画・評価室員）
中本 浩揮（鹿屋体育大学准教授 教育企画・評価室員）
和田 智仁（鹿屋体育大学准教授 教育企画・評価室員）
萩原 悟一（鹿屋体育大学講師 教育企画・評価室員）
有馬 正人（鹿屋体育大学事務局次長兼教務課長 教育企画・評価室員）
吉原 大智（鹿屋体育大学経営戦略課企画評価係長 教育企画・評価室員）

【スポーツ指導実習小委員会】

前田 博子（鹿屋体育大学教授 スポーツ指導実習小委員会委員長）
濱田 幸二（鹿屋体育大学教授 スポーツ指導実習小委員会委員）
竹中健太郎（鹿屋体育大学准教授 スポーツ指導実習小委員会委員）
北村 尚浩（鹿屋体育大学准教授 スポーツ指導実習小委員会委員）
塩川 勝行（鹿屋体育大学講師 スポーツ指導実習小委員会委員）
坂口 俊哉（鹿屋体育大学講師 スポーツ指導実習小委員会委員）

【陪席】

加治 裕文（鹿屋体育大学教務課副課長）
元明 勇二（鹿屋体育大学教務課副課長）
鈴木 拓朗（鹿屋体育大学教務課教育支援係長）
近藤 亮介（鹿屋体育大学特任助教）
濱中 良（鹿屋体育大学教務課特任研究員）
岡田あゆみ（鹿屋体育大学教務課事務補佐員）

次 第	13:30～13:35	森理事 挨拶
	13:35～13:50	採択された大学教育再生加速プログラムの概要説明（金高室長）
	13:50～14:25	本学におけるスポーツ指導実習の取組状況の説明 （各実習担当者（3～5 分間ずつ計 7 カ所分））
	14:30～15:25	質疑応答及び意見交換 ・ 求められる資質及び能力 ・ 学内教育に期待すること 等
	15:30	閉会

鹿屋体育大学大学教育再生加速プログラムに係る
平成30年度第2回外部評価委員会議事次第

日時 平成31年3月5日(火) 9:30~12:00
場所 鹿屋体育大学 大会議室(東京サテライト等とのTV会議も担保する)
目的 「鹿屋体育大学における学修成果の可視化と卒業時における質保証の取組の強化」
の取り組みの評価

出席者 【外部評価委員】

●スポーツ指導実習関連

川南 匡人(株式会社東大阪スタジアム)

永江 恒志(NPO 法人かのや健康・スポーツクラブ 事務局長)

内倉 康孝(鹿屋市役所ふるさとPR課(田崎武道館指導者))

幸福 恵吾(特定非営利活動法人DREAM ウェルネス 代表)

●大学関連

會田 宏(筑波大学 体育系 教授)

伊藤 雅充(日本体育大学 体育学部 教授)

土屋 裕睦(大阪体育大学 体育学部 教授)

渡部 丞(公益財団法人日本体育協会スポーツ指導者育成部部长)

久保田 潤(独立行政法人日本スポーツ振興センター

スポーツ開発事業推進部研究員)

列席者 【鹿屋体育大学 教育企画・評価室】

【スポーツ指導実習小委員会】

【陪席】教育企画・評価室スタッフ

次第 9:30~9:35 森理事 挨拶
9:35~9:40 外部評価の進め方
9:40~10:30 外部評価委員から質疑
10:30~11:30 各委員からの評価(5分×9人)
11:30~12:00 質疑応答及び意見交換
12:00 閉会

(評価の事項)

- ・事前に評価すべき事項に関する資料を約1ヶ月前に送付し、評価及びコメントを頂く
 - ・卒業時の質保証に向けた取組(学修成果の可視化等)についての評価について
 - ・教育改善に向けた取り組みについて

鹿屋体育大学大学教育再生加速プログラムに係る
令和元年度第1回外部評価委員会議事次第

日 時 令和2年2月18日(火) 15:30~17:30
場 所 東京サテライト及び鹿屋体育大学 大会議室(東京サテライト等とのTV会議)
目 的 「鹿屋体育大学における学修成果の可視化と卒業時における質保証の取組の強化」
の4年間の取り組みの総合評価と今後の課題

出席者 【外部評価委員】大学関連のみ
會田 宏(筑波大学 体育系 教授)
土屋 裕睦(大阪体育大学 体育学部 学長補佐 教授)
久保田 潤(独立行政法人日本スポーツ振興センター
スポーツ開発事業推進部研究員)

列席者 【鹿屋体育大学 教育企画・評価室】
【陪席】教育企画・評価室スタッフ

次 第	15:30~15:35	森理事 挨拶
	15:35~15:40	外部評価の進め方
	15:40~16:10	外部評価委員から質疑
	16:20~16:50	各委員からの評価(5分×5人)
	16:50~17:30	質疑応答及び意見交換
	17:30	閉会

(評価の事項)

- ・事前に評価すべき事項に関する資料を送付し、評価及びコメントを頂く
- ・卒業時の質保証に向けた取組(学修成果の可視化等)についての評価について
- ・教育改善に向けた取組について
- ・今後の課題について

2019年度AP事業(大学教育再生加速プログラム;卒業時における質保証の取り組みの強化)
外部評価委員による評価結果の概要

※ 該当する評価観点に○を付けて下さい
※ 点検項目の空欄は、任意に適宜観点を設定頂いて評価して下さい。
※ 赤字は、各項目群の総合評価をお願い致します。

【学修成果等の可視化について】

点検項目	高いレベルで達成されている	適切に達成されている	達成されている	達成されていない	備考・状況
Q:科目成績(GPA)の可視化の達成性	○				
Q:汎用的能力(PROG)の可視化の達成性	○				
Q:スポーツ指導者基礎力(SCCOT)の可視化の達成性	○				
Q:スポーツ実技力の可視化の達成性			○		
Q:スポーツ実技指導力の可視化の達成性			○		
Q:スポーツ事業運営力の可視化の達成性			○		
Q:授業時間外学修の可視化の達成性(授業時間外学修時間の把握)		○			
Q:学生の学修の主体的取組等の可視化の達成性		○			
Q:課外活動における活動の可視化の達成性		○			
Q:卒業時における質保証に向けた、学修成果の可視化の取組の達成性		○			

【学修及び教育改善の取組について】

点検項目	高いレベルで達成されている	適切に達成されている	達成されている	達成されていない	備考・状況
Q:学修成果等の可視化を元に、学生が主体的に学修改善を行えているか?	○				
Q:学修成果等の可視化を元に、大学が授業科目レベルで教育改善を行えているか?	○				
Q:学修成果等の可視化を元に、大学が大学(学位プログラム)レベルで教育改善を行えているか?		○			
Q:卒業時における質保証に向けた、学修及び教育改善の取組の達成性	○				

【全体的な取組の達成性について】

点検項目	高いレベルで達成されている	適切に達成されている	達成されている	達成されていない	評価コメント等
Q:平成28年度の計画の達成性		○			
Q:平成29年度の計画の達成性		○			
Q:平成30年度の計画の達成性		○			
Q:平成31年度(令和元年度)の計画の達成性		○			
Q:構想・計画の全体的・総合的な達成性		○			
Q:卒業時における質保証の達成性		○			
Q:卒業時における質保証の取組の強化の達成性	○				


【総評】

本取組では、鹿屋体育大学の教育ミッション「スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける実践的かつ創造的で市民性、国際性を備えたリーダーを育てる」の実現するために、「卒業時における質保証の取組の強化」が全学的に行われた。
4年間に亘る教育改革の取組を詳細に検討した結果、ディプロマ・ポリシー(DP)を担保する「多様なスポーツリーダーとしての自覚と実践的なスポーツ指導力の養成」と「段階的かつ継続的なライフ・キャリアデザイン力と社会人基礎力(汎用的能力)の養成」の状況を、学修行動や学修成果を可視化することを通して確認し、継続的に教育改善が行える教学システムを確立した点において大きな成果が得られたと評価できる。
本取組では、具体的な成果として、鹿屋体育大学や我が国におけるスポーツ・健康に関する人材育成の状況を踏まえ、客観的評価が容易ではない能力の数量化・可視化に挑戦し、一つのソリューションとして各種テストを開発している。特に、科目成績(GPA)や汎用的能力(PROG)、スポーツ指導者基礎力(SCCOT)の可視化は非常に高いレベルで達成されており、体育・スポーツ分野における大学教育の質保証への活用が期待できる。また、本取組を通して学生のリテラシー領域、コンピテンシー領域の評価得点が向上していることから、学修成果等の可視化を元に、学生が主体的に学修改善を行えていること、大学が授業科目レベルで教育改善を行えていることが実証されていることも高く評価できる。
今後は、スポーツ実技力・実施指導力・事業運営力の可視化の方法について検討するとともに、大学としての教育改善の状況について、教職員に対するヒアリング調査やアンケート調査等を通して評価・検討することで、我が国の体育・スポーツ系大学・学部のモデルとなるような、より高い教育の質保証が達成されることが期待される。

授業科目へのアクティブ・ラーニング（AL）の導入率

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
アンケート回収率	88.3%	82.5%	100.0%	100.0%
Stage1（1点）以上の割合	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%
ALの導入率	88.3%	81.3%	100.0%	100.0%

アクティブ・ラーニングの到達度評価シートver1.3



Stage1	Stage2	Stage3	Stage4
質問の投げかけ・受け付け・それに応じた説明をある程度は行っている。	質問の投げかけ・受け付けをし・それに応じた説明を十分に行っている。	グループで、課題を解決するための学習・調査・考察等を行ったり、事前に与えたテーマについて議論を行い、その成果物を作成させている。発表も行わせている。	課題を解かせて提出させ、その解説等を行っている。また、基本的事項の説明を行った上で、鍵となる概念について学生同士で教え合いを行わせたり、確認させたりしている。プレゼンテーションでは、その場で与えたテーマについてグループで議論させ、発表させている。

令和元年度FD講演会 アクティブラーニングを促す授業の 実践と評価 — 大人教授業における方法を中心に —

講師

愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室 講師

竹 中 喜 一 先生

日時：令和2年1月27日（月）16時10分～17時40分

場所：事務局・大会議室

対象：本学教員及び大学院生

講義概要

大学教育において「何を教えたか」より「何を学んだか」が重視され、学生のアクティブラーニングを促す教育が求められるようになりました。アクティブラーニングといえども、少人数クラスでのグループワークが思い浮かびますが、大人数の授業であっても、さまざまな方法により学生のアクティブラーニングを促すことができます。

また、アクティブラーニング型授業において学生の学習成果を評価するには、グループでの成果に対する個人の貢献度がわからないなど、さまざまな課題が生じます。そこで今回は、こうしたアクティブラーニングの評価に関する課題を解決し、大人数授業においてもアクティブラーニングを促せるようになるための実践的な知識を身につけることを目的とした講義とワークを行います。

講師略歴

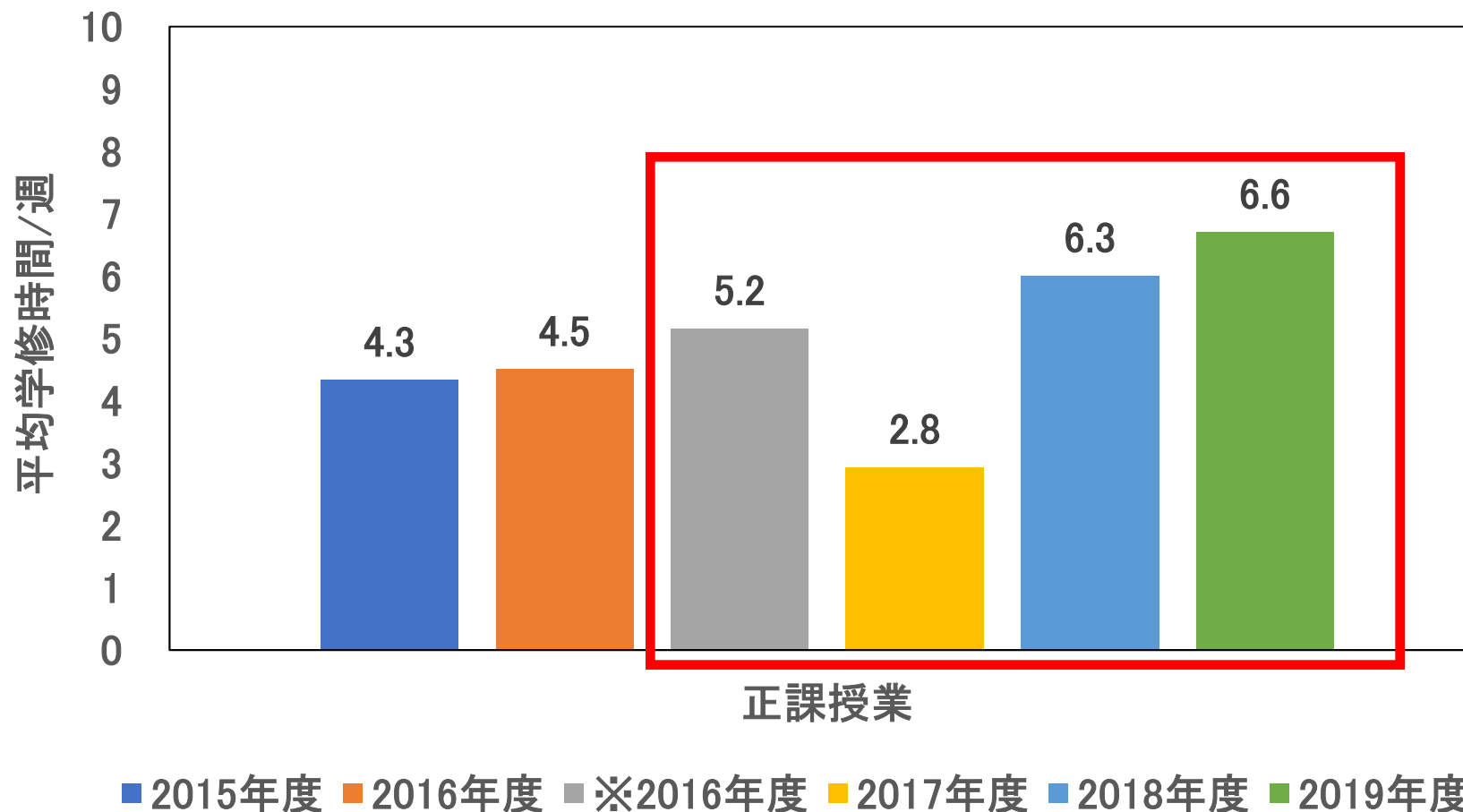
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室講師。大阪大学人間科学部卒業後、民間企業の勤務を経て、2008年学校法人関西大学に専任事務職員として入職。

入職以来、FD・SD・教学IRなど教育・学習支援関連業務を担当。業務と並行して、名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程前期課程修了後、大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士（人間科学）。愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室特任助教を経て、2019年4月から現職。専門は、高等教育論・教育工学。主な研究テーマは、大学教職員の能力育成。著書に「大学の組織と運営」、「大学のFD Q&A」、「アクティブラーニング型授業としての反転授業〔実践編〕」（ともに分担執筆）等がある。



授業科目名	英語 I (基礎①)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (コミュニケーション科目)	
担当教員名	吉重 美紀			補助担当者名	TA1名	
単位数	2 単位	履修年次	1 年次	受け入れ人数	25名程度	
授業の概要	指導者として海外においても活躍できるように、英語の基礎力は不可欠である。本授業では、英語を実際に運用する際に必要な基本的文法知識の習得に焦点を絞って指導する。これにより、学生が将来どのような場面においても使える基礎的英語力が身につくことが期待される。学生には授業前に自宅で課題をノートに行なって来てもらう。					
授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法			
	D Pで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理(専門的な知識・教養)	授業期間		定期試験	割合%
			授業	テスト		
	■認知的領域	英語の基本的文法事項について理解し、それを応用できるようになる。	○	○	○	30
	■情意的領域	毎回の課題に主体的に取り組む。異なる国々の文化や習慣に関心を持つ。	○	○		30
■技能的領域	英語で話し、聞き、書き、読めるよう基本的4技能を身につける。また英語の発音に慣れる。	○	○	○	40	
成績評価の基準	授業で扱う課の問題をノートにして来て、それを授業中に毎回チェックしポイントを獲得。毎回の小テスト、課題、定期試験(中間、期末)の得点を合計し60点以上を合格。なお、4月受験の英語プレイズメントテストの得点も評価に加味される(10%)。					
テキスト、教材参考書	テキスト：『English Missions Starter ミッション型大学英語の総合演習：入門編』(Robert Hickling, 白倉 美里 著, 金星堂, 2019, 1800円+税) 補助教材：『「英語基礎」ワークブック』(吉重美紀 編著, 鹿屋体育大学国際交流センター発行, 2013) 参考書：『アスリートたちの英語トレーニング術』(岡田圭子・野村隆宏著, 岩波ジュニア新書) 『<意味順>英作文のすすめ』(田地野彰著, 岩波ジュニア新書)					
履修条件・関連科目	4月受験の英語プレイズメントテストの結果でこのクラスに指定された学生。上級生で受講希望の学生は、事前に相談に来るように。	備考(教員メッセージ含む)	辞書必携。専用ノート1冊を準備下さい。			
オフィス・アワー	木曜日：昼休み、午後4時～5時 図書館2階吉重教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	吉重 美紀	事前アンケート、コースおよび課題の説明、Pre-Unit	1課 p.16～17 予習する (1時間)			
2	〃	Unit 1 Welcome to Vancouver 他動詞	2課 p.21～22 予習する (1時間)			
3	〃	Unit 2 Ryo Loves San Francisco 一般動詞の現在形	4課 p.31～32 予習する (1時間)			
4	〃	Unit 4 L.A. Style 進行形	5課 p.35～36 予習する (1時間)			
5	〃	Unit 5 The Canadian Rockies 時と場所を表す前置詞	6課 p.37～38 予習する (1時間)			
6	〃	Unit 6 The Grand Canyon 可算/不可算名詞	7課 p.45～46 予習する (1時間)			
7	〃	Unit 7 T.O.? Toronto, Ontario 一般動詞の過去形	U.1～U.7の復習,配布プリント課題 (1.5時間)			
8	〃	前半の総復習、中間試験(U.1～U.7)	8課 p.51～52 予習する (1時間)			
9	〃	Unit 8 Big Texas 疑問詞	9課 p.56～57 予習する (1時間)			
10	〃	Unit 9 Ottawa? The Capital 接続詞	10課 p.61～62 予習する (1時間)			
11	〃	Unit 10 Funky New Orleans 動名詞/不定詞	11課 p.66～67 予習する (1時間)			
12	〃	Unit 11 Charming Quebec City 未来形	12課 p.71～72 予習する (1時間)			
13	〃	Unit 12 Florida Sunshine 現在完了形	14課 p.81～82 予習する (1時間)			
14	〃	Unit 14 N.Y.C.? The Big Apple 助動詞, 学期末試験の説明	15課 p.86～87 予習する (1時間)			
15	〃	Unit 15 Niagara Falls 受動態	学期末試験に備え総復習する (2.5時間)			
16	〃	学期末試験(筆記+リスニング, 中間試験含む)				

2019年度 授業外学習時間調査の結果(20200609集計)



※計算の簡便化のため、各カテゴリの中間値の時間を用いている。

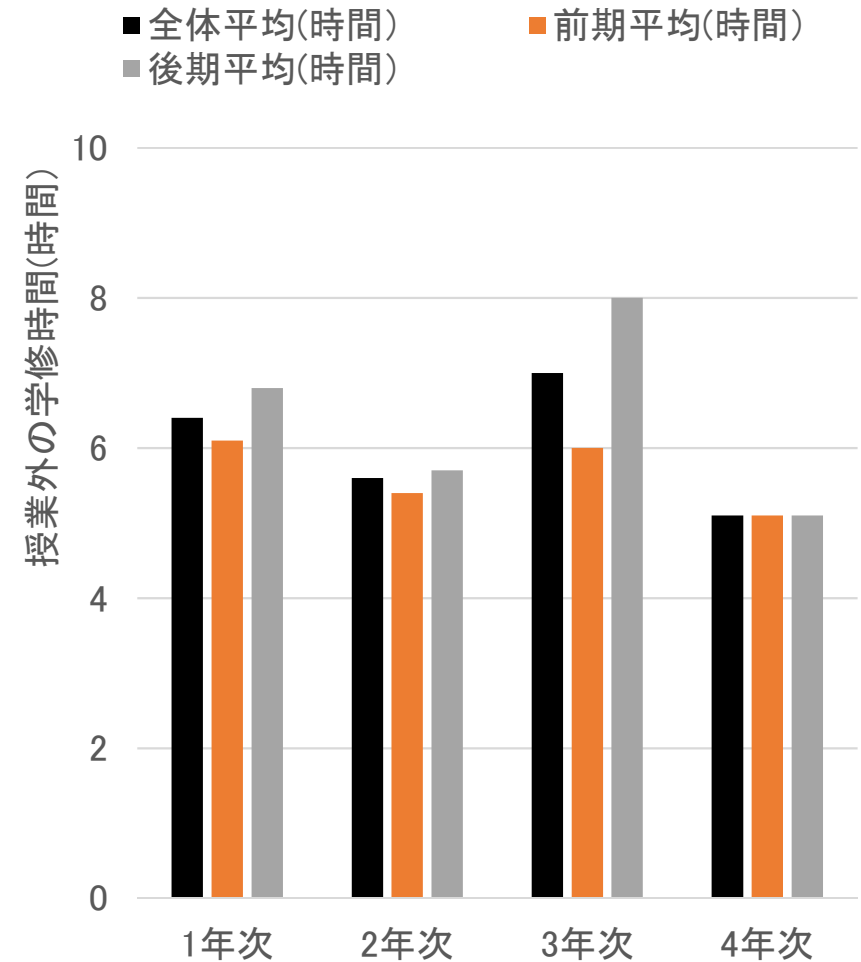
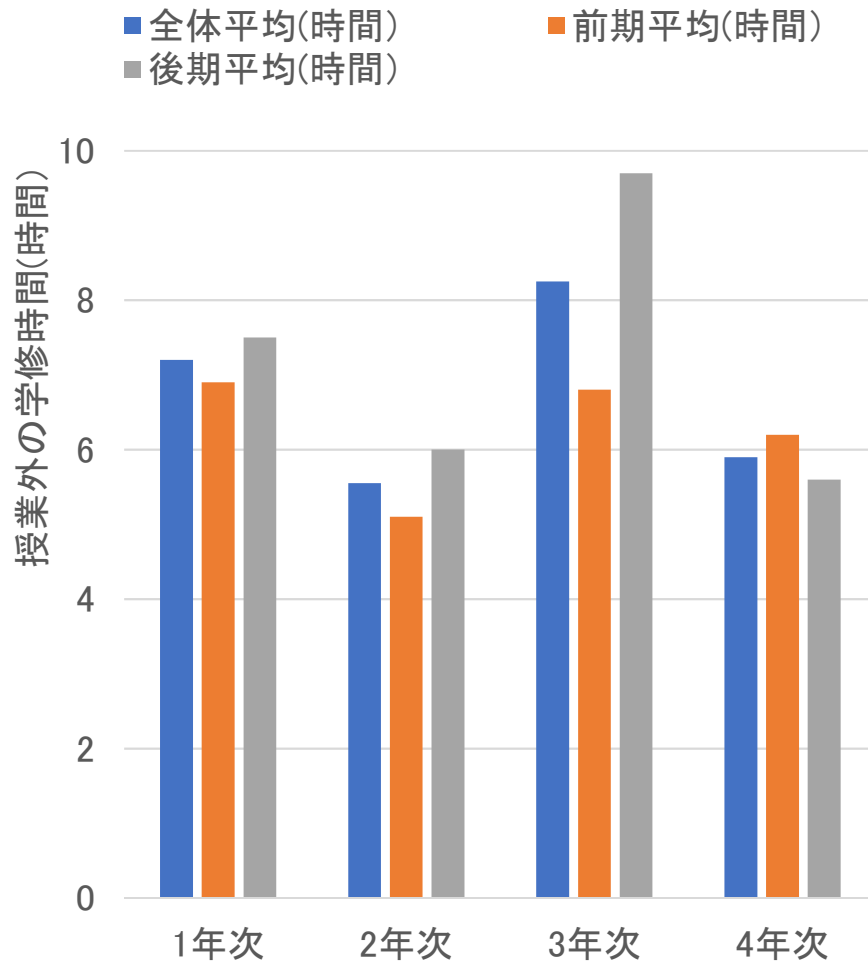
なお、前後が2倍ずつ増えているため、「30h以上」には「45時間」を用いている。

参考資料: 国立教育政策研究所 (http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_digest_h29/gaiyou.pdf)

2019年度 授業外学習時間調査の結果(20200609集計)

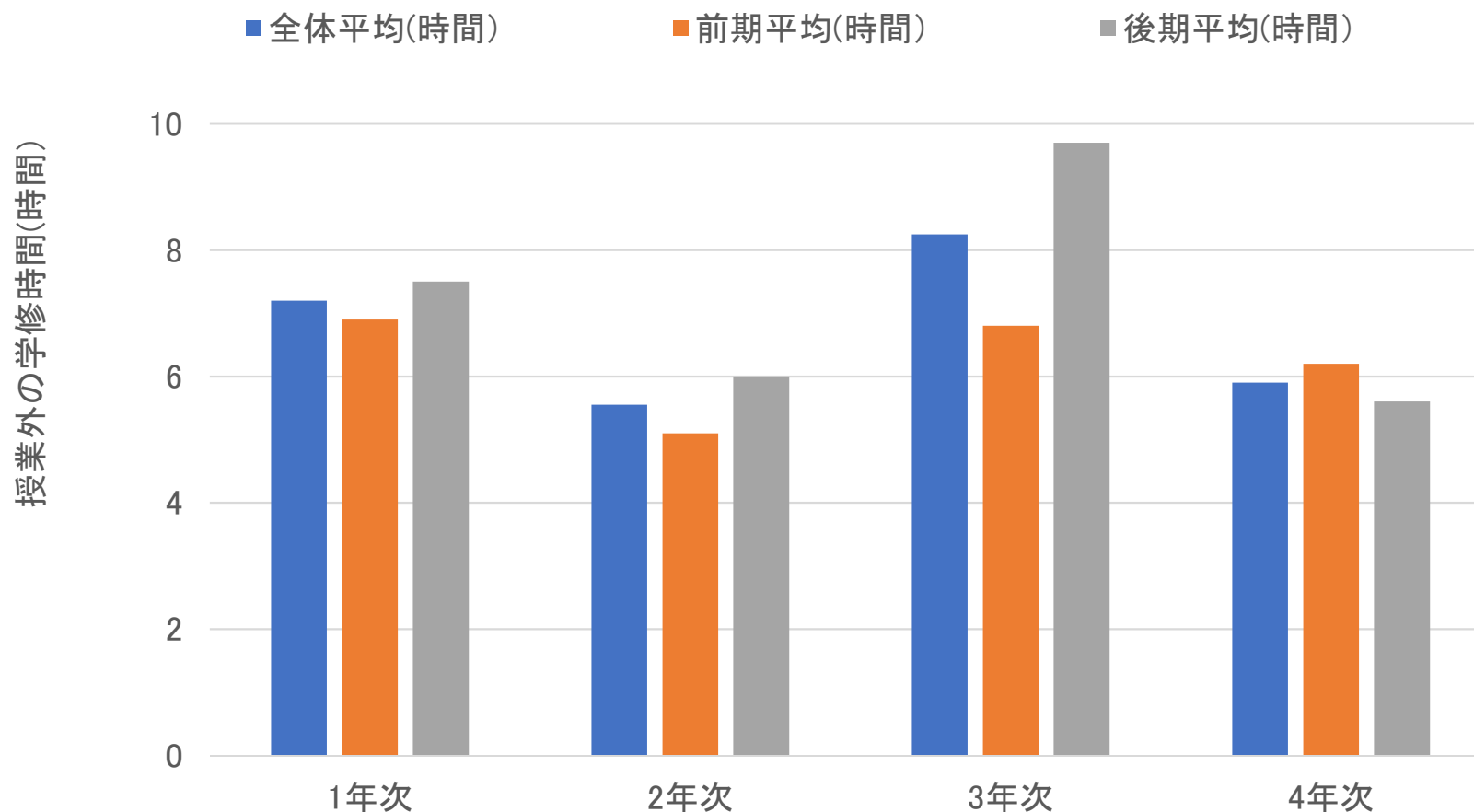
2019年度

2018年度



2年生を除いた各学年で1時間ほどの学修時間が増加している

2019年度 授業外学習時間調査の結果(20200609集計)

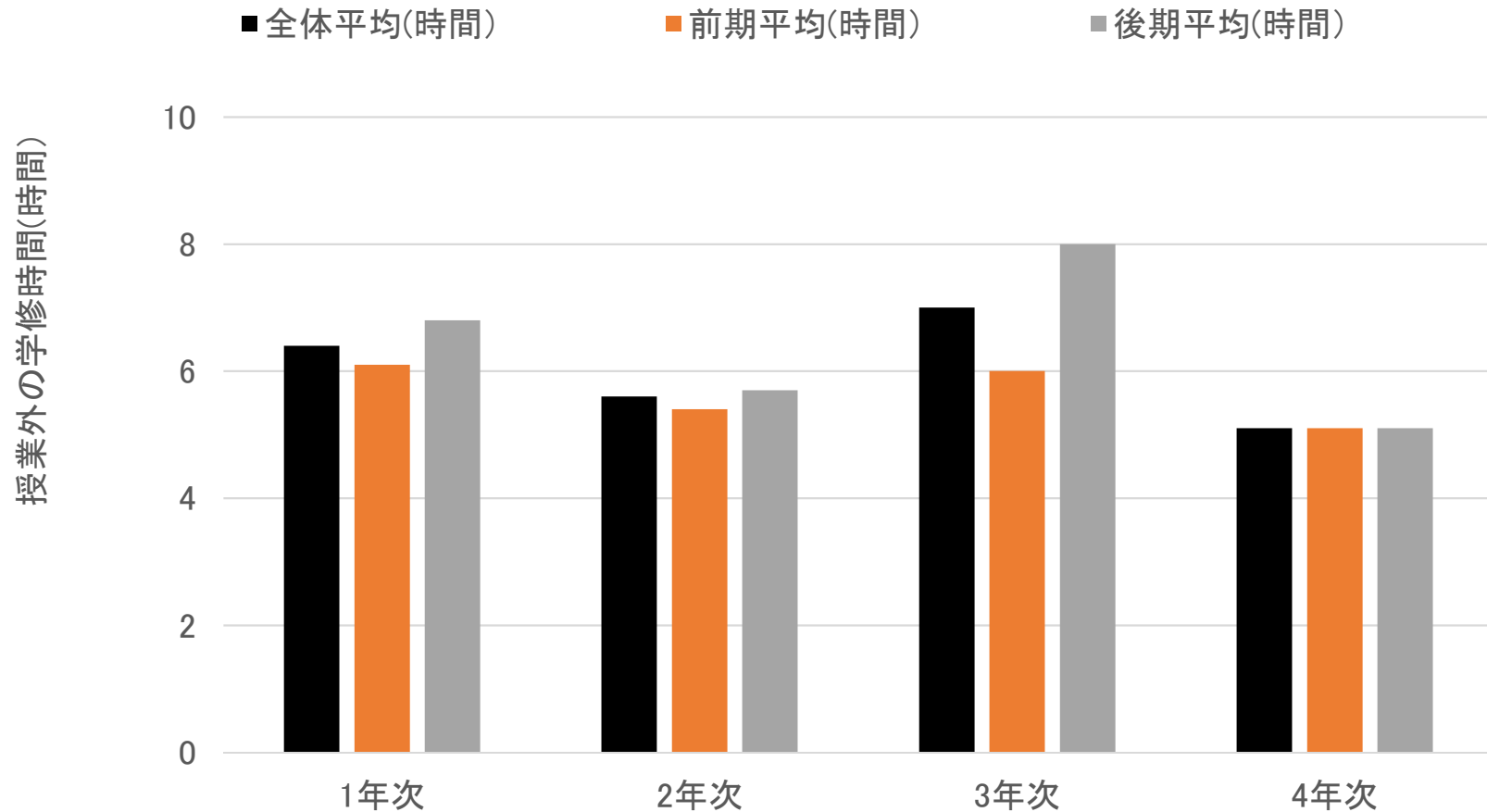


※計算の簡便化のため、各カテゴリの中間値の時間を用いている。

なお、前後が2倍ずつ増えているため、「30h以上」には「45時間」を用いている。

参考資料: 国立教育政策研究所 (http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_digest_h29/gaiyou.pdf)

2018年度 授業外学習時間調査の結果(201906集計)



※計算の簡便化のため、各カテゴリの中間値の時間を用いている。
なお、前後が2倍ずつ増えているため、「30h以上」には「45時間」を用いている。

参考資料: 国立教育政策研究所 (http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_digest_h29/gaiyou.pdf)

関連実技科目(サッカー)

他の授業科目も同様に作成

			運動種目の発生から現在に至るまでに 関するルール・記録等に関する人文・社会的な知識の獲得 (スポーツの文化的享受力)	運動技能の習得・改善 (示 範・デモンストレーション力)	運動技能等を診断・評価する 能力 (診断・評価力)	運動指導に必要な教材間の 関係についての把握 (処 方・教材化力)	指導時における安全で、効 果的な実技実習が行える運 営・管理能力の習得 (クライ シスマネジメント・リスクマ ネジメント力)
<知識>							
サッカーの競技特性			●				
サッカーの歴史			●				
サッカーのルール及び審判法			●				
<個人技術>							
ボールに触れる	ボールフィーリング	ボールタッチ ボールリフティング		●	●	●	●
ボールを蹴る	キックの種類	インサイドキック		●	●	●	●
		インステップキック		●	●	●	●
		インフロントキック		●	●	●	●
		アウトサイドキック		●	●	●	●
		アウトフロントキック		●	●	●	●
		パス		●	●	●	●
	クロス		●	●	●	●	
	シュート		●	●	●	●	
ボールを止める	コントロール	ウェッジコントロール クッションコントロール		●	●	●	●
ボールを打つ	ヘディング	スタンディングヘッド		●	●	●	●
		ジャンプヘッド		●	●	●	●
ボールを運ぶ	ドリブル	ラン・ウィズ・ザ・ボール		●	●	●	●
		フェイント		●	●	●	●
		ターン		●	●	●	●
		スクリーン		●	●	●	●
<個人・グループ戦術>							
攻撃	パス&サポート	ボールポゼッション (距離・角度・タイミング・ 方向)		●	●	●	●
		突破	ドリブル	●	●	●	●
		スルーパス	●	●	●	●	
		壁パス	●	●	●	●	
		オーバーラップラン	●	●	●	●	
		クロスオーバー	●	●	●	●	
守備	マークの原則		●	●	●	●	
	アプローチ		●	●	●	●	
	チャレンジ		●	●	●	●	
	カバー		●	●	●	●	
<チーム戦術>							
攻撃・守備	フォーメーション		●	●	●	●	
	リスタート		●	●	●	●	

鹿屋体育大学学則

			[平成16年 4月 1日]
			規則 第 2 号]
改正	平成17年10月 6日	平成25年 6月14日	平成31年 3月22日
	規則 第 9 号	規則 第 13 号	規則 第 7 号
	平成18年 3月 2日	平成26年 3月20日	令和 元年 7月29日
	規則 第 2 号	規則 第 2 号	規則 第 29 号
	平成19年 3月22日	平成27年 3月27日	
	規則 第 5 号	規則 第 24 号	
	平成20年 3月19日	平成27年 4月16日	
	規則 第 2 号	規則 第 38 号	
	平成23年 2月 7日	平成28年 3月25日	
	規則 第 3 号	規則 第 8 号	
	平成24年 1月24日	平成30年 3月 1日	
	規則 第 1 号	規則 第 12 号	
	平成24年 6月 7日	平成31年 3月11日	
	規則 第 16 号	規則 第 5 号	

鹿屋体育大学学則（昭和58年12月2日学則第1号）の全部を改正する。

目次

第1章 総則（第1条－第12条）

第1節 目的及び自己評価等（第1条－第4条）

第2節 教育研究組織（第5条－第8条）

第3節 職員組織（第9条）

第4節 学年、学期及び休業日等（第10条－第12条）

第2章 学部通則（第13条－第36条）

第1節 目的（第13条）

第2節 修業年限及び在学年限（第14条・第15条）

第3節 入学（第16条－第21条）

第4節 教育課程及び履修方法等（第22条－第32条）

第5節 卒業及び学士（第33条－第36条）

第3章 大学院通則（第37条－第54条）

第1節 目的（第37条）

第2節 標準修業年限及び在学年限（第38条・第39条）

第3節 入学（第40条－第44条）

第4節 教育課程及び履修方法等（第45条－第50条）

第5節 修了要件及び学位（第51条－第54条）

第4章 休学、転学、留学及び退学（第55条－第61条）

第1節 休学（第55条－第57条）

第2節 転学及び留学（第58条・第59条）

第3節 退学（第60条・第61条）

第5章 賞罰（第62条・第63条）

第6章 学生宿舍（第64条）

第31条 大学の学生以外の者として本学において一定の単位を修得した者が本学に入学する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、文部科学大臣の定めるところにより、修得した単位数その他の事項を勘案して修学年数に通算することができる。ただし、その期間は、2年を超えない範囲内とする。

(成績の評価)

第32条 授業科目の試験の成績は、S、A、B、C及びDの5種の評語をもって表し、S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。ただし、必要と思われる場合は、合格及び不合格の評語を用いることができる。

第5節 卒業及び学士

(卒業)

第33条 本学学部にて4年(第21条第1項の規定により入学した者については、同条第2項により定められた在学すべき年数)以上在学し、別に定めるところにより、合計124単位以上を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

(早期卒業)

第34条 前条の規定にかかわらず、本学学部にて3年以上在学し、別に定めるところにより、合計124単位以上を優秀な成績で修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 前条第2項の規定は、前項の場合にこれを準用する。

(学士の学位)

第35条 本学学部を卒業した者には、学士(体育学)の学位を授与する。

2 学士(体育学)の学位授与に関し必要な事項は、別に定める。

(教員の免許状授与の所要資格の取得)

第36条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本学学部において、当該所要資格を取得できる教員免許状の種類は次のとおりとする。

- 一 高等学校教諭一種免許状(保健体育)
- 二 中学校教諭一種免許状(保健体育)

第3章 大学院通則

第1節 目的

(大学院体育学研究科の目的)

第37条 本学大学院は、スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する学術の理論及び応用と実践が一体となった教育研究を展開し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、スポーツ・武道文化の進展及び国民の健康の増進に寄与する。

(修士課程体育学専攻の目的)

第37条の2 修士課程体育学専攻は、学部での教育研究の成果を基盤として、スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における専門的知識・技術の教授研究能力及び高度の専門性を要する

第108回 鹿屋体育大学教授会議事要旨

日 時 令和2年3月5日(木) 15時30分～16時45分

場 所 大学院棟3階大講義室

出席者：松下、森(司)、石田、濱田(初)、金高、濱田(幸)、前阪、高橋、木葉、萬久、中村(夏)、松村、三浦、塩川、榮樂、坂中、小森、黒川、青木、下川、村上、永原、添嶋、赤嶺、山本、安田、前田(明)、荻田、田巻、中垣内、イスラム、吉田、藤田、沼尾、高井、興谷、長島、村田(宗)、竹下、前田(博)、吉重、山田、森(克)、国重、北村、エルメス、和田、浜田、中本、中村(勇)、坂口、隅野、梶、栗山、日下の各委員

欠席者：北川、瓜田、竹中、村田(憲)、藤井、萩原、幾留の各委員

議 事 1. 議事要旨確認

(1) 第107回議事要旨案確認

資料1の議事要旨案について、原案どおり確定した。

2. 審議事項

(1) 令和2年度一般入試における合否判定について

森入試委員会委員長から資料2-1から2-5について説明があり、審議の結果、原案どおりスポーツ総合課程72名、武道課程33名の計105名を合格者とすることが了承された。

なお、合格発表は3月6日(金)午前10時より、合格者受験番号の掲示及びホームページ掲載により行うため、それまで合否結果について口外しないよう要請があった。

(2) 令和2年度体育学部卒業判定について

森教務委員会委員長から資料3-1から3-4について説明があり、審議の結果、原案どおりスポーツ総合課程136名、武道課程49名について卒業が了承された。

なお、上記185名のうち、授業料未納者6名については条件付きとなることが確認された。

(3) 令和2年度4月学事日程について

有馬次長兼教務課長から資料4について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

(4) 令和元年度学生表彰の選考について

有馬次長兼教務課長及び宮園学生課長から資料5-1から5-3について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

(5) 学生の除籍について

有馬次長兼教務課長から資料6-1及び6-2について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

3. 報告事項

(1) 学生の異動について

有馬次長兼教務課長から、資料7に基づき報告があった。

(2) 令和元年度学位記授与式及び令和2年度入学式における総代等について

有馬次長兼教務課長から、資料8に基づき報告があった。

4. その他

(1) 新型コロナウイルスに関する対応について

松下学長から本学の新型コロナウイルス対策について説明があり、必要な対応について種々意見交換を行った。

(2) テレビ会議システムの利用について

和田スポーツ情報センター長から、本学教職員が利用可能なテレビ会議システムについて紹介があった。

以上

平成30年度第23回教務委員会
(H30.11.29開催)

資料4

2018年11月27日

教務委員会委員長 様

教育企画・評価室

成績評価における評語及び評価基準の変更の提案（案）について

現在、教育の質保証の一環として、各授業科目の成績評価（GP：4～0ポイント）を用いたDPで目指す12の資質・能力の可視化を進めている。この可視化の実効性を高めるためには、成績評価の基準をより明確にする必要がある。

しかし、下表のように現行の成績評価では、80点～100点までの評語や評価基準はグレードポイントが2段階となっているにも関わらず、一つの評価基準「到達目標を達成し、優秀な成績を修めている」となっている。これでは2つのグレードポイントの評価基準が明確とはいえない。そのため、グレードポイントに沿った形で、適切な可視化を行うには、評語とそれに伴う評価基準を変更する必要がある。

そこで、成績評価における評語と評価基準の変更を提案する。

また、本件の基準変更に係る適用対象者及び時期について、教務委員会に諮るものである。

【現行】

評語	評点	グレードポイント	評価基準	適用
A	90点～100点	4.0ポイント	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている。	合格として単位を認定する。
	80点～89点	3.0ポイント		
B	70点～79点	2.0ポイント	到達目標を達成している。	
C	60点～69点	1.0ポイント	到達目標を最低限達成している。	
D	59点以下	0ポイント	到達目標を達成していない。	不合格とし、単位を認定しない。
K	履修放棄	0ポイント	原則として3分の2以上の出席がない場合又は定期試験を受験しなかった場合、履修放棄「K」とする。	年間に履修登録した単位数に含まれGPA評価の算出に影響する

【修正案】

評語	評点	グレード ポイント	評価基準	適用
<u>S</u>	90点～100点	4.0ポイント	到達目標を達成し、 <u>特に</u> 優秀な成績を修めている。	合格として単位を認定する
A	80点～89点	3.0ポイント	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている。	
B	70点～79点	2.0ポイント	到達目標を達成している。	
C	60点～69点	1.0ポイント	到達目標を最低限達成している。	
D	59点以下	0ポイント	到達目標を達成していない。	不合格とし、単位を認定しない。
K	履修放棄	0ポイント	原則として3分の2以上の出席がない場合又は定期試験を受験しなかった場合、履修放棄「K」とする。	年間に履修登録した単位数に含まれGPA評価の算出に影響する

【適用対象者・時期】

	案1	案2	案3
対象者	平成31年度以降の在學生	平成31年度以降の在學生	平成31年度以降の入學生
適用する履修科目	平成31年度以降に履修した授業科目	平成31年度以前に遡って、履修した全授業科目	平成31年度以降に履修した授業科目

※ 案3の場合、平成30年度以前の入學生は対象者とせず、90点以上の評点に対して従来どおり「A」評価を付与する。

※ なお、案1～3を適用するかは、教務委員会において検討・審議する。

抜粋

平成30年度 第23回 教務委員会議事要旨

1. 日時 平成30年11月29日(木) 16:10～17:43
2. 場所 事務局大会議室
3. 出席者 森(司)委員長、金高副委員長、萬久、赤嶺、中垣内、森(克)、北村、有馬の各委員
4. 欠席者 高橋、荻田、前阪の各委員
5. 事務局 元明教務課副課長、鈴木教育支援係長、松田教育支援係員
6. 議題

(1) 第20回～第22回議事要旨(案)の確認について(資料1)

委員長から資料に基づき説明があった後、原案のとおり了承された。

(2) 審議事項

① 平成31年度開設授業科目及び授業担当教員等について(資料2)

委員長から資料に基づき説明があった後、諮られ、以下の3点については修正等を行うこととなり、それ以外については原案のとおり了承された。

- ・ 「陸上・体操・水泳①②」の体操部分並びに「競技スポーツ論・実習Ⅰ～Ⅳー体操」を担当する非常勤講師について、来年度の同科目担当の常勤教員の体操競技部遠征への帯同状況を本委員会において確認し、今年度と同等の回数及び当該科目との重複状況であることが確認されることを条件に、任用することが了承された。

- ・ 「夏季山岳レジャースポーツ実習」及び「冬季山岳レジャースポーツ実習」について、人事マネジメント方針による採用予定の常勤教員の枠(資料2においては「(*)」で表示)を、各1つ削除することとなった。なお、両科目及び「国語・文章表現法」の同枠については、新規採用教員の赴任後に当該教員の意思確認を行った上で、担当の可否を判断することとなった。

- ・ 「保健体育科教育法Ⅲ」については、非常勤講師枠を1つ削除することとなった。

また、教職科目に係る変更箇所は緑の塗り潰しで表示する資料修正を行うこととなった。

さらに、「陸上競技①②」、「体操(体づくり運動を含む)①②」、「水泳①②」、及び「器械運動①②」は来年度から開設しないため、授業担当教員を見え消しにて削除する資料修正を行うこととなった。

② 平成31年度授業計画(シラバス)の作成について(資料3)

金高副委員長から資料に基づき、特に授業時間外学修時間を増やす取り組みとして、シラバスに当該授業科目を履修する学生が授業回ごとに最低限行うべき学修時間数を目安として示すことについて説明があり、委員長から諮られ、原案のとおり了承された。

また、資料3については、表題に「(案)」を追記し、また、委員会承認日に係る日付を削除する資料修正を行うこととなった。

③ 成績評価における評語及び評価基準の変更の提案(案)について(資料4)

金高副委員長から資料に基づき説明があった後、委員長から諮られ、**評語に「S」を追加することが原案のとおり了承され、また、適用対象者・時期については案2のとおりとすることが了承された。**

④ 平成31年度以降の教職課程に係る授業科目について(資料5)

委員長から資料に基づき説明があった後、諮られ、原案のとおり了承された。

⑤ 卒業研究に係る手続きの変更について(資料6)

委員長から資料に基づき説明があった後、諮られ、原案のとおり了承された。

GPA通知書

学生番号		所属	学部 体育学部	入学年月日：
氏名		入学年度		卒業
		指導教員		

累計GPA	累計修得単位数	累計履修登録単位数

※左記単位数は、点数により評価されない科目
(合否科目、認定科目)は含まれない。

履修年度	修得 単位数	履修登録 単位数	年度GPA	順位		備考
				学年別	課程別	
平成28年度	47	47	3.32	175人中 12位	125人中 11位	
平成29年度	46	46	3.41	173人中 10位	123人中 9位	
平成30年度	34	34	3.59	194人中 19位	144人中 17位	
平成31年度	12	12	3.58	197人中 62位	143人中 50位	

●GPA評価とは

1) 評価方法

授業科目ごとの成績評価(点数評価)に対し、次のようなグレードポイントを付与し、この単位当たりの平均(GPA: グレード・ポイント・アベレージ)を出す。

90点以上は	4.0ポイント
80点以上90点未満は	3.0ポイント
70点以上80点未満は	2.0ポイント
60点以上70点未満は	1.0ポイント
60点未満(履修放棄を含む)は	0ポイント

2) 計算方法

$$GPA = \frac{(\text{授業科目Aのポイント} \times \text{単位数}) + (\text{授業科目Bのポイント} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{履修登録した総単位数}}$$

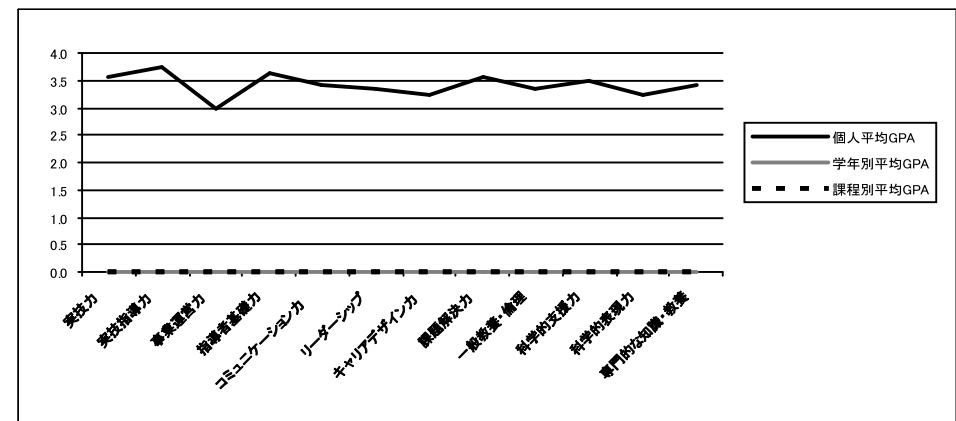
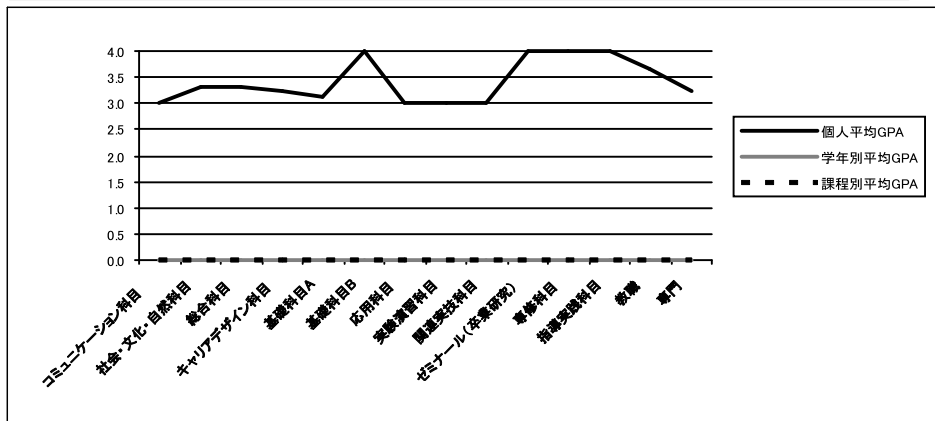
※GPA評価には、点数により評価されない科目(合否科目、認定科目)は含まれない。

科目群ごと・DPで目指す学修成果ごとのGPA

学生番号		所属	学部 体育学部	入学年月日：
氏名		入学年度		卒業
		指導教員		

区 分		累積GPA		
		個人平均	学年別平均	課程別平均
一般科目	コミュニケーション科目	3.00	0.00	0.00
	社会・文化・自然科目	3.30	0.00	0.00
	総合科目	3.33	0.00	0.00
キャリア形成科目	キャリアデザイン科目	3.25	0.00	0.00
専門科目	基礎科目A	3.13	0.00	0.00
	基礎科目B	4.00	0.00	0.00
	応用科目	3.00	0.00	0.00
	実験演習科目	3.00	0.00	0.00
	関連実技科目	3.00	0.00	0.00
	ゼミナール（卒業研究）	4.00	0.00	0.00
	専攻科目	専修科目	4.00	0.00
	指導実践科目	4.00	0.00	0.00
教職科目	教職	3.67	0.00	0.00
	専門	3.23	0.00	0.00
全 体		3.44		

DPで目指す資質・能力	累積GPA		
	個人平均	学年別平均	課程別平均
実技力	3.57	0.00	0.00
実技指導力	3.73	0.00	0.00
事業運営力	3.00	0.00	0.00
指導者基礎力	3.62	0.00	0.00
コミュニケーション力	3.43	0.00	0.00
リーダーシップ	3.33	0.00	0.00
キャリアデザイン力	3.25	0.00	0.00
課題解決力	3.57	0.00	0.00
一般教養・倫理	3.33	0.00	0.00
科学的支援力	3.50	0.00	0.00
科学的表現力	3.23	0.00	0.00
専門的な知識・教養	3.41	0.00	0.00



H28年度 履修/修得単位状況一覧 及び CAP制導入案

2017/9/4 教育企画・評価室

CAP制とは

単位の過剰登録を防ぐため、
1年間あるいは1学期間に履修登録できる単位の上限を設ける制度

文科省用語集より

「大学は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるよう努めなければならない」

(大学設置基準第27条の2第1項)

CAP制導入の目的

我が国の大学制度は単位制度を基本としているが、大学設置基準上1単位は、教員が教室等で授業を行う時間に加え、学生が予習や復習など教室外において学修する時間の合計で、標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成されている。また、これを基礎とし、授業期間は1学年間におよそ年30週、1学年間で約30単位を修得することが標準とされ、したがって大学の卒業要件は4年間にわたって124単位を修得することを基本として制度設計されている。

しかしながら、学期末の試験結果のみで単位認定が行われるなどの理由から、学生が過剰な単位登録をして、3年で安易に124近くの単位を修得し、結果として45時間相当に満たない学修量で単位が認定されているという現象が生じている。

文科省用語集より

CAP制導入の目的

年間履修単位

	1年	2年	3年	4年
文科省推奨	36単位	36単位	36単位	36単位
現状(例)	50単位	50単位	24単位	10単位
CAP制による改善(例)	46単位	46単位	30単位	10単位

週間学修時間(履修科目に対する)

	1年	2年	3年	4年
文科省推奨	9時間	9時間	9時間	9時間
現状(例)	12.5時間	12.5時間	6時間	2.5時間
CAP制による改善(例)	11.5時間	11.5時間	7.5時間	2.5時間

※1単位45時間の学修時間

※15週授業で1週あたり3時間の学修時間として計算(土曜日も含む週6日間)

1年間に単位を多く履修しすぎていることで、
1単位あたりにかかる学修時間が確保できない状況であり、不足する心配がある。

CAP制導入大学一覧

	大学名	半期	年間	備考
1	京都大学	30単位		学部によって異なる
2	名古屋市立大学	24単位		
3	大阪府立大学		50単位	1年前期は24単位
4	北海道教育大学	28単位		
5	産業技術短期大学	28単位		
6	茨城大学	27-30単位		学部によって異なる
7	徳島大学		48単位	上限なく履修登録できる科目あり
8	小樽商科大学		40単位	教職共通科目は制限なく履修可能
9	東京工芸大学	28単位	49単位	教職科目・認定科目はCAP制に含めない
10	早稲田大学	21-26単位	40-44単位	学部によって異なる
11	北海道大学	21-23単位		学部によって異なる

※ 各大学のCAP制では、半期21-30単位、年間40-60単位。

※ 教職科目は含めない大学もあり。

※ 1年前期は別で制限をかけている大学もあり。

各大学CAP制は導入しているが制限単位数は各々である。
 本学の制限は、現在**50単位**。編入生は**60単位**。

本学 H28年度 履修/修得単位状況一覧

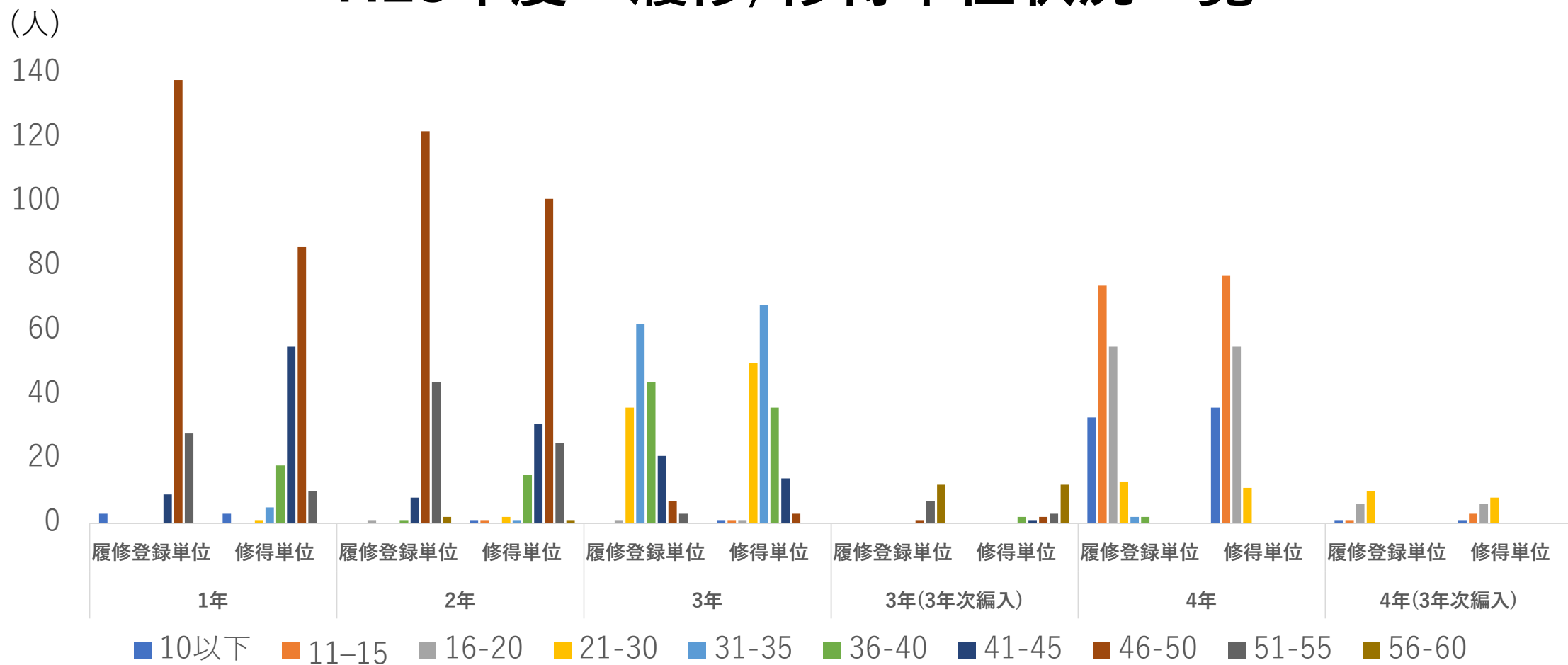
単位数	1年		2年		3年		3年(3年次編入)		4年		4年(3年次編入)	
	履修登録(人)	修得単位(人)	履修登録(人)	修得単位(人)	履修登録(人)	修得単位(人)	履修登録(人)	修得単位(人)	履修登録(人)	修得単位(人)	履修登録(人)	修得単位(人)
10以下	3	3	0	1	0	1	0	0	33	36	1	1
11-15	0	0	0	1	0	1	0	0	74	77	1	3
16-20	0	0	1	0	1	1	0	0	55	55	6	6
21-30	0	1	0	2	36	50	0	0	13	11	10	8
31-35	0	5	0	1	62	68	0	0	2	0	0	0
36-40	0	18	1	15	44	36	0	2	2	0	0	0
41-45	9	55	8	31	21	14	0	1	0	0	0	0
46-50	138	86	122	101	7	3	1	2	0	0	0	0
51-55	28	10	44	25	3	0	7	3	0	0	0	0
56-60	0	0	2	1	0	0	12	12	0	0	0	0
合計	178	178	178	178	174	174	20	20	179	179	18	18
最大	53	53	59	59	54	50	60	59	39	29	27	26
最小	2	2	19	5	20	5	50	38	4	2	6	6
平均	47.7	44.3	49.3	46.4	34.9	32.8	56.6	53.7	14.4	13.7	20.5	19.7

2017/7/19 教育企画・評価室

※集中講義、実習科目は履修制限の対象とはならない。

51単位以上履修している学生は1年次で28名、2年次で46名。
2年次で増えるのは成績優秀者の影響と考えられる。(履修上限の制限がなくなる)

H28年度 履修/修得単位状況一覧



履修単位では、1年次、2年次は46単位以上、3年次では21-40単位、4年次では20単位以下の学生の割合がほとんどである。

現在の履修モデル

スポーツ総合課程 アスリートコーチング系 履修モデル

科目区分		1年次			2年次			3年次			4年次			合計
		必須	普通	合計	必須	普通	合計	必須	普通	合計	必須	普通	合計	
一般科目	コミュニケーション科目	4	2	6	4	0	4	0	14	14	0	0	0	24
	社会・文化・自然	0	14	14	0	2	2	0	2	2	0	2	2	20
	総合	0	2	2	0	7	7	0	3	3	0	0	0	12
キャリア形成科目	キャリアデザイン	2	2	4	0	4	4	0	6or7	7	0	0	0	15
	基礎A	2	12	14	2	8	10	0	2	2	0	0	0	26
	基礎B	0	2	2	5	5	10	0	4	4	0	0	0	16
専門科目	応用	0	0	0	0	12	12	0	31	31	0	2	2	45
	実験演習	2	0	2	0	4	4	0	0	0	0	0	0	6
	関連実技	0	12	12	0	15	15	0	14	14	0	5	5	46
	ゼミナール	0	0	0	0	4	4	4	0	4	10	0	10	18
専攻科目	専修	6	0	6	6	0	6	6	0	6	0	6	6	24
	指導実践	1	0	1	0	0	0	1or2	4	6	0	4	4	11
教職科目	教職	2	0	2	9	0	9	11	0	11	0	0	0	22
	専門	0	0	0	4	0	4	4	0	4	6or7	0	7	15
合計		19	46	65	30	61	91	27	81	108	17	19	36	300

※必須は教職科目必須を含む

※救急法実習は2年次加算

※各国文化研究、交流リベラルアーツは含めていない

※ボランティア活動は4年次に含む

※SCO-OP実習は3年次に含む

※1単位or2単位の科目は2単位で計算している

1年次は65単位、2年次は91単位の中から約50単位、3年次は108単位の中から約30単位修得する現状。特に3年次に応用科目が多く開講されているが3年次にはあまり履修しない現状。

CAP制導入案

	現在		改修案	
	一般生	編入生	一般生	編入生
履修上限(年間)	50単位	60単位	46単位	58単位
履修制限非対象科目	集中講義科目及び ボランティア活動、救急法実習		集中講義科目及び ボランティア活動、救急法実習	
履修制限解除の条件	年間41単位以上を修得し、 その90%以上が「A」であること		年間41単位以上を修得し、 その平均GPAが「3.5」であること	

一般生は年間50単位→46単位、編入生は年間60単位→58単位に変更。
履修制限解除の条件は、41単位以上修得し、平均GPA3.5に変更(早期卒業要件と一致)。
履修単位を制限することで、3年次の応用科目の履修増加を期待。

履修登録上限変更(45単位→50単位)の背景

変更前(45単位) ~H17年度

教職関連科目は19単位まで、教養科目及び専門科目の区分なしの単位として認められる。



変更後(50単位) H18年度～

教職関連科目は10単位まで、一般科目及びキャリア形成科目の区分なしの単位として認められる。

変更の背景

教職関連科目の9単位分が区分なしの単位として認められなくなったので、その分履修できる上限をあげた。
学生が、教員免許を取得しやすい環境を作ることも目的の一つであった。

変更の効果

過去の議事録等に記載はなし。

履修登録上限変更(45単位→50単位)前後の履修状況の変化

変更前(45単位)

H17年度	1年	2年	3年	4年	合計
コミュニケーション科目	653	72	163	149	1037
社会・文化・自然科目	585	178	78	195	1036
総合科目	336	264	179	80	859
キャリアデザイン科目	352	2	65	14	433
基礎科目A	711	638	198	63	1610
基礎科目B	279	690	335	44	1348
応用科目	319	229	437	110	1095
実験演習科目	55	1	1	1	58
関連実技科目	647	436	401	310	1794
専修科目	411	257	377	137	1182
指導実践科目	4	263	495	98	860
教職科目(教職)	192	786	836	161	1975
教職科目(専門)	1	182	307	155	645
合計	4545	3998	3872	1517	13932

変更後(50単位)

H28年度	1年	2年	3年	4年	合計
コミュニケーション科目	522	359	118	30	1029
社会・文化・自然科目	986	274	76	50	1386
総合科目	177	231	122	27	557
キャリアデザイン科目	353	157	315	7	832
基礎科目A	1223	601	185	111	2120
基礎科目B	59	959	234	35	1287
応用科目	0	570	479	134	1183
実験演習科目	175	29	32	0	236
関連実技科目	539	407	428	196	1570
専修科目	177	209	228	97	711
指導実践科目	177	8	193	0	378
教職科目(教職)	172	672	1029	37	1910
教職科目(専門)	0	335	178	265	778
合計	4560	4811	3617	989	13977

※200以上増加している科目を赤色、減少している科目を青色としている。

1・3年次の履修登録数は変わらないが、変更後に、4年次の履修が減り、2年次の履修が増えている。
→再度、46単位(案)に履修上限を下げることで、3・4年次に履修が分散する可能性がある。

【CAP制】（p20） 単位の過剰登録を防ぐため、1年間あるいは1学期間に履修登録できる単位の上限を設ける制度。我が国の大学制度は単位制度を基本としているが、大学設置基準上1単位は、教員が教室等で授業を行う時間に加え、学生が予習や復習など教室外において学修する時間の合計で、標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成されている。また、これを基礎とし、授業期間は1学年間におよそ年30週、1学年間で約30単位を修得することが標準とされ、したがって大学の卒業要件は4年間にわたって124単位を修得することを基本として制度設計されている。

しかしながら、学期末の試験結果のみで単位認定が行われるなどの理由から、学生が過剰な単位登録をして、3年で安易に124近くの単位を修得し、結果として45時間相当に満たない学修量で単位が認定されているという現象が生じたことから、平成11年に、大学設置基準第27条の2第1項として、「大学は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるよう努めなければならない」と規定された。

(3)平成 30 年度の取組内容・成果

①DP で目指す 12 の資質・能力と授業科目との関連性の強化と学修支援及び教育改善

授業科目区分毎及び DP で目指す 12 の資質・能力毎の GPA を可視化したことで、学生は授業科目と学修成果との関係を意識することができるようになった。さらに、構築した Web 学修ポートフォリオ NIFSpass を活用して、自己の学修の振り返りや改善を学期毎に継続して実施するようにした(下図参照)。

NIFSpass : 学修ポートフォリオシステムの構築

GPA

PROG

リテラシー
PROG

SCCOT

<p>* Q1. データを見て、あなたの強みや長所は何だと思いますか。</p> <p>* Q2. 今後、どんな資質や能力を伸ばしたり、身に着けたいと思いますか。</p> <p>* Q3. 具体的に、どんな手段や方法で改善を目指しますか。</p>	<p>わたしの長所は、実技力とコミュニケーション力です。 (記入日時:2018-10-11 16:32:25 [サンプル学生1])</p> <p>今後、実技指導力を伸ばしたいと思う。将来、教員を目指しているので、自分の専門競技以外の競技でも指導できる力を身につけたい。 (記入日時:2018-10-11 16:32:25 [サンプル学生1])</p> <p>スポーツ指導実習や教育実習の他にも、違う部活の友達に指導方法や練習方法を聞いてそれをまとめたいと思う。色々な競技をしている友達がいるのは体育大学の特徴だと思うので、大学のうちに多くの知識や指導方法やコツを学ぶ。 (記入日時:2018-10-11 16:32:25 [サンプル学生1])</p>
--	---

編集

さらに、授業科目毎に実施される「授業振り返りアンケート」から、学生自身が履修した授業科目から DP で目指す 12 の資質・能力の「何を修得したのか」も振り返るようにし、関係性の意識づけを強化した (p23 参照)。

一方で、授業担当者に対して学生が感じている DP で目指す 12 の資質・能力の修得度をフィードバックし、授業改善の一助とした(下図は、科目区分の修得度感の平均値を示している。赤丸は各授業科目区分で主に身につけることが期待されている資質・能力を示している。)



外伝 - 鹿屋体育大学マークの秘密 -

宇宙を創造させる**紺碧の空**・地球の中から湧き出る**桜島**のエネルギーと
日の丸・若者の健全な**肉体と精神の躍動**をイメージしたデザインである。



鹿屋体育大学での 4年間が充実する秘密の書



目次

- 一 高校と大学の違いの巻
- 二 やりたいことの見つけ方の巻
- 三 鹿屋体育大学の目標の巻
- 四 身につけるべき12の力の巻
- 五 ^{ピーディーシーエー}PDCAサイクルの巻
- 六 ^{ニフス}NIFSpass ^{パス}(学修の振り返り)の巻
- 七 ^{ジーピーエー}GPAの巻
- 八 ^{スコット}SCCOTの巻
- 九 ^{プログ}PROGの巻
- 十 真・実践的指導力の巻
- 十一 部活動で育む力の巻
- 十二 キャリアデザインの巻
- 十三 大学外での学びの巻
- 十四 4年間のデザインの巻
- 十五 学修スペースの巻
- 十六 挑戦の巻

登場人物



かのや仙人

鹿屋体育大学のことをなんでも教えてくれる仙人。もみあげと髭がつながっているチャーミングな仙人。



勘八くん
(かんぱちくん)

鹿屋体育大学に入学した気になることは腕を組んで首をかしげて質問するチャーミングな大学生。



かのや仙人

ほっほっほ。
全ての話を始める前にまずは鹿屋体育大学の略称になっておる「NIFS」の意味から説明しておこうかの。
自分の所属する大学を知ることが大切なことなのじゃ。



^{ニフス}NIFSの意味

National Institute Fitness and Sports の略称
健康づくり(体力)やスポーツや武道を学ぶ国立の大学のことじゃ。

N: National → 国立

I: Institute of → 大学(研究所)

F: Fitness and → 健康づくり(体力)

S: Sports → スポーツ(武道を含む)

一：高校と大学の違いの巻



かのや仙人

ほっほっほ。
君が今年入学した
勘八（かんぱち）くんじゃな。
わしは、かのや仙人じゃ。
早速じゃが、勘八くんは、
高校と大学の違いは
知っているかの？



勘八くん
(かんぱちくん)

はじめまして。
高校と大学の違い？
大学は自分で好きな授業を
受けるって聞きました。
夏休みが長いつて
聞いたこともあるけど、
あとは何が違うんだろう。

高校

大学

学び



与えられた問題の
解決方法を身につける

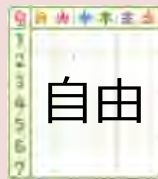


自ら課題を発見し、
解決していく

時間割



決められた授業を受ける
スケジュールが決まっている



受けたい授業を受ける
自分でスケジュールを決める

休み



春：約2週間
夏：約1ヶ月



春：約2ヶ月
夏：約2ヶ月

充実ポイント



大学は「自分で決めて行動することができる」
すなわち・・・なんでもできる！しかし・・・
自ら行動しなければ、何もできないのじゃ！

二：やりたいことの見つけ方の巻



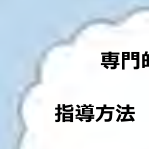
なんだか大学生活が不安に
なってきました・・・
自分で決めるって一体どうしたら
いいんですか？



ほっほっほ。安心するのじゃ。
みんな同じ気持ちじゃ。
自分が大学4年間で
何を身につけ、どう成長したいかを
考えてみると良いぞ。



プレゼンうまい
リーダーシップ
マネジメントもできる



専門的な知識
指導方法 栄養学
トレーニング方法

どんな成長？

何を身につける？



かのや仙人。。
僕・・・
特にやりたいことがないです。
部活は頑張りたいけど
他にやりたいことはなくて・・・



ほっほっほ。
やりたいことがない場合は
**まずは目の前のことを全力でやって
みる**ことじゃ。
何がやりたいかは、やってみないと
わからないのじゃ。

やってみるのよー！



色々なことを
全力でやってみる！



やりたいことが見つかる。



やりたいことがない人



ぐーたらしよーぜ！



何もしない。。



気づいたら卒業。。

三：鹿屋体育大学の目標の巻

さっき目の前のことを全力でやってみるって言うだけで、鹿屋体育大学では何を学ぶことができるの？
スポーツの勉強？

ほっほっほ。
体育大学ではあるがスポーツに限らず大学4年間のうちに**12個の力**を身につけることができるのじゃ。

【鹿屋体育大学の教育目標】

充実ポイント

スポーツ・武道 及び 体育・健康づくり における
実践的かつ創造的で 市民性、国際性 を備えた **リーダー** を育てる

卒業までに身につける 12 の 資質・能力

専門的な知識・教養	科学的支援力	科学的表現力	実技力	実技指導力	事業運営力
指導者基礎力	課題解決力	コミュニケーション力	リーダーシップ	一般教養・倫理	キャリアデザイン力

大学での様々な学修

講義	実験	関連実技	介護実習	ゼミナール	就職活動
自主学習	部活動	スポーツ指導実習	ボランティア	教育実習	

スポーツだけでなく、いろいろな力を身につけられるんだね！よくみると。
科学的支援力や**科学的表現力**って一体どんな能力なの？

ほっほっほ。
難しい言葉もあるのうそれではわかりやすく具体的に説明してやるう**右のページ**を見るのじゃ。

四：身につけるべき12の力の巻

専門的な知識・教養



スポーツ等の指導者やリーダーに求められる基礎的・応用的な知識や幅広い教養を身につけている。

指導者基礎力



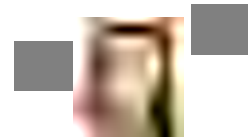
プレーヤーの人間性・関係性・有能さ・自信を育てる指導ができる。

科学的支援力



アスリートへの科学的サポート、生涯スポーツにおける健康科学的サポートができる。

課題解決力



PDCA サイクルを円滑に回し、課題解決に向けた取組を実施できる

科学的表現力



論理的にレポート・論文等を作成できるとともに、他者に伝えるように表現できる。

コミュニケーション力



異なる意見や感性を持つ人々と交わり、耳を傾け、柔軟に自らの意見を変容させることができる。外国の人と英語等を用いてコミュニケーションをとることができる。

実技力



スポーツや武道等の運動習得・改善過程を理解しながら目指すパフォーマンスを達成することができる（示範できる、身体表現できる）

リーダーシップ



集団を統率しつつ、人々の意欲を高め、成長させながら、その課題を遂行・先導することができる。

実技指導力



スポーツ等の指導を行うことが出来る示範力、評価力、処方力、コーチング力、安全管理力を身につけている。

一般教養・倫理



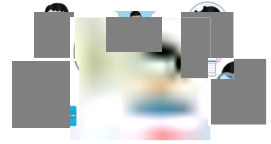
社会で必要とされる基礎的な知識を持ち物事の良し悪しを判断し、人として守るべき秩序を守ることができる。

事業運営力



スポーツクラブ等の事業運営やプログラム開発を行うことができる。

キャリアデザイン力



「働くこと」の意義を自分なりに考え、自ら主体的に判断して、キャリアを形成していくことができる。

五：PDCAサイクルの巻



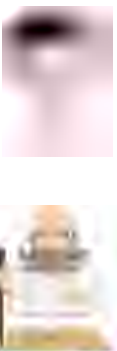
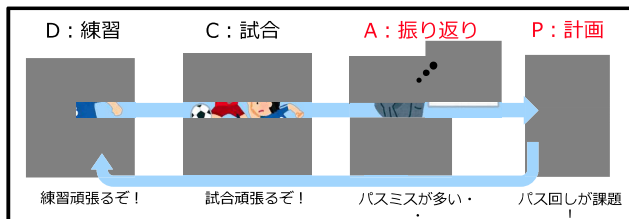
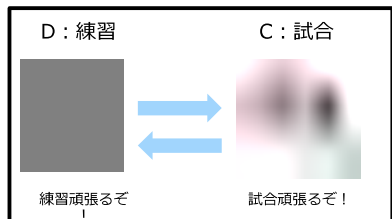
12個の力を身につけたら良いのか！
よーし！競技も勉強も頑張るぞ！
行動力には自信があるんだ！
全部の力を身につけるぞ！



ほっほっほ。
やる気満々のようじゃの
ただやる気だけでは空回りするぞい。
PDCAサイクルは知っているかの？
下の図を見てみるのじゃ。

とにかく練習あるのみ！ふんふんタイプ！

練習も振り返りもバッチリ！スマートタイプ！



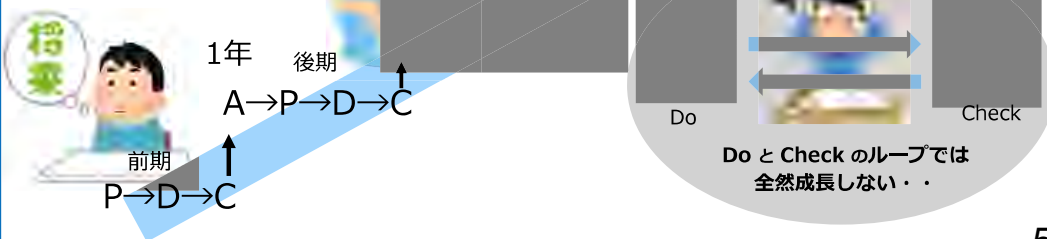
これは部活動のサイクル？
僕はどっちかというと
「ふんふんタイプ」かな。
誰よりも練習は頑張ってたからね。

ほっほっほ。
D (練習) と C (試合) だけでなく
P (計画) D (練習) C (試合) A (振り返り) の
「スマートタイプ」の習慣を身につけることが
大切なのじゃ。
体育大生は、スポーツを通してPDCAの達人に
なれるのじゃ。

目標



- A (Act) : 振り返り、改善案の検討
- P (Plan) : 目標、計画づくり
- D (Do) : 正課活動 (授業)、課外活動
- C (Check) : 試験、試合



六：NIFSpass (学修の振り返り) の巻



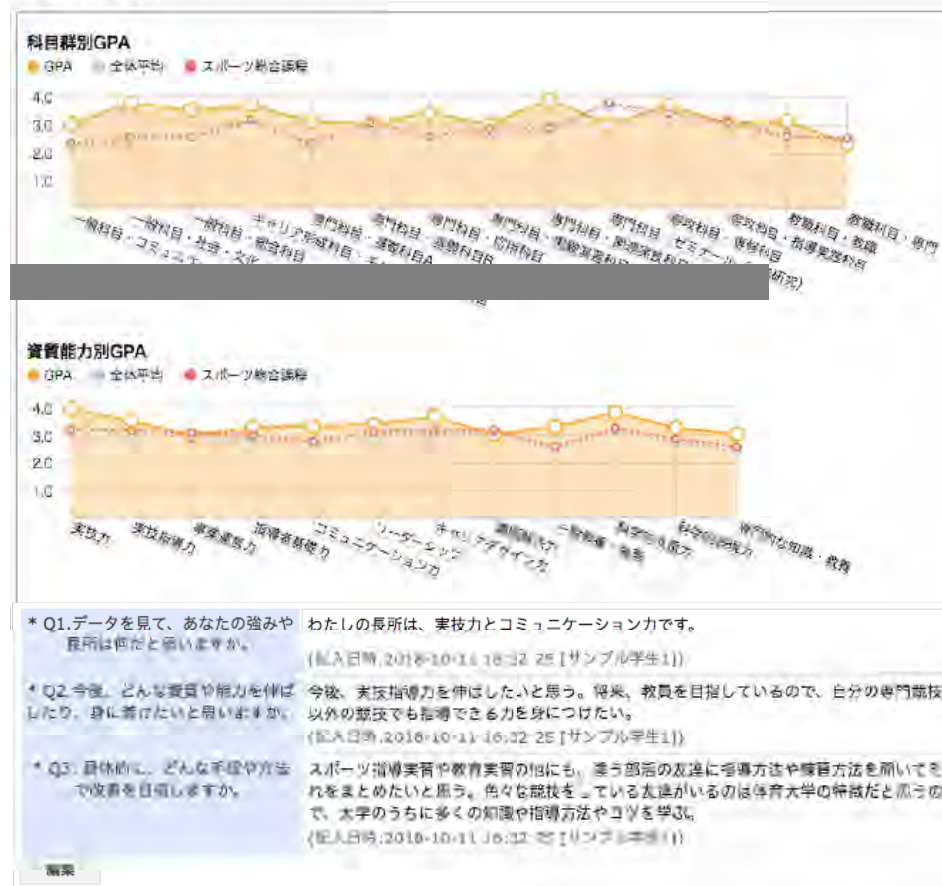
スポーツのA (振り返り) や
P (計画) は、わかるけど、
大学での学びって
何を振り返っていいか
よくわからないなあ。



ほっほっほ。
鹿屋体育大学では
大学での学びの成果を可視化することで、
振り返りや次の計画が立てられるように
なっているのじゃ。
ニフスパス
そのシステムの名前が「NIFSpass」じゃ。

2018年前期

発表期間: 2018-10-01 12:00
更新日時: 未入力



グラフ表示だとわかりやすい！
これなら自分にどんな力が身につけていて、
どんな力が足りないか振り返りができそうです。
でも気になったのですが
GPAって一体なんですか？



ほっほっほ。
振り返りを行い、計画を立てると
次に行動するのが楽しみになるのじゃ。
GPAの説明をしとらんかったな。
次のページで説明してやろう。

七：GPA (グレード・ポイント・アベレージ) の巻



ほっほっほ。
 それではGPAについて説明しよう。
 GPAとは、**GP (グレード・ポイント) のA (アベレージ：平均)** のことじゃ。
 一言でいうと
大学での成績を表す指標のことじゃ。



授業科目ごとの成績がポイントになっているんだね。
自分が履修した科目の平均が総合のGPAってことなんだね。

各授業科目のGP (グレード・ポイント) とは…

評定	評点	グレードポイント (GP)	評価基準
S	90-100点	4.0pt	到達目標を達成し、特に優秀な成績を修めている。
A	80-89点	3.0pt	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている。
B	70-79点	2.0pt	到達目標を達成している。
C	60-69点	1.0pt	到達目標を最低限達成している。
D	0-59点	0pt	到達目標を達成していない。
K	履修放棄	0pt	途中で履修するのを放棄した。



その通りじゃ。
 鹿屋体育大学では、学修の成果の振り返りがしやすいように
 下図のような計算で「**科目群**」や「**12個の資質・能力毎**」ごとに
 グラフ表示しておるのじゃ。

科目群GPAとは…

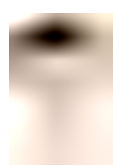
例) 基礎科目Aの場合

運動生理学 (2単位) 90点 (4.0pt)	解剖生理学 (2単位) 85点 (3.0pt)	バイオメカニクス (2単位) 73点 (2.0pt)
-------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

$(4.0pt \times 2単位 + 3.0pt \times 2単位 + 2.0pt \times 2単位)$
 $\div 3科目 \times 2単位$
= 3.0pt = 基礎科目AのGPA

総合GPAとは…

履修した科目の [GP×単位数] の合計
 \div 総単位数
= 総合のGPA



さっきのグラフが「**科目群**」と「**12個の資質・能力毎**」のGPAだったんだね。
 GPAが高いと良いこともあるの？

12個の資質・能力別のGPAとは…

例) 実技力の場合

サッカー (1単位) 95点 (4.0pt)	柔道 (1単位) 95点 (4.0pt)	ラグビー (1単位) 90点 (4.0pt)
------------------------------	----------------------------	------------------------------

$(4.0pt \times 1単位 + 4.0pt \times 1単位 + 4.0pt \times 1単位)$
 $\div 3科目 \times 1単位$
= 4.0pt = 実技力のGPA



総合のGPAが、**3.5以上**だと、以下の点で有利になるのじゃ。

- ① 卒業時に、学生表彰の候補
- ② 早期卒業、飛び級の要件
- ③ 授業料免除、奨学金の選考資料で有利。

反対に総合GPAが、**1.5未満**になると、大学から修学指導があるのじゃ。

※ 今のところ就職活動に有利・不利になることはないのじゃ。

八：SCCOT (Sports Coaching Competency Test) の巻



GPAはわかったけど
 授業の成績だけで自分の成長を感じられるか不安だなあ
 僕は成績が全てではないと思うけど。



ほっほっほ。
 そう思うてる
 他にも学びを可視化しておるのじゃ
 まずは**SCCOT (スコット)** じゃ。
 試しに問題を解いてみなさい。

<SCCOTの両側選択形式の例>

連番	A	Aにあってはまる	ややAにあってはまる	ややBにあってはまる	Bにあってはまる	B
1	スポーツを通じて、創意工夫して身体技術を会得する楽しさを学ぶことができる	1	2	3	4	スポーツを通じて、厳しいトレーニングを積み重ね、達成感や粘り強さを学ぶことができる



どっちにも当てはまりそうで悩みなあ。
SCCOT (スコット) は、
 どんなことを可視化しているの？



指導者の体罰やバフハラが問題になっておるじやろ。
SCCOTは、スポーツ指導者としての行動特性や倫理観を可視化するテストなのじゃ。下がその結果じゃ。

(2) コンピテンシー要素別傾向

比較対象となるグループ平均と比較して、更に伸ばさせる得意要素、克服すべき不得意要素を確認してください。

領域	No.	要素	要素内容	あなた	グループ平均	1	2	3	4	5	6	7
学習・活用力	1	価値を見出す力 (スポーツ科学の知識力)	単に勝敗だけでなく、マナーや楽しみの要素、健康増進等にも価値を見出す能力のこと	7	5.0							
	2	伝える力 (情報収集・選択力)	プレーヤーの状況に応じて必要な情報を収集・選択し、目的や意図を明確にし、分かりやすく伝える能力のこと	7	4.8							
	3	学ぶ力 (学習に関する知識力)	種目や分野を限定しない幅広い情報収集、アイデアの記録、迅速なトライ&エラーの回復等の学ぶ能力のこと	4	4.7							
対他者力	4	主体性を引き出す力 (自律性支援行動力)	プレーヤー一人一人の取り組みに対して適切な評価・対応を行い、プレーヤーの主体的な行動判断を促す能力のこと	6	4.7							
	5	多様性に対応する力 (自律性制御行動力)	プレーヤーの多様性を尊重し、個々人のニーズに応じて自律したプレーヤーへと育成する能力のこと	6	4.7							
対自己力	6	変化する力 (自己認識力)	プレーヤーを幸福へと導くため、自身の指導方針を必要に応じて変化させる能力のこと	6	4.8							
	7	考え抜く力 (省察力)	感情に任せることなく、起こった出来事を分析したり、課題を解決するためにできることを考え抜く能力のこと	7	4.7							

※ スコアの欄がブランクの場合は、無回答が多く値が計算できなかったことを表しています。



自分がどんな行動特性や倫理観なのか考えたこともなかったの、どんな結果になるか早く受けてみたいですよ！



スポーツ指導者としての行動特性や倫理観を可視化

九：PROG（汎用的能力テスト）の巻



次はPROGテストじゃ。
PROGテストは、社会で必要とされる力を可視化できるのじゃ。
 サンプルの問題を聞いてみるのじゃ。

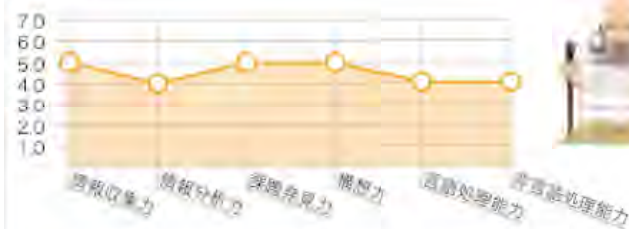
ううう。
 なんだか迷う問題ばかり・・・
 自分はどんな結果が出るのか
 気になるなあ。

順番	A	Aに近い Bに近い	B
1	初対面の人と話すときでも、相手と距離をおかず親しく接する	1 2 3 4	初対面の人と話すときには、距離をとって礼儀正しく接する
2	人に接するときは、聲をつくらず本音で会話する	1 2 3 4	人に接するときは、礼儀を大切に丁寧な会話
3	人に何かを頼まれたら、無断になっても気を配って相手の期待以上のことをする	1 2 3 4	人に何かを頼まれたら、余計なことはせず依頼された内容を確実に実行する

河合塾HPより引用

リテラシー：知識を活用して問題を解決する力

● PROG



テストの結果は自己分析にも役立つぞ。
「Web Class」注でも結果がグラフ表示されておるから、いつでも結果を振り返ることができるのじゃ。

注：「Web Class」は鹿屋体育大学で使用している学修支援システム。詳しくは授業で説明があるぞよ。

コンピテンシー（7段階）：人と自分にベストな状態をもたらそうとする力



- * Q1. データを見て、あなた自身の傾向や長所は何かと思えますか。
 (記入日時: 2016-06-25 11:31:36)
- * Q2. 今後、どんな資質や能力を伸ばしたり、身につけたいと思えますか。
 リテラシーでは、読解能力が低かったので身につけたい。コンピテンシーでは、対人関係力、行動立案力、実践力を身につけたい。
 (記入日時: 2016-06-25 11:31:36)
- * Q3. 具体的に、どんな手段や方法で改善を目指しますか。
 何に対しても振り返りと、計画をすることがあまりなかったので、しっかりPDCAサイクルで読解も実践も読解もやっていきたい。特に、ギリギリまで行動に移さないことが多いので、計画を前もって立てて、早め早めの行動を心がける。
 (記入日時: 2016-06-25 11:31:36)

十：自分でできるでは足りない真・実践的指導力の巻



ほっほっほ。
自分ができるだけでは、良い指導者にならないことに気づいているようじゃの。
 良い指導者になるために実技の授業で特に身につけて欲しい**5つのポイント**を教えてくださいのうかの。

かのや仙人。僕は、小さい頃から体育が得意で実技力には自信があるのですが、**教えられるようになるにはどうしたらいいですか？**



自分でできる

文化的意義を伝えられる



「できない」ことが「できる」ようになることで、**できない生徒の気持ちを共感することや、動きのコツやカン、指導のポイントを深めることができる。**
必要なこと：実践・振り返り

スポーツの多様性や文化的意義を知り、実践で必要とされる精神やルール意義を意味あるものとして伝えることができる。
必要なこと：知識の修得・指導実践

評価・診断できる

運営・安全管理できる



真・実践的指導力

動きや会話から、どんな状態、何が不足しているか、どんなことが原因で「できない」のかを**評価・診断**することができる。そのため、動きを観察し、知識と結びつけることができる。
必要なこと：観察・知識の修得

処方できる

効果的かつ安全で、安心して運動できる環境を整えることができる。
必要なこと：準備・管理



「わかる気がする」→「できる気がする」
 →「できる」ように教材を適切に用いて、アドバイスすることができる。
必要なこと：指導実践・振り返り

十一：部活動で育む力の巻



そろそろ部活動の話もおこすかの。
勘八くんは「なぜ部活動をするの」じゃ？
授業は大学を卒業するために必須じゃが、
部活動は必須ではないのじゃぞ。



部活動をする理由？
深く考えたことがなかったけど、
サッカーが楽しくて好きだから
かな。上手になりたいとも思うし。

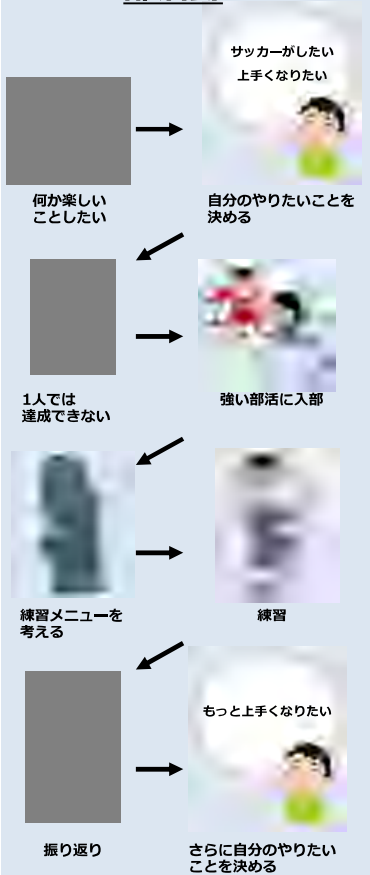


ほっほっほ。
勘八くんの言う通り、多くの人が「楽しい」「好き」「OOになりたい」と思って
部活動をしているのじゃ。
いわば、**部活動は、「楽しい」「好き」「OOになりたい」を実現する活動**なのじゃ。
それは、「**人生を楽しむ力**」を身につけているともいえるのじゃ。
部活動を通して「人生を楽しむ力」をより身につける3つのポイントを伝えておこぞ。

充実ポイント

「人生を楽しむ力」を身につける 3つのポイント

部活動



①決める

やりたいことを決める。
(法律や道徳に反することはNG)
「楽しさ」は勝手にやっつけない。自分で「楽しむ」ために考えて決めて行動することが出来る。

②つながる

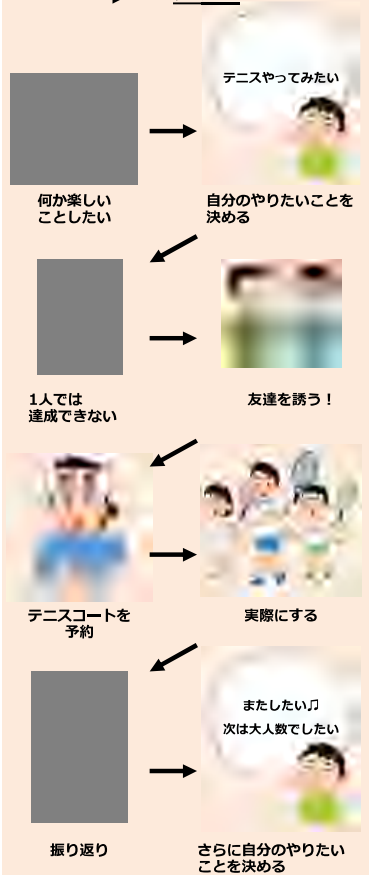
1人ではできることが限られてしまう。**他者とつながることで社会的な交流が生まれ、できることが劇的に増える。自分から行動し他者とつながる。**

③ふり返る

自分が決めて行動した結果が良かったか、悪かったか、次はどうすればよいか、**自分も周りも楽しかったかを振り返る。**

「そろそろ、部活のこれからを話しませんか」の一部を改変。

人生



十二：キャリアデザインの巻



かのや仙人。
行動や振り返りが大切って
わかったのですが、
やりたいことが見つかるか
少し不安になってきました。。

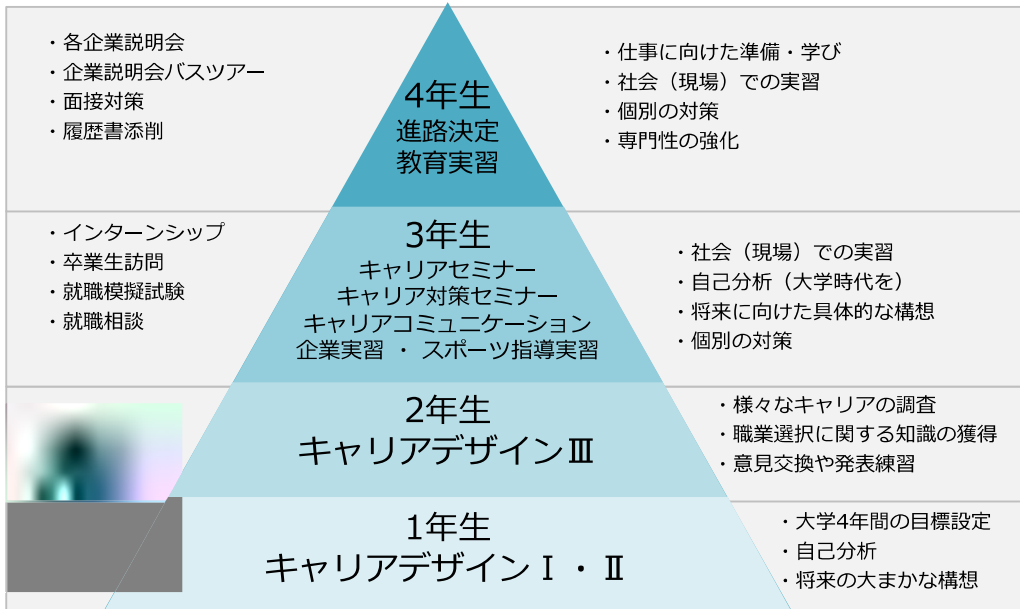


ほっほっほ。安心して良いぞ。
やりたいことが見つかっている方が
珍しいのじゃ。
大学では、じっくり自己分析ができるよう
キャリアデザインという授業があるのじゃ。

就職支援

キャリア教育

具体的な行動



キャリアデザインの授業があると
知って少し安心しました。
就職できるようにキャリアデザインの
授業も頑張るぞ。あとは、もっと将来
のことも考えるようにしたいなあ。

充実ポイント



就職がゴールではない



キャリアデザインは続く

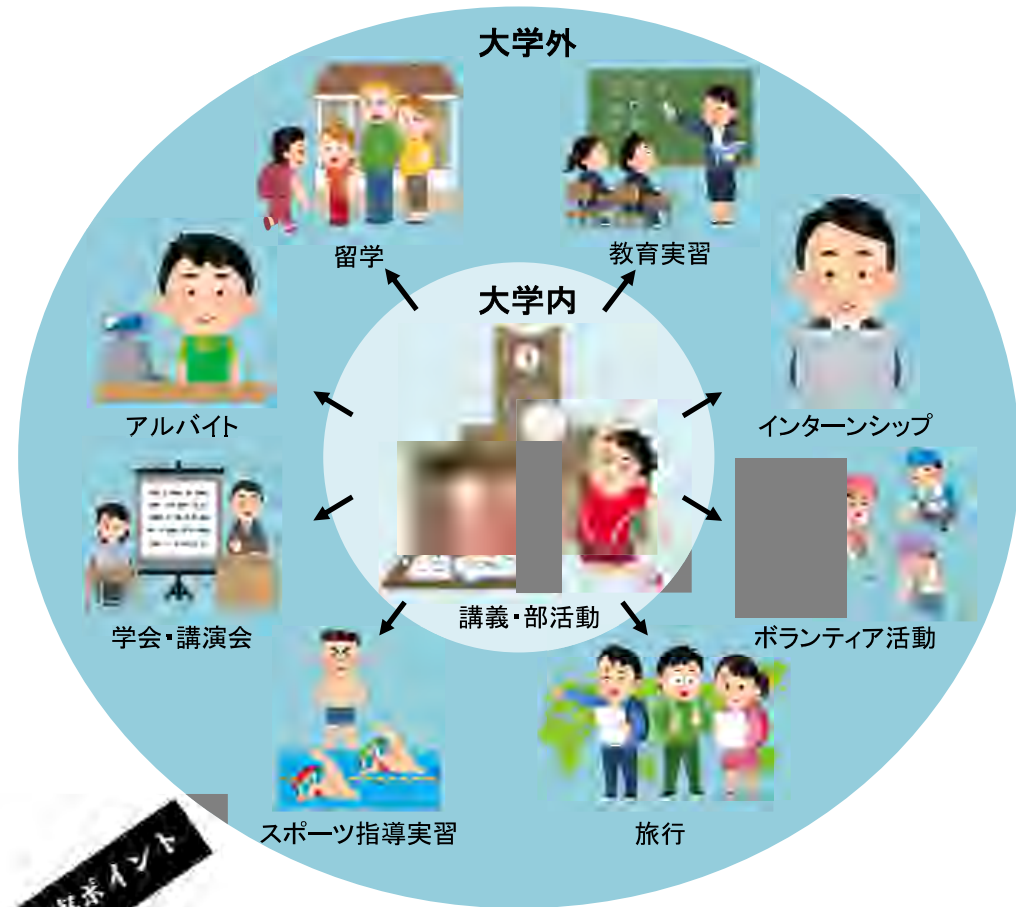
ほっほっほ。
キャリアデザインは就職するためだけではないぞ。
就職後、ずっと同じ仕事を続けるのか、転職するのか、起業するのか、進学するのか
海外に行くのか、**就職してからもキャリアデザインは続く**のじゃ。
**自分がどんな人生を生きていきたいのか考え、様々な選択肢から自身で決断し、
行動できるようになることが大切**じゃ。

十三：大学外での学びの巻

さてさて。
ここまで大学内での学びについてばかり教えてきたが、**学びの場は大学内だけではないのじゃ。**
むしろ大学の外での学びが勤八くんを大きく成長するきっかけとなることが多いのじゃ。



それは一体どうゆうことですか？
大学の外での学びってあんまり想像ができないなあ。
どんなことがあるのか具体的に教えてください。



大学でたくさんのことを身につけることも大切じゃが、**身につけた力を大学の外でアウトプット（試してみる）**ことで、**自分の力がどれくらい身についているか、社会ではどんな力が必要とされているのかを知るきっかけとなる**のじゃ。
大学の外には成長できるきっかけがたくさん転がっているから、**積極的に大学から飛び出して行動してみる**のじゃ！

十四：4年間のデザインの巻

これは鹿屋体育大学での4年間のスケジュールじゃ。
これ以外にも**部活動やボランティア、アルバイト**などの授業以外にも**自分のやりたいことができる**のじゃ。



こうやって見るとあっという間に4年間が過ぎてしまいそうだなあ。
部活はもちろん、バイトもしてみたいしひとり旅もしてみたいな。
なんだか想像しただけで楽しくなってきたぞ。

	前期				後期								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
共通	授業				試験	夏期休業		授業		冬期休業	試験		
履修登録期間	履修登録期間				履修登録期間				履修登録期間				
1年次	入学式 PROGテスト SCCOT 英詩 プレイメントテスト		就職ガイダンス	期末試験			前期振り回り	就職ガイダンス				期末試験	
2年次	後期振り回り		就職ガイダンス	期末試験			前期振り回り	就職ガイダンス	ゼミ・実習選択			期末試験	
3年次	後期振り回り			期末試験	スポーツ指導実習		前期振り回り	介護実習	PROGテスト SCCOT			期末試験	就職活動開始
4年次	後期振り回り	卒業研究の計画提出	教育実習	期末試験			前期振り回り			卒業研究の提出		期末試験	卒業式

4年間の大学のスケジュール(抜粋) 2019,3現在



ほっほっほ。想像することはとても良いことじゃ。
大学での4年間で自分が何をやってみたいか、どんなことを身につけたいか、いつまでにやるのかを大雑把でも良いからデザインして（書いて）みると良いぞ。
ポイントは**どんなに些細なことでも良いからできるだけたくさん書き出してみる**ことじゃ。
その中で優先順位をつけて実際に行動して行くのじゃ。

「4年間の大切な時間をどう過ごすか」で充実したかどうか決まるのじゃ。

大学生活が充実するかどうかは**自分次第**というのが、**なんだか良かったような気が**します。
いろいろなことに挑戦して、成長するぞ！**まずは今思い浮かんだやりたいことを書いておこうと。**

ほっほっほ。
すぐに行動することはいいことじゃ。
わしもスマホにやりたいことリストを書いておるぞ。**思いついた時には書きだしていき**と思った以上**にやりたいこと**が見つかるぞ。また、**自分のやりたいことの共通点が見つかり、自己分析にもなる**のじゃ。

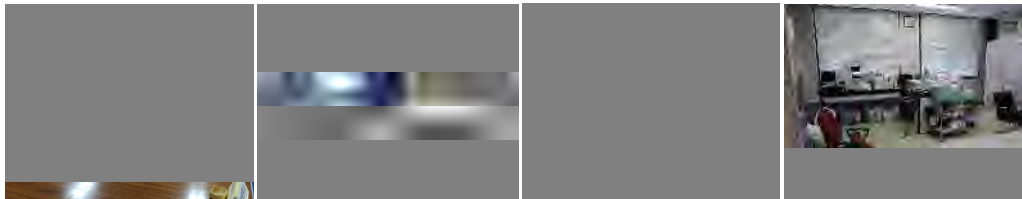
十五：学修スペースの巻



ところで鹿屋体育大学には
自習したり、授業の合間にゆっく
り過ごせる場所ってありますか？



ほっほっほ。
大学の学修スペースを紹介するの
を忘れておった。
それぞれの場所をどんどん活用
するのじゃ。



図書館

NIFSギャラリー

学生ラウンジ

保健管理センター



静かに勉強したい時



話し合いをしたい時



くつろぎたい時



怪我をした時



印刷したい時



パソコンを使いたい時



発表練習したい時



就職情報を知りたい時



パソコン室
(図書館2階)



情報処理演習室



ジョブカフェ



キャリア形成支援室

十六：挑戦の巻



困った時は、**決して1人で悩まず、**
同級生、先輩、後輩、先生、職員そして家族を頼るのじゃ。
いろいろと伝えたが、これが最後の教えじゃ。

「不可能」の反対は

「可能」ではない。

チャレンジ

「挑戦」

じゃ！



<2019年3月25日発行 ver1.0>

鹿屋体育大学 教育企画・評価室

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地大学院棟1階

TEL & FAX : 0994-46-5082

E-MAIL : kyoumu-ap@nifs-kac.jp

<企画・編集>

濱中良・近藤亮介・岡田あゆみ・金高宏文

本誌の著作権は鹿屋体育大学が所有しております。無断に再利用することは法律により禁じられております。

本誌で使用しているイラストは「いらすとや」様のイラストを使用させていただき作成いたしました。

本紙は、文部科学省による大学教育再生戦略推進費「大学教育再生加速プログラム テーマVの卒業時における質保証の取組の強化」の支援を受けて、発行したものです。

学修の振り返り・改善のポートフォリオの提出率について（2018年度入力分）

区分	対象年次、想定人数					テスト				学修の振り返り			
	1年次	2年次	3年次	4年次	想定人数 (定員)	実施時期	対象者数 (在籍者数)	実施者(B)	受験率	実施時期	実施者数(A)	振り返り率 (A/B)	
2017GPA (後期)		○	○	○	530		588	563		2018年4月	465	82.6%	89.7%
2018GPA (前期)	○	○	○	○	720		765	709		2018年10月	676	95.3%	
2017PROG		○	○	○	530	※テストは、前年度実施	588	515	87.6%	2～4年次：2018年度前期	442	85.8%	88.8%
2018PROG	○				170	1年次：2018年4月	180	180	100.0%	1年次：2018年度後期	175	97.2%	
全体							2,121	1,967			1,758	89.4%	

学修の振り返り・改善のポートフォリオの提出率について（2019年度入力分）

区分	対象年次、想定人数（2019年度）					テスト				学修の振り返り			
	1年次	2年次	3年次	4年次	想定人数 (定員)	実施時期	対象者数 (在籍者数)	実施者(B)	受験率	実施時期	実施者数(A)	振り返り率 (A/B)	
2018GPA (後期)		○	○	○	530		586	557		2019年4月	431	77.4%	86.5%
2019GPA (前期)	○	○	○	○	720		767	719		2019年10月	673	93.6%	
2018PROG				○	190	3年次：2018年度11月 ※テストは、前年度実施	204	172	84.3%	4年次：2019年度前期	125	72.7%	80.7%
2019PROG	○				170	1年次：2019年4月	181	181	100.0%	1年次：2019年度後期	160	88.4%	
2018SCCOT		○	○	○	530	1～3年次：2018年度後期 ※テストは、前年度実施	586	539	92.0%	2年次：2019年度前期 3年次：2019年度前期 4年次：2019年度前期	424	78.7%	78.0%
2019SCCOT	○				170	1年次：6月	181	160	88.4%	1年次：2019年度後期	121	75.6%	
全体							2,505	2,328			1,934	83.1%	

大学院教育課程の改訂について

【概要】

●経緯

学長から大学院体育学研究科のカリキュラム及び授業科目名称等の見直しを行うよう指示があったことを受け、平成28年度第8回（平成28年10月13日）研究科教務委員会において、大学院教育課程改訂ワーキンググループを設置し、以下の内容について検討した。

●検討内容

・専攻の目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及び開設授業科目名の見直し

1. 専攻の目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの見直し

1) 修士課程（資料1）

①修士課程の目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの見直し

・目的

文言を整理し、3領域（スポーツ総合科学領域、スポーツ文化・社会科学領域、スポーツ生命科学領域）に共通する、よりコンパクトな表記に変更した。

・ディプロマポリシー

現行の3つの項目の内容には重複する部分があったため、2つの項目に整理した。

・カリキュラムポリシー

ディプロマポリシーを踏まえ、文言を整理した。また、(3)として修士の学位論文としてまとめる科目として「課題研究」を従来の共通科目から抜き出して新たに配置した。さらに(1)から(3)の各項において、○印事項を新たに追加した。

②目的、ディプロマポリシーカリキュラムポリシーの見直し及び開設授業科目の見直しに伴う履修要項の修正

2) 博士後期課程（資料2）

①博士後期課程の目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの見直し

・目的

文言を整理し、3領域（スポーツ総合科学領域、スポーツ文化・社会科学領域、スポーツ生命科学領域）に共通する、よりコンパクトな表記に変更した。

・ディプロマポリシー

現行の3つの項目の内容には重複する部分があったため、2つの項目に整理した。

・カリキュラムポリシー

現行の(1)について文言の見直しを行い、(1)および(2)に○印事項を新たに追加した。

②目的、ディプロマポリシーカリキュラムポリシーの見直し及び開設授業科目の見直しに伴う履修要項の修正

2. 開設授業科目の見直し

1) 修士課程（資料3）

- ・科目、科目群、領域に新たに区分し、現行の科目からそれぞれの科目の特性を考慮して、領域の変更ならびに科目領域内でいくつかの科目の統合および追加等を行った。
特に、基礎科目については、科目の特性を考慮に入れ、研究領域が近接していると考えられる科目については科目を一つに統合し、複数の先生で授業を担当していただくようにした。
- ・資料3：左側は現行の科目名、右側は変更（案）の科目名
 - 青字の科目：名称変更になる科目
 - 赤字の科目：廃止となる科目
 - 黄色で囲んである科目：複数の科目を一つに統合する科目
 - 【TSC】：東京サテライトキャンパスにおいて夜間で開講する科目については、基礎科目として配置されているにもかかわらず現行では科目名の頭に「応用」と表記されている。それを是正するために、科目名の後ろに【TSC】を付ける形に改めた。
 - 課題研究は共通科目から抜き出して新たに「科目」、「科目群」、「領域」を設定した。
 - 「領域変更科目」欄の科目は領域を変更した科目を示す。
 - 太字の科目については、領域が変更になった科目、複数の科目を統合した科目を示す。

2) 博士後期課程（資料4）

- ・科目、科目群、領域を新たに区分し、現行の科目からそれぞれの科目の特性を考慮して、科目領域の変更、科目領域内でいくつかの科目を統合および追加等を行った。
- 資料4：左側は現行の科目名、右側は変更（案）後の科目名
 - 青字の科目：名称変更になる科目
 - 赤字の科目：廃止となる科目
 - 黄色で囲んである科目：複数の科目を一つに統合する科目
 - 【TSC】：東京サテライトキャンパスにおいて夜間で開講する科目については、科目名の後ろに【TSC】を付ける形に改めた。
 - 【KR】：体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムとして開講する科目については、科目名の後ろに【KR】を付ける形に改めた。
 - 【JISS】：国立スポーツ科学センターにおいて開講する科目については、科目名の後ろに【JISS】を付ける形に改めた。
 - 「領域変更科目欄」の科目は領域を変更した科目を示す。
 - 太字の科目については、領域が変更になった科目、複数の科目を統合した科目を示す。

【教育理念(教育の方針)】

鹿屋体育大学は、学生ひとりひとりを大切に、スポーツ・武道及び身体運動を基盤とした理論と実践の往還による教育を通じて豊かな教養と専門能力を授け、スポーツ・武道における学術・文化の発展と国民の体力・健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与できる実践的かつ創造的で市民性、国際性を備えたリーダーを養成することを教育の理念とする。

【大学院体育学研究科修士課程体育学専攻の目的】

鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程体育学専攻は、学部での教育研究の成果を基盤として、スポーツ、武道及び体育・健康づくりの分野における専門的知識・技術の教授研究能力及び高度の専門性を要する職業に必要な能力を有する研究者や指導者の養成を目的とする。
さらに、社会人の再教育、海外の留学生の受け入れによる教育研究の国際交流を図り、これらを通じて国内外の体育・スポーツ情報のネットワーク構築をめざす。

【ディプロマポリシー(学位授与の方針)】

鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程体育学専攻では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に「修士(体育学)」の学位を認定する。

- (1) スポーツ、武道及び体育・健康づくりの分野において、専門的知識・技術の教育研究能力及び高度の専門性が求められる職業を担うために必要な能力を身につけている。
- (2) 我が国のスポーツ・武道文化の発展並びに国民の体力・健康の増進に寄与する能力を身につけている。

カリキュラムポリシー		領域区分	領域毎のカリキュラムポリシー	科目群	授業科目名
鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程体育学専攻では、スポーツ、武道及び体育・健康づくりの分野において、専門的知識・技術の教育研究、高度な専門性が求められる職業を担うことのできる研究者や指導者の養成及び社会人の再教育を目的として、学術の理論並びに応用と実践が一体となった教育研究の展開が可能な教育課程を編成する。	共通	共通領域	<p>○スポーツ、武道及び体育・健康づくりの分野で求められる基礎的なリテラシー及びマネジメント力を涵養するための科目を配置する。</p> <p>○スポーツ、武道及び体育・健康づくりの分野で求められる基礎的な研究実践力及びディスカッション能力を涵養するための科目を配置する。</p> <p>○スポーツ、武道及び体育・健康づくりの分野で求められる基礎的な英語力を涵養するための科目を配置する。</p> <p>○キャリアを形成するための科目を配置する。</p>	共通科目	スポーツ科学リテラシー特講 スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 スポーツ科学セミナー スポーツ科学英語特講 I スポーツ科学英語特講 II インストラクションデザイン演習 キャリアデザイン演習
	専門	スポーツ総合科学領域	<p>○スポーツ、武道及び体育・健康づくりの実践的側面に関する専門的知識・研究法を追究するための科目を配置する。</p>	基礎科目	ヘルスサイエンス特講 ヘルスインストラクション特講 トレーニング科学特講 コーチング学特講 スポーツパフォーマンス学特講 トレーニング科学特講【SC】 コーチング学特講【SC】
		スポーツ文化・社会科学領域	<p>(2) スポーツ、武道及び体育・健康づくりの分野における専門的知識・技術の教育研究能力及び高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養うため、スポーツ総合科学、スポーツ文化・社会科学、スポーツ生命科学の3領域について、基礎科目及び応用科目を学生の志向性に応じて選択できるよう配置する。 なお、基礎科目は主に理論を展開し、応用科目では理論の応用や実践を展開する。</p>	基礎科目	スポーツ史・運動文化論特講 スポーツ法・倫理特講 生涯スポーツ学特講 スポーツ社会学特講 スポーツマネジメント論特講 スポーツ史・運動文化論特講【SC】 生涯スポーツ学特講【SC】 スポーツ社会学特講【SC】 スポーツマネジメント論特講【SC】
課題研究	課題研究領域	スポーツ生命科学領域	<p>○身体活動への生体応答メカニズムに関する専門的知識・研究法を追究するための科目を配置する。</p>	基礎科目	スポーツ心理学特講 スポーツ医科学特講 スポーツ生理学特講 身体科学論特講 スポーツバイオメカニクス特講 運動生化学・生物学特講 スポーツ栄養学特講 スポーツ心理学特講【SC】 体力科学特講【SC】 スポーツバイオメカニクス特講【SC】 スポーツ栄養学特講【SC】
		課題研究	<p>(3) スポーツ、武道及び体育・健康づくりの分野における総合的な教育研究能力及び高度の専門性を要する職業等に必要な能力を活かし、修士学位論文をまとめるための科目を必修科目として配置する。</p>	課題研究	スポーツ心理学特講演習 スポーツ医科学特講演習 スポーツ生理学特講演習 身体科学論特講演習(体力科学) 身体科学論特講演習(身体構造機能論) スポーツバイオメカニクス特講演習 運動生化学・生物学特講演習 スポーツ栄養学特講演習 スポーツ心理学特講演習【SC】 体力科学特講演習【SC】 スポーツバイオメカニクス特講演習【SC】 スポーツ栄養学特講演習【SC】

<p>【教育理念(教育の方針)】 鹿屋体育大学は、学生ひとりひとりを大切に、スポーツ・武道及び身体運動を基盤とした理論と実践の往還による教育を通じて豊かな教養と専門能力を授け、スポーツ・武道における学術・文化の発展と国民の体力・健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与できる実践的かつ創造的で市民性、国際性を備えたリーダーを養成することを教育の理念とする。</p>
<p>【大学院体育学研究科博士後期課程体育学専攻の目的】 鹿屋体育大学大学院研究科博士後期課程体育学専攻は、修士課程での教育研究の成果を基盤として、スポーツ、武道及び体育・健康づくりの分野における諸科学等の研究の成果を学際的・統合的に把握し、新たな学際的複合領域の研究の開発及び研究の成果を実践に結びつけることのできる研究者や指導者の養成を目的とする。 さらに、社会人、国際的水準のアスリート、海外からの留学生を積極的に受入れ、国際的な教育研究の推進を図るとともに、教育研究の国際交流を通じて国内外の体育・スポーツ情報のネットワーク構築をめざす。</p>
<p>【ディプロマポリシー(学位授与の方針)】 鹿屋体育大学大学院体育学研究科博士後期課程体育学専攻では、以下のような学識・能力を身につけ、かつ所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に「博士(体育学)」の学位を認定する。 (1)スポーツ、武道及び体育・健康づくりの分野において、自立した研究活動を行うことができ、新たな学際的複合領域の研究の開発及び研究の成果を実践に結びつけることのできる高度な学識・能力を身につけている。 (2)我が国の身体運動文化の発展及び国民の体力・健康の増進に寄与する高度な学識・能力を身につけている。</p>

カリキュラムポリシー	領域区分	領域毎のカリキュラムポリシー	領域毎の科目内容	科目群	授業科目名
鹿屋体育大学大学院体育学研究科博士後期課程体育学専攻では、スポーツ、武道及び体育・健康づくりの分野における諸科学等の研究の成果を学際的・統合的に把握し、新たな学際的複合領域の研究の開発及び研究の成果を実践に結びつけることのできる研究者や指導者の養成を目的として、学術の理論と応用及び実践とが一体となった教育研究の展開が可能な教育課程を編成する。	共通	(1)スポーツ、武道及び体育・健康づくりに関する異なる専門領域の観点から、独創的な研究テーマの設定や研究をデザインする能力を高めるための共通科目を配置する。	体育学の異なる専門領域の観点から、独創的な研究テーマと研究をデザインする能力を高め、博士学位論文をまとめるための共通科目を配置する。	共通科目	統合研究セミナー 体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】 体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ【KR】
	スポーツ総合科学領域	○スポーツ、武道及び体育・健康づくりの実践的側面に関する高度な専門的知識と研究能力を高めるための科目を配置する	スポーツ、武道及び体育・健康づくりの実践的側面に関する高度な専門的知識と研究能力を高めるための科目。	専門科目	スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究 スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究演習 ヘルスサイエンス特殊研究 ヘルスサイエンス特殊研究演習 運動処方論特殊研究 運動処方論特殊研究演習 トレーニング科学特殊研究 トレーニング科学特殊研究演習 コーチング学特殊研究 コーチング学特殊研究演習 スポーツサイエンスサポート特殊研究【JISS】 スポーツサイエンスサポート特殊研究演習【JISS】 身体教育特殊研究A【KR】 身体教育特殊研究B【KR】 身体教育特殊研究演習A【KR】 身体教育特殊研究演習B【KR】 トレーニング科学特殊研究【SC】 トレーニング科学特殊研究演習【SC】 コーチング学特殊研究【SC】 コーチング学特殊研究演習【SC】
	スポーツ文化・社会科学領域	○スポーツ、武道及び体育・健康づくりの文化的、社会的側面に関する高度な専門的知識と研究能力を高めるための科目を配置する	スポーツ、武道及び体育・健康づくりの文化的及び社会科学的側面に関する研究方法を深めるとともに、最新の研究動向や知見、研究成果を活用し、学際領域における統合的研究を遂行する上で必要な研究能力を高めるための科目。		スポーツ史特殊研究 スポーツ史特殊研究演習 スポーツ社会学特殊研究 スポーツ社会学特殊研究演習 スポーツ経営学特殊研究 スポーツ経営学特殊研究演習 スポーツ社会学特殊研究【SC】 スポーツ社会学特殊研究演習【SC】 スポーツ経営学特殊研究【SC】 スポーツ経営学特殊研究演習【SC】 スポーツ歴史人類学特殊研究【SC】 スポーツ歴史人類学特殊研究演習【SC】
スポーツ生命科学領域	○身体活動への生体応答メカニズムに関する高度な専門知識と研究能力を高めるための科目を配置する	スポーツ・身体活動への生体応答メカニズムに関する研究方法を深めるとともに、最新の研究動向や知見、研究成果を活用し、学際領域における統合的研究を遂行する上で必要な研究能力を高めるための科目。	スポーツ心理学特殊研究 スポーツ心理学特殊研究演習 スポーツ医科学特殊研究 スポーツ医科学特殊研究演習 スポーツ生理学特殊研究 スポーツ生理学特殊研究演習 体力科学特殊研究 体力科学特殊研究演習 スポーツバイオメカニクス特殊研究 スポーツバイオメカニクス特殊研究演習 運動分子・細胞生物学特殊研究 運動分子・細胞生物学特殊研究演習 スポーツ栄養学特殊研究 スポーツ栄養学特殊研究演習 アスリート医科学特殊研究【JISS】 アスリート医科学特殊研究演習【JISS】 スポーツ心理学特殊研究【SC】 スポーツ心理学特殊研究演習【SC】 体力科学特殊研究【SC】 体力科学特殊研究演習【SC】 スポーツバイオメカニクス特殊研究【SC】 スポーツバイオメカニクス特殊研究演習【SC】 スポーツ栄養学特殊研究【SC】 スポーツ栄養学特殊研究演習【SC】		

開設授業科目一覧 (修士課程)

科目	科目群	領域	平成29年度				変更 (案)					
			授業科目	担当教員	単位数 必修 選択	領域変更科目	授業科目	担当教員	単位数 必修 選択			
共通	共通科目	共通領域	スポーツ科学リテラシー特講	各領域から2名程度	2		スポーツ科学リテラシー特講	各領域から2名程度	2			
			スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	各領域から2名程度	2		スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	各領域から2名程度	2			
			スポーツ科学英語特講Ⅰ	エルメス	1		スポーツ科学英語特講Ⅰ	エルメス	1			
			スポーツ科学セミナー	研究科教務委員会委員長	1		スポーツ科学英語特講Ⅱ	研究科教務委員会委員長	1			
							スポーツ科学英語特講Ⅱ	吉重・国重	2			
							インストラクションデザイン演習	研究科教務委員会	1			
							キャリアデザイン演習	研究科教務委員会	1			
			課題研究	指導教員・副指導教員	4		キャリアデザイン演習	研究科教務委員会	1			
基礎科目	スポーツ総合科学領域	スポーツ総合科学領域	健康運動学特講	中垣内	2			ヘルスサイエンス特講	(中垣内・赤嶺・藤井・安田・イスラム)	2		
			スポーツ・リハビリテーション医学特講	赤嶺・藤井・安田	2		ヘルスサイエンス特講		2			
			健康教育学特講	添嶋	2		健康教育学特講	添嶋	2			
			運動処方論特講	藤田	2		運動処方論特講	藤田	2			
			トレーニング科学特講	山本・高井	2		トレーニング科学特講	(山本・高井・中本・幾留)	2			
			メンタルトレーニング論特講	中本・幾留	2		トレーニング科学特講		2			
			スポーツコーチング学特講	金高・角川	2		スポーツコーチング学特講	金高・角川	2			
			武道指導論特講	前阪・濱田 (初)	2		武道指導論特講	前阪・濱田 (初)	2			
						(新規)	スポーツパフォーマンス学特講	()	2			
			応用トレーニング科学特講	【山地】	2		トレーニング科学特講【SC】	()	2			
			応用スポーツコーチング学特講	金久	2		コーチング学特講【SC】	金久	2			
			スポーツ科学英語特講Ⅱ	吉重・国重	2							
			スポーツ史特講	山田・中村 (勇)	2		スポーツ史・運動文化論特講	山田・中村 (勇)	2			
			武道論特講	前阪	2		武道論特講	前阪	2			
			身体思想論特講		2	(廃止)						
						(新規)	スポーツ法・倫理特講	森 (克)	2			
			生涯スポーツ学特講	川西・吉武 (裕)	2		生涯スポーツ学特講	川西・吉武 (裕)	2			
			野外教育論特講	坂口	2		野外教育論特講	坂口	2			
			スポーツ社会学特講	川西・北村	2		スポーツ社会学特講	川西・北村	2			
			コミュニティ・スポーツ論特講	前田 (博)	2		コミュニティ・スポーツ論特講	前田 (博)	2			
	スポーツ経営学特講	竹下・隅野・萩原	2		スポーツマネジメント論特講	(竹下・隅野・萩原・吉武 (裕)・北村)	2					
	スポーツ・レジャー産業論特講	吉武 (裕)・竹下・北村・萩原	2		スポーツ史・運動文化論特講【SC】	【真田】・山田・森 (克)	2					
	応用スポーツ歴史人類学特講	【真田】・山田・森 (克)	2		生涯スポーツ学特講【SC】	川西・【宮地】	2					
	応用生涯スポーツ学特講	川西・【宮地】	2		スポーツ社会学特講【SC】	川西	2					
	応用スポーツ社会学特講	川西	2		スポーツマネジメント論特講【SC】	竹下・隅野・【比佐】	2					
	応用スポーツ経営学特講	竹下・隅野・【比佐】	2									
	健康づくり指導論特講	【萩】	2	(廃止)								
	スポーツ生命科学領域	スポーツ生命科学領域	スポーツ生命科学領域	スポーツ心理学特講	森 (司)	2		スポーツ心理学特講	森 (司)	2		
				スポーツ医学特講	安田・赤嶺	2		スポーツ医学特講	安田・赤嶺	2		
				スポーツ生理学特講	萩田	2		スポーツ生理学特講	萩田	2		
				体力科学特講	吉武 (康)	2		身体科学論特講	(吉武 (康)・宮本・興谷)	2		
				身体構造機能論特講	宮本・興谷	2		スポーツバイオメカニクス特講	前田 (明)	2		
				バイオメカニクス特講	前田 (明)	2		運動分子・生化学特講	吉田・()	2		
				運動分子・細胞生物学特講	吉田	2		スポーツ栄養学特講	吉田・【鈴木】	2		
				運動生化学特講	吉田	2		応用スポーツ心理学特講	【石井】	2		
				スポーツ栄養学特講	吉田・【鈴木】	2		応用力学特講	【沢井】	2		
				応用スポーツ心理学特講	【石井】	2		応用スポーツバイオメカニクス特講	【大築】	2		
				応用力学特講	【沢井】	2		応用スポーツ栄養学特講	【鈴木】	2		
				応用スポーツバイオメカニクス特講	【大築】	2		ヘルスサイエンス特講	イスラム	2		
	応用スポーツ栄養学特講	【鈴木】	2									
ヘルスサイエンス特講	イスラム	2										
専門	スポーツ総合科学領域	スポーツ総合科学領域	健康運動学特講演習	中垣内	2		ヘルスサイエンス特講演習 (健康運動学)	中垣内	2			
			スポーツ・リハビリテーション医学特講演習	赤嶺・藤井・安田	2		ヘルスサイエンス特講演習 (スポーツ・リハビリテーション医学)	赤嶺・藤井・安田	2			
						ヘルスサイエンス特講演習 (ヘルスサイエンス)	イスラム	2				
			健康教育学特講演習	添嶋	2		健康教育学特講演習	添嶋	2			
			運動処方論特講演習	藤田	2		運動処方論特講演習	藤田	2			
			メンタルトレーニング論特講演習	中本・幾留	2		トレーニング科学特講演習 (メンタルトレーニング論)	中本・幾留	2			
			トレーニング科学特講演習	山本・金高	2		トレーニング科学特講演習 (トレーニング科学)	山本・金高	2			
			スポーツ総合科学領域	スポーツ総合科学領域	スポーツ総合科学領域	陸上競技 (トラック) コーチング論演習	松村	2		スポーツコーチング学特講演習 (陸上競技 (トラック))	松村	2
						陸上競技 (フィールド) コーチング論演習	瓜田	2		スポーツコーチング学特講演習 (陸上競技 (フィールド))	瓜田	2
						水泳コーチング論演習	角川	2		スポーツコーチング学特講演習 (水泳)	角川	2
						体操競技コーチング論演習	北川	2		スポーツコーチング学特講演習 (体操競技)	北川	2
						球技コーチング論演習 (サッカー)	塩川	2		スポーツコーチング学特講演習 (サッカー)	塩川	2
						球技コーチング論演習 (バスケットボール)	三浦・木葉	2		スポーツコーチング学特講演習 (バスケットボール)	三浦・木葉	2
						球技コーチング論演習 (テニス)	高橋	2		スポーツコーチング学特講演習 (テニス)	高橋	2
						球技コーチング論演習 (バレーボール)	濱田 (幸)	2		スポーツコーチング学特講演習 (バレーボール)	濱田 (幸)	2
						海洋スポーツコーチング論演習	中村 (夏)・榮楽	2		スポーツコーチング学特講演習 (海洋スポーツ)	中村 (夏)・榮楽	2
	武道指導論特講演習	前阪				2		武道指導論特講演習 (剣道)	前阪	2		
		前阪	2		武道指導論特講演習 (柔道)	前阪	2					
	海洋スポーツキャリア演習	中村 (夏)・金高・榮楽	2	(廃止)								
	海洋スポーツキャリア実習	中村 (夏)・榮楽	2	(廃止)								
				(新規)	スポーツパフォーマンス学特講演習	()	2					
	応用トレーニング科学特講演習	【山地】	2		トレーニング科学特講演習【SC】	()	2					
	応用スポーツコーチング学特講演習	金久	2		コーチング学特講演習【SC】	金久	2					
	インストラクションデザイン演習	研究科教務委員会	1									
	キャリアデザイン演習	研究科教務委員会	1									
	応用科目	スポーツ総合科学領域	スポーツ総合科学領域	スポーツ史特講演習	山田・中村 (勇)	2		スポーツ史・運動文化論特講演習	山田・中村 (勇)	2		
				武道論特講演習	前阪	2		武道論特講演習	前阪	2		
				身体思想論特講演習		2	(廃止)					
							(新規)	スポーツ法・倫理特講演習	()	2		
				生涯スポーツ学特講演習	川西・吉武 (裕)	2		生涯スポーツ学特講演習	川西・吉武 (裕)	2		
				野外教育論特講演習	坂口	2		野外教育論特講演習	坂口	2		
				スポーツ社会学特講演習	川西・北村	2		スポーツ社会学特講演習	川西・北村	2		
コミュニティ・スポーツ論特講演習				前田 (博)	2		コミュニティ・スポーツ論特講演習	前田 (博)	2			
スポーツ生命科学領域		スポーツ生命科学領域	スポーツ生命科学領域	スポーツ経営学特講演習	竹下・隅野・萩原	2		スポーツマネジメント論特講演習 (スポーツ経営学)	竹下・隅野・萩原	2		
				スポーツ・レジャー産業論特講演習	吉武 (裕)・竹下・北村・萩原	2		スポーツマネジメント論特講演習 (スポーツ・レジャー産業論)	吉武 (裕)・竹下・北村・萩原	2		
				応用スポーツ歴史人類学特講演習	【真田】・山田・森 (克)	2		スポーツ史・運動文化論特講演習【SC】	【真田】・山田・森 (克)	2		
				応用生涯スポーツ学特講演習	川西・【宮地】	2		生涯スポーツ学特講演習【SC】	川西・【宮地】	2		
				応用スポーツ社会学特講演習	川西・北村	2		スポーツ社会学特講演習【SC】	川西・北村	2		
				応用スポーツ経営学特講演習	竹下・隅野・【比佐】	2		スポーツマネジメント論特講演習【SC】 (スポーツ経営学)	竹下・隅野・【比佐】	2		
				健康づくり指導論特講演習	【萩】	2	(廃止)					
スポーツ生命科学領域	スポーツ生命科学領域	スポーツ生命科学領域	スポーツ心理学特講演習	森 (司)	2		スポーツ心理学特講演習	森 (司)	2			
			スポーツ医学特講演習	安田・赤嶺	2		スポーツ医学特講演習	安田・赤嶺	2			
			スポーツ生理学特講演習	萩田	2		スポーツ生理学特講演習	萩田	2			
			体力科学特講演習	吉武 (康)	2		身体科学論特講演習 (体力科学)	吉武 (康)	2			
			身体構造機能論特講演習	宮本・興谷	2		身体科学論特講演習 (生体ダイナミクス)	宮本	2			
			バイオメカニクス特講演習	前田 (明)	2		身体科学論特講演習 (身体機能論)	興谷	2			
			運動分子・細胞生物学特講演習	吉田	2		スポーツバイオメカニクス特講演習	前田 (明)	2			
			運動生化学特講演習	吉田	2		運動分子・生化学特講演習	吉田・()	2			
			スポーツ栄養学特講演習	吉田・【鈴木】	2		スポーツ栄養学特講演習	吉田・【鈴木】	2			
			応用スポーツ心理学特講演習	【石井】	2		応用スポーツ心理学特講演習【SC】	()	2			
			応用力学特講演習	【沢井】	2		体力科学特講演習【SC】	【沢井】	2			
			応用スポーツバイオメカニクス特講演習	【大築】	2		スポーツバイオメカニクス特講演習【SC】	()	2			
			応用スポーツ栄養学特講演習	【鈴木】	2		スポーツ栄養学特講演習【SC】	【鈴木】	2			
			ヘルスサイエンス特講演習	イスラム	2							
			課題研究	課題研究		課題研究		課題研究		4		

統合
名称変更
廃止

新規科目
【SC】は東京サテライトキャンパスにおいて夜間(6~7限)に開講する科目

開設授業科目一覧（博士後期課程）

科目	科目群	領域	平成29年度				変更(案)				
			平成29年度授業科目	担当教員	単位数 必修 選択	領域変更科目	授業科目	担当教員	単位数 必修 選択		
共通	共通科目	共通領域	統合研究セミナー	指導教員・副指導教員	2		統合研究セミナー	指導教員・副指導教員	2		
			体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ	森・竹下・中本・高井・徳田・〔齋藤〕・〔小澤〕	1		体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】	森・竹下・中本・高井・徳田・〔齋藤〕・〔小澤〕	1		
			体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ	山田・前田(明)・徳田・〔飯干〕・〔井藤〕・〔坂本〕	1		体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ【KR】	山田・前田(明)・徳田・〔飯干〕・〔井藤〕・〔坂本〕	1		
専門	専門科目	スポーツ総合科学領域	スポーツ・リハビリテーション医学特殊研究	赤嶺	2		スポーツ・リハビリテーション医学特殊研究	赤嶺	2		
			スポーツ・リハビリテーション医学特殊研究演習	赤嶺	2		スポーツ・リハビリテーション医学特殊研究演習	赤嶺	2		
						健康運動学特殊研究			ヘルスサイエンス特殊研究	【竹島】	2
						健康運動学特殊研究演習			ヘルスサイエンス特殊研究演習	【竹島】	2
			運動処方論特殊研究	藤田	2		運動処方論特殊研究	藤田	2		
			運動処方論特殊研究演習	藤田	2		運動処方論特殊研究演習	藤田	2		
			トレーニング科学特殊研究	山本・高井	2		トレーニング科学特殊研究	山本・高井	2		
			トレーニング科学特殊研究演習	山本・高井	2		トレーニング科学特殊研究演習	山本・高井	2		
			スポーツ・コーチング学特殊研究	高橋	2		コーチング学特殊研究	高橋	2		
			スポーツ・コーチング学特殊研究演習	高橋	2		コーチング学特殊研究演習	高橋	2		
			アスリート・トレーニング科学特殊研究	〔高橋〕	2		アスリート・トレーニング科学特殊研究【JISS】	〔高橋〕	2		
			アスリート・トレーニング科学特殊研究演習	〔高橋〕	2		アスリート・トレーニング科学特殊研究演習【JISS】	〔高橋〕	2		
			スポーツ情報特殊研究	【宮地(力)】	2		スポーツ情報特殊研究【JISS】	【宮地(力)】	2		
			スポーツ情報特殊研究演習	【宮地(力)】	2		スポーツ情報特殊研究演習【JISS】	【宮地(力)】	2		
			身体教育特殊研究A	〔井藤〕・〔小澤〕・〔齋藤〕・〔坂本〕	2		身体教育特殊研究A【KR】	〔井藤〕・〔小澤〕・〔齋藤〕・〔坂本〕	2		
			身体教育特殊研究演習A	〔井藤〕・〔小澤〕・〔齋藤〕・〔坂本〕	2		身体教育特殊研究演習A【KR】	〔井藤〕・〔小澤〕・〔齋藤〕・〔坂本〕	2		
			身体教育特殊研究B	〔飯干〕	2		身体教育特殊研究B【KR】	〔飯干〕	2		
			身体教育特殊研究演習B	〔飯干〕	2		身体教育特殊研究演習B【KR】	〔飯干〕	2		
			応用トレーニング科学特殊研究	【山地】	2		トレーニング科学特殊研究【SC】	()	2		
			応用トレーニング科学特殊研究演習	【山地】	2		トレーニング科学特殊研究演習【SC】	()	2		
			応用スポーツ・コーチング学特殊研究	金久・金高	2		コーチング学特殊研究【SC】	金久・金高	2		
		応用スポーツ・コーチング学特殊研究演習	金久・金高	2		コーチング学特殊研究演習【SC】	金久・金高	2			
		スポーツ文化・社会科学領域	スポーツ史特殊研究	山田	2		スポーツ史特殊研究	山田	2		
			スポーツ史特殊研究演習	山田	2		スポーツ史特殊研究演習	山田	2		
			スポーツ社会学特殊研究	川西	2		スポーツ社会学特殊研究	川西	2		
			スポーツ社会学特殊研究演習	川西	2		スポーツ社会学特殊研究演習	川西	2		
			生涯スポーツ学特殊研究	吉武(裕)・(前田(博))	2		生涯スポーツ学特殊研究	吉武(裕)・(前田(博))	2		
			生涯スポーツ学特殊研究演習	吉武(裕)・(前田(博))	2		生涯スポーツ学特殊研究演習	吉武(裕)・(前田(博))	2		
			スポーツ経営学特殊研究	竹下	2		スポーツ経営学特殊研究	竹下	2		
			スポーツ経営学特殊研究演習	竹下	2		スポーツ経営学特殊研究演習	竹下	2		
			応用スポーツ社会学特殊研究	川西	2		スポーツ社会学特殊研究【SC】	川西	2		
			応用スポーツ社会学特殊研究演習	川西	2		スポーツ社会学特殊研究演習【SC】	川西	2		
			応用生涯スポーツ学特殊研究	【宮地(元)】	2		生涯スポーツ学特殊研究【SC】	【宮地(元)】	2		
			応用生涯スポーツ学特殊研究演習	【宮地(元)】	2		生涯スポーツ学特殊研究演習【SC】	【宮地(元)】	2		
			応用スポーツ経営学特殊研究	()	2		スポーツ経営学特殊研究【SC】	()	2		
			応用スポーツ経営学特殊研究演習	()	2		スポーツ経営学特殊研究演習【SC】	()	2		
			応用スポーツ歴史人類学特殊研究	山田・【真田】	2		スポーツ歴史人類学特殊研究【SC】	山田・【真田】	2		
		応用スポーツ歴史人類学特殊研究演習	山田・【真田】	2		スポーツ歴史人類学特殊研究演習【SC】	山田・【真田】	2			
		スポーツ生命科学領域	スポーツ心理学特殊研究	森・中本	2		スポーツ心理学特殊研究	森・中本	2		
			スポーツ心理学特殊研究演習	森・中本	2		スポーツ心理学特殊研究演習	森・中本	2		
			スポーツ医学特殊研究	安田	2		スポーツ医学特殊研究	(安田・藤井)	2		
			スポーツ障害・コンディショニング医学特殊研究	藤井	2						
スポーツ医学特殊研究演習	安田		2		スポーツ医学特殊研究演習	(安田・藤井)	2				
スポーツ障害・コンディショニング医学特殊研究演習	藤井		2								
スポーツ生理学特殊研究	荻田		2		スポーツ生理学特殊研究	荻田	2				
スポーツ生理学特殊研究演習	荻田		2		スポーツ生理学特殊研究演習	荻田	2				
体力科学特殊研究	吉武(康)・宮本		2		体力科学特殊研究	吉武(康)・宮本	2				
体力科学特殊研究演習	吉武(康)・宮本		2		体力科学特殊研究演習	吉武(康)・宮本	2				
バイオメカニクス特殊研究	前田(明)		2		スポーツバイオメカニクス特殊研究	前田(明)	2				
バイオメカニクス特殊研究演習	前田(明)		2		スポーツバイオメカニクス特殊研究演習	前田(明)	2				
運動分子・細胞生物学特殊研究	()		2	(廃止)							
運動分子・細胞生物学特殊研究演習	()		2	(廃止)							
スポーツ栄養学特殊研究	()		2		スポーツ栄養学特殊研究	()	2				
スポーツ栄養学特殊研究演習	()		2		スポーツ栄養学特殊研究演習	()	2				
アスリート医学特殊研究	〔奥脇〕・〔川原〕		2		アスリート医学特殊研究【JISS】	〔奥脇〕・〔川原〕	2				
アスリート医学特殊研究演習	〔奥脇〕・〔川原〕		2		アスリート医学特殊研究演習【JISS】	〔奥脇〕・〔川原〕	2				
応用スポーツ心理学特殊研究	【石井】		2		スポーツ心理学特殊研究【SC】	()	2				
応用スポーツ心理学特殊研究演習	【石井】		2		スポーツ心理学特殊研究演習【SC】	()	2				
応用体力科学特殊研究	【沢井】		2		体力科学特殊研究【SC】	【沢井】	2				
応用体力科学特殊研究演習	【沢井】		2		体力科学特殊研究演習【SC】	【沢井】	2				
応用スポーツバイオメカニクス特殊研究	【大築】		2		スポーツバイオメカニクス特殊研究【SC】	()	2				
応用スポーツバイオメカニクス特殊研究演習	【大築】		2		スポーツバイオメカニクス特殊研究演習【SC】	()	2				
応用スポーツ栄養学特殊研究	()	2		スポーツ栄養学特殊研究【SC】	()	2					
応用スポーツ栄養学特殊研究演習	()	2		スポーツ栄養学特殊研究演習【SC】	()	2					
健康運動学特殊研究	【竹島】	2									
健康運動学特殊研究演習	【竹島】	2									

統合
名称変更
廃止

【KR】は体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムとして実施する科目
【JISS】は国立スポーツ科学センターにおいて開講する科目
【SC】は東京サテライトキャンパスにおいて夜間(6~7限)に開講する科目

コープ演習・実習^{注1)}の実施要項

注1) 修士課程のコープ特講演習・実習、博士課程のコープ特殊研究・実習の科目を示す総称とする。

I. コープ演習・実習の目的

本演習・実習は、修士及び博士課程の学生を対象とし、「国民のニーズに応じた適切なスポーツ指導指導やプログラム開発及びマネジメント、トップアスリートに対する科学的なトレーニング指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度専門職業人として中核的な役割を担う人材を養成する（中期目標）」ために、大学内で身につけた知識や指導・研究スキルを活用し、大学外で実際に指導、研究、実務の実習を行うものである。産業界（研究機構を含む）と連携するものは「インターンシップ型」、地域社会等（学校を含む）と連携するものは「フィールドワーク型」と称して実施する。

例えば、「フィールドワーク型」の学校編では、大学内で行う演習等で身につけた知識や指導スキルを活用し、大学外で実際に小学校等の体育授業の指導補助や授業支援を行うものである。学校現場での複数回の指導補助や授業支援の実習を通して、小学校等における教員のニーズに対応した、体育科教育における学習支援（コーディネイト）を行えることを目標として実施する。

II. コープ演習・実習のタイプと単位認定認定

1. 演習・実習のタイプ

・「フィールドワーク型」:

地域社会等（学校を含む）と連携した演習・実習とする。大学と大学外の実習場所等との反復学習・教育が行われることが重視される。

・「インターンシップ型」:

産業界（研究機構を含む）と連携した演習・実習とする。大学外の実習場所等で集中的に実務経験が培われることが重視される。学部でいう「SCO-OP実習」に相当する。

なお、この演習・実習は本学の授業の一環として実施されるものではあるが、実習先から謝金・交通費などの支給が認められることとする。

2. コープ演習・実習の単位数

・「フィールドワーク型」:

本演習・実習は、大学と大学外の実習先との双方向での活動が中心になる。

例) 2単位: 演習 8 コマ+実習 30 コマ (30 時間: 積み上げ)

例) 3単位: 演習 8 コマ+実習 60 コマ (60 時間: 積み上げ)

・「インターンシップ型」:

本演習・実習は、事前・事後学修と大学外の集中的な実習先での活動が中心になる。

例) 2単位: 演習 8 コマ+実習 60 コマ (60 時間: 2 週間)

例) 4単位: 演習 8 コマ+実習 90 コマ (90 時間: 3 週間)

修得できる単位は最大 4 単位とし、その場合の実習は 90 時間以上とする。

なお、受入先の実情に合わせて実習時間は随時検討する必要がある。

III. コープ演習・実習の実習先の選定

- ・実習先の選定は、履修者が実習先とおよび世話教員（指導教員等）と相談できるものとする。
- ・実習先への依頼は、手続きの関係上、実習開始の2ヶ月前までには教務課に届け出るものとする。
- ・本演習・実習に関わる手続きおよび必要書類は、学部のスポーツ指導実習に準じるものとする。

IV. その他

- ・本演習・実習の実施体制及び成績評価等は、演習・実習のタイプに応じて適宜決めるものとする。

V. 「フィールドワーク型：学校編」(案) の場合

1. 目的

本演習・実習では、大学内で行う演習等で身につけた知識や指導スキルを活用し、大学外で実際に小学校の体育授業の指導補助や授業支援を行う。学校現場での複数回の指導補助や授業支援の実習を通して、小学校における教員のニーズに対応した、体育科教育における学習支援（コーディネイト）を行えることを目標とする。

しかし、具体的な実習内容に関しては実習先の事情を考慮し、大学側と現場との事前の打ち合わせを行った上で演習を行うものとする。

なお、この演習・実習は本学の授業の一環として実施されるものではあるが、実習先から謝金・交通費などの支給が認められることとする。

2. 履修要件

本学における教員免許取得に必要な科目を全て修得しており、中学校における保健体育科の教員免許を有していること。

3. 単位数

本演習・実習は、大学と大学外の実習先との双方向での活動が中心になる。

例) 2単位：演習 8 コマ+実習 30 コマ (30 時間：積み上げ)

例) 4単位：演習 8 コマ+実習 60 コマ (60 時間：積み上げ)

4. 実習先

原則、鹿屋市内の小学校とする。

5. 授業内容

別紙シラバス参照。

6. 成績評価

- ・事前学習、大学と実習先との往還で行う演習活動、実習活動、事後活動を総合的に判断して評価する。
- ・実習先での実習者の資質・能力も評価も加える。

7. その他

授業科目名	コープ特講演習・実習		授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	研究科教務委員会			補助担当者名		
単位数	2~4 単位	履修年次	-		受け入れ人数	2-3
授業の概要 及び達成目標	今日、小学校における体育科教育では、教師の「実践的指導力」の向上が求められている。本授業では、大学内で行う演習等で身につけた知識や指導スキルを活用し、大学外で実際に小学校の体育授業の指導補助や授業支援を行う。学校現場での複数回の指導補助や授業支援の実習を通して、小学校における教員のニーズに対応した、体育科教育における学習支援(コーディネイト)を行えることを目標としている。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績(%) □出席状況(%) ■授業への取り組み状況(60%) ■レポート等の提出状況(40%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業・打ち合わせへの積極的な取り組み、レポート、実習(模擬授業)の内容により総合的に判断する。					
テキスト、教材 参	適宜、提示する。					
履修条件・ 関連科目	中学校の保健体育科の教員免許状を有していること	備考(教員メッ セージ含む)	履修可能単位数は実習時間に応じて2~4単位とする。 実習先は原則として鹿屋市内の小学校とする。			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	オリエンテーション コープ実習の目的・意義・内容			授業の復習(30分)	
2	"	事前学修(理論学習, 模擬授業, 教材開発等)			事前学修の準備と復習(60分)	
3	"	事前学修(理論学習, 模擬授業, 教材開発等)			事前学修の準備と復習(60分)	
4	"	事前学修(理論学習, 模擬授業, 教材開発等)			事前学修の準備と復習(60分)	
5	"	事前学修(理論学習, 模擬授業, 教材開発等)			事前学修の準備と復習(60分)	
6	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
7	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
8	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
9	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
10	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
11	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
12	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
13	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
14	"	小学校体育授業補助体験の実践発表①			発表の準備(60分)	
15	"	小学校体育授業補助体験の実践発表②			発表の振り返り(60分)	
16	"	全体省察				

授業科目名	コープ特殊研究・実習		授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通 (共通領域)
担当教員名	研究科教務委員会			補助担当者名		
単位数	2～4 単位	履修年次	—		受け入れ人数	2～3
授業の概要 及び達成目標	今日、小学校における体育科教育では、教師の「実践的指導力」の向上が求められている。本授業では、大学内で行う演習等で身につけた知識や指導スキルを活用し、大学外で実際に小学校の体育授業の指導補助や授業支援を行う。学校現場での複数回の指導補助や授業支援の実習を通して、小学校における教員のニーズに対応した、体育科教育における学習支援(コーディネイト)を行えることを目標としている。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績(%) □出席状況(%) ■授業への取り組み状況(60%) ■レポート等の提出状況(40%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業・打ち合わせへの積極的な取り組み、レポート、実習(模擬授業)の内容により総合的に判断する。					
テキスト、教材 参	適宜、提示する。					
履修条件・ 関連科目	中学校の保健体育科の教員免許状を有していること	備考(教員メッ セージ含む)	履修可能単位数は実習時間に応じて2～4単位とする。 実習先は原則として鹿屋市内の小学校とする。			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	オリエンテーション コープ実習の目的・意義・内容			授業の復習(30分)	
2	"	事前学修(理論学習, 模擬授業, 教材開発等)			事前学修の準備と復習(60分)	
3	"	事前学修(理論学習, 模擬授業, 教材開発等)			事前学修の準備と復習(60分)	
4	"	事前学修(理論学習, 模擬授業, 教材開発等)			事前学修の準備と復習(60分)	
5	"	事前学修(理論学習, 模擬授業, 教材開発等)			事前学修の準備と復習(60分)	
6	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
7	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
8	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
9	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
10	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
11	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
12	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
13	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
14	"	小学校体育授業補助体験の実践発表①			発表の準備(60分)	
15	"	小学校体育授業補助体験の実践発表②			発表の振り返り(60分)	
16	"	全体省察				

大学院満足度アンケート調査結果（修士修了生）

【Ⅰ：プロフィール】

①あなたの入学した年を選択してください

	令和元年度	
1. 2017年 (H29)	1	11.1%
2. 2018年 (H30)	8	88.9%
3. 2019年 (H31/R1)	0	0.0%
4. 2020年 (R2)	0	0.0%

②あなたが入学した際の入試の種類を選択してください

	令和元年度	
1. 一般入試	9	100.0%
2. 社会人入試	0	0.0%
3. 現職教員入試	0	0.0%
4. 外国人留学生入試	0	0.0%

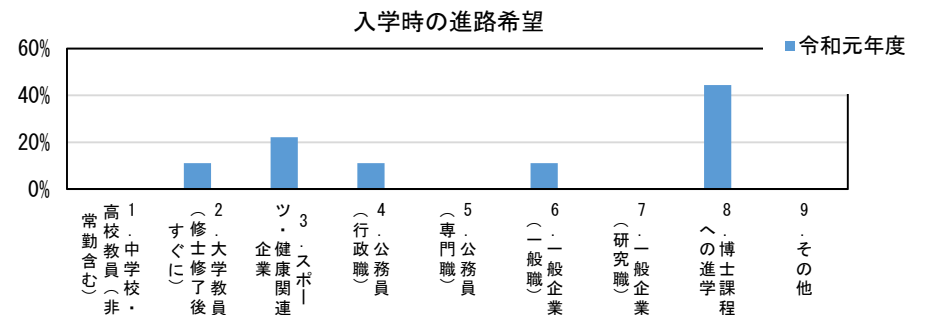
③あなたの性別を選択してください

	令和元年度	
1. 男性	7	77.8%
2. 女性	2	22.2%
3. その他	0	0.0%

【Ⅱ：進路に関する質問】

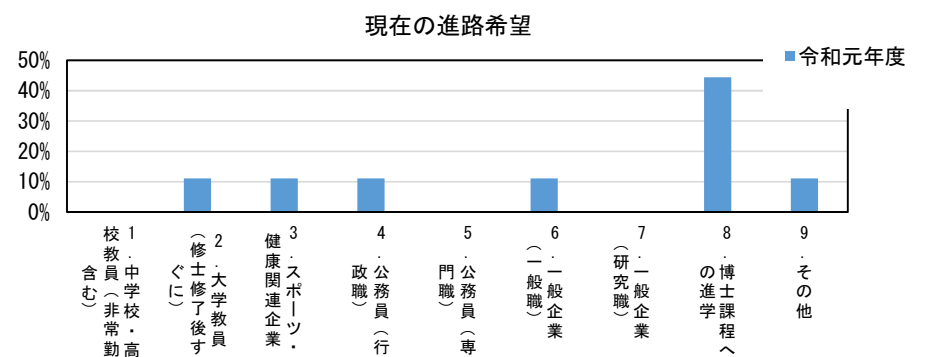
①入学時の進路希望（4月頃）を選択してください

	令和元年度	
1. 中学校・高校教員（非常勤含む）	0	0.0%
2. 大学教員（修士修了後すぐに）	1	11.1%
3. スポーツ・健康関連企業	2	22.2%
4. 公務員（行政職）	1	11.1%
5. 公務員（専門職）	0	0.0%
6. 一般企業（一般職）	1	11.1%
7. 一般企業（研究職）	0	0.0%
8. 博士課程への進学	4	44.4%
9. その他	0	0.0%



②現在の進路（希望）を選択してください

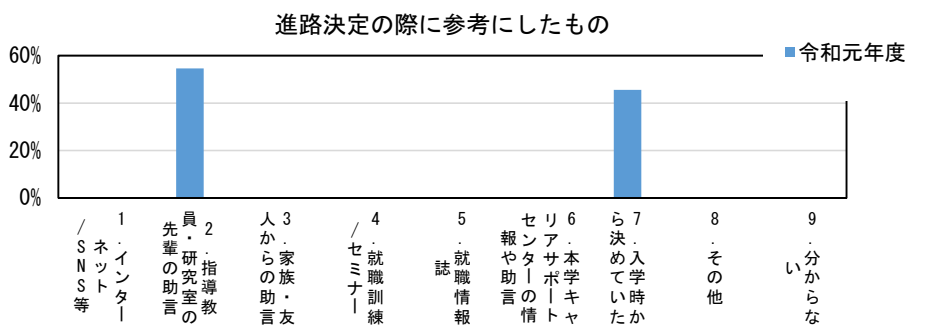
	令和元年度	
1. 中学校・高校教員（非常勤含む）	0	0.0%
2. 大学教員（修士修了後すぐに）	1	11.1%
3. スポーツ・健康関連企業	1	11.1%
4. 公務員（行政職）	1	11.1%
5. 公務員（専門職）	0	0.0%
6. 一般企業（一般職）	1	11.1%
7. 一般企業（研究職）	0	0.0%
8. 博士課程への進学	4	44.4%
9. その他	1	11.1%



その他：スポーツ・健康関連企業、博士課程への進学

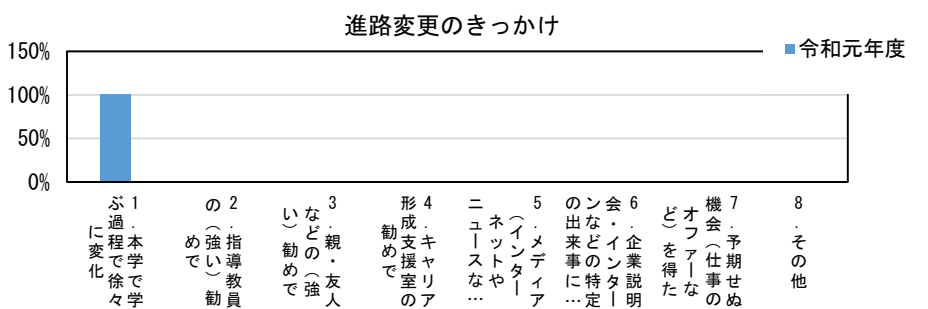
③現在希望する職業を決める際、参考にしたものを選択してください（複数回答可）

	令和元年度	
1. インターネット/SNS等	0	0.0%
2. 指導教員・研究室の先輩の助言	6	54.5%
3. 家族・友人からの助言	0	0.0%
4. 就職訓練/セミナー	0	0.0%
5. 就職情報誌	0	0.0%
6. 本学キャリアサポートセンターの情報や助言	0	0.0%
7. 入学時から決めていた	5	45.5%
8. その他	0	0.0%
9. 分からない	0	0.0%



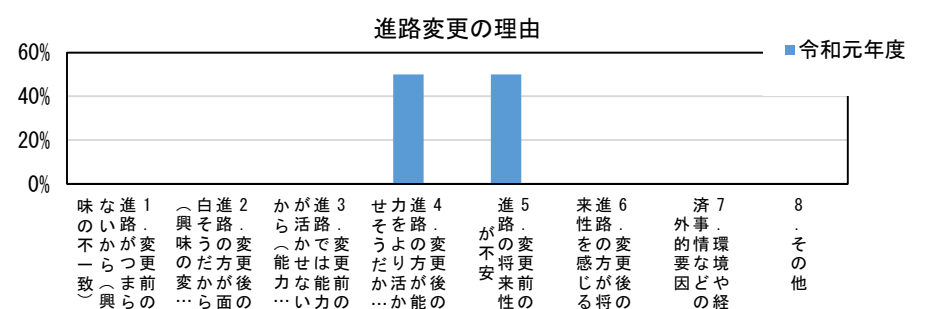
④入学時と進路（希望）が変わった方にお尋ねします そのきっかけを選択してください

	令和元年度	
1. 本学で学ぶ過程で徐々に変化	3	100.0%
2. 指導教員の（強い）勧めで	0	0.0%
3. 親・友人などの（強い）勧めで	0	0.0%
4. キャリア形成支援室の勧めで	0	0.0%
5. メディア（インターネットやニュースなど）の影響	0	0.0%
6. 企業説明会・インターンなどの特定の出来事によって	0	0.0%
7. 予期せぬ機会（仕事のオファーなど）を得た	0	0.0%
8. その他	0	0.0%



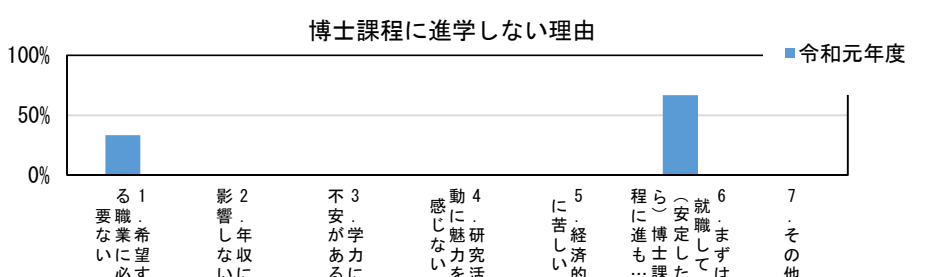
⑤入学時と進路（希望）が変わった方にお尋ねします その理由を選択してください

	令和元年度	
1. 変更前の進路がつまらないから（興味の一一致）	0	0.0%
2. 変更後の進路の方が面白そうだから（興味の変化）	0	0.0%
3. 変更前の進路では能力を活かせないから（能力の一一致）	0	0.0%
4. 変更後の進路の方が能力をより活かそうだから（能力の一一致）	1	50.0%
5. 変更前の進路の将来性が不安	1	50.0%
6. 変更後の進路の方が将来性を感じる	0	0.0%
7. 環境や経済事情などの外的要因	0	0.0%
8. その他	0	0.0%



⑥博士課程に進学しない方にお尋ねします その理由を選択してください

	令和元年度	
1. 希望する職業に必要な	1	33.3%
2. 年収に影響しない	0	0.0%
3. 学力に不安がある	0	0.0%
4. 研究活動に魅力を感じない	0	0.0%
5. 経済的に苦しい	0	0.0%
6. まずは就職して（安定したら）博士課程に進もうと思っている	2	66.7%
7. その他	0	0.0%

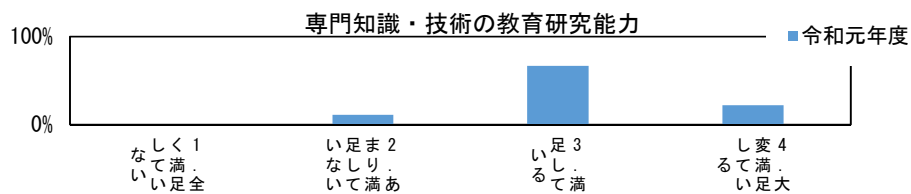


【Ⅲ：教学マネジメント（3つの力等）に関連する満足度の質問】

①あなたの修了までに身につけた力の満足度についてお伺いします

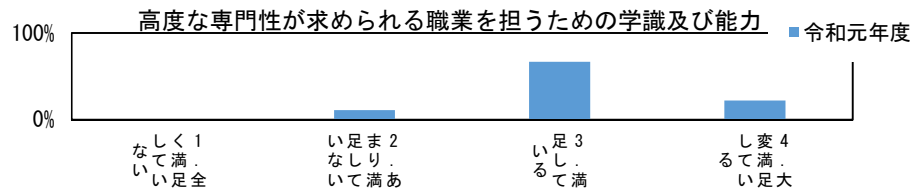
スポーツ・武道及び体育・健康科学における「専門知識・技術の教育研究能力」の修得について

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	1	11.1%
3. 満足している	6	66.7%
4. 大変満足している	2	22.2%



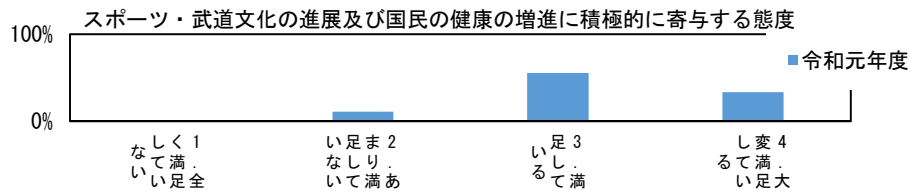
スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける「高度な専門性が求められる職業を担うための学識及び能力」の修得について

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	1	11.1%
3. 満足している	6	66.7%
4. 大変満足している	2	22.2%



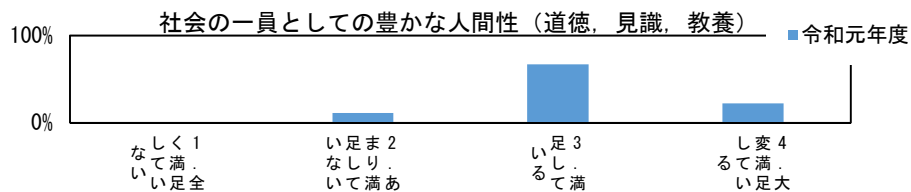
「スポーツ・武道文化の進展及び国民の健康の増進に積極的に寄与する態度」の修得について

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	1	11.1%
3. 満足している	5	55.6%
4. 大変満足している	3	33.3%



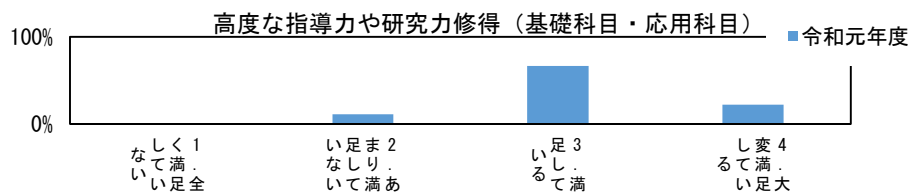
「社会の一員としての豊かな人間性（道徳、見識、教養）」の修得について

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	1	11.1%
3. 満足している	6	66.7%
4. 大変満足している	2	22.2%



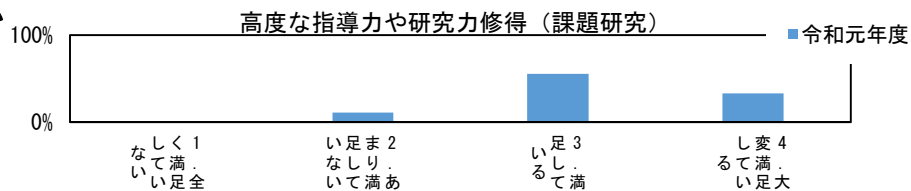
基礎科目や応用科目は、あなたの目指す「高度な指導力や研究力修得」を満足させるものでしたか

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	1	11.1%
3. 満足している	6	66.7%
4. 大変満足している	2	22.2%



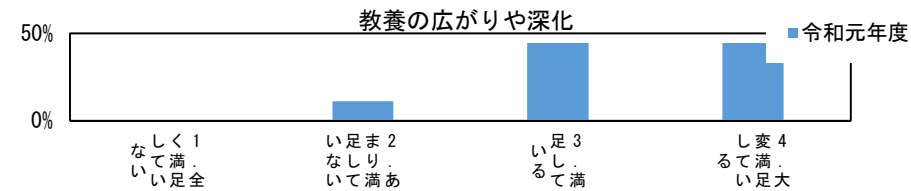
課題研究（修士論文作成等）は、あなたの目指す「高度な指導力や研究力修得」を満足させるものでしたか

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	1	11.1%
3. 満足している	5	55.6%
4. 大変満足している	3	33.3%



修士課程は、「教養の広がりや深化」を満足させるものでしたか

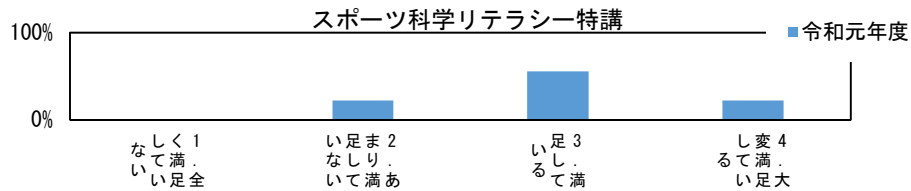
	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	1	11.1%
3. 満足している	4	44.4%
4. 大変満足している	4	44.4%



②共通科目（修士：必修4科目）の全体的満足度についてお伺いします

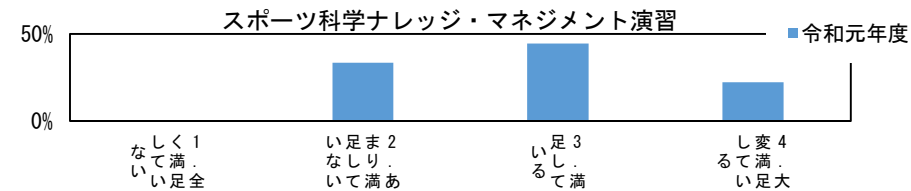
スポーツ科学リテラシー特講

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	2	22.2%
3. 満足している	5	55.6%
4. 大変満足している	2	22.2%



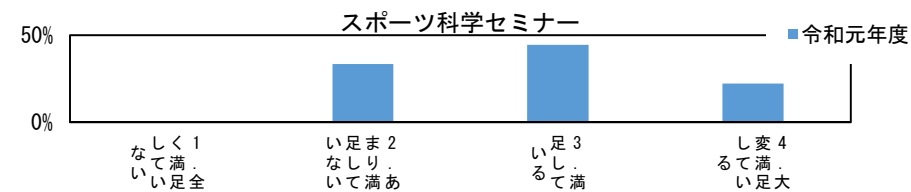
スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	3	33.3%
3. 満足している	4	44.4%
4. 大変満足している	2	22.2%



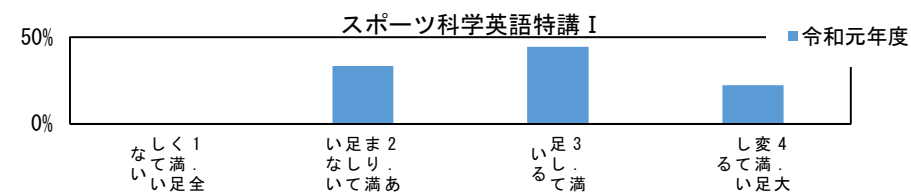
スポーツ科学セミナー

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	3	33.3%
3. 満足している	4	44.4%
4. 大変満足している	2	22.2%



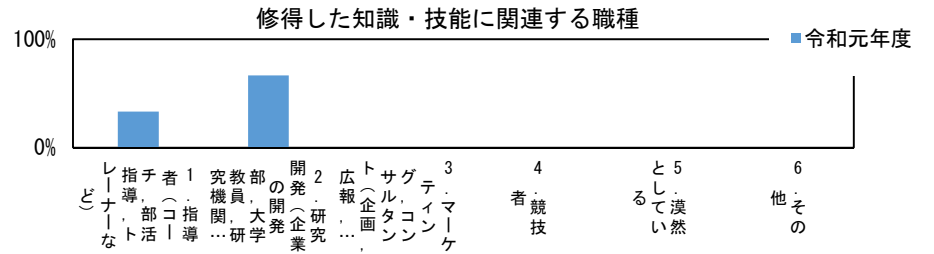
スポーツ科学英語特講 I

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	3	33.3%
3. 満足している	4	44.4%
4. 大変満足している	2	22.2%



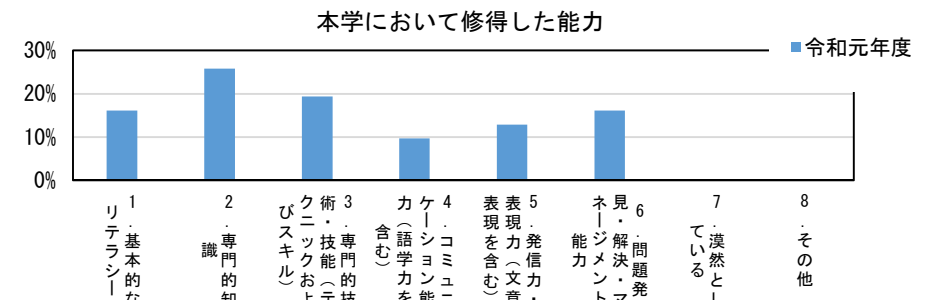
③あなたが修得した知識・技能に関連する職種を選択してください

	令和元年度	
1. 指導者（コーチ、部活指導、トレーナーなど）	3	33.3%
2. 研究開発（企業の開発部、大学教員、研究機関など）	6	66.7%
3. マーケティング、コンサルタント（企画、広報、アナリストなど）	0	0.0%
4. 競技者	0	0.0%
5. 漠然としている	0	0.0%
6. その他	0	0.0%



④前問で回答した職種について、本学において修得した能力を選択してください（複数回答可）

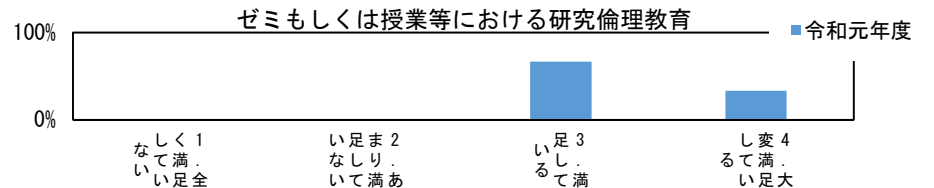
	令和元年度	
1. 基本的なリテラシー	5	16.1%
2. 専門的知識	8	25.8%
3. 専門的技術・技能（テクニックおよびスキル）	6	19.4%
4. コミュニケーション能力（語学力を含む）	3	9.7%
5. 発信力・表現力（文章表現を含む）	4	12.9%
6. 問題発見・解決・マネジメント能力	5	16.1%
7. 漠然としている	0	0.0%
8. その他	0	0.0%



【IV：研究活動：倫理教育、論文指導・審査体制の満足度の質問】

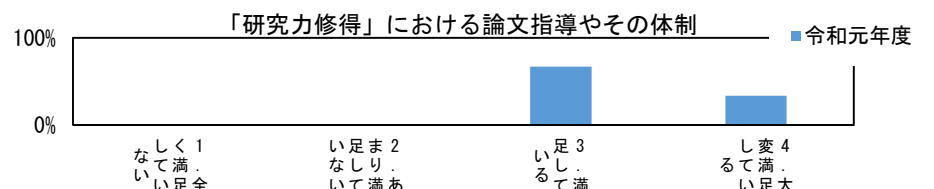
①本学での研究活動の満足度についてお伺いします
ゼミもしくは授業等における研究倫理教育について

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	0	0.0%
3. 満足している	6	66.7%
4. 大変満足している	3	33.3%



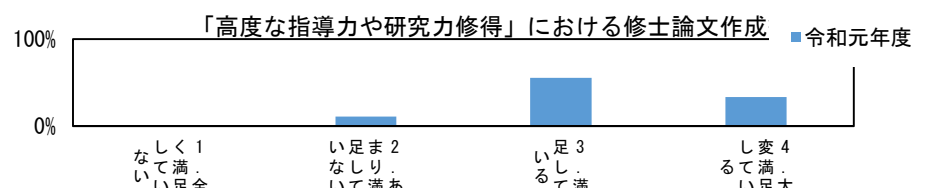
あなたの「研究力修得」における論文指導やその体制について

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	0	0.0%
3. 満足している	6	66.7%
4. 大変満足している	3	33.3%



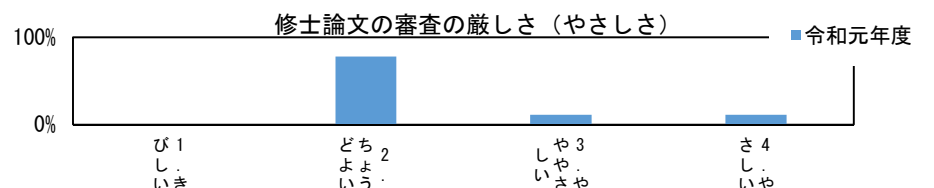
修士論文作成等は、あなたの目指す「高度な指導力や研究力修得」を満足させるものでしたか

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	1	11.1%
3. 満足している	5	55.6%
4. 大変満足している	3	33.3%



②修士論文審査についてお伺いします
修士論文の審査の厳しさ（やさしさ）について

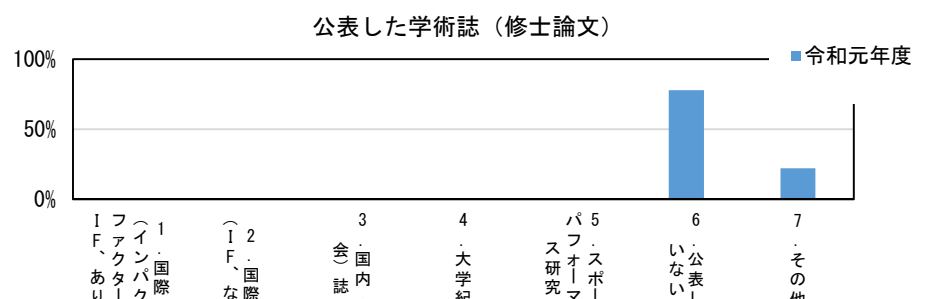
	令和元年度	
1. きびしい	0	0.0%
2. ちょうどよい	7	77.8%
3. やややさしい	1	11.1%
4. やさしい	1	11.1%



③修士論文について、公表した学術誌を選択してください（複数回答可）

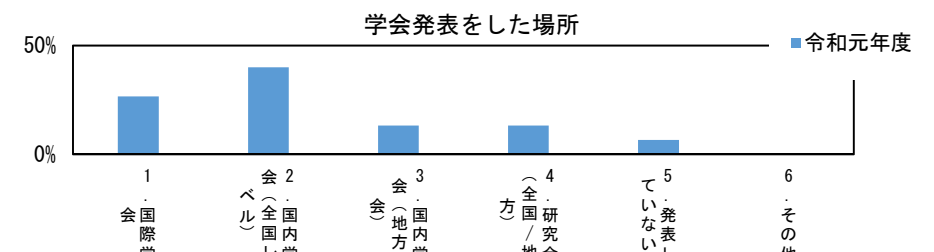
	令和元年度	
1. 国際誌（インパクトファクター：IF、あり）	0	0.0%
2. 国際誌（IF、なし）	0	0.0%
3. 国内（学会）誌	0	0.0%
4. 大学紀要	0	0.0%
5. スポーツパフォーマンス研究	0	0.0%
6. 公表していない	7	77.8%
7. その他	2	22.2%

その他：今後国内誌に投稿予定です。
英語論文に翻訳し、今後投稿を検討中。



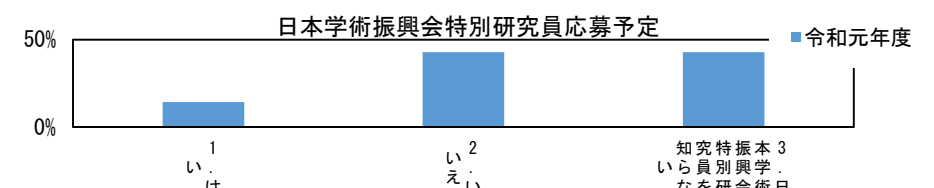
④学会発表をした場所を選択してください（複数回答可）

	令和元年度	
1. 国際学会	4	26.7%
2. 国内学会（全国レベル）	6	40.0%
3. 国内学会（地方）	2	13.3%
4. 研究会（全国/地方）	2	13.3%
5. 発表していない	1	6.7%
6. その他	0	0.0%



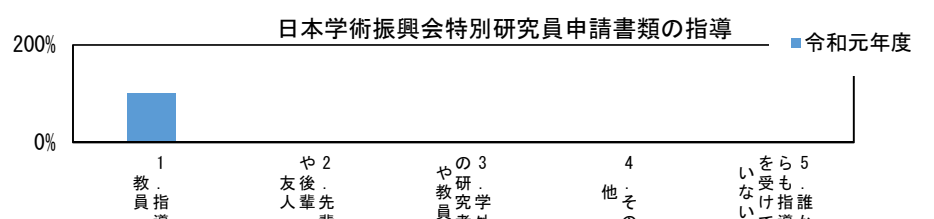
⑤博士課程に進学する方にお尋ねします 本年度の日本学術振興会特別研究員（DC1/DC2/PD）に応募している、あるいは次年度に応募する予定はありますか

	令和元年度	
1. はい	1	14.3%
2. いいえ	3	42.9%
3. 日本学術振興会特別研究員を知らない	3	42.9%



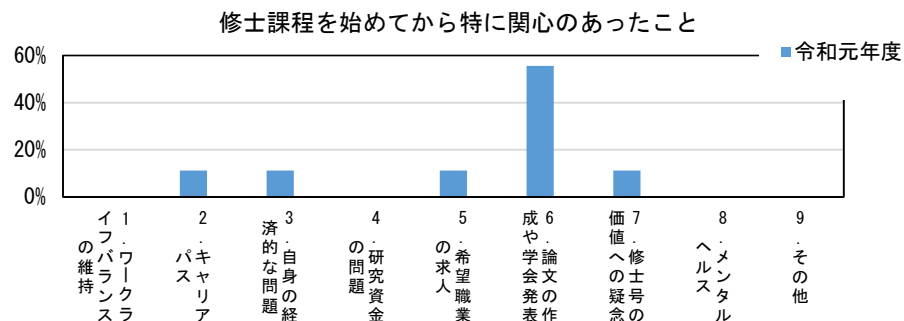
⑤で「はい」を選択した方にお尋ねします 申請書類はどなたかに指導してもらいましたか（複数回答可）

	令和元年度	
1. 指導教員	1	100.0%
2. 先輩や後輩、友人	0	0.0%
3. 学外の研究者や教員	0	0.0%
4. その他	0	0.0%
5. 誰からも指導を受けていない	0	0.0%



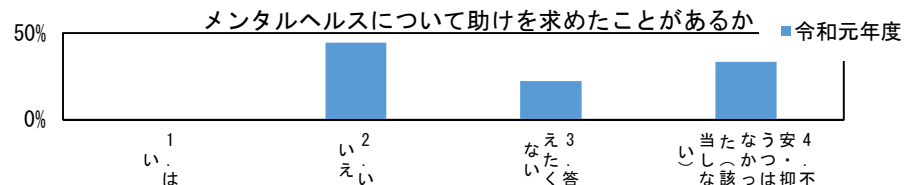
【V：経済的支援と生活の充実に関する関心・満足度の質問】
①修士課程を始めてから特に関心のあったことを選択してください

	令和元年度	
1. ワークライフバランスの維持	0	0.0%
2. キャリアパス	1	11.1%
3. 自身の経済的な問題	1	11.1%
4. 研究資金の問題	0	0.0%
5. 希望職業の求人	1	11.1%
6. 論文の作成や学会発表	5	55.6%
7. 修士号の価値への疑念	1	11.1%
8. メンタルヘルス	0	0.0%
9. その他	0	0.0%



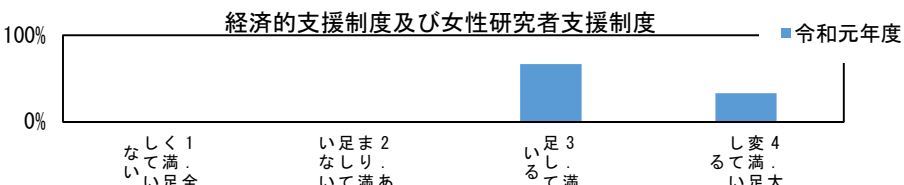
②修士課程研究に伴うメンタルヘルス（不安や抑うつ）について助けを求めたことがありますか

	令和元年度	
1. はい	0	0.0%
2. いいえ	4	44.4%
3. 答えたくない	2	22.2%
4. 不安・抑うつはなかった（該当しない）	3	33.3%



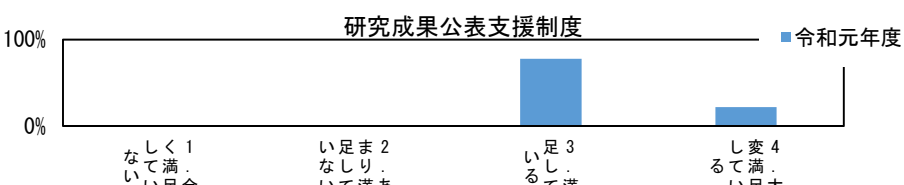
③各種支援制度の満足度についてお伺いします
経済的支援（学費減免/学内外の奨学金など）制度及び女性研究者支援制度について

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	0	0.0%
3. 満足している	6	66.7%
4. 大変満足している	3	33.3%



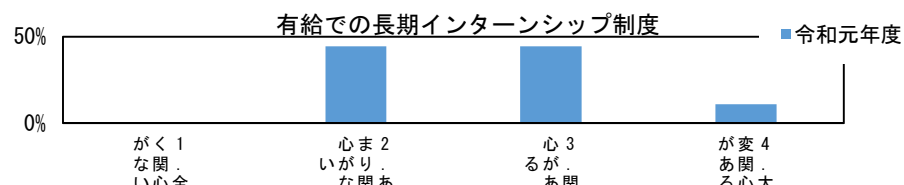
研究成果公表支援制度（国際学会発表等旅費/21世紀体育学最先端研究支援プロジェクト）について

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	0	0.0%
3. 満足している	7	77.8%
4. 大変満足している	2	22.2%



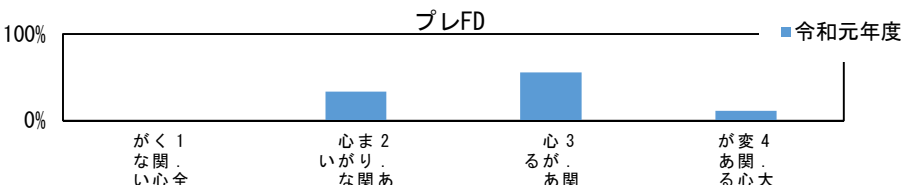
【VI：キャリアパスについての関心度・満足度の質問】
①興味・関心の程度についてお伺いします
大学院在学中の、「有給での長期インターンシップ制度」について

	令和元年度	
1. 全く関心がない	0	0.0%
2. あまり関心がない	4	44.4%
3. 関心がある	4	44.4%
4. 大変関心がある	1	11.1%



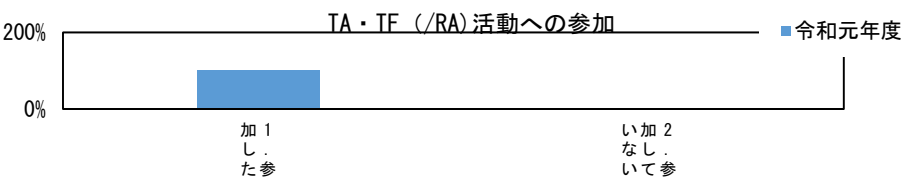
将来教員になるための授業やセミナー、プレFDについて

	令和元年度	
1. 全く関心がない	0	0.0%
2. あまり関心がない	3	33.3%
3. 関心がある	5	55.6%
4. 大変関心がある	1	11.1%



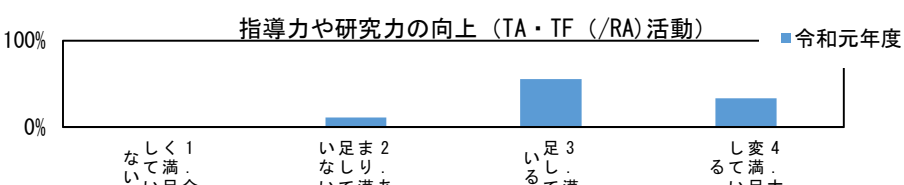
②TA・TF（/RA）活動に参加しましたか

	令和元年度	
1. 参加した	9	100.0%
2. 参加していない	0	0.0%



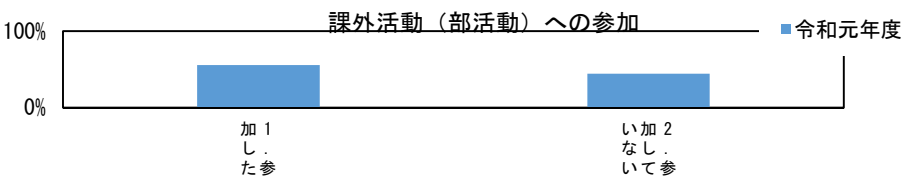
②で「参加した」を選択した方にお伺いします
TA・TF（/RA）活動は、あなたの「指導力や研究力の向上」を満足させるものでしたか

	令和元年度	
1. 全く満足していない	0	0.0%
2. あまり満足していない	1	11.1%
3. 満足している	5	55.6%
4. 大変満足している	3	33.3%



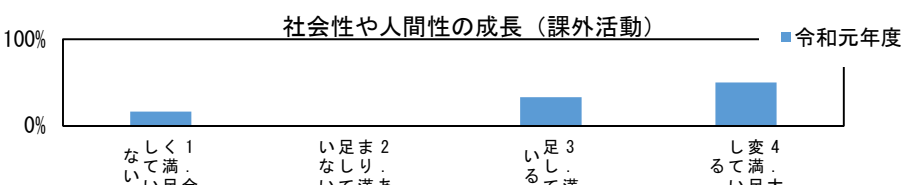
【VII：課外活動に関する満足度の質問】
①課外活動（部活動）に参加しましたか

	令和元年度	
1. 参加した	5	55.6%
2. 参加していない	4	44.4%



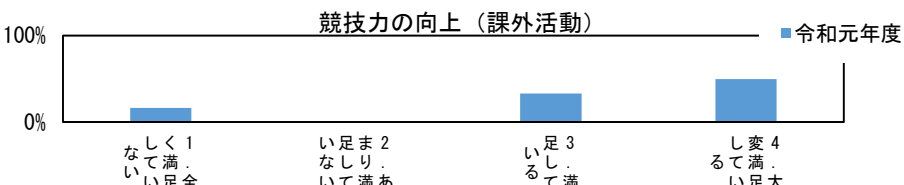
①で「参加した」を選択した方にお尋ねします
課外活動は、あなたの「社会性や人間性の成長」を満足させるものでしたか

	令和元年度	
1. 全く満足していない	1	16.7%
2. あまり満足していない	0	0.0%
3. 満足している	2	33.3%
4. 大変満足している	3	50.0%



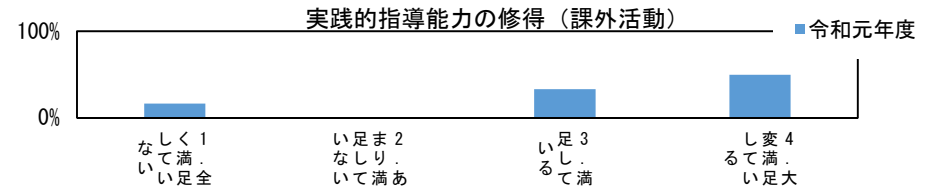
課外活動は、あなたの「競技力の向上」を満足させるものでしたか

	令和元年度	
1. 全く満足していない	1	16.7%
2. あまり満足していない	0	0.0%
3. 満足している	2	33.3%
4. 大変満足している	3	50.0%



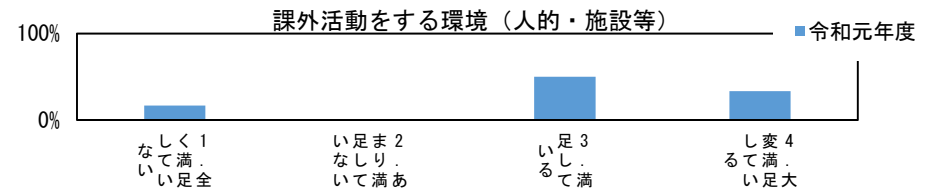
課外活動は、あなたの「実践的指導能力の修得」を満足させるものでしたか

	令和元年度	
1. 全く満足していない	1	16.7%
2. あまり満足していない	0	0.0%
3. 満足している	2	33.3%
4. 大変満足している	3	50.0%



課外活動をする環境（人的・施設等）は、あなたにとって満足でしたか

	令和元年度	
1. 全く満足していない	1	16.7%
2. あまり満足していない	0	0.0%
3. 満足している	3	50.0%
4. 大変満足している	2	33.3%



修士課程スポーツ国際開発学共同専攻の概要（ホームページより抜粋）

https://tkjids.taiiku.tsukuba.ac.jp/program/program_overview

背景

スポーツは、社会開発のための重要なツールとして、国際社会において認識されています。教育、ジェンダー、貧困、健康、平和構築など社会課題の解決に、スポーツを通じた活動が広がるなか、より高度な知識と能力を備えた人材が必要とされています。

「スポーツ国際開発学共同専攻」は、国内外で生じているこれらの課題解決にスポーツを通して貢献できる人材の育成を目指す修士課程です。筑波大学、鹿屋体育大学、そして日本スポーツ振興センターの三機関が共同して、スポーツを通じた国際開発と平和に関する実践的能力を養う教育プログラムを提供します。

目的

スポーツ・体育・健康に関する理論的・実践的な知識を英語によって学び、国際平和と友好、豊かな地域社会の創造に寄与できる人材を養成します。

教育目標

4つの能力を身につけることを目標とします。

- 国際情勢と政策および国際的な開発課題に対する知識と分析力の獲得、使命感の育成
- グローバルな俯瞰力と実践現場で発揮できるリーダーシップ能力の習得
- スポーツ・体育・健康に関する基礎的知識と実践力の向上
- 国際貢献のためのコミュニケーション力とマネジメント力の向上

プログラムで養成される能力や特質

- 国際情勢と政策に関する知識とともに、他者や社会への自立・成長、変化・発展、目標達成に対する意志、価値観、そして使命感
- グローバルな俯瞰力と地域社会で生活する人々へのまなざしをもって、実践現場でリーダーシップを発揮できるプラクティショナーとしての突破力
- 世界平和と友好を構築し、人々の生活を豊かにするスポーツ・体育・健康に対する深い理解力
- 国際社会に貢献できるコミュニケーション力とマネジメント力（スポーツ・体育・健康に関連した事業における実践能力、語学力）

求める人材像

- スポーツ・体育・健康に関する基礎知識を持ち、スポーツに関わる実務経験のある者
- 国際開発と平和構築に関する実務経験や知識のある者及びそれに関心のある者
- 英語によるコミュニケーション能力がある者

3年制博士課程大学体育スポーツ高度化共同専攻の概要（ホームページより抜粋）

<http://kododaigaku.taiiku.tsukuba.ac.jp/about>

前文

新成長戦略（健康長寿社会の実現）、スポーツ立国戦略及びスポーツ基本法の理念に従って、豊かな知識基盤社会を今後実現して行くためには、その担い手である大学生の体育スポーツ指導の充実が重要です。とりわけ、体育スポーツの専門家を養成する体育系大学における教育の充実・改革が必要不可欠となります。

しかし、現在の博士課程では、博士論文作成に柱を置いた従来の研究指向型の人材養成システムが一般的で、十分な成果を上げているとは言えません。今、社会が大学に求めているのは、ある専門分野における学術研究の進歩のみに貢献する人材養成よりもむしろ、学際的方法で職業上の諸問題の解決に貢献する人材養成です。

そこで、教育能力育成を軸とした教育指向型の博士課程の創設、さらに大学体育や大学スポーツ充実のための実践的研究を行える能力を育成する教育プログラムとして、本専攻が開設されます。体育系の実技教育・指導に深く関わっている大学教員の博士号取得向上および実践研究推進に繋がるとともに、高等教育における体育スポーツ教育の質保証へ直接的に貢献するものです。

したがって、本専攻は大学体育や大学スポーツの充実・発展へ寄与する実践研究と、それに基づく教育実践の循環を促進できる高度専門職業人としての大学教員の養成を目的としています。

また、本専攻は筑波大学と鹿屋体育大学との共同設置で運営されます。各大学の専門性・独自性を最大限に活かしながら、現職教員の方にも可能な限り無理なく受講ができるように、遠隔講義システムや週末・長期休業を利用するなど、カリキュラムが工夫されています。

教育目標

定められた要件（授業科目の履修単位及び研究指導等）を充足したうえで博士論文を提出し、学位審査に合格し以下の能力を有することが最終試験等において認定されたものに博士（体育スポーツ学）の学位を授与します。

1. 大学体育や大学スポーツを先導する確かな専門知識と実技教育能力
2. 大学体育のカリキュラム等の開発および授業能力、大学スポーツの指導能力
3. 大学体育や大学スポーツにおける現場の実践知を探求し、その研究結果を教育へと循環させることができる実践的研究能力
4. 仮説創設型および仮説検証型研究能力

5. 高等教育における、体育スポーツの教育の質保証を先導する高度な指導者に必要な教養
6. 高い倫理観および国際感覚

入学者選抜の基本方針

大学体育・大学スポーツの教育指導現場における問題解決のための実践的教育・研究能力獲得に高い意欲を持つとともに、修士課程（専攻領域を問わず）を経るなど一定の水準の学術的研究能力を身につけた者を選抜します。

スポーツ国際開発学共同専攻海外OJP実習先一覧

No.	実習施設名称	所在地	実習を行う授業科目名	派遣実績 (年度:人数)
1	Bangkok Glass Public Co.Ltd	タイ	On the Job Practice (International)	平成29年度:1名
2	Kitchener Waterloo Sports Coun	カナダ	On the Job Practice (International)	平成29年度:1名
3	鹿屋市武道館	鹿児島県鹿屋市 (派遣学生は外国人留学生)	On the Job Practice (International)	平成30年度:1名
4	Asociacion de beisbol de Santo Domingo	コスタリカ	On the Job Practice (International)	平成30年度:1名
5	Neo Salud	コスタリカ	On the Job Practice (International)	平成30年度:1名

※令和元年度は、2名が実施予定であったが新型コロナウイルス感染症の影響により延期。

鹿屋体育大学大学院体育学研究科(博士後期課程)

体育学・スポーツ科学
連携大学院教育プログラム概要
(簡略版/令和元年度)



II. 教育課程

① 本教育プログラムの目的

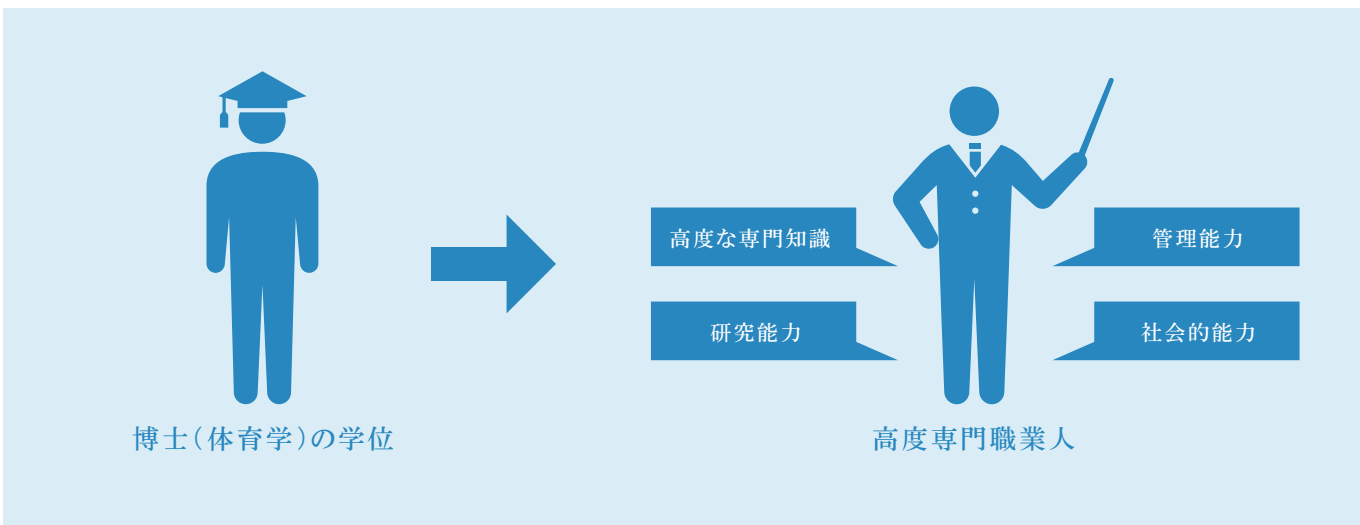
九州地区において、学際的・複合的な知識や実践力を身につけた人材を育成するために、学術的・複合的かつ一貫した指導体制のもとで教育・研究指導を可能にする博士後期課程が必要となってきます。

つまり、1つの大学に所属する特定の領域を専門とする教員のみでなく、複数の大学に所属する様々な領域を専門とする教員が連携しながら教育・研究指導を進めていくべきであると考えられます。

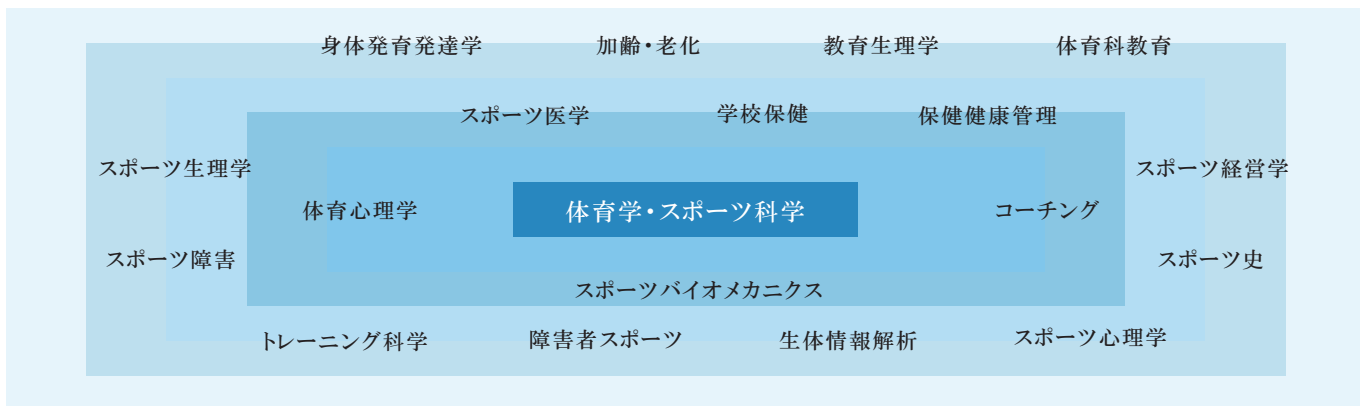
鹿屋(かのや)体育大学は、このたび、博士後期課程の大学院生に対し、既存の教育プログラムの拡充を狙い、新たな研究・教育指導を提供

する連携大学院教育プログラムを提案します。

この連携大学院教育プログラムでは、我が国で唯一の国立4年制体育大学である鹿屋体育大学大学院の体育学研究科体育学専攻(博士後期課程)を中心として、体育系の修士課程を有する大学の大学院教育学研究科が連携・協力して博士後期課程の教育・研究指導を行うことで、「体育・スポーツ・健康」の諸科学を包括的に捉え、学際的・複合的に研究を推進し、研究成果を社会に還元していくための高度な専門的知識を備えた人材(高度専門職業人)を養成し、博士(体育学)の学位取得を目指しています。



■ 体育学・スポーツ科学は下記の研究分野等からなる複合領域です



※日本学術振興会 科学研究費助成事業 細目表より一部抜粋

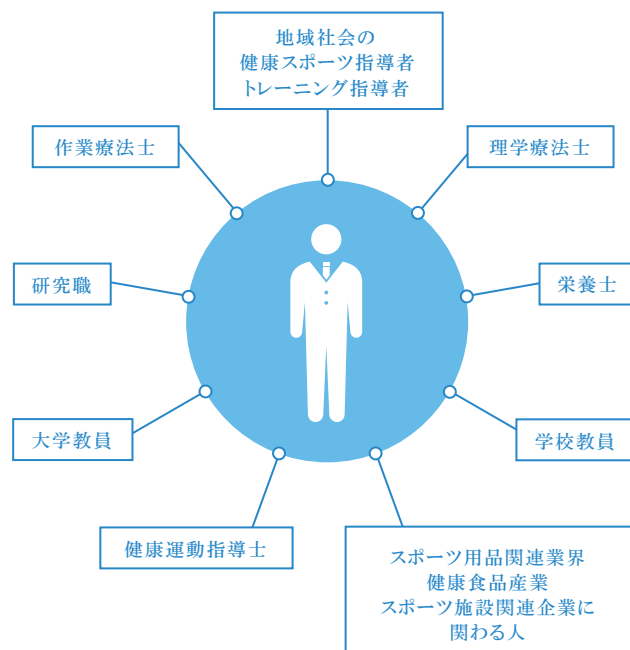
② 対象となる方

鹿屋体育大学・熊本大学・鹿児島大学・宮崎大学に通学可能な、博士後期課程への進学を希望している修士課程の2年生、および体育・スポーツ・健康に関わる仕事に従事している現職の教員、行政職員、運動指導者・支援者等を対象としています。

※修士の学位を有する方、同等の業績と認められた方

将来、体育・スポーツ・健康の研究者、指導者、支援者を目指している
修士課程の大学院生

現在、体育・スポーツ・健康の研究者、指導者、支援者として働いていてさらに高度な専門的知識を学びたい社会人



③ 学生の身分・所属

各大学において特別な身分^{注3)}を有することによって、鹿屋体育大学の大学院生でありながら、連携先大学院に研究活動の基盤をおくことができます。これにより、熊本大学や鹿児島大学、宮崎大学の修士課程修了後にそのまま大学に残りながら、鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻に在籍できることになります。

したがって鹿屋体育大学周辺に住んでいない方でも、連携先大学院に通学鹿屋な方であれば鹿屋体育大学大学院の博士(体育学)の学位取得を目指すことが可能となります。

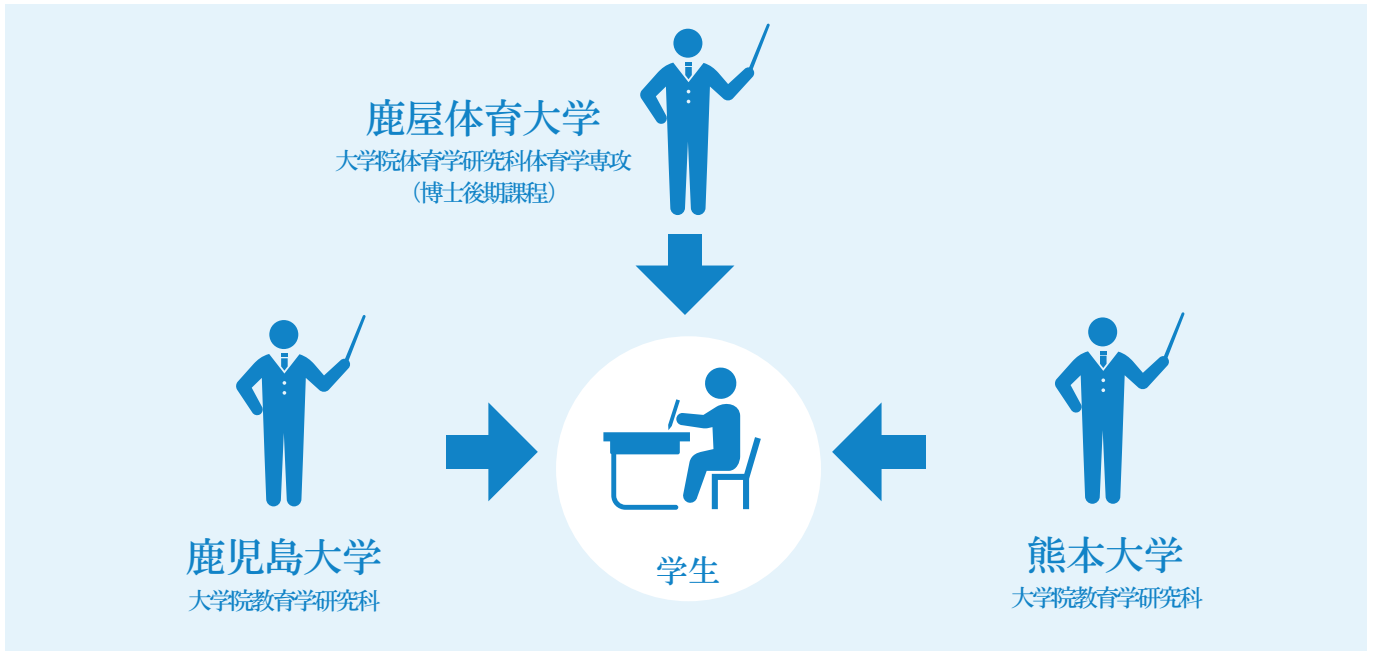
注3)熊本大学・鹿児島大学・宮崎大学では特別研究学生となる。

連携大学院教育プログラムの特色

本教育プログラムでは、内容の複合性と教育・研究指導の一貫性の両方を兼ね備えた教育体制を提供します。

4 共同講義

連携大学院教育プログラムでは、異なる分野を専門とする大学の教員が担当教員となり、体育学・スポーツ科学についての幅広い専門的知識の養成を行うためにオムニバス形式の授業を取り入れています。



共通科目

複雑な現代社会において、心身の健康の維持・向上の問題を解決するためには、より学際的かつ複合的な視点から体育学・スポーツ科学をとらえる必要があります。

本講義では、この視点から、複合領域の「体育学」「スポーツ科学」に関して身体教育学系、スポーツ科学系、応用健康科学系の3つの分野から各専門分野の教員がオムニバス形式で解説を行います。これにより、複合領域としての体育学・スポーツ科学の学問特性に関する基礎的知識を習得し、高度な専門的指導者としての教養を身につけることを目的としています。

■ 体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ

担当教員名	所属	授業内容
徳田 修司	鹿屋	体育学における学際的視点の必要性①
高井 洋平	鹿屋	トレーニング科学からみた研究アプローチ
齋藤 和也	熊本	神経・筋肉生理学からみた研究アプローチ
森 司朗	鹿屋	運動発達からみた研究アプローチ
竹下 俊一	鹿屋	体育・スポーツ経営からみた研究アプローチ
小澤 雄二	熊本	運動学・コーチ学からみた研究アプローチ
中本 浩揮	鹿屋	スポーツ心理学からみた研究アプローチ
森 司朗	鹿屋	体育学における学際的視点の必要性②

■ 体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ

担当教員名	所属	授業内容
徳田 修司	鹿屋	体育学における他領域への貢献を考える①
松永 智	宮崎	健康と運動生理生化学からみた研究アプローチ
飯干 明	鹿屋	体育学からみた研究アプローチ
井福 裕俊	熊本	循環システム学からみた研究アプローチ
山田 理恵	鹿屋	体育・スポーツ史からみた研究アプローチ
坂本 将基	熊本	運動制御学からみた研究アプローチ
前田 明	鹿屋	バイオメカニクスからみた研究アプローチ
徳田 修司	鹿屋	体育学における他領域への貢献を考える②

5 連携大学院の開講講義

■ 身体教育特殊研究A

担当教員名	所属	授業内容
井福 裕俊 小澤 雄二 齋藤 和也 坂本 将基	熊本	オリエンテーション
小澤 雄二	熊本	運動・コーチ学の視点 (1)
〃	熊本	運動・コーチ学の視点 (2)
〃	熊本	運動・コーチ学の視点 (3)
〃	熊本	運動・コーチ学の視点 (4)
齋藤 和也	熊本	随意運動制御の基礎 (1) 脊髄
〃	熊本	随意運動制御の基礎 (2) 小脳
〃	熊本	随意運動制御の基礎 (3) 大脳基底核
坂本 将基	熊本	随意運動制御の基礎 (4) 骨格筋
〃	熊本	随意運動制御の基礎 (5) 大脳皮質
〃	熊本	随意運動制御の基礎 (6) 運動学習
井福 裕俊	熊本	運動時の循環調節 (1)
〃	熊本	運動時の循環調節 (2)
〃	熊本	運動時の循環調節 (3)
井福 裕俊 小澤 雄二 齋藤 和也 坂本 将基	熊本	総合討論

■ 身体教育特殊研究演習A

担当教員名	所属	授業内容
井福 裕俊 小澤 雄二 齋藤 和也 坂本 将基	熊本	オリエンテーション
小澤 雄二	熊本	運動・コーチ学演習 (1)
〃	熊本	運動・コーチ学演習 (2)
〃	熊本	運動・コーチ学演習 (3)
〃	熊本	運動・コーチ学演習 (4)
齋藤 和也	熊本	随意運動制御演習 (1) 脊髄反射
〃	熊本	随意運動制御演習 (2) 平衡機能
〃	熊本	随意運動制御演習 (3) 眼球運動
坂本 将基	熊本	随意運動制御演習 (4) 筋力と筋疲労
〃	熊本	随意運動制御演習 (5) 運動野と体性感覚野
〃	熊本	随意運動制御演習 (6) 到達運動
井福 裕俊	熊本	運動負荷時の循環応答 (演習) (1)
〃	熊本	運動負荷時の循環応答 (演習) (2)
〃	熊本	運動負荷時の循環応答 (演習) (3)
井福 裕俊 小澤 雄二 齋藤 和也 坂本 将基	熊本	総合討論

■ 身体教育特殊研究B

担当教員名	所属	授業内容
松永 智	宮崎	運動と筋機能 インTRODクッション
〃	宮崎	運動と筋機能① 筋のエネルギー代謝
〃	宮崎	運動と筋機能② 筋機能増強
〃	宮崎	運動と筋機能③ 筋機能委縮
〃	宮崎	運動と筋機能④ 筋疲労
〃	宮崎	運動と筋機能⑤ 抗疲労
〃	宮崎	運動が生体機能に及ぼす適応とそのメカニズム①
〃	宮崎	運動が生体機能に及ぼす適応とそのメカニズム②
飯干 明	鹿屋	身体について①
〃	鹿屋	身体について②
〃	鹿屋	身体性について①
〃	鹿屋	身体性について②
〃	鹿屋	身体性について③
〃	鹿屋	身体性をふまえた健康づくりについて①
〃	鹿屋	身体性をふまえた健康づくりについて②
〃	鹿屋	身体性をふまえた健康づくりについて③

■ 身体教育特殊研究演習B

担当教員名	所属	授業内容
松永 智	宮崎	運動と骨格筋機能変化に関する著書・論文を抄読する
〃	宮崎	運動と骨格筋機能変化に関する著書・論文を抄読する
〃	宮崎	運動と骨格筋機能変化に関する著書・論文を抄読する
〃	宮崎	運動と骨格筋機能変化に関する著書・論文を抄読する
〃	宮崎	運動と骨格筋機能変化に関する著書・論文を抄読する
〃	宮崎	運動と骨格筋機能変化について考え方のまとめ
〃	宮崎	運動と骨格筋機能変化について考え方を発表
〃	宮崎	運動と骨格筋機能変化についての討論
飯干 明	鹿屋	身体性と健康に関する著書・論文を抄読する
〃	鹿屋	身体性と健康に関する著書・論文を抄読する
〃	鹿屋	身体性と健康に関する著書・論文を抄読する
〃	鹿屋	身体性と健康に関する著書・論文を抄読する
〃	鹿屋	身体性と健康に関する著書・論文を抄読する
〃	鹿屋	身体性と健康に関する著書・論文を抄読する
〃	鹿屋	総括

6 遠隔授業システム

連携大学院教育プログラムでは、複数の大学に所属する各領域の教員が授業を行うため各大学を遠隔授業システムで結び、パソコンやタブレット端末を使って授業が行われます。



Ⅲ. 研究指導

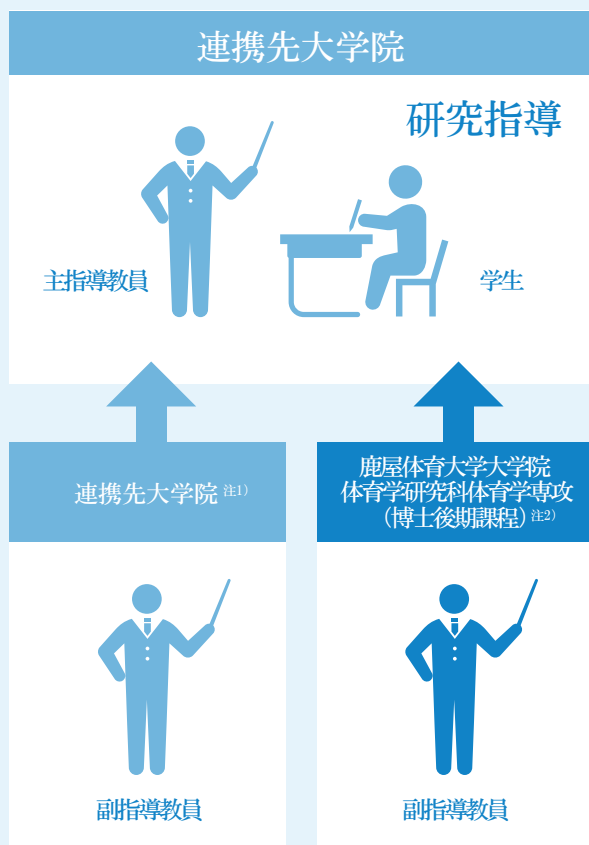
① 指導体制

複数の大学に所属する専門分野の異なった教員が主指導教員(1人)と副指導教員(2人)となり、博士後期課程の学生に対する教育・研究指導を行います。これにより、幅広い領域を包括した指導体制が構築され、充実した高度な研究活動を実現します。

直接対面指導、遠隔授業システムによる間接対面指導、電子メール等の書面による研究指導を随時行います。

CASE. 1

連携先大学院の指導教員が主指導教員を引き受ける



注1) 主指導教員が所属する連携先大学院またはそれ以外の連携先大学院
注2) 副指導教員には鹿屋体育大学の教員を必ず1名以上含むこと

CASE. 2

鹿屋体育大学の教員が主指導教員を引き受ける



注3) 副指導教員に鹿屋体育大学の教員を含んでも構わない

連携先大学院一覧

- 熊本大学大学院教育学研究科
- 鹿児島大学大学院教育学研究科
- 宮崎大学教育学部
宮崎大学大学院教育学研究科

体育学・スポーツ科学連携大学院
教育プログラム開発プロジェクト

令和元年度 外部評価報告書

1. 外部評価委員会実施要領

1-1. 外部評価委員会次第

日時と会場

○日 時 2020.1.28 (火) 14:00～16:00

○会 場 鹿屋体育大学

プログラム

14:00 開会挨拶 森 司朗 鹿屋体育大学副学長

14:05 体育学・スポーツ科学連携大学院概要説明

14:25 質疑応答・意見交換

15:55 閉会挨拶 徳田修司 鹿屋体育大学特任教授

◆司会進行：飯干 明 鹿屋体育大学特任教授

1-2. 外部評価委員の構成

	氏 名	所 属 等
委員	松 田 恵 示	東京学芸大学 副学長
委員	熊 谷 秋 三	九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター 健康開発・情報支援部門長
委員	正 野 知 基	九州保健福祉大学大学院 [通信制] 連合社会福祉学研究所 [博士(後期)課程] 研究 科長
委員	入 口 豊	びわこ成蹊スポーツ大学 学長

1-3. 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム関係委員（令和元年度）

<鹿屋体育大学 外部評価委員会出席者>

	氏 名	所 属 等
委員長	森 司 朗	理事・副学長
委員	徳 田 修 司	特任教授
委員	飯 干 明	特任教授
委員	金 高 宏 文	スポーツ武道・実践科学系 教授
委員	和 田 智 仁	スポーツ人文・応用社会科学系 准教授
委員	中 本 浩 揮	スポーツ人文・応用社会科学系 准教授
教務課	有 馬 正 人	事務局次長・教務課長
教務課	元 明 勇 二	教務課副課長
教務課	折 田 将 俊	教育企画係
教務課	此 上 友 唯	特任専門員
教務課	石 場 小 百 合	事務補佐員

<連携大学 外部評価委員会出席者>

	氏 名	所 属 等
委員	井 福 裕 俊	熊本大学 大学院教育学研究科 保健体育科教育 教授
委員	小 澤 雄 二	熊本大学 大学院教育学研究科 保健体育科教育 准教授
委員	坂 本 将 基	熊本大学 大学院教育学研究科 保健体育科教育 准教授

1-4. 評価項目及び評価の観点

4 つの評価項目について設定した評価の観点が、連携大学院教育プログラムの趣旨・目的、理念に沿ったものとなっているか、関係資料を参照していただき現状の評価と改善に向けた提言をお願いする。

I. 管理運営

【評価の観点】

- ① 連携大学院の構成、教員組織及び教育研究分野構成について
- ② 連携大学院教育プログラム協力者会議について
- ③ 連携大学院教育プログラム開発委員会について
- ④ 広報活動について

II. 教育課程

【評価の観点】

- ① 教育プログラムの目的について
- ② 教育プログラムの対象者について
- ③ 学生の身分・所属について
- ④ 共通科目として開講している共同講義について
- ⑤ 連携大学で開講している講義について
- ⑥ 遠隔授業システムについて
- ⑦ 在学学生、修了者、単位修得満期退学者、退学者の就職状況について

III. 研究指導

【評価の観点】

- ① 複数の大学に所属する専門分野の異なった教員 3 人体制（主指導 1 人、副指導 2 人）による指導について
- ② 直接対面指導、間接対面指導（遠隔授業システム）、電子メールによる指導について
- ③ 論文指導研究会について
- ④ 連携大学院交流会について
- ⑤ 学生の研究環境について

IV. 学位

【評価の観点】

- ① 学位論文審査の基準について
- ② 学位論文審査の手続きと審査体制について
- ③ 学位論文発表会について
- ④ 論文博士支援プログラムについて

2. 外部評価委員会

2-1. 開会挨拶

森 司朗 鹿屋体育大学副学長

本日は皆さま、お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。また、ご多忙の中、外部評価委員を快く引き受けていただきまして、厚く御礼を申し上げます。

鹿屋体育大学では、博士後期課程の大学院生に対して既存の教育プログラムの拡充を狙い、新たな研究教育指導を提供する連携大学院教育プログラムを平成 26 年から実施してまいりました。この連携大学院教育プログラムでは、本学を中心として、熊本大学、鹿児島大学、宮崎大学の体育系の教員の所属する大学院の教育学研究科と連携協力して博士課程の研究指導を行っています。この取り組みの中で、体育・スポーツ・健康の諸科学を包括的に捉え、学際的・複合的に研究を推進し、研究成果を還元できる高度な専門的知識を備えた高度専門職業人を養成することを目指してやっております。今回の外部評価ではこれまでの本プログラムの取り組みの現状に関しまして、振り返りを行い、今後の本プログラムの進むべき方向性などについてご指摘をいただき、そのご指摘をもとに今後の取り組みの一層の推進につなげていきたいと考えています。

最後に今回の外部評価が実り多いものになることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2-3. 外部評価委員による評価と提言

各外部評価委員に、管理運営、教育課程、研究指導、学位の4つの評価項目について、評価できる点と改善が望まれる点を文書で提出していただいた。それらの文書を、松田委員に以下のようにまとめていただき、外部評価委員による評価と提言にした。

鹿屋体育大学では、博士後期課程の大学院生に対して既存の教育プログラムの拡充を狙うとともに、体育学・スポーツ科学分野の拠点大学として新たな研究教育指導を提供する連携大学院教育プログラムを平成26年から実施されてきた。大学間で強みを結びつけ合い、ネットワークを形成することで教育・研究の高度化と強化が図られる一つのモデルであると思われる。このプログラムの特徴としては、特に九州地区の研究・学習意欲の高い学生への学習機会の提供・教授、体育・スポーツ・健康科学における質の高い研究者・実務者の養成および教員の人的資源の有効利用および協働といった観点から、他に類のない活動と評価される。

この連携大学院教育プログラムでは、鹿屋体育大学を中心として、博士課程を有していない熊本大学、鹿児島大学、宮崎大学の体育系の教員の所属する大学院の教育学研究科と連携協力して博士課程の研究指導が少ないスクーリング形態で行われている点はユニークな取り組みとして評価できる。教育や研究のコミュニティーの形成には、遠隔講義を活用する際に同時に課題として共有される点であるが、工夫がなされ、授業や研究指導はネット環境などのICT技術を駆使した双方向のコミュニケーションを根底に構築されている。学生の側から見た場合の学修の行いやすさや、求めに応じて広く質の高い教育を受けることが可能になっている点など、先導的な取り組みが持つ強みがよく発揮されていると思われる。

以下にいくつかの観点に分けて、具体的に評価を記載する。

I. 管理運営

①連携大学院の構成、教官組織及び教育研究分野構成について：鹿屋体育大学の優れた研究施設・設備を活用した研究ができることが大きなアドバンテージである。総合性の観点から、可能であればスポーツ社会学やマネジメントといった文系の研究分野の補強ができればと思われる。

②連携大学院教育プログラム協力者会議について：特に支障はないとのことであり、遠隔システムやメールを活用した会議が円滑に行われているものと評価される。

③連携大学院教育プログラム開発委員会について：プログラム開発に際してプロジェクトを組んで検討し、アンケートによって確認が行われている。今後も、教育プログラムの充実・発展が期待される。

④広報活動について：連携大学での説明会、HPやポスター・リーフレットでのPRが行われているが、もう少し対象者を広げた広報の方法が今後期待される。また、教職大学院が多くなった現状では、特化した学問分野で研究を行う博士課程にどのようにつなげていくのかが課題になるのではないと思われる。

II. 教育課程

①教育プログラムの目的について、②教育プログラムの対象者について：一つの大学で閉じることなく、鹿屋体育大学の有する教育・研究資源を連携大学との協力により提供できていることが評価される。拡充のための努力もなされており、さらに広がっていくことが期待される。

③学生の身分・所属について：アンケートにもあるように、大学院生には大きなメリットになっていると評価される。

④共通科目として開講している共同講義について、⑤連携大学で開講している講義について：明確な目的のもとにオムニバスで構成され、体育学・スポーツ科学の基礎的知識を全般的に修得し、専門的知識を学ぶための基礎知識を体系的に習得できるものと評価される。

⑥遠隔授業システムについて：目的は果たしていると思われる。機器・ネットワーク環境の問題として、現時点でのトラブルへの対応をどうしていくか、あるいはオンライン上のコミュニケーションツールの活用などが課題として挙げられる。

⑦在学生、修了者、単位取得満期退学者、退学者の就職状況について：単位取得満期退学者への対応が課題として挙げられる。

Ⅲ. 研究指導

①複数の大学に所属する専門分野の異なった教官 3 人体制（主指導 1 人、副指導 2 人）による指導について、②直接対面指導、間接対面指導（遠隔授業システム）、電子メールによる指導、③論文指導研究会について、④連携大学院交流会について：アンケートにおける大学院生の評価も高く、十分に機能しているものと評価できる。一部、他大学の副指導教官との関わりが少なかったとの感想もあったので、関わる機会を増やす取り組みが課題として挙げられる。

⑤学生の研究環境について：I ①でも述べたように、鹿屋体育大学の優れた研究施設・設備を活用した研究ができることが、大学院生に高く評価されており、これらを活用した優れた研究が期待される。

Ⅳ. 学位

①学位論文審査の基準について、②学位論文審査の手続きと審査体制について、③学位論文発表会について：適正に実施されていると評価される。ルーブリック評価などの客観的な評価指標によって、大学院生への可視化がなされると、より良くなるのではないかと期待される。

④論文博士支援プログラムについて：大学院の可能性を広げるとともに、様々な現場で働きながら研究を進めたい方にとっても可能性を広げることのできる、貴重な取り組みであると評価される。

本プログラムの取り組みの中で、体育・スポーツ・健康の諸科学を包括的に捉え、学際的・複合的に研究を推進し、研究成果を還元できる高度な専門的知識を備えた高度専門職業人を養成することを目的とした取り組みであるとの説明があった。委員会では、高度専門職業人の具体的なイメージや社会での位置づけが不明瞭との論議も行われた。このことに関連して、本プログラムでの有能な人材の輩出のためには、研究や実務に限らず修了生が社会貢献できる社会的受け皿（社会に容認された地位や職業の確保）が必要であることから、体育・スポーツ科学関係者および関連する諸大学による支援体制の構築が急務と考えられた。

また、ネット環境を使った授業は、座学での講義が中心であり、今後は生化学、生理学およびバイオメカニクス実習などの教材開発に伴う情報発信によって、学生への日常的な学習教材の提供などがあれば素晴らしい取り組みになると感じた。その教材は、本プログラムのみならず体育・スポーツ科学分野のコースや学部を有する他大学での有効利用も期待できる。また、アジアを中心とした博士課程進学を希望する留学生の受け入れの観点からも、英語での授業の開講も必要かと思われる。

鹿屋体育大学ティーチング・フェロー実施要項

平成28年 9月26日
学 長 裁 定

改正 平成31年4月19日

(趣旨)

第1 この要項は、鹿屋体育大学大学院体育学研究科博士後期課程体育学専攻及び3年制博士課程大学体育スポーツ高度化共同専攻に在籍する学生（以下「博士後期課程等大学院生」という。）に対し、教育的配慮の下に教育業務を行わせ、将来大学教員及び研究者になるためのトレーニングの機会を提供するため、国立大学法人鹿屋体育大学非常勤職員就業規則（以下「非常勤就業規則」という。）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(名称)

第2 第1の教育業務を行う博士後期課程等大学院生の名称は、ティーチング・フェロー（以下「TF」という。）とする。

(育成する能力)

第3 TF制度において育成する能力は、以下のとおりとする。

- (1) 授業科目の具体的な教育目標を設定する能力
- (2) 教育目標を達成するための授業実施計画を立て、それを実践する能力
- (3) 教育目標を達成するための評価指標を決定する能力
- (4) 教育（授業）の評価基準を設定する能力

(職務内容)

第4 TFは、「鹿屋体育大学ティーチング・アシスタント実施要項」に規定する教育補助業務に加え、授業担当教員の指導の下で学部学生に対する授業に参画する業務を行うものとする。

なお、授業に参画する業務について、主たる内容は次のとおりとする。

- (1) 講義等の実施
- (2) シラバスの作成
- (3) 授業のための資料作成及び教材の開発
- (4) 試験監督、レポートの採点、試験の採点

(担当授業の範囲)

第5 TFが担当することができる授業の回数は、授業回数全体の5分の1までとする。

(資格)

第6 TFは、博士後期課程等大学院生で、TFを希望し、かつ当該博士後期課程等大学院生の指導教員の承認を得た者であり、次の各号のすべてに該当するものとする。

- (1) 本学における関連する授業科目のティーチング・アシスタント（以下「TA」という。）としての経験を半期以上有する者であること
- (2) 本学ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）推進専門委員会が実施するTFに関わるFDプログラムに参加していること

(選考方法)

第7 TFの任用に係る選考は、TF申請書（別紙様式1）及びTF担当授業科目シラバス（別紙様式2）等の必要書類に基づき、FD推進専門委員会及び教務委員会の議を経て、学長が選考する。

(選考基準)

第8 TFを選考する基準は、次のとおりとする。

- (1) 担当する授業科目の授業内容に十分な知識及び技術を有し、授業担当教員の指導の下で

授業が担当できる者であること

- (2) 第3第1号から第4号に掲げた育成する能力を発揮することができる見込がある者であること

(採用手続等)

第9 大学院指導教員が博士後期課程等大学院生を採用依頼する場合は、TF申請書(別紙様式1)及びTF担当授業科目シラバス(別紙様式2)により申請を行う。

なお、申請は、授業担当教員の了承を得た上で行うものとする。

- 2 大学院指導教員から提出されたTF申請書等を基に、教務委員会において審議・承認された後、総務課へ採用手続を依頼するものとする。
- 3 現に職を有する博士後期課程等大学院生にあつては、事前に事業所代表者等の承諾を得ておくこととし、その場合の承諾書の様式は、別紙様式3とする。

(報告)

第10 TFは、毎月の勤務終了ごとに勤務時間報告書(別紙様式4-1)を教務課に提出する。

教務課は勤務時間報告書に基づき、従事時間報告書(別紙4-2)を総務課に提出する。

- 2 当該年度(当該期を含む。)の勤務終了後、TFは活動報告書(別紙様式5-1)を、授業担当教員は授業実施報告書(別紙様式5-2)を教務課に提出する。

(給与)

第11 TFの給与は、非常勤就業規則の定めにより支給する。

(その他)

第12 この要項に定めるもののほか、TFに関し必要な事項は、別に定める。

- 2 TFに関する事務は、教務課において行う。

- 3 当該授業科目を受講する学生に対して、TFが担当する授業回及び授業内容についてシラバス等により事前に明示する。

附 則

この要項は、平成28年10月1日から施行する。

附 則(平31.4.19)

この要項は、令和元年5月1日から施行する。

ティーチング・フェロー実施状況

目的:博士後期課程学生及び3年制博士課程学生に教育的配慮の下に教育業務を行わせ、将来大学教員及び研究者になるためのトレーニングの機会を提供するため

○実施状況

	実施者数	所属課程	備考
平成28年度	1名	博士後期課程 ※共同学位プログラム履修者	筑波大学との共同学位プログラムにおけるQE審査のためにTFを実施
平成29年度	0名		
平成30年度	1名	3年制博士課程	筑波大学との共同学位専攻におけるQE審査のためにTFを実施
平成31年度	2名	3年制博士課程	筑波大学との共同学位専攻におけるQE審査のためにTFを実施予定

博士論文研究能力審査（QE）実施要項

I. 審査全体の概要

1. 目的

本共同専攻では、大学体育や大学スポーツ(以下、大学体育スポーツという.)の教育・指導と研究の循環を効果的に行える、学術的職業人としての高度な体育教員(以下、高度大学体育スポーツ指導者という.)を養成することを目的としている。そのために、従来の博士論文作成重視の教育課程でなく、「実践的教育能力」、「実践的研究能力」、「高度指導者教養」、「博士論文研究能力」を育成するコースワーク重視の教育課程を編成している。そして、これらの能力が育成されているかを2年次9月以降に審査し、博士論文の作成へ繋げることとしている。

従って、2年次9月以降に実施される博士論文研究能力審査(QE:Qualifying Examination)は、博士論文の提出に向け、高度大学体育スポーツ指導者として求められる「実践的研究能力」及び「実践的教育力」等の到達度を審査することが目的となる。

2. 実施時期

2年次9月～2月頃に随時実施予定

3. 実施場所

学生の主幹大学(筑波大学又は鹿屋体育大学)

4. 受験資格

以下の要件を満たし、指導教員が受験を認めた者のみが博士論文研究能力審査委員会にQE受験を申請できる。

① 実践的研究論文1編を投稿し、投稿受付されていること。 ※1

② 必修4単位を含む8単位を取得済であること。

※1 本専攻における実践的研究論文とは、大学体育スポーツに関連する査読付の研究論文とする。例えば「大学体育学」、「大学体育研究」、「コーチング学研究」、「スポーツパフォーマンス研究」等に投稿される実践的研究論文を想定し、入学後に投稿・審査開始された論文を対象とする。なお、QEの申請は、9月1日～11月30日までに、主指導教員の承諾を得て、大学体育スポーツ高度化共同専攻長に「博士論文研究能力審査(QE)申請書」及び「実践的研究論文」を提出する。その際に対象論文が審査中の場合は、投稿・審査開始の証明書を提出する。

5. 実施課題と形態と時間

QEでは、「実践的研究能力」と「実践的教育能力」を原則公開で、それぞれ審査する。

(1)「実践的研究能力」の審査(60分)

以下の事項について実施する。

① 博士論文研究計画書及び投稿中の実践的研究論文の事前提出書類の評価

② 博士論文研究計画書のプレゼンテーション(20分)と質疑応答(20分)

③ 口述試験(20分)

(2)「実践的教育能力」の審査(60分)

以下の事項について実施する。

① 教育能力に関する口述試験(40分)

② 大学体育スポーツに関する口述試験(20分)

6. 審査員

主指導教員1名、副指導教員2または3名

(筑波大学、鹿屋体育大学どちらかの教員が少なくとも1名は加わる.)

7. 審査方法

実践的教育能力と実践的研究能力の両方の審査に合格した場合、QEの合格とする。なお、審査の合格者には、「博士論文課題演習Ⅱ」の単位を与える。

なお、審査にあたりQE実施日の2週間前までに主指導教員の承諾を得て、大学体育スポーツ高度化共同専攻長に「博士論文研究能力審査(QE)審査資料提出届」、「実践的研究能力に関する審査資料」及び「実践的教育能力に関する審査資料」を提出する。

8. 再審査

QEが不合格となった場合、下記(1)、(2)の条件に合えば同年度内に再度QEを受けることができる。

(1) 実践的研究能力の総合評点①～④の4項目のうち、3項目で総合評点が3点以上であること。

(2) 実践的教育能力の各項目が50点以上であること。

上記以外は、次年度以降の9月から2月の審査を受けることとする。

再審査の際は、準備ができ次第速やかに「博士論文研究能力審査(QE)申請書」及び「実践的研究論文」を提出し、再審査日の2週間前までに「博士論文研究能力審査(QE)審査資料提出届」、「実践的研究能力に関する審査資料」及び「実践的教育能力に関する審査資料」を再度提出すること。(ただし、QE実施は2月末日までのため、提出期限は末日より2週間前までとする)

9. QEに合格していない者(不合格者、未実施者、未申請者)の取扱い

QEに合格していない者(不合格者、未実施者、未申請者)で、「4.受験資格」を満たしており、「博士論文研究能力審査(QE)継続申請書」を3月末日までに提出した場合には、翌年度の7月(7月末日までに全ての手続きが完了する日程とする)までにQEを実施できるものとする。

II. 実践的研究能力の審査

1. 目的

本専攻では、実践的研究能力を主に「仮説創出型研究力」と「仮説検証型研究力」で構成されるものとして捉え、さらに「研究倫理」も合わせて養成し、この点について可視化し、評価する。

(1) 仮説創出型研究力：事例記述、説明・解釈、未来への予測・提案する研究能力とする。

(2) 仮説検証型研究力：情報を収集・分析、実験等を構想し、実施、統計・分析、仮説検証できる研究能力とする。

(3) 研究倫理：「科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—」(学振2015を参照)とする。

2. 審査の概要

実践的研究能力を示す資料(博士論文研究計画書※2及び投稿中の実践的研究論文)及び口述試験を通じて、各項目のルーブリックを作成して可視化する。

なお、上記(1)、(2)、(3)を評価する基準は独自に作成し、通常の研究力の基礎となる基礎的・一般的研究力については授業を通じてVitae RDFを用いて適宜自己評価させ、確認する。

作成されたルーブリックは、QEの実施前に、外部評価委員会(あるいは外部有識者)へ呈示し、その妥当性についての審議を願う。

※2 申請書類として履修要項内に「博士論文作成計画書」というA4で1枚ものの書類があるが、それとは異なるものとする。

3. 実践的研究能力の審査方法

- (1) 実施時期：第2学年11月～2月頃
- (2) 実施場所：主幹大学（筑波大学又は鹿屋体育大学）
- (3) 実施形態と時間

以下の事項について実施する。

- ①博士論文研究計画書及び投稿中の実践的研究論文による書類評価（審査会前に提出・評価）
- ②博士論文研究計画書のプレゼンテーション（20分）と質疑応答（20分）
- ③実践的研究能力に関わる口述試験（20分）
- (4) 評価者：主指導教員1名、副指導教員2または3名（筑波、鹿屋どちらかの教員が少なくとも1名は加わる。）

(5) 評価方法

- ①上記(3)の評価事項は、「実践的研究能力の可視化と評価」シートを参照し、4段階の評点（4：期待される水準を大きく上回る，3：期待される水準にある，2：期待される水準を下回る，1：期待される水準を大きく下回る）で行う。
- ②予め博士論文研究計画書及び投稿中の実践的研究論文を提出させ、事前に評点する。
- ③前述の論文評価も考慮に入れ、博士論文研究計画書のプレゼンテーション・質疑応答を手がかりに「博士論文の作成能力」を評価する。
- ④実践的研究能力、研究倫理について口述試験し、ルーブリックに基づいて評点する。
- ⑤「実践的研究能力の可視化と評価」シートにおける①～④の4項目で、2以下が2項目、1が一つでもある場合は、「最終的総合評価」の評点で2を付けるものとする。その場合は不合格とする。
- ⑥評価者の合議で、「最終的総合評価」の評点の平均が3以上（75%）を合格とする。ただし、前述の⑤に該当する場合は不合格とする。

(6) 再審査

再審査については2ページ「I. 審査全体の概要」の「8. 再審査」を参照のこと。

III. 実践的教育能力の審査

1. 目的

本専攻では、大学体育スポーツにおける実践的教育能力が発揮される場面を以下のように捉え、この点について可視化し、評価する。

- (1) 一般体育：一般学生を対象に、生涯スポーツ等への導きとしての教養体育を教授
- (2) 専門体育：体育専攻学生（教員養成含）を対象に、実技指導力を高める専門体育を教授
- (3) スポーツ指導：正課外での運動部等でスポーツパフォーマンス向上を指導

なお、評価する指導場面は、上記3つのうち評価される学生の状況に応じて選択できるものとする。

2. 審査の概要

前述の実践的教育能力は、能力を示す資料、質疑応答及び口述試験を通じて、ルーブリックを作成して可視化する。

3. 実践的教育能力の審査方法

- (1) 実施時期：第2学年11月～2月頃
- (2) 実施場所：主幹大学（筑波大学又は鹿屋体育大学）
- (3) 実施形態と時間

以下の事項について実施する。

実践的研究能力の可視化と評価(案) [20150828修正、鹿屋WG案]



3. 実践的教育能力の審査方法

- (1) 実施時期：第2学年11月～2月頃
- (2) 実施場所：主幹大学（筑波大学又は鹿屋体育大学）
- (3) 実施形態と時間

以下の事項について実施する。

- ①教育能力に関する口述試験（40分）
- ②大学体育スポーツに関する口述試験（20分）

なお、指導場面に応じて、以下の資料やビデオ映像を用意する。なお、各指導場面で作成すべき資料の詳細は後段を参照のこと。

①一般体育	②専門体育	③スポーツ指導
一般体育全体の方向性 (DP やCP, 教育目標のようなもの)	専門体育全体の方向性 (DP やCP, 教育目標のようなもの)	指導指針や運営体制の明確化 (※1)
担当授業のシラバス作成	担当授業のシラバス作成	3ヶ月～1年のトレーニング・指導計画の立案
授業案(レessonプラン)作成	授業案(レessonプラン)作成	指導案作成 (レesson形式のもの)
1コマ授業状況 (ビデオ映像)	1コマ授業状況 (ビデオ映像)	1コマ指導状況(ビデオ映像)
受講学生からの授業評価点※	受講学生からの授業評価点※	受講学生からの授業評価点※

※ 授業・スポーツ指導を撮影したビデオを授業・指導評価システム（資料3）を用いて学生自身が形成的授業・指導評価を実施し、授業・指導内容を数値化して得られたもの。

(4) 評価者：主指導教員1名，副指導教員2または3名（筑波，鹿屋どちらかの教員が少なくとも1名は加わる。）

(5) 評価方法

- ①上記（3）の各口述試験の評価は100点満点とし，4段階を目安に得点化する．80点以上：極めて高い，70～79点：高い，60～69点：一定水準以上，50～59点：必要最低限，49点以下：不十分とする．
- ②教育能力の口述試験は，（3）の③で示した指導場面毎に作成・提出された資料を参考資料とし，ビデオ撮影された授業・スポーツ指導を観察しながら，教授行動評価基準（資料4）を手がかりに教授・指導行動を評価し，大学体育スポーツにおける実践的教育能力が備わっているかについての口述による試験を行う（40分）．
- ③大学体育スポーツに関する口述試験では，大学体育スポーツの意義・歴史・効果等に関する幅広い教養，指導者としての倫理観，マネジメント能力などが備わっているかについて，口述による試験を行う（20分）．
- ④実践的教育能力の最終的な評価は，教育能力の口述試験（100点満点）と大学体育スポーツに関する口述試験（100点満点）の得点を合算した総合得点（200満点）で行う．
- ⑤評価者の合議で，総合得点の7割（140点）以上をもって合格とする．（各項目60点以上に限る）

(6) 再審査

再審査については2ページ「I. 審査全体の概要」の「8. 再審査」を参照のこと。

4. 補足

筑波大学では，1年次春学期に「授業観察・分析法（学群対象）を履修して模擬授業・研究授業の観察し，1年次秋学期に「大学体育授業演習Ⅰ」を履修して，実際に模擬授業を行い（Before），授業内容や教授行動について，指導教員から客観的評価を受ける．それらの評価をもとに授業改善に努め，2年次秋学期に「大学体育授業演習Ⅱ」を履修し，再度模擬授業を行い（After），Before-Afterの映像および形成的定業評価結果などの資料をもとに，如何に授業改善に努めてきたかをプレゼンテーションし，それらのプレゼンや資料に基づいて口述試験を実施する予定である．

5. 評価のための資料作成の要領

以下の指導場面に応じて，資料を作成することとする．

①一般体育	②専門体育	③スポーツ指導
一般体育全体の方向性（DPやCP，教育目標のようなもの）	専門体育全体の方向性（DPやCP，教育目標のようなもの）	指導指針や運営体制の明確化（※1）
担当授業のシラバス作成	担当授業のシラバス作成	3ヶ月～1年のトレーニング・指導計画の立案
授業案（レッシンプラン）作成	授業案（レッシンプラン）作成	指導案作成（レッシン形式のもの）
1コマ授業状況（ビデオ映像）	1コマ授業状況（ビデオ映像）	1コマ指導状況（ビデオ映像）
受講学生からの授業評価点※	受講学生からの授業評価点※	受講学生からの授業評価点※

(1) 一般体育・専門体育の場面

- ①大学における一般体育あるいは専門体育の教育方針等に係る資料を作成する．
- ②担当授業を想定したシラバスの作成（資料1），
- ③毎回の授業の指導内容に関するレッシンプランの作成（資料2）
- ④授業のビデオ映像
- ⑤授業の様子をビデオ撮影し，授業・指導評価システムを用いて学生自身が形成的授業評価を実施し，授業

内容を数値化された授業評価点（資料3）

（2）スポーツ指導の場面

大学スポーツでは、個人やチームに対する指導力と同時に、運動部活動自体をマネジメントすることが重要になる。中・高等学校における部活指導の手引き等を参考に、大学における運動部活動の指導に関する指導指針や運営体制等についてまとめたものを求める。

①指導指針や運営体制の明確化に係る以下の資料を作成する。

- ・大学における運動部活動の運営方針
- ・担当する運動部活動の方針や目的、目標
- ・指導理念や方針指導の基本事項等

入部、転部、退部の考え方／新入生へのオリエンテーション計画／部組織や一日の活動モデル／平日や休日の活動時間や指導の在り方／対外試合等への参加に対する考え方／施設や用具の使用割り当て／事故防止や安全対策／保護者・地域社会との連携／外部指導者に関する方針の明確化等

3ページと5ページの②1ヶ月～1年のトレーニング・指導計画の立案（形式は自由）

なお、全体の中での評価されるレッスンの指導の位置づけを明確にしておく。

③指導案（レッスン形式のもの）

指導内容に関するレッスンプラン（資料2）

④指導のビデオ映像（1コマ分）

指導の様子をビデオ撮影する。

⑤指導に参画した学生により指導の分析・評価

授業・指導評価システム（資料3）を用いて参加者自身が形成的指導評価を実施し、指導内容を数値化する。

シラバス例

平成27年度 共通科目「体育」シラバス

授業科目名	基礎体育ソフトボール(秋)
担当教員名	木内 敦詞
オフィスアワー等 (連絡先含む)	木曜日13:30-16:45。重複を避けるため、事前のメール連絡が望ましい。 kiuchi@taiiku.tsukuba.ac.jp
科目番号	2121193
授業形態	実技
標準履修年次	1年次
開設モジュール・曜時限等・教室	秋AB・金3・野球場
単位数	0.5単位
授業概要	新入生の大学生活への適応支援を目的に、「スポーツ活動(ソフトボール)を通じたライフスキルの獲得」と、「日常生活課題を通じた健康な生活習慣の獲得」を目指す。
キーワード	コミュニケーション、チャレンジ、技術、スポーツマンシップ、実践力
教育目標との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心と社会性の醸成 ・仲間とともに挑戦する力の養成
授業の到達目標	チームワークを高め、仲間とともに課題や目標に挑戦できる。
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：ドリル、簡易ゲーム1 第3回：ドリル、簡易ゲーム2 第4回：ドリル、簡易ゲーム3 第5回：総合練習、スキル測定 第6回：チーム発表、ゲーム1 第7回：チーム練習 第8回：ドリル、ゲーム2 第9回：ドリル、ゲーム3 第10回：順位決定戦 第11回：予備日
履修条件	運動に適したシューズ・ウェア着用
教材・参考文献・配布資料等	大学体育ワークブック (無料配布)
成績評価方法	①技能35% ②知識・理解30% ③態度・意欲35%
授業外における学習方法	ワークブックに用意されている日常生活課題を通じて、より活動的な生活習慣を獲得する。
その他 (学生に望むこと等)	スポーツ活動に内在する「自己開示」「他者協力」「挑戦達成」する場面を大切にしながら、ソフトボールを楽しもう。

平成27年度 筑波大学 体育センター

資料 2

●筑波大学用

レクシンプラン											
授業名				担当教員名				曜・時限・場所			
授業目標											
時限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
課題											
0分											
15分											
30分											
45分											
60分											
75分											

●鹿屋体育大学用

レッスンプラン																
授業名						担当教員名						曜・時限・場所				
授業目標																
時限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
課題																
0分																
15分																
30分																
45分																
60分																
75分																
90分																

模擬授業のビデオ撮影



指導案ならびに実施授業に対する期間記録と教師相互作用記録の組織的観察法（高橋他, 2003）による分析データをリンクして保存

学習目標・課題（教材・教具） 下

事実（何を目標として、どんな教材が用いられたかなど）※指導案参照 (0/30)

評価（目標は達成された、教材は有効であったなど） (0/30)

期待・理由（具体的な評価の根拠） (0/30)

発展策・改善策（よい点を伸ばす方策、買値点を修正する方策、参考になった方策） (0/30)

リフレクションの内容（ここでのコメントの内容は主に良い点についてですが、あるいは問題点についてです） (0/30)

行動の分類	長さ	割合	回数
今稿指導法	0分23秒	36%	3回
マネジメント(M)	01分13秒	10%	3回
認知学習(A1)	00分20秒	0%	0回
運動学習(A2)	06分32秒	54%	2回

授業評価集計結果

形成的授業評価（生徒役のみ評価したもの） 下

回答者数：14名

総合評価 (1)~(9)	平均値	5段階評価
	2.83	
学習成果 (1)+(2)+(3)		
(1)感動することがあった	2.7	4
(2)できるようになった	2.7	
(3)あ、そうかと思った	2.6	
意欲・態度 (4)+(5)		
(4)全力で運動した	2.9	4
(5)楽しかった	2.9	
学び方 (6)+(7)		
(6)自ら進んで学習した	2.9	4
(7)めあてにむかって練習した	2.6	
協力 (8)+(9)		
(8)仲良く学習した	3.0	5
(9)教え合いをした	3.0	

指導方法に関する知識 基礎的な教授行動評価基準20項目

番号	評価観点	評価の段階	評価規準	評価方法
①	授業の始まり	3	挨拶と同時に健康観察、安全管理に気を配っている。学習の良い雰囲気が作られている。	指導のはじめの場面で確認する。
		2	挨拶が適切に行われている。	
		1	挨拶が適切に行われていない。	
②	学習課題の説明	3	適切な隊形をとり、前時とのつながりなど、単元を見通した本時の目標、活動内容を明確にかつ簡潔に伝えている。	1回目と説明のあったそれぞれの場面及び説明のあったA1、A2場面で確認する。
		2	適切に学習課題は説明している。	
		1	学習課題を説明していない。あるいはうまく伝えていない。	
③	学習手順の説明	3	適切な隊形で、学習の手順(場所、活動の順番など)を十分に伝えている。活動の終わりまで理解させている。	授業のまとめの場面を除くそれぞれの場面及び説明のあったA1、A2場面で確認する。
		2	適切に学習手順は説明している。	
		1	学習手順を説明していない。あるいはうまく伝えていない。	
④	理解度のチェック	3	生徒の表情・態度などから理解度を読み取り、全体や個人に対応した質問などを用いて十分に確認を行っている。	授業のまとめの場面を除くそれぞれの場面で確認する。
		2	全体に質問を投げかけ、一応の確認している。「わかりますか？」など。	
		1	確認を行っていない。	
⑤	板書・掲示物 学習資料「+」	3	視覚的にわかりやすく、学習活動に役立つ板書・掲示物など学習資料が使用されている。	使用されたそれぞれの場面で確認する。
		2	板書・掲示物などの学習資料が用意され、使用している。	
		1	用意していない。あるいは活用できていない。	
⑥	デモンストレーションの実施「+」	3	見やすい隊形を指示し、場面や実践にあった、教師、あるいは生徒によるデモンストレーションをうまく行っている。	行われたそれぞれの場面及びA2場面で確認する。
		2	デモンストレーションは適切に行っている。	
		1	うまく行えていない。	
⑦	組織化 (グルーピング)の実施「+」	3	学習の効率、効果性を意図したグルーピングをスムーズに行っている。	行われたそれぞれの場面及びA2場面で確認する。
		2	グルーピングをスムーズに行っている。	
		1	グルーピングをスムーズに行えていない。指示が適切でない。	
⑧	反省 (まとめ)	3	前の場面や次の活動とのつながりを意識した活動の振り返りを適切に行っている。	行われたそれぞれの場面と授業のまとめの場面で確認する。
		2	適切な活動の振り返りをしている。	
		1	まとめを行わない。あるいはまとめが適切ではない。	
⑨	活動場所 活動隊形	3	説明が聞きやすい見やすい集合場所や隊形を指示できている。学習活動のつながりを意識した集合場所や隊形が指示できている。	指示のあった場面及びA2場面、M場面で確認する。
		2	集合場所や隊形を指示できている。	
		1	無計画的。あるいは適切な指示がない。	
⑩	移動	3	移動場面がほとんどない。活動のつながりを意識し、勢い良く、スムーズに移動している。	それぞれのM場面で確認する。
		2	特に問題なく、おおむねスムーズに移動している。	
		1	指示が不徹底で、スムーズに移動していない。	

基礎的な教授行動評価基準20項目

番号	評価観点	評価の段階	評価規準	評価方法
⑪	待機	3	適切な対応により、不必要な待機場面がない。あるいは最低限の待機場面にとどめている。	それぞれのM場面で確認する。
		2	不必要な待機場面が少ない。	
		1	準備が不足し、不必要な待機場面が多い。	
⑫	施設・用具の準備、片付	3	学習の効率や、活動に有効な施設や用具の配置を考えた準備や片付けがされている。	それぞれのM場面で確認する。
		2	特に問題なく施設・用具の準備や片付けがされている。	
		1	施設・用具の準備、片付けが不十分である。	
⑬	話し合い「+」	3	話し合いの場面、内容が計画的に設けられている。教師が計画的に関わっている。	A1場面が設定されている場合のそれぞれのA1場面で確認する。 (設定されていない場合は評価しない)
		2	話し合いの場面が設けられている。	
		1	話し合いの場面がない。あるいは話し合いの内容が不明瞭である。	
⑭	学習カード・資料の活用「+」	3	学習活動に効果的な学習カード・資料が用意されている。十分に活用している。	A1場面が設定されている場合のそれぞれのA2場面で確認する。 (設定されていない場合は評価しない)
		2	学習カード・資料は用意され、活用している。	
		1	用意されていない。あるいは活用されていない。	
⑮	安全管理	3	安全管理が十分に考えられている。状況に応じた活動内容の修正をしている。	それぞれのA2場面で確認する。
		2	安全に配慮している。	
		1	危険を放置している。安全への配慮に欠けている。	
⑯	モニタリング (観察、巡視)	3	全体を把握できる巡視、観察ができています。	それぞれのA1場面及びA2場面で確認する。
		2	巡視が行われている。	
		1	一カ所にとどまりすぎ、全体を見ることができていない。	
⑰	発問の活用「+」	3	学習の目標にあった多様な発問をしている。発問が具体的でわかりやすい。	行われたそれぞれの場面及びA1、A2場面で確認する。
		2	活動の目的にあった発問をしている。	
		1	発問が不明確である。	
⑱	肯定的な相互作用の活用	3	肯定的なフィードバックの価値を理解し、相手に伝わるよう、積極的なフィードバックが行われている。	それぞれのA1場面、A2場面及び見られた1場面で確認する。
		2	ある程度のフィードバックは行っている。	
		1	まったく行っていない。あるいは、積極的に行えていない。	
⑲	技能習得の手がかり	3	生徒の技能に応じた、正しい知識による具体的手がかりを伝えている。次の活動につながる手がかりを伝えている。	それぞれのA1場面、A2場面及び見られた1場面で確認する。
		2	手がかりを具体的に伝えている。	
		1	手がかりが出せない。あるいは、適切でない助言を与えている。	
⑳	生徒の行動に対する対応	3	すべての生徒に学習課題や手順が理解されており、活発な学習活動が見られる。また、不適切な場合は適切に修正している。	それぞれのA1場面及びA2場面で確認する。
		2	おおむねの生徒に学習課題や手順が理解され、想定した活動が見られる。	
		1	学習課題や手順が十分に理解されず、生徒の行動が一定していない。	

●スポーツ指導の評価基準

指導方法に関する知識 基礎的な教授行動評価基準20項目(スポーツ指導用)

番号	評価観点	評価の段階	評価規準	評価方法
①	指導の始まり	3	挨拶と同時に健康観察、安全管理に気を配っている。学習の良い雰囲気が作られている。	指導のはじめのI場面で確認する。
		2	挨拶が適切に行われている。	
		1	挨拶が適切に行われていない。	
②	学習課題の説明	3	適切な隊形をとり、前時とのつながりなど、系統的な学習を見通した本時の目標、活動内容を明確にかつ簡潔に伝えている。	1回目と説明のあったそれぞれのI場面及び説明のあったA、A2場面で確認する。
		2	適切に学習課題は説明している。	
		1	学習課題を説明していない。あるいはうまく伝えていない。	
③	学習手順の説明	3	適切な隊形で、学習の手順(場所、活動の順番など)を十分に伝えている。活動の終わりまで理解させている。	指導のまとめのI場面を除くそれぞれのI場面及び説明のあったA、A2場面で確認する。
		2	適切に学習手順は説明している。	
		1	学習手順を説明していない。あるいはうまく伝えていない。	
④	理解度のチェック	3	参加者の表情・態度などから理解度を読み取り、全体や個人に対応した質問などを用いて十分に確認を行っている。	指導のまとめのI場面を除くそれぞれのI場面で確認する。
		2	全体に質問を投げかけ、一応の確認している。『わかりますか?』など。	
		1	確認を行っていない。	
⑤	板書・掲示物 学習資料「+」	3	視覚的にわかりやすく、学習活動に役立つ板書・掲示物など学習資料が使用されている。	使用されたそれぞれのI場面で確認する。
		2	板書/掲示物などの学習資料が用意され、使用している。	
		1	用意していない。あるいは活用できていない。	
⑥	デモンストレーションの実施「+」	3	見やすい隊形を指示し、場面や実態にあった、教師、あるいは参加者によるデモンストレーションをうまく行っている。	行われたそれぞれのI場面及びA2場面で確認する。
		2	デモンストレーションは適切に行っている。	
		1	うまく行えていない。	
⑦	組織化 (グルーピング)の実施「+」	3	学習の効率、効果性を意図したグルーピングをスムーズに行っている。	行われたそれぞれのI場面及びA2場面で確認する。
		2	グルーピングをスムーズに行っている。	
		1	グルーピングをスムーズに行えていない。指示が適切でない。	
⑧	反省 (まとめ)	3	前の場面や次の活動とのつながりを意識した活動の振り返りを適切に行っている。	行われたそれぞれのI場面と指導のまとめのI場面で確認する。
		2	適切な活動の振り返りをしている。	
		1	まとめを行わない。あるいはまとめが適切ではない。	
⑨	活動場所 活動隊形	3	説明が聞きやすい見やすい集合場所や隊形を指示できている。学習活動のつながりを意識した集合場所や隊形が指示できている。	指示のあったI場面及びA2場面、M場面で確認する。
		2	集合場所や隊形を指示できている。	
		1	無計画的、あるいは適切な指示がない。	
⑩	移動	3	移動場面がほとんどない。活動のつながりを意識し、勢い良く、スムーズに移動している。	それぞれのM場面で確認する。
		2	特に問題なく、おおむねスムーズに移動している。	
		1	指示が不徹底で、スムーズに移動していない。	

基礎的な教授行動評価基準20項目(スポーツ指導用)

番号	評価観点	評価の段階	評価規準	評価方法
⑪	待機	3	適切な対応により、不必要な待機場面がない。あるいは最低限の待機場面にとどめている。	それぞれのM場面で確認する。
		2	不必要な待機場面が少ない。	
		1	準備が不足し、不必要な待機場面が多い。	
⑫	施設・用具の準備、片付け	3	学習の効率や、活動に有効な施設や用具の配置を考えた準備や片付けがされている。	それぞれのM場面で確認する。
		2	特に問題なく施設・用具の準備や片付けがされている。	
		1	施設・用具の準備、片付けが不十分である。	
⑬	話し合い「+」	3	話し合いの場面、内容が計画的に設けられている。教師が計画的に関わっている。	A場面が設定されている場合のそれぞれのA場面で確認する。 (設定されていない場合は評価しない)
		2	話し合いの場面が設けられている。	
		1	話し合いの場面がない。あるいは話し合いの内容が不明瞭である。	
⑭	資料の活用「+」	3	学習活動に効果的な資料が用意されている。十分に活用している。	A 場面が設定されている場合のそれぞれのA2場面で確認する。 (設定されていない場合は評価しない)
		2	資料は用意され、活用している。	
		1	用意されていない。あるいは活用されていない。	
⑮	安全管理	3	安全管理が十分に考えられている。状況に応じた活動内容の修正をしている。	それぞれのA2場面で確認する。
		2	安全に配慮している。	
		1	危険を放置している。安全への配慮に欠けている。	
⑯	モニタリング(観察、巡視)	3	全体を把握できる巡視、観察ができています。	それぞれのA 場面及びA2場面で確認する。
		2	巡視が行われている。	
		1	一カ所にとどまりすぎ、全体を見ることができていない。	
⑰	発問の活用「+」	3	学習の目標にあった多様な発問をしている。発問が具体的でわかりやすい。	行われたそれぞれのI場面及びA、A2場面で確認する。
		2	活動の目的にあった発問をしている。	
		1	発問が不明確である。	
⑱	肯定的な相互作用の活用	3	肯定的なフィードバックの価値を理解し、相手に伝わるよう、積極的なフィードバックが行われている。	それぞれのA 場面、A2場面及び見られたI 場面で確認する。
		2	ある程度のフィードバックは行っている。	
		1	まったく行っていない。あるいは、積極的に行えていない。	
⑲	技能習得の手がかり	3	参加者の技能に応じた、正しい知識による具体的手がかりを伝えている。次の活動につながる手がかりを伝えている。	それぞれのA 場面、A2場面及び見られたI 場面で確認する。
		2	手がかりを具体的に伝えている。	
		1	手がかりが出せない。あるいは、適切でない助言を与えている。	
⑳	参加者の行動に対する対応	3	すべての参加者に学習課題や手順が理解されており、活発な学習活動が見られる。また、不適切な場合は適切に修正している。	それぞれのA場面及びA2場面で確認する。
		2	おおむねの参加者に学習課題や手順が理解され、想定した活動が見られる。	
		1	学習課題や手順が十分に理解されず、参加者の行動が一定していない。	

鹿屋体育大学 教学アセスメント・ポリシー

令和元年7月29日

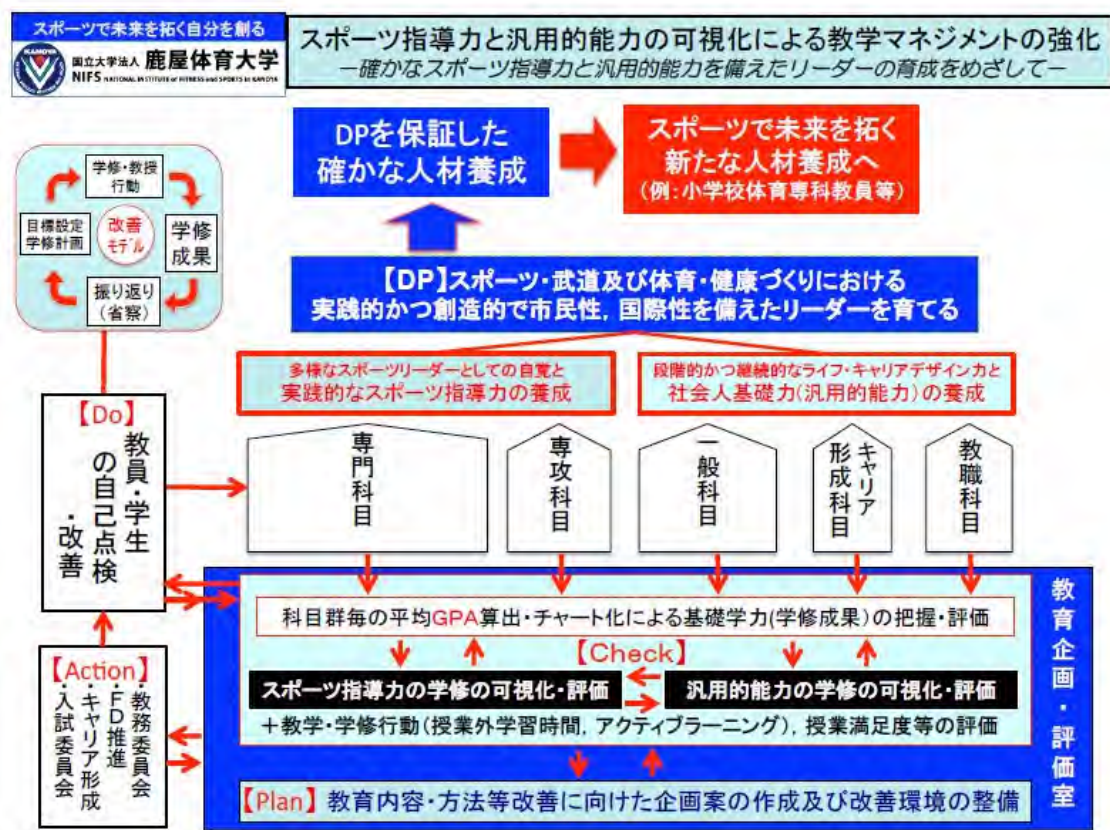
学 長 裁 定

鹿屋体育大学体育学部では、「ディプロマ・ポリシー」に即した学生の学修到達度の向上のために、3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー)に基づき、入学前・直後、在学中及び卒業時・卒業後において、機関レベル、教育課程レベル及び科目レベルの3段階で、学生の学修到達度を評価・検証する。

評価・検証する指標及び調査等の詳細は、全学的内部質保証の責任組織である運営企画会議において別途定める。

教学アセスメントの結果は、本学の特色や現状把握、全学的な教育改革・改善、学修支援の改善、外部評価対応及びベンチマークの検討等のためにも利用する。

教育プログラムの改善案を計画・実施する改革サイクル（2019年度）



教学アセスメントにおいて評価及び検証する指標や調査等

令和元年7月25日
運営企画会議決定

※赤字は可視化されている指標等を示す

アセスメント レベル	入学前・入学直後 アドミッション・ポリシーを 満たす人材かどうかの評 価・検証	在学中(単位認定・進級判定) カリキュラム・ポリシーに即って学修 が進められているかどうかの評価・ 検証	卒業時(卒業後) ディプロマ・ポリシーを満た す人材になったかどうかの 評価・検証
機関レベル 大学で行われる 教育や育成され る資質・能力の評 価・検証	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生アンケート ・入学試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生在籍状況(進級率・退学 率・休学率等) ・学生生活実態調査 ・課外活動状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与状況 ・卒業時進路状況 ・卒業時満足度調査 ・卒後調査(3・10年)
教育課程レベル 課程や専攻で行 われる教育や育 成される資質・能 力の評価・検証 (科目ごとの評 価・検証を包括的 に分析・評価す る)	<ul style="list-style-type: none"> ・汎用的能力テスト (PROG)[1年次] ・スポーツ指導者基礎力 テスト(SCCOT)[1年次] ・英語プレイスメントテスト (CASEC) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得状況 ・汎用的能力テスト(PROG)[3 年次] ・スポーツ指導者基礎力テスト (SCCOT)[2, 3年次] ・英語アチーブメントテスト (CASEC) ・授業振り返りアンケート ・学修ポートフォリオ(NIFSpass) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得状況 ・汎用的能力テスト (PROG)[4年次] ・スポーツ指導者基礎力 テスト(SCCOT)[4年次] ・資格・免許取得状況
科目レベル 個々の授業で 行われる教育や 育成される資 質・能力の評 価・検証		<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価 ・学外実習評価(学外者が付け る評価等) ・授業振り返りアンケート 	



外伝 - 鹿屋体育大学マークの秘密 -

宇宙を創造させる**紺碧の空**・地球の中から湧き出る**桜島**のエネルギーと
日の丸・若者の健全な**肉体と精神の躍動**をイメージしたデザインである。



(抜粋)

鹿屋体育大学での 4年間が充実する秘密の書



五：PDCAサイクルの巻



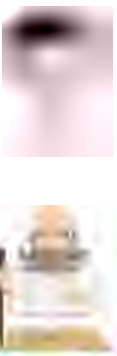
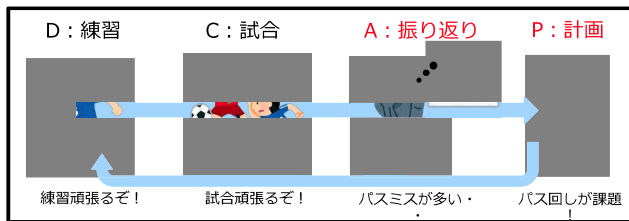
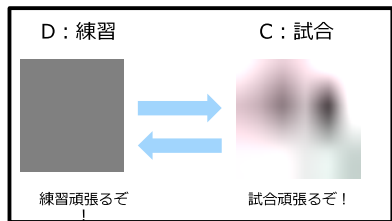
12個の力を身につけたら良いのか！
よーし！競技も勉強も頑張るぞ！
行動力には自信があるんだ！
全部の力を身につけるぞ！



ほっほっほ。
やる気満々のようじゃの
ただやる気だけでは空回りするぞい。
PDCAサイクルは知っているかの？
下の図を見てみるのじゃ。

とにかく練習あるのみ！ふんふんタイプ！

練習も振り返りもバッチリ！スマートタイプ！



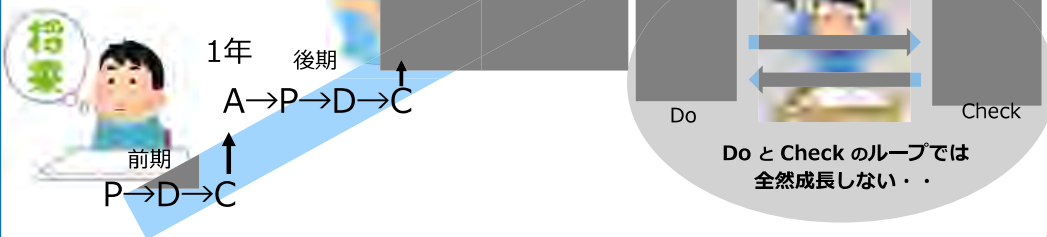
これは部活動のサイクル？
僕はどっちかというと
「ふんふんタイプ」かな。
誰よりも練習は頑張ってたからね。

ほっほっほ。
D (練習) と C (試合) だけでなく
P (計画) D (練習) C (試合) A (振り返り) の
「スマートタイプ」の習慣を身につけることが
大切なのじゃ。
体育大生は、スポーツを通してPDCAの達人に
なれるのじゃ。

目標



- A (Act) : 振り返り、改善案の検討
- P (Plan) : 目標、計画づくり
- D (Do) : 正課活動 (授業)、課外活動
- C (Check) : 試験、試合



六：NIFSpass (学修の振り返り) の巻



スポーツのA (振り返り) や
P (計画) は、わかるけど、
大学での学びって
何を振り返っていいか
よくわからないなあ。



ほっほっほ。
鹿屋体育大学では
大学での学びの成果を可視化することで、
振り返りや次の計画が立てられるように
なっているのじゃ。
ニフスパス
そのシステムの名前が「NIFSpass」じゃ。

2018年前期

発表期間: 2018-10-01 12:00
更新日時: 未入力



* Q1. データを見て、あなたの強みや長所は何だと感じますか。
わたしの長所は、実技力とコミュニケーション力です。
(記入日時: 2018-10-16 18:32 25 [サンプル学生1])

* Q2. 今後、どんな資質や能力を伸ばしたいと思う。将来、教員を目指しているの、自分の専門競技以外の競技でも指導できる力を身につけたい。
今後、実技指導力を伸ばしたいと思う。将来、教員を目指しているの、自分の専門競技以外の競技でも指導できる力を身につけたい。
(記入日時: 2018-10-11 16:32 25 [サンプル学生1])

* Q3. 具体的に、どんな学習方法や指導方法で改善を目指しますか。
スポーツ指導実習や教育実習の他にも、違う部活の友達に指導方法や練習方法を聞いてそれをまとめたいと思う。色々な競技をしている友達がいるのは体育大学の特長だと感じるの、大学のうちに多くの知識や指導方法やコツを学ぶ。
(記入日時: 2018-10-11 16:32 25 [サンプル学生1])



グラフ表示だとわかりやすい！
これなら自分にどんな力が身につけていて、どんな力が足りないか振り返りができそうです。
でも気になったのですがGPAって一体なんですか？



ほっほっほ。
振り返りを行い、計画を立てると次に行動するのが楽しみになるのじゃ。
GPAの説明をしとらんかったな。次のページで説明してやろう。

NIFS GALLERY 改装について

アクティブ・ラーニング等や学内における学生の主体的な学修・協働学習を支援する環境の整備として、NIFS GALLERY 改装を行いました。

利用時間 平日 9 時から 17 時の時間帯で、特定のイベント・行事、見学等がある時間を除き、予約なしで自由に利用できます。

利用に必要な装備品(ホワイトボード、マーカーペン、マグネットなどなど)がありましたら学術図書情報課図書サービス係(内線 4874)までご連絡ください。

なお、特定のイベントなどで一定時間、GALLERY 全体(または一部)を独占的に利用したい場合も、図書サービス係までご連絡ください。

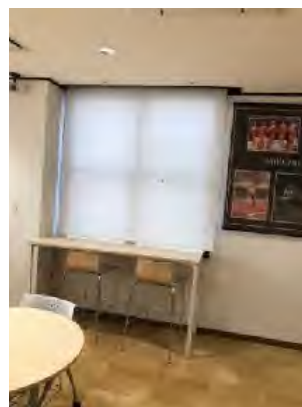
○組み合わせ自由なテーブル(可動キャスター付き)

勾玉型テーブル 7台 円形テーブル 1台

○キャスター付き椅子(座面の下に小物がおける収納付き) 32脚



○ハイカウンターテーブル 6席(電源コンセント付き)

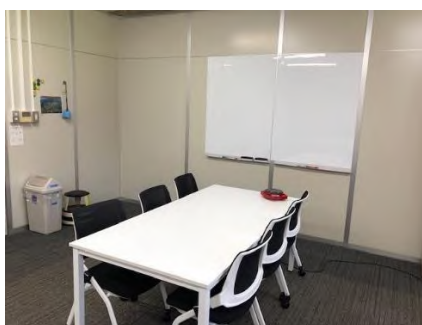


○窓ブラインドをロールスクリーンへ変更。

図書館フリースペースの名称について

2019年4月より、図書館1階（旧事務室（研究支援係・国際交流係））に、
ゆっくり座って、動画チェック、電子ブック閲覧などできる1人掛けソファ
打ち合わせなどが可能なテーブル
ホワイトボードシード（貼り付けタイプ）
テレビ

などを設置して、自由に利用できるようにした。ラーニングコモنزの機能をもたせた空間
としている。



利用時間は、図書館開館時間と同じく

平日 9:00-21:00

土曜 9:00-17:00

日曜 13:00-17:00

としている。

占有使用については、図書サービス係で予約を受け付け、その時間帯の利用は制限する予定
である。

ついでに、このフリースペースの名称を定めたい。

候補 「NIFS らこも」、「NIFS ラーコモ」

「NIFSラコモ」に決定！
ラコモはラーニングコモنزの略

羽ばたけ 大空へ

財団 月報

羽ばたけ 大空へ 全日本学生剣道選手権大会で優勝!

7月23日、大学日本一の優勝は、とてもうれし
を個人戦で争う第65回全
日本学生剣道選手権大会
がエディオンアリーナ大
阪(大阪府)で開催され、
鹿屋体育大学剣道部の牧
島凛太郎さん(武道課程
3年)が見事優勝を果た
しました。

準決勝を延長戦の末勝
ち上がり、迎えた決勝戦。
相手は苦手とする上段構
えの選手でしたが、試合
中盤、相手の手元がわず
かに上がった隙を見逃さ
ずコテをたたき込み、一
本勝ち。

牧島さんは、「昨
年の同大会では3
位で、目の前の勝
利を逃してとても
悔しかった。一年
間その悔しさをバ
ネに練習に励んだ
結果掴み取ったこ



快挙!団体3連覇!! 全日本学生なぎなた選手権大会

8月6日、芸濃総合文
化センター(三重県)に
おいて、第56回全日本学
生なぎなた選手権大会が
開催され、鹿屋体育大学
なぎなた部が試合競技団
体の部で見事3連覇を果
たしました。

主将の水谷晴佳さん
(スポーツ総合課程4年)
は「先輩達が果たした2
連覇を引き継がなければ
ならないと1年間ずっと
考えていました。昨年の
10月以降、この日のため
に練習内容を見直した基
礎練・応用練の実施、今
大会の直前には学
内での部員8名をフル
活用してプレ試
合を実施するなど
して、本番に緊張
しないようにと備
えたのが功を奏し
たと思います。地
域の方々、鹿屋体
育大学の教職員及
びOGのみなさん
をはじめとする多
くの方々からの応
援がプレッシャー
に負けない心の支
えになり、優勝す

ることで感謝し
ています。今は本場に
ホッとしています」と安
堵の表情で振り返りま
した。



編集・発行/
公益財団法人 鹿屋体育大学
体育・スポーツ振興教育財団
〒891-2393 鹿屋市白水町1番地
鹿屋体育大学内
0994-46-4827 (直)
編集兼発行人 風呂井 敬

学生挑戦プロジェクトに3件採用

鹿屋体育大学では、学
生の叶えたいプロジェクト
を募集し、その実現
を支援することにより、
学生の自主性、企画力、
創造性を養うとともに、
キャンパスライフの充
実・活性化を図ることを
目的に「鹿屋体育大学学
生挑戦プロジェクト」を
平成28年度から実施して
います。



採用されたプロジェクト

申請代表者	プロジェクト名
佐竹 凷道 (武道課程 4年)	保健体育授業実践の総合力向上プロジェクト ～専門家としての教師をめざして～
田中 陽 (スポーツ総合課程 2年)	教員になるための勉強会 ～集団討論、小論文の試験対策を通して～
佐藤 博幸 (スポーツ総合課程 2年)	平成28年度台風16号による大隅湖被害の復旧と 流木の再利用化

LL2教室を 多目的コミュニケーションルームへ改修

このたび、鹿屋体育大
学では国際交流センター
2階のLL2教室の改修
を行いました。

これまでのLL2教室
は固定机モニターとパ
ソコンを設置したCAL
L教室でしたが、今回の
改修により、タブレット
端末の利用を想定したテ
ィブル一体型の可動式椅
子へと変更。電子黒板や
複数の可動式ホワイトボ
ードを設置するなど、グ
ループワークをはじめと
するアクティブラーニン



わかくこ

昔から音楽が好きで、
趣味で楽しむ範囲ではあ
るが、ある楽器を長年演
奏しており自分の楽しみの
の一つとなっている▼振り
返ってみると、始めた頃
は、練習すればするほど
上達が実感できる時期が
しばらく続く。ところが、
ある一定のレベルに達する
と、練習量は以前より増
えているのに上達の速度
が明らかに落ちる。あれ
これ試行錯誤しても一向
に上達せず、そうなる
練習するのも苦痛になる
が、そこを踏ん張って工
夫を重ねて練習し続けて
いくうちに、突然、でき
なかつたことができるよ
うになり、一段高いレベ
ルに至る▼このような上
達の過程は程度の差こそあ
れ、スポーツにおいても共
通するのではないだろう
か。実際、いろんなスポ
ーツ選手のインタビューで
このような趣旨のことを
言っているのを見たこと
がある。要は、分野を問
わず、上達の過程は一直
線ではなく、必ず訪れる
停滞期にいかにか工夫を重
ね、努力を継続できるか
が、更に高いレベルに上
がるための鍵であるとい
うことなのだろう▼このよ
うなことを考えたあと、
自分と比較するのはおこ
がましいが、学内で接す
る学生さんたちに対して
更に親近感を感じ、想
いを馳せるようになった。

8月2日には教
職員に対する同教
室の説明会が行わ
れ、吉重美紀国際
交流センター長
より改修の経緯等
について話があつた
ほか、同センター
の国重徹教授より
改修後の教室を活
用した授業例の紹
介などが行われま
した。

あなたと一緒に。
来る日も来る日も、
練習に打ち込んだ。
何度か度々、
困難な壁を打ち破ってきた。
そんなあなたを、誰より一番近くで
見つけてきたから。
あなたがあんなに涙した理由も、
あなたがあんなに
笑顔を見せた理由も、
わたしにはわかる。
成功の陰に失敗は尽きない。
それでも。
明日は、きっと、できる。
そうあなたが自分を信じて
わたしを手にする限り、
あなたと一緒に挑みたい。



「附属図書館サービス向上のためのアンケート」集計結果

実施期間
平成30年10月2日～10月19日

	配布	回答	回答率
学部生	768	153	20%
大学院生	60	12	20%
教員	58	38	66%

参考 H27	配布	回答	回答率
学部生	771	456	59%
大学院生	74	18	24%
教員	78	19	24%

【学生】

問	選択肢	人数	%
問1. 所属	1 学部1年	38	23.0%
	2 学部2年	47	28.5%
	3 学部3年	44	26.7%
	4 学部4年	24	14.5%
	5 修士	4	2.4%
	6 博士	8	4.8%
	7 聴講生等学生	0	0.0%
問2. 本・雑誌を普段どのくらいの頻度で読んでいますか。	1 1週間に1冊以上	17	10.4%
	2 1ヶ月に1冊程度	47	28.7%
	3 半年に1冊程度	39	23.8%
	4 1年に1冊程度	19	11.6%
	5 全く読まない	42	25.6%
問3 問2*(1,2と答えた方)本を読む目的(複数回答)	1 本を読むことが好きだから	44	
	2 勉強・授業のため	50	
	3 競技力向上のため	34	
	4 就職活動・資格修得のため	9	
	5 その他	7	
問4. 図書館の利用頻度	1 ほぼ毎日	15	9.2%
	2 1週間に1回程度	38	23.3%
	3 1ヶ月に1回程度	32	19.6%
	4 数ヶ月に1回程度	22	13.5%
	5 試験期のみ	23	14.1%
	6 ほとんど利用しない	33	20.2%
問5. 問4*(1～3)利用目的(複数回答)	1 本を読むため	31	
	2 雑誌を読むため	30	
	3 新聞を読むため	8	
	4 試験勉強をするため	59	
	5 レポート・論文を書くため	51	
	6 2階学習室のパソコンを利用するため	38	
	7 ゼミ・グループ学習で利用するため	3	
	8 調べ物をするため	21	
	9 視聴覚資料を利用するため	1	
	10 その他	4	
問6. 問4*(4～6と答えた方)目的(複数回答)	1 忙しいから	36	
	2 読みたい本・雑誌がないから	14	
	3 本・雑誌は買って読むから	11	
	4 公共図書館に行くから	1	
	5 本を読む習慣がないから	43	
	6 図書館の利用法が分からないから	1	
	7 その他	0	
問7 図書館の本を借りる頻度	1 2週間に1回以上	9	5.8%
	2 1ヶ月に1回程度	13	8.3%
	3 1年に数回程度	27	17.3%
	4 ほとんど借りない	107	68.6%
問8. 貸出冊数、期間について	1 現状のままでよい	147	94.8%
	2 その他	8	5.2%
問9. 雑誌について	1 利用する	17	10.9%
	2 たまに利用する	57	36.5%
	3 利用したことがない	82	52.6%
問10. 問9. (1、2と答えた方)どの分野の雑誌を利用しますか(複数回答)	1 各武道、スポーツ雑誌	60	
	2 体育	18	
	3 保健	7	
	4 教育	9	
	5 栄養・健康	6	
	6 生化学・医学	2	
	7 スポーツ医学	4	
	8 コーチング・トレーニング	14	
	9 心理学	6	
	10 文学	2	
	11 地元情報誌	2	
	12 その他	24	

問	選択肢	人数	%
問11. 新聞について	1 利用している	4	2.6%
	2 ときどき利用する	33	21.4%
	3 利用したことがない	117	76.0%
問12. 問11*(1, 2と答えた方)利用する新聞 (複数回答)	1 南日本新聞	16	/
	2 読売新聞	12	
	3 The Japan News	5	
	4 毎日新聞	16	
	5 朝日新聞	10	
	6 日刊スポーツ	11	
	7 日本経済新聞	3	
	8 南九州新聞	1	
	9 人民日報	0	
問13. 電子ジャーナルの利用	1 利用している	7	4.5%
	2 ときどき利用する	6	3.9%
	3 ほとんど利用しない、利用したことがない	142	91.6%
問14. 問13*(3と答えた方)理由(複数回答)	1 利用する機会がないから	63	/
	2 利用したい雑誌の契約がされていないから	8	
	3 利用の仕方が分からないから	29	
	4 電子ジャーナルの存在を知らなかった	63	
	5 その他	0	
問15. 視聴覚資料	1 利用したことがある	9	5.8%
	2 利用したことがない	145	94.2%
問16. 問15*(2と答えた方)理由 (複数回答)	1 観たいDVD・VHSがないから	34	/
	2 DVDを利用できることを知らなかった	34	
	3 図書館で観る時間がないから	33	
	4 図書館に行かないから	30	
	5 DVDの場所が分からないから	21	
	6 その他	2	
問17. 図書館に充実させてほしい分野[体育・スポーツ・武道] (複数回答)	1 体育理論・体育学	35	/
	2 体育力学	21	
	3 体育社会学	58	
	4 体育心理学	101	
	5 体育測定・運動能力	62	
	6 体育医学・スポーツ医学	64	
	7 運動生理学	123	
	8 運動衛生学	208	
	9 指導法、トレーニング	98	
	10 スポーツ・武道等の入門書、専門書	46	
	11 その他	83	
問18. 図書館に充実させてほしい分野[一般図書](複数回答)	1 哲学・宗教学	11	/
	2 心理学	31	
	3 歴史・地理	11	
	4 社会学	4	
	5 経済学・経営学	13	
	6 教育学	32	
	7 統計学	18	
	8 物理学	3	
	9 化学	3	
	10 天文・地理	2	
	11 生物学	6	
	12 医学	8	
	13 工学・産業	2	
	14 芸術	10	
	15 語学	21	
	16 文学	23	
	17 就職関連	50	
	18 その他	5	
問19. [視聴覚資料] (複数回答)	1 スポーツ関連	66	/
	2 武道関連	20	
	3 一般ドキュメンタリ	36	
	4 映画	81	
	5 語学	17	
	6 その他	1	

問	選択肢	人数	%
問20. 利用環境	1 良い	61	40.1%
	2 普通	89	58.6%
	3 悪い	2	1.3%
問21. 問20*(3と答えた方)悪いと思う部分 (複数回答)	1 閲覧室の照明が暗い	6	
	2 廊下・ホールの照明が暗い	4	
	3 館内が暑い・寒い	5	
	4 閲覧スペースが少ない	3	
	5 勉強できるスペースが少ない	7	
	6 書棚で本が探しにくい	5	
	7 2階学習室のパソコンが少ない	6	
	8 検索用のパソコンが少ない	5	
	9 その他	1	
問22. 開館時間	1 今のままでよい	131	86.2%
	2 その他	21	13.8%
問23. グループ学習室	1 よく利用する	7	4.6%
	2 たまに利用する	37	24.3%
	3 ほとんど利用しない、利用したことがない	108	71.1%
問24. 問23で1、2を回答した人について。利用する目的は何ですか。(複数回答可)	1 部活等に関するグループ討議	13	
	2 ゼミ等のグループ討議	9	
	3 ゼミ発表	5	
	4 自発的な発表練習	6	
	5 集中して勉強するため	24	
	6 その他	1	
問25. NIFS GALLERY内学修スペースの利用	1 よく利用する	13	
	2 たまに利用する	57	
	3 ほとんど利用しない、利用したことがない	82	
問26. 問25*(1、2と答えた方)利用する目的 (複数回答)	1 部活等に関する打ち合わせ	22	
	2 ゼミ等での打ち合わせ、グループ討議	4	
	3 ゼミ発表	0	
	4 自発的な発表練習	7	
	5 集中して勉強するため	26	
	6 その他	19	
問27. NIFS GALLERY内学修スペース利用時間	1 今のままで良い (平日17時まで 土日休日は閉室)	137	95.8%
	2 その他	6	4.2%
問28. NIFS GALLERY内学修スペースのそなえるべき機能 (複数回答可)	1 気軽に使える	61	
	2 予約して利用できる	5	
	3 会話ができる	29	
	4 テーブル等を自由に移動して利用できる	6	
	5 ホワイトボード	6	
	6 プロジェクター	4	
	7 貸出用パソコン、タブレットPC	15	
	8 スタッフのサポート	2	
	9 その他	2	

【教員】

問	選択肢	人数	%
問2. 図書館の利用頻度	1 よく利用する	5	13.2%
	2 利用する	23	60.5%
	3 ほとんど利用しない	10	26.3%
問4 利用目的(複数回答)	1 本の貸出	22	
	2 調査・研究	26	
	3 視聴覚資料の貸出	1	
	4 文献複写や図書の貸借依頼	17	
	5 ゼミ・授業の場所	2	
	6 新聞を読む	5	
	7 読書	1	
	8 その他	2	
問6. 図書館2階グループ学習室の利用頻度	1 よく利用する	0	0.0%
	2 利用する	15	39.5%
	3 ほとんど利用しない	23	60.5%
問8. グループ学習室の利用目的	1 ゼミ、授業	6	
	2 学生との個別相談	0	
	3 学生のディスカッションおよびその指導	1	
	4 学生の発表練習およびその指導	0	
	5 その他	13	
問10. グループ学習室、学習スペースが備えるべき機能	1 本が利用できること	24	
	2 雑誌が利用できること	19	
	3 DVD等映像資料を利用できること	15	
	4 語学学習資料を利用できること	11	
	5 静かに読書や勉強ができること	24	
	6 気安く利用できること	22	
	7 テーブルを自由に配置し、様々な用途、人数で利用できること	18	
	8 ホワイトボード	15	
	9 プロジェクター、大型ディスプレイ	17	
	10 貸出用PC、タブレット端末	9	
	11 スタッフサポート	12	
	12 その他	1	
問12. 企画について望ましいもの	1 就活に関する講演説明会	2	
	2 スポーツボランティア	0	
	3 部活の成果報告会	0	
	4 文献データベース利用講習会	25	
	5 勉強会、研究会 (会場提供)	14	
	6 レポートの書き方、発表の仕方に関する講習会、講演会	14	
	7 その他	2	
問14. 図書館と授業の連携	1 予習の課題等、授業関連の資料コーナー設置	15	41.7%
	2 授業課題(レポート)への対応、関連図書館資料の説明	20	55.6%
	3 その他	1	2.8%
問16. 図書館の文献複写サービス	1 現状サービス	28	82.4%
	2 論文単位での買取サービス	6	17.6%
	3 その他	0	0.0%

アクティブラーニング 月間利用者集計表

	2016年						2017年						計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
図書館2階グループ学習室	69	63	38	21	12	30	46	35	9	69	77	47	516
	H28計												516

	2017年						2018年						計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
図書館2階グループ学習室	94	118	60	88	54	48	90	30	54	94	70	60	860
	H29計												860

	2018年						2019年						計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
NIFS GALLERY (2018.10.1整備)	—	—	—	—	—	—	382	372	281	270	297	81	1,683
図書館2階グループ学習室	60	63	76	109	96	54	97	24	56	86	98	72	891
	H30計												2,574

	2019年						2020年						計
	R1.4	R1.5	R1.6	R1.7	R1.8	R1.9	R1.10	R1.11	R1.12	R2.1	R2.2	R2.3	
NIFS GALLERY	1,281	935	786	1,524	593	559	1,100	1,424	1,114	1,821	993	208	12,338
NIFS ラコモ 2019.4.1整備	—	73	180	279	162	37	116	273	165	243	213	106	1,847
図書館2階グループ学習室	142	112	115	159	92	32	115	96	90	105	164	155	1,377
	R1計												15,562

鹿屋体育大学教員表彰規則

令和 2 年 2 月 2 5 日
規 則 第 1 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鹿屋体育大学職員表彰規則（平成 1 6 年規則第 3 5 号。以下「規則」という。）第 5 条の規定に基づき、教員表彰について定める。

(目的)

第 2 条 教員表彰（以下「表彰」という。）は、鹿屋体育大学（以下「本学」という。）の授業において優れた教育能力を発揮した教員及び本学学生の競技力向上に貢献した教員をそれぞれ表彰することにより、本学の教育活動及び競技力向上の進展を図ることを目的とする。

(表彰の対象者)

第 3 条 表彰は、次の各号の一に該当する本学教員について行う。

- (1) 本学の授業において優れた教育能力を発揮した教員
- (2) 本学学生の競技力向上に貢献した教員

(優れた教育能力を発揮した教員の表彰)

第 4 条 前条第 1 号に規定する表彰の名称は、優秀授業賞とする。

(学生の競技力向上に貢献した教員の表彰)

第 5 条 第 3 条第 2 号に規定する表彰の名称は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) プラチナコーチ表彰
- (2) ゴールドコーチ表彰
- (3) シルバーコーチ表彰
- (4) ブロンズコーチ表彰

(欠格条項)

第 6 条 第 4 条又は前条に定める表彰の対象者が、次の各号の一に該当するときは、表彰を受けることができないものとする。

- (1) 過去 1 年以内において、本学の懲戒処分を受けた者
- (2) その他表彰することが適当でないと学長が認めた者

(表彰対象者の推薦)

第 7 条 第 4 条に規定の表彰については、F D 推進専門委員会において、教員の教育・指導技術等に関する評価システムに基づく顕彰対象者の選出方法に係る実施要項（令和元年 9 月 2 7 日 F D 推進専門委員会決定）に基づいて対象者を選考し、選考された者について、推薦書（別紙様式 1）により学長に推薦するものとする。

2 第 5 条に規定の表彰については、競技力向上委員会において、学生の競技力向上

に貢献した教員表彰対象者の選出について（令和元年10月24日競技力向上委員会決定）に基づいて対象者を選考し、選考された者について、推薦書（別紙様式2）により学長に推薦するものとする。

（表彰対象者の決定）

第8条 学長は、前条に規定の推薦書等を総合的に勘案して、表彰対象者を決定する。

（表彰状の授与等）

第9条 学長は、前条の規定により表彰対象者を決定したときは、表彰状（別紙様式3）を授与するものとする。

2 前項の表彰状の授与にあわせて、記念品を贈呈することができるものとする。

（表彰の時期）

第10条 表彰は、毎年1回、原則として本学の開学記念日に行うものとする。

（表彰の取消）

第11条 学長は、表彰を受けた者が第6条の各号の一に該当することとなった場合は、その表彰を取り消すことができるものとする。

2 前項の規定は、表彰前の表彰対象者についても適用するものとする。

（事務）

第12条 表彰に関する事務は、総務課において処理する。

（その他）

第13条 この規則に定めるもののほか、表彰の実施に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規則は、令和2年2月25日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

別紙様式 1（第 7 条関係）

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

F D 推進専門委員会委員長

○ ○ ○ ○

教員表彰（優秀授業賞）対象者の推薦について

標記のことについて、令和 年 月 日開催の F D 推進専門委員会において
審議の結果、下記のとおり 名を推薦することとなりましたので、よろしくお取り計
らい願います。

記

【対象者氏名及び理由】

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

令和 年 月 日

鹿屋体育大学長 様

競技力向上委員会委員長

○ ○ ○ ○

教員表彰対象者の推薦について

標記のことについて、令和 年 月 日開催の競技力向上委員会において審議の結果、下記のとおり推薦することとなりましたので、よろしくお取り計らい願います。

記

1. プラチナコーチ表彰（ 名）

【対象者氏名及び理由】

(1)

(2)

2. ゴールドコーチ表彰（ 名）

【対象者氏名及び理由】

(1)

(2)

3. シルバーコーチ表彰（ 名）

【対象者氏名及び理由】

(1)

(2)

4. ブロンズコーチ表彰（ 名）

【対象者氏名及び理由】

(1)

(2)

別紙様式 3 (第 9 条関係)

イ 第 4 条の場合

表 彰 状 優 秀 授 業 賞	氏 名 殿	あなたは授業において優れた教育能力を發揮されました よってその功績をたたえるとともに今後より一層精励されることを期待しここに表彰します	令 和 年 月 日	鹿 屋 体 育 大 学 長 名	印
--	-------------	--	-----------------------	--------------------------------------	---

ロ 第 5 条の場合

表 彰 状 〇 〇 〇 〇 〇 〇 表 彰	氏 名 殿	あなたは学生の競技力向上に貢献されました よってその功績をたたえるとともに今後より一層精励されることを期待しここに表彰します	令 和 年 月 日	鹿 屋 体 育 大 学 長 名	印
---	-------------	---	-----------------------	--------------------------------------	---

令和元年度 教員表彰対象者について

鹿屋体育大学教員表彰規則（以下、教員表彰規則）第7条により、下記のとおり推薦があったので、教員表彰規則第8条により、表彰対象者を決定するものである。

- 教員表彰規則第3条第1号および第4条に規定する表彰対象者 19名
（令和2年2月25日開催 FD推進専門委員会 決定）

- 教員表彰規則第3条第2号および第5条に規定する表彰対象者 7名
（令和2年2月27日開催 競技力向上委員会 決定）

※ 表彰対象者氏名及び推薦理由は、別添の各委員長から提出された推薦文のとおり。

※ 表彰対象者について、教員表彰規則第6条第1号に該当する者はいない。

鹿屋体育大学長 様

FD推進専門委員会委員長
金高宏文

教員表彰（優秀授業賞）対象者の推薦について

標記のことに付いて、令和2年2月25日開催のFD推進専門委員会において審議の結果、下記のとおり19名を推薦することとなりましたので、よろしくお取り計らい願います。

記

【対象者氏名及び理由】

●平成30年度授業科目における優秀授業賞対象者

	対象者氏名	推薦理由		
		授業科目名	科目区分	推薦要件
(1)	前田 明	体育学実験Ⅱ－バイオメカニクス	講義・演習科目	回答者数10～25人：授業得点85%以上
(2)	高井 洋平	体育学実験Ⅱ－バイオメカニクス	講義・演習科目	回答者数10～25人：授業得点85%以上
(3)	浜田 幸史	保健体育科教育法Ⅳ	講義・演習科目	回答者数10～25人：授業得点85%以上
		保健体育科教育法Ⅰ	講義・演習科目	回答者数76人以上：授業得点75%以上
(4)	中村 勇	武道文化論	講義・演習科目	回答者数10～25人：授業得点85%以上
(5)	国重 徹	英語Ⅱ（初級B）	講義・演習科目	回答者数26～75人：授業得点80%以上
(6)	森 克己	国語・文章表現法	講義・演習科目	回答者数76人以上：授業得点75%以上
(7)	幾留 沙智	スポーツカウンセリング論	講義・演習科目	回答者数76人以上：授業得点75%以上
(8)	三浦 健	バドミントン①	実技科目	授業得点85%以上
		バスケットボール②	実技科目	授業得点85%以上
		ソフトボール①	実技科目	授業得点85%以上
		競技スポーツ論・実習Ⅰ－バスケットボール	実技科目	授業得点85%以上
		競技スポーツ論・実習Ⅱ－バスケットボール	実技科目	授業得点85%以上
(9)	塩川 勝行	バドミントン①	実技科目	授業得点85%以上
(10)	前阪 茂樹	剣道②	実技科目	授業得点85%以上
		専修武道論・実習Ⅳ－剣道	実技科目	授業得点85%以上
(11)	竹中 健太郎	剣道②	実技科目	授業得点85%以上
		専修武道論・実習Ⅳ－剣道	実技科目	授業得点85%以上
(12)	木葉 一総	バスケットボール②	実技科目	授業得点85%以上
		競技スポーツ論・実習Ⅰ－バスケットボール	実技科目	授業得点85%以上
		競技スポーツ論・実習Ⅱ－バスケットボール	実技科目	授業得点85%以上
(13)	榮樂 洋光	海洋スポーツ①（1－8週）	実技科目	授業得点85%以上
		海洋スポーツ②（9週－16週）	実技科目	授業得点85%以上
(14)	中村 夏実	海洋スポーツ①（1－8週）	実技科目	授業得点85%以上
		海洋スポーツ②（9週－16週）	実技科目	授業得点85%以上
(15)	下川 美佳	剣道②	実技科目	授業得点85%以上
(16)	北村 尚浩	夏季山岳レジャースポーツ実習	実技科目	授業得点85%以上
(17)	坂口 俊哉	夏季山岳レジャースポーツ実習	実技科目	授業得点85%以上
(18)	濱田 幸二	ソフトボール①	実技科目	授業得点85%以上
(19)	青木 竜	ソフトボール①	実技科目	授業得点85%以上

令和 2 年 2 月 27 日

鹿屋体育大学長 様

競技力向上委員会委員長
瓜田 吉久

教員表彰対象者の推薦について

標記のことについて、令和 2 年 2 月 27 日開催の競技力向上委員会において審議の結果、下記のとおり推薦することとなりましたので、よろしくお取り計らい願います。

記

1. プラチナコーチ表彰（3名）

【対象者氏名及び理由】

(1) 対象者：前阪 茂樹、竹中 健太郎、下川 美佳

理 由：剣道競技において、世界選手権大会に代表選手として選出されるに至るまで指導し、国際競技力向上に貢献したため

【大会名/競技成績：第 17 回世界剣道選手権大会/1 位】

2. ゴールドコーチ表彰（3名）

【対象者氏名及び理由】

(1) 対象者：北川 淳一、村田 憲亮

理 由：体操競技において、指導者が卓越した指導力と行動力を兼ね備え、常日頃から全力で学生と向かい合うことで国際競技力向上に貢献したため

【大会名/競技成績：2018FIG 種目別チャレンジカップ・スロベニア大会/1 位】

【大会名/競技成績：第 18 回アジア競技大会/2 位】

(2) 対象者：黒川 剛

理 由：自転車競技において、卓越した指導（技術・戦術など）で国際競技力向上に貢献したため

【大会名/競技成績：第 18 回アジア競技大会/3 位】

3. ブロンズコーチ表彰（1名）

【対象者氏名及び理由】

(1) 対象者：中村 夏実

(2) 理 由：ボート競技において、指導した学生が日本選手権の当該種目で 14 年ぶりに入賞し、競技力向上に貢献したため

【大会名/競技成績：第 96 回全日本選手権大会/2 位】

令和元年度教員表彰式

日 時 令和2年3月5日（木）9：30～10：20（予定）

場 所 事務局大会議室

表彰（優秀授業賞）

式次第 ① 開式の辞（総務課長）

② 表彰状授与

③ 学長挨拶

④ 閉式の辞（総務課長）

※終了後写真撮影

表彰（プラチナコーチ表彰、ワールドコーチ表彰、ブロンズコーチ表彰）

式次第 ① 開式の辞（総務課長）

② 表彰状授与

③ 学長挨拶

④ 閉式の辞（総務課長）

※終了後写真撮影



HOME > インフォメーション > 令和元年度教員表彰式を実施しました

令和元年度教員表彰式を実施しました

公開日:2020年03月12日

鹿屋体育大学では3月5日、令和元年度の教員表彰式を実施しました。

この教員表彰は、各教員の前年度の実績を基にして、本学の授業において優れた教育能力を発揮した教員を表彰する「優秀授業賞」と本学学生の競技力向上に貢献した教員を表彰する「プラチナコーチ表彰」等の各表彰で構成されております。

今回の表彰対象者は、前年度の授業振り返りアンケートを基にして、全授業科目の中から高い評価を得られたことにより贈られる**優秀授業賞に19名**、前年度の競技成績を基にして、世界選手権大会等に出場者を輩出したことにより贈られる**プラチナコーチ表彰に3名**、アジア大会等において3位以上の成績を挙げた者を輩出したことにより贈られる**ゴールドコーチ表彰に3名**、全日本選手権大会等において3位以上の成績を挙げた者を輩出したことにより贈られる**ブロンズコーチ表彰に1名**が選定されました。

松下雅雄学長をはじめ、理事、系主任、事務局次長列席のもとに行われた表彰式では、松下学長から一人一人に表彰状が手渡された後、今後も連続して表彰されるように励ましの言葉がかけられました。毎年表彰を行うことで、教員が一層モチベーションを高め、本学の教育活動及び競技力向上の進展につながることが期待されます。



優秀授業賞の教員（その1）



優秀授業賞の教員（その2）



プラチナコーチ、ゴールドコーチ、ブロンズコーチ表彰の教員

平成28年度FD事業への教員の参画状況

FD事業	①										②		③		④				⑤	
	授業参観 (参観者)	FD研修会	FD研修会	FD講演会・研究会	外部研修	新任教員 研修会	TA研修会	授業アンケート	授業改善 報告書	アクティ ブ・ラー ニングに 係るアン ケート	ミニマ ム・エッ センシャル 作成	合計 (回数) 自主参加のもののみ	合計 (回数) 授業評価アンケートを含む	合計 (回数) ALアンケートを含む	合計 (回数) ミニマム・ エッセンシャルを含む	備考	TA報告書	授業記録 の確認		
担当	和田	金高	金高		川西・池内・金高	金高・三浦										藤田・三浦				
期間	任意	12/8、 12/12	3/22	12/26	10/7	4/1、9/1	4/7、4/28	前・後期	前・後期	未実施										
		WebClass講 習会	ICT、AL、 GPA	アクティブ・ ラーニング							①	①+②	①+②+ ③	①+②+ ③+④						
スポーツ・ 武道実践科学系											0	2	2	2			2			
											1	1	1	1			1			
											2	2	3	3			4			
											0	0	1	1			2			
											2	2	3	3		○	5			
											5	7	8	8			8			
											0	1	2	2		○	3			
											3	3	4	4			4			
											0	1	2	2			2			
											0	1	2	2			2			
											0	1	2	2			2			
											0	0	1	1			1			
											0	0	1	1			1			
											3	5	6	6		○	8			
											1	2	3	3			3			
										0	1	2	2		○	3				
										0	0	1	1			1				
										2	2	3	3			3				
										0	0	1	1			1				
										1	1	1	1			1				
										1	1	2	2			2				
スポーツ生命科学系											0	0	1	2			3			
											0	2	3	4			4			
											1	3	4	5		○	6			
											0	1	2	3			3			
											0	0	1	1			1			
											0	0	0	0			1			
											0	0	0	0			1			
											1	1	2	2			2			
											3	5	6	7		○	9			
											2	2	2	2	H28.9.1採用		2			
											1	1	2	2		○	3			
											0	2	2	2			2			
											0	2	3	4			4			
											2	2	3	3			3			
											0	1	2	3		○	4			
										1	1	1	1			1				
										2	2	3	4			5				
スポーツ人文・ 応用社会科学系											1	1	1	1			1			
											0	0	1	1			1			
											3	3	4	5			6			
											1	2	3	4			4			
											1	2	3	4			4			
											1	2	3	3			3			
											2	2	3	3			3			
											1	1	2	2			2			
											0	0	1	2		○	4			
											1	1	2	2			2			
											0	1	2	2			2			
											4	4	5	5			6			
											3	4	5	5			5			
											0	2	2	2	後期から長期研修		2			
											1	3	4	4			4			
										1	1	2	2			2				
										5	6	7	7			7				
										1	1	2	2			2				
										0	0	1	2			2				
										1	1	2	3			3				
										1	1	2	3		○	4				
合計	16	10	19	10	2	4	2	24	10	53	15	35	48	61		8	17			

63
※ 「授業アンケート」のうち、○は担当授業が実施対象外の教員
※ 「FD講演会」は未実施
※ 「新任教員研修会」のうち、○は担当教員及び対象教員以外の教員
※ 「TA研修会」のうち、○は担当以外の教員

参加率 96.8%
合計回数 165
平均回数 2.6

平成29年度FD事業への教員の参画状況

FD事業	①										②		③		④		合計 (回数) 自主参加の もののみ	合計 (回数) 授業振り返 りアンケート を含む	合計 (回数) アクティ ブ・ラー ニングア ンケート を含む	合計 (回数) ミニマ ム・エッ センシャル 作成を 含む				
	授業参観 (参観者)	授業参観 (参観者)	授業参観 (参観者)	授業参観 (参観者)	授業参観 (参観者)	新任教員 研修会	FD講演会	FD講演会	FD研修会	TA研修会	学外研修	授業ア ンケート結 果振り返 り	授業ア ンケート結 果振り返 り	アクティ ブ・ラー ニングに 係るア ンケート	ミニマ ム・エッ センシャ ル作成									
担当	藤坂・金高	藤坂・金高	藤坂・金高	藤坂・金高	藤坂・金高	角川	中垣内・藤坂	藤坂・中垣内	藤坂	三浦	藤坂	金高	金高	金高	金高									
期間	10/16 10/30	11/13	11/24	10/19 10/26	任意	4/3	6/29	2/16	12/4	4/6 4/10		前期	後期											
	ペーパー 提出(専任教 員)	教育方法・技術 (専任教員)	教育相談・カウンセリング セッション (専任教員)	トレーニング セッション (専任教員)			FD解説 会	FD講演 会	シラバスの書 き方ワー クショップ															
スポーツ・武道実践科学系				○			○	○	○		○	○	○	○	○	①	①+②	①+②+③	①+②+③ +④	4	6	7	8	
				○	○		○	○	○		○	○	○	○	○		1	2	3	3	1	2	3	3
				○			○	○	○		○	○	○	○	○		5	7	8	8	5	7	8	8
			○				○	○	○	○		○	○	○	○		4	6	7	8	4	6	7	8
							○	○	○		○	○	○	○	○		2	4	5	6	2	4	5	6
					○			○	○		○	○	○	○	○		3	5	6	7	3	5	6	7
			○					○	○		○	○	○	○	○		1	2	3	3	1	2	3	3
					○			○	○		○	○	○	○	○		2	4	5	6	2	4	5	6
					○			○	○		○	○	○	○	○		1	3	4	5	1	3	4	5
					○			○	○		○	○	○	○	○		3	5	6	7	3	5	6	7
					○			○	○		○	○	○	○	○		2	4	5	6	2	4	5	6
					○			○	○		○	○	○	○	○		1	2	3	3	1	2	3	3
					○			○	○		○	○	○	○	○		4	6	7	7	4	6	7	7
					○			○	○		○	○	○	○	○		3	5	6	7	3	5	6	7
	スポーツ生命科学系				○			○	○		○	○	○	○	○		1	3	4	4	1	3	4	4
				○			○	○		○	○	○	○	○		2	4	5	5	2	4	5	5	
				○			○	○		○	○	○	○	○		1	2	2	2	1	2	2	2	
				○			○	○		○	○	○	○	○		3	4	5	6	3	4	5	6	
				○			○	○		○	○	○	○	○		4	4	5	5	4	4	5	5	
				○			○	○		○	○	○	○	○		4	6	7	7	4	6	7	7	
				○			○	○		○	○	○	○	○		3	3	3	4	3	3	3	4	
				○			○	○		○	○	○	○	○		0	1	2	3	0	1	2	3	
				○			○	○		○	○	○	○	○		0	0	0	1	0	0	0	1	
				○			○	○		○	○	○	○	○		3	5	6	7	3	5	6	7	
				○			○	○		○	○	○	○	○		3	4	5	6	3	4	5	6	
				○			○	○		○	○	○	○	○		0	1	1	1	0	1	1	1	
				○			○	○		○	○	○	○	○		0	1	2	3	0	1	2	3	
				○			○	○		○	○	○	○	○		1	3	4	4	1	3	4	4	
スポーツ人文・応用社会科学系					○			○	○		○	○	○	○	○		5	5	5	5	5	5	5	5
				○			○	○		○	○	○	○	○		2	3	4	4	2	3	4	4	
				○			○	○		○	○	○	○	○		2	3	4	4	2	3	4	4	
				○			○	○		○	○	○	○	○		2	4	5	5	2	4	5	5	
				○			○	○		○	○	○	○	○		1	3	4	4	1	3	4	4	
				○			○	○		○	○	○	○	○		0	2	3	4	0	2	3	4	
				○			○	○		○	○	○	○	○		3	4	5	6	3	4	5	6	
				○			○	○		○	○	○	○	○		2	4	5	5	2	4	5	5	
				○			○	○		○	○	○	○	○		1	3	4	4	1	3	4	4	
				○			○	○		○	○	○	○	○		2	4	5	5	2	4	5	5	
				○			○	○		○	○	○	○	○		2	4	5	6	2	4	5	6	
				○			○	○		○	○	○	○	○		1	2	3	3	1	2	3	3	
				○			○	○		○	○	○	○	○		5	5	5	5	5	5	5	5	
				○			○	○		○	○	○	○	○		2	3	4	4	2	3	4	4	
				○			○	○		○	○	○	○	○		1	2	3	3	1	2	3	3	
			○			○	○		○	○	○	○	○		2	4	5	6	2	4	5	6		
			○			○	○		○	○	○	○	○		6	8	9	9	6	8	9	9		
			○			○	○		○	○	○	○	○		2	2	3	4	2	2	3	4		
			○			○	○		○	○	○	○	○		1	3	4	4	1	3	4	4		
			○			○	○		○	○	○	○	○		3	4	5	5	3	4	5	5		
			○			○	○		○	○	○	○	○		5	6	7	7	5	6	7	7		
合計	7	11	3	19	8	4	27	16	20	2	3	44	36	42	21	51	56	56	59					

※ 「新任教員研修会」のうち、□は担当教員及び対象教員以外の教員
 ※ 「TA研修会」のうち、□は担当以外の教員

参加率	100%
合計回数	263
平均回数	4.5

平成30年度FD事業への教員の参画状況

FD事業	授業参観 (参観者)	授業参観 (参観授業 担当者)	FD講演・ 研究会	FD研修会 ※	e-Learning 研修会	e-Learning 研修会	FD講演会	FD講演会	FD講演会	外部研修	新任教員 研修会	TA研修会	授業振り 返りアン ケート結果講評	合計	備考
期間			9/21	3/1	11/27	2/27	2/15	3/1	3/12				前期 後期		
教員氏名															
スポーツ・武道実践科学系	○	○			○	○	○						○	○	7
									○				○	○	2
	○	○	○	○				○	○				○	○	8
	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	11
	○			○					○				○	○	5
	○	○	○	○		○	○	○	○				○	○	10
	○			○				○	○				○	○	5
	○				○								○	○	4
		○				○	○						○	○	1
	○			○		○			○	○			○	○	5
	○	○		○				○	○				○	○	5
	○	○	○	○			○	○	○	○		○	○	○	6
	○	○											○	○	11
	○	○											○	○	4
	○												○	○	2
○			○	○	○	○	○	○				○	○	2	
○					○		○					○	○	9	
○					○		○					○	○	9	
○					○		○				○	○	○	5	
○									○			○	○	3	
○												○	○	2	
○	○	○	○	○	○			○	○			○	○	6	
○	○	○	○	○	○					○		○	○	4	
○	○	○	○	○	○					○		○	○	8	
														0	
スポーツ生命科学系			○	○			○	○	○				○	○	1
	○			○			○	○	○				○	○	7
				○				○	○				○	○	6
						○			○				○	○	2
		○							○				○	○	1
													○	○	0
		○							○				○	○	3
	○	○	○		○		○		○				○	○	4
	○	○	○		○		○		○				○	○	4
	○	○	○		○		○		○				○	○	5
	○	○	○		○		○		○				○	○	4
						○	○	○		○		○	○	2	
						○	○	○				○	○	4	
						○	○	○				○	○	3	
						○	○	○				○	○	5	
○	○	○		○		○		○				○	○	4	
スポーツ人文・応用社会科学系	○			○	○	○		○	○				○	○	2
	○												○	○	8
	○												○	○	3
	○												○	○	5
	○			○	○	○		○					○	○	7
	○								○				○	○	5
	○	○	○					○					○	○	3
	○	○	○					○					○	○	6
		○								○			○	○	1
	○					○	○	○	○				○	○	5
	○		○			○	○	○	○				○	○	7
	○		○		○	○	○	○	○		○		○	○	8
	○		○	○		○	○		○	○			○	○	8
	○	○	○		○	○	○		○	○			○	○	6
	○		○		○	○	○		○	○			○	○	7
○	○	○		○	○	○		○	○			○	○	8	
○	○	○		○	○	○		○	○			○	○	4	
○	○	○		○	○	○		○	○			○	○	4	
○	○	○		○	○	○		○	○			○	○	7	
合計	31	21	18	16	26	19	18	16	31	2	5	1	34	46	57

57

参加率	100%	(保健管理センターを除く)
合計回数	284	
平均回数	5.0	

※ □は担当教員及び対象教員以外の教員

令和元年度FD事業への教員の参画状況

FD事業	授業参観 (参観者)	授業参観 (推奨授業 担当者)	SD・FD研 修会	FD講演会	外部研修	新任教員 研修会	TA研修会	授業振り返りアン ケート結果講評		合計	備考
								前期	後期		
期間			10/17	1/27							
教員氏名											
教員1	○		○	○	○				○	5	
教員2			○						○	2	
教員3	○		○	○					○	4	
教員4	○		○	○		○		○	○	6	
教員5	○		○					○	○	4	
教員6	○		○					○	○	4	
教員7	○							○	○	3	
教員8		○						○	○	3	
教員9	○		○					○	○	4	
教員10	○							○	○	3	
教員11	○		○					○	○	4	
教員12	○		○						○	3	
教員13		○	○				○	○	○	5	
教員14	○							○	○	3	
教員15	○		○	○				○	○	5	
教員16	○			○				○	○	4	
教員17	○		○	○					○	4	
教員18	○									1	
教員19	○							○	○	3	
教員20	○		○					○	○	4	
教員21	○							○	○	3	
教員22									○	1	
教員23	○		○	○		○		○	○	6	
教員24								○	○	2	
教員25	○		○					○	○	4	
教員26	○	○								2	
教員27										0	*学部授業無し
教員28										0	*学部授業無し
教員29	○		○					○		3	
教員30	○								○	2	
教員31	○		○			○			○	4	
教員32	○		○	○				○	○	5	
教員33								○	○	2	
教員34								○		1	
教員35	○		○					○	○	4	長期研修
教員36	○			○				○	○	4	
教員37		○						○		2	
教員38	○			○				○	○	4	
教員39								○	○	2	
教員40	○			○		○		○	○	5	
教員41								○	○	2	
教員42	○								○	2	
教員43				○				○	○	3	
教員44	○		○	○				○		4	
教員45	○	○	○					○		4	
教員46		○	○	○				○	○	5	
教員47				○				○	○	3	
教員48			○	○						2	
教員49	○							○	○	3	
教員50	○							○	○	3	
教員51				○				○	○	3	
教員52		○						○	○	3	
教員53				○	○			○	○	4	
教員54	○			○				○	○	4	
教員55				○				○	○	3	
教員56	○	○		○	○	○		○	○	7	
教員57	○	○	○	○	○	○		○	○	8	
教員58	○							○	○	3	
教員59	○			○		○		○	○	6	
合計	39	9	24	23	5	7	1	45	49	57	

59

参加率	100% (保健管理センターを除く)
合計回数	202
平均回数	3.5

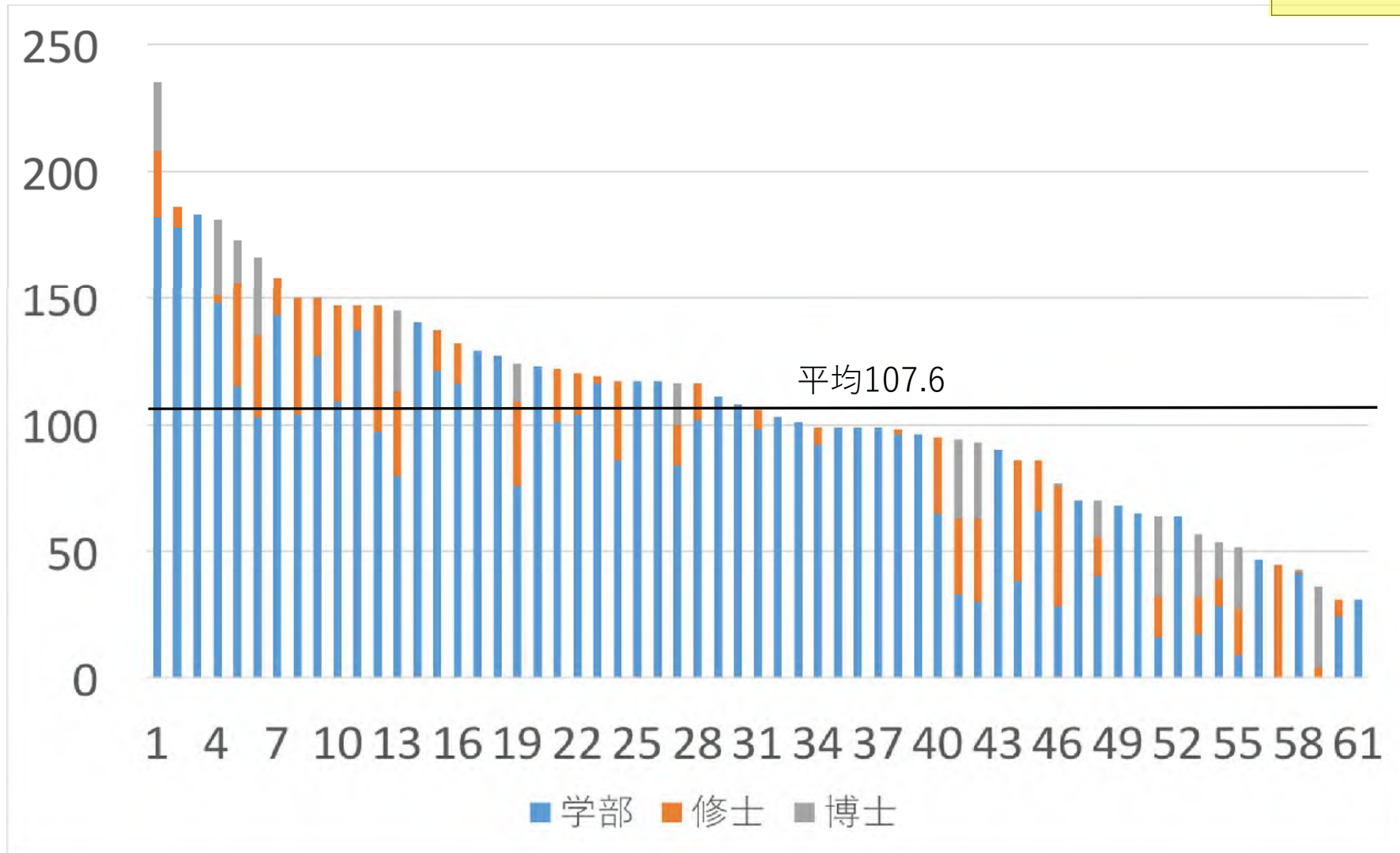
※ □は担当教員及び対象教員以外の教員

学外研修会参加状況

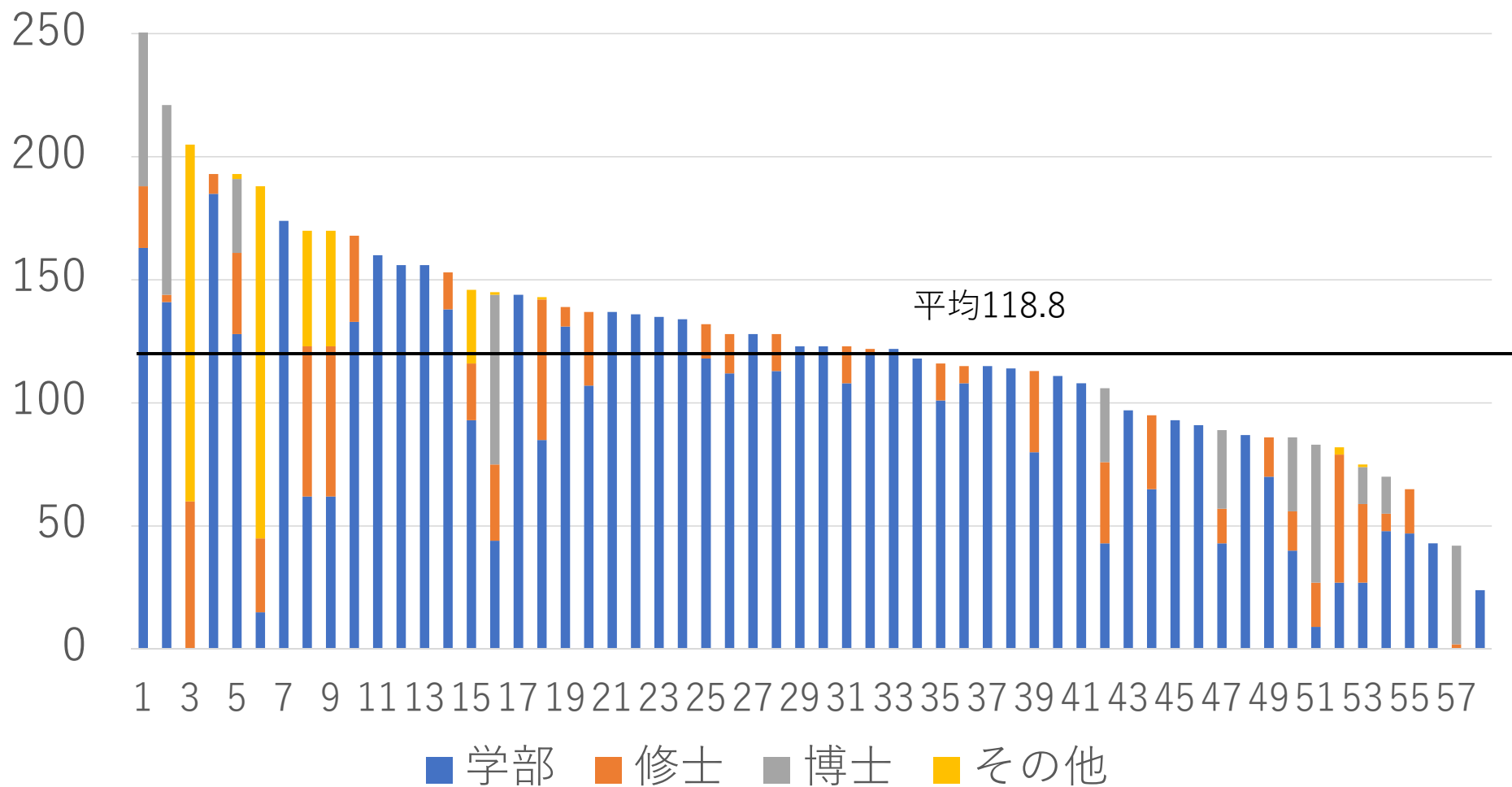
参加年度	参加者氏名	研修名
平成28年度	金高 宏文 藤坂 由美子	株式会社ハウインターナショナル「教育の質保証」実践セミナー
平成29年度	藤坂 由美子 幾留 沙智	(有) つくば言語技術教育研究所2017年度教員研修(基礎講座)
	北村尚浩	株式会社ハウインターナショナル「教育の質保証」実践セミナー
平成30年度	村上 俊祐	平成30年度 大学教育再生加速プログラムテーマI及びテーマI・II複合型共同開催シンポジウム
	北村 尚浩	大阪府立大学・大阪市立大学・関西大学AP合同フォーラム
令和元年度	日下 知明	～教育の質的転換を目指すICT利用～2019年度 ICT利用による教育改善研究発表会
	梶 ちか子	令和元年度 FD・SD合同フォーラム「学生のキャリア形成をいかに支援するか」
	栗山 靖弘 日下 知明	初年次教育学会 実践交流会「初年次教育実践交流会in九州」
	濱田 初幸	令和元年度「大学教育カンファレンスin徳島」
	中村 勇	令和元年度 玉川大学「大学教育力研修」

教員の授業担当状況について

H27年度 教員の担当コマ数（降順）



H28年度 教員の担当コマ数（降順）



一般科目等における授業担当者の不足

現
状
と
問
題

➤一般科目の担当者の退職にともなう後補充時に、一般科目担当を要件としていないために、科目担当者が不在(不明確)となっている。

・総合演習 B, C, D ……不開講

…… 総合演習Aで大人数授業(100名)へ、受入不足分を総合演習Eで担当

・総合演習 E ……系より2名協力頂いて30人×3クラスで実施中
(協力者はH30年度で交代)

・プレゼンテーション・討論 I, II (もともとは退職者が担当, 現在は非常勤で対応)

➤授業担当者が不在の中で、「キャリア形成支援室」の室員を柱に開講した科目

・キャリアデザイン I (全教員出動) ……初年次教育として機能

・キャリアデザイン II

・キャリアデザイン III

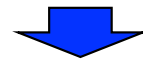
・キャリア・セミナー

・企業実習

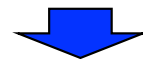
・キャリア対策セミナー (教職)(一般企業)

(公務員) ……H29年度より非常勤任用

➤ 教職実践演習 …… 少人数のグループワークのために系より教員協力を募る



教員の授業担当ワークロードの不均衡へ



教育改善や質保証の担保が十分出来ない現状へ

教育改善や質保証を担保するために・・・

検討課題

- 教員のワークロードの把握(教育以外も含めて)
- 授業担当コマ数の標準化(上限・下限の設定を検討する?)
- 追加の授業担当を依頼する仕組み作り
- 新規に授業を担当する教員への支援の充実
- 担当者不在科目の担当者の雇用の検討
・・・ 人事マネジメント方針の明確化

鹿屋体育大学における教員活動に関する自己点検・評価実施細則

〔 令和 2 年 2 月 1 7 日 〕
〔 細 則 第 3 号 〕

(目的)

第1条 この細則は、鹿屋体育大学における内部質保証及び自己点検・評価に関する規則（平成31年規則第8号）第4条の規定に基づき、鹿屋体育大学（以下「本学」という。）における教員個人の活動状況について、自ら行う点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）の実施に関し、基本的事項について定め、教員活動の改善に役立てるとともに、この評価結果を大学運営の改善に資することを目的とする。

(対象者)

第2条 自己点検・評価の対象者は、本学専任の教授、准教授、講師、及び助教（以下「評価対象教員」という。）とする。

(評価領域)

第3条 評価対象教員の自己点検・評価は、教育、学生生活の支援、研究、社会貢献、管理運営の5領域について行う。

(評価期間等)

第4条 自己点検・評価は毎年度実施し、対象となる期間（以下「評価対象期間」という。）は、4月1日から翌年3月31日までとする。ただし、学長が自己点検・評価を実施しないことが適当であると認める者については、実施しないものとする。

(エフォート率設定)

第5条 評価対象教員は、年度の期首又は採用となったときには、次の表に掲げる職階に応じてのエフォート率を決めた上で、「エフォート率設定書」（別紙様式1）を作成し、学長に提出するものとする。

領域 職階	教 育	学生生活 の支援	研 究	社会貢献	管理運営	自己判断
教 授	30%	10%	20%	10%	15%	15%
准教授 講 師	25%	10%	25%	10%	10%	20%
助 教	20%	10%	30%	10%	5%	25%

注 自己の所属系の特色及び大学運営領域等を考慮して、自己判断欄のエフォート率を各評価領域に5%刻みで配分するものとする。

- 2 学長は、提出された「エフォート率設定書」の内容を確認するものとする。
- 3 前項の「エフォート率設定書」の内容が不適切と判断される場合には、学長は当該評価対象教員と面談のうえ、再提出させるものとする。

(評価の実施)

第6条 評価対象教員は、自己の活動状況を点検・評価し、その結果を定められた期間内に学長へ提出するものとする。

- 2 学長及び学長が指名した評価担当者は、別に定める評価項目及び評価方法等に基づき、評価対象教員の活動状況について評価するものとする(各領域100点満点)。

(評価区分の決定)

第7条 前条第2項の規定により算出された点数を基にして、次項以降に定める算定方法に基づき、役員会の議を経て学長が評価区分を決定する。

- 2 前項に規定の点数に、「エフォート率設定書」記載の各領域のエフォート率を乗じた点数を算出し、5領域の合計点(換算後100点満点)を求める。
- 3 前項で求めた合計点(小数点第2位以下を四捨五入)を基にして、次の表に応じた評価区分とする。

評価の結果	評価区分	備考
	A評価	総得点とは、共通項目の得点とインセンティブ項目の得点との合計をいう。
	B評価	
総得点が50%以上の場合	C評価	
総得点が40%以上50%未満の場合	D評価	
総得点が40%未満の場合	E評価	
共通項目の得点が50%以下の場合	F評価	下記「注」参照

注 F評価に係る共通項目の得点については、前条第2項の規定により算出された点数により評価する。

- 4 評価対象期間中に国立大学法人鹿屋体育大学就業規則(平成16年規則第20号)第49条又は第50条に規定する懲戒処分等を受けた評価対象教員の評価区分は、次の表に掲げる評価区分とする。ただし、前項において算定された評価区分がE評価又はF評価の場合、評価区分の変更は行わないものとする。

処分の区分	評価区分
訓告又は嚴重注意	前項において算定された評価区分の1区分下位(D評価が下限)
懲戒(減給又は戒告)	D評価
懲戒(停職)	E評価

- 5 第4条の規定により、自己点検・評価を実施しない評価対象教員の評価区分は、C評価とする。
- 6 第3項の規定によりC評価となった者の中から、評価対象教員の総数に占める評価区分数の割合で、次の各号に掲げる評価区分に調整するものとする(小数点第1位以下を切り上げ)。
- (1) A評価 100分の5以内
- (2) B評価 100分の20以内
- 7 前項に掲げる割合は、上位の評価区分の割合を下位の評価区分の割合に流用することができるものとする。

(評価区分の通知等)

第8条 学長は、前条までの規定により決定された評価区分について、「評価区分決定通知書」(別紙様式2)により、評価対象教員に通知するものとする。

2 学長は、評価の結果において、改善の必要性が特に高いと判断される評価対象教員に対して、改善策の提出を指示するものとする。

(不服の申立て)

第9条 評価対象教員は、前条の規定による通知に対して不服がある場合は、原則として30日以内に「評価区分決定に関する不服申立書」(別紙様式3)により、学長に申立てをすることができる。

2 学長は、前項の申立てに基づき、役員会において審議した結果について、「評価区分再決定通知書」(別紙様式4)により、当該評価対象教員に通知するものとする。

3 前項の審議結果、評価区分に変更が生じた場合でも、他の評価対象教員に係る評価区分は変更されないものとする。

(実施に関し必要な事項)

第10条 この細則の実施に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

1 この細則は、令和2年4月1日から施行する。

2 鹿屋体育大学における教育活動に関する自己点検・評価実施要領(平成21年1月18日総務委員会決定)は廃止する。

エフォート率設定書

所属：

職名：

氏名： 印

1. 評価対象期間 令和 年 4 月 1 日～令和 年 3 月 31 日

2. 評価領域とエフォート率設定

各評価領域のエフォート率設定 (注)					
教 育	学生生活 の支援	研 究	社会貢献	管理運営	合 計
%	%	%	%	%	100%

注 1 5つの評価領域のエフォート率は5%刻みで設定して、合計が100%になるように記入してください。

注 2 以下の表の職階に応じ、自己の所属系の特色及び大学運営領域等を考慮して、自己判断欄のエフォート率を各領域に配分して記入してください。

領域 職階	教 育	学生生活 の支援	研 究	社会貢献	管理運営	自己判断
教 授	30%	10%	20%	10%	15%	15%
准教授 講 師	25%	10%	25%	10%	10%	20%
助 教	20%	10%	30%	10%	5%	25%

評価区分決定通知書

殿

国立大学法人鹿屋体育大学長

○ ○ ○ ○

鹿屋体育大学における教員活動に関する自己点検・評価実施細則第8条第1項の規定により、決定された評価区分について、下記のとおり通知します。

記

1. 評価区分 評価

2. 各領域点数

(エフォート率反映後：100点満点)

【教育】	点
【学生生活の支援】	点
【研究】	点
【社会貢献】	点
【管理運営】	点
【合計】	点

3. 各領域共通項目点数

(点満点)

【教育】	/	点
【学生生活の支援】	/	点
【研究】	/	点
【社会貢献】	/	点
【管理運営】	/	点
【合計】	/	点

4. 評価対象期間 令和 年 4 月 1 日～令和 年 3 月 3 1 日

注 評価区分の決定に不服がある場合は、この通知書を受領してから30日以内に、「評価区分決定に関する不服申立書」（別紙様式3）により、学長に申し立てることができます。

評価区分決定に関する不服申立書

国立大学法人鹿屋体育大学長 殿

所属：

職名：

氏名： 印

鹿屋体育大学における教員活動に関する自己点検・評価実施細則第9条第1項の規定により、決定された評価区分について、不服申し立ていたします。

記

1. 決定された評価区分 評価

2. 評価対象期間 令和 年 4 月 1 日～令和 年 3 月 3 1 日

3. 不服申立ての理由

令和 年 月 日

評価区分再決定通知書

殿

国立大学法人鹿屋体育大学長

○ ○ ○ ○

鹿屋体育大学における教員活動に関する自己点検・評価実施細則第9条第2項の規定により、再度決定された評価区分について、下記のとおり通知します。

記

1. 再度決定された評価区分 評価
2. 評価対象期間 令和 年 4 月 1 日～令和 年 3 月 3 1 日

記号	評価項目	評価方法			区分
			配点	満点	
A1	学部教育又は大学院教育の担当 （教育補助担当を含む）	<p>週当たり授業担当コマ数の整数値とする。 週当たり授業担当コマ数 = 年間の総授業コマ数 ÷ 15週 × 2 （小数点以下第1位を四捨五入）</p> <p>※教育補助担当とは、シラバスの補助担当者名欄に記載された教員 ※保健管理センター兼務教員は、「健康相談日程」に記載された時間帯を授業担当とみなす。 ※学外実習の事前指導・事後指導については、 A9「教育領域の優れた点」で評価する。 ※「国際スポーツアカデミー」については、 A9「教育領域の優れた点」で評価する。</p>	-	28	共通
A2	外国人留学生の指導	外国人留学生の指導教員となった場合	4	4	インセンティブ
A3	「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の担当 （学部卒業研究を履修する学生を受け入れた） （卒業研究補助担当を含む） ※卒業研究補助担当とは、シラバスの補助担当者名欄に記載された教員	ゼミ担当 1科目につき（例 ゼミⅠ及びⅡを担当 2点）	2	24	共通
		ゼミ学生受入数	2		
A4	「課題研究」及び「統合研究セミナー」の担当 （大学院生（修士課程・博士後期課程）の研究指導を行った） ※研究指導補助を行った場合については、 A9「教育領域の優れた点」で評価する。 ※修士論文等の抄録のAbstract等についての英文作成指導を行った場合については、A9「教育領域の優れた点」で評価する。	主指導	4	20	共通
		副指導	2		
A5	指導による学生の学会賞受賞	指導により学生が学会賞を受賞した場合	2	6	インセンティブ
A6	指導した博士後期課程の学生の学位（博士（体育学））取得（本学の場合に限る）	主指導教員	4	4	インセンティブ
		副指導教員	2		

記号	評価項目	評価方法			区分
			配点	満点	
A7	授業改善等の具体的な取組	(1)FDでの公開研究授業、研修会等で講師を務めた場合	2	4	インセンティブ
A8	授業改善等の具体的な取組	(1)学生の主体的な学びを促進させるために予習・復習の充実を図った場合（シラバスに具体的に予習復習の内容及び所要時間を示していること）	2	8	共通
		(2)主体的で深い学びを促すようなアクティブラーニングを実施した場合（iPad等を活用した双方向授業の積極的な展開を含む）	2		
		(3)学習ポートフォリオの作成の支援、基礎学力不足の学生や競技力優秀学生への学習支援を行った場合	2		
		(4)授業振り返りアンケートを実施し、授業改善に対するコメントを作成した場合	2		
A9	教育領域の優れた点（最大400字を目安として記述）	評価者の総合判断で点数化する。ただし、未記入又は未記入相当と判断される場合は、0点とする。 注）特に力を入れたことについて、記述すること。 注）上記の評価項目と重複しない特記事項について、記述すること。	-	2	インセンティブ
計				100	-

記号	評価項目	評価方法			区分
			配点	満点	
B1	学生生活に関する取組Ⅰ	(1)小クラス担当教員として学生生活を積極的に支援	4	16	共通
		(2)学生面談シートを活用して学生のサポート実施	4		
		(3)新入生合宿研修への参画	4		
		(4)学生指導研修会への参画	4		
		(5)学内交通安全指導、あるいは学生宿舎巡回指導または蒼天祭巡回指導	4		
		(6)「なんでんかんでん語ろう会」への参画、あるいは「学生なんでも意見箱」等で挙げた要望に対応（対応した内容記載）	4		
B2	学生生活に関する取組Ⅱ	(1)学生スポーツボランティア支援事業に参画する学生への指導や助言（学生名、支援事業名記載）	3	9	インセンティブ
		(2)学生挑戦プロジェクトに申請した学生への指導あるいは担当教員として助言（学生名、支援事業名記載）、または学生挑戦プロジェクトの審査会あるいは報告会への参画	3		
		(3)留学生に関する支援（支援交流会、留学説明会及び留学生オリエンテーションの企画・運営、奨学金申請や留学手続きのサポート（外国人留学生及び海外派遣留学生））	3		
B3	就職及び進学並びに資格取得の相談等に関する取組	(1)就職及び進学相談の取り組みによって進路が内定した場合（学生名記載 3点/1名） ※推薦書作成や模擬面接等を行った場合のみ	3	9	インセンティブ
		(2)資格取得のアドバイス等を行い、アドバイスを受けた学生が資格を取得（学生名、取得資格名記載 3点/1名）	3		
B4	健康相談、心理相談、栄養相談、または健康セミナー等の取組 ※保健管理センター兼務教員は、「健康相談日程」に記載された時間帯の活動を除いて判断すること。 ※「〇〇相談を担当し、専門的な立場で」とは関連する資格を有し、かつ関連する授業を担当している者を対象とする。	(1)健康相談を担当し、専門的な立場で活動した実績がある場合	5	10	インセンティブ
		(2)心理相談を担当し、専門的な立場で活動した実績がある場合	5		
		(3)栄養相談を担当し、専門的な立場で活動した実績がある場合	5		
		(4)健康セミナーの講師を担当	5		

記号	評価項目	評価方法			区分
			配点	満点	
B5	課外活動団体・研究会の指導 (保健管理、課外活動中のスポーツ障害の支援を行った場合も含む)	年間指導時間 1点/60時間 (小数点以下第1位を四捨五入) ※現場での指導をした時間を対象とする。その他支援についてはB8「学生支援領域の優れた点」で評価する。	-	18	インセンティブ
B6	国際大会（強化指定競技のG1・G2・G3）、国内大会（強化指定競技のG4・G5）への出場かつ入賞、西日本・九州学生大会の入賞 ※現場での実技指導を行ったチーム・選手の競技成績を対象とする。 ※評価年度内の指導する課外活動団体の最高成績のみ評価する。	・国際大会1(G1) 1位:32点、2位:30点、3位(ベスト4):28点、4~8位:24点、出場(9位以下):22点 ・国際大会2(G2) 1位:30点、2位:28点、3位(ベスト4):26点、4~8位:22点、出場(9位以下):20点 ・国際大会3(G3) 1位:24点、2位:22点、3位(ベスト4):20点、4~8位:16点、出場(9位以下):14点 ・国内大会1(G4) 1位:22点、2位:20点、3位(ベスト4):18点、4~8位:16点、出場(9位以下):14点 ・国内大会2(G5) 1位:20点、2位:18点、3位(ベスト4):16点、4~8位:14点、出場(9位以下):12点 ※国内大会2(G5)は、予選大会(又は参加標準記録)があり、その大会(または標準記録を突破して)で出場権を得て参加した大会のみを対象とする ・国内大会3(西日本学生又は九州学生大会並びに九州大会) 1位:10点、2位:8点、3位(ベスト4):6点 ※3位(ベスト4)とは3位決定戦がない場合を対象とする。	-	32	インセンティブ
B7	学生生活支援領域の優れた点（最大400字を目安として記述）	評価者の総合判断で点数化する。ただし、未記入又は未記入相当と判断される場合は、0点とする。 注) 特に力を入れたことについて、記述すること。 注) 上記の評価項目と重複しない特記事項について、記述すること。	-	6	インセンティブ
計			-	100	-

記号	評価項目	評価方法			区分
			配点	満点	
C1	科学研究費助成事業（科研費）の申請 達成しないと0点中期計画【45】	代表者として申請した場合	20	20	共通
C2	科研費の獲得中期計画【45】 （平成29年度獲得状況：継続を含む） ※連携研究者は、D4(11)社会貢献領域で評価する。	代表者として獲得した場合	20	30	インセンティブ
		分担者として獲得した場合	5		
	外部資金の受入れ中期計画【46】 ※例 受託研究費 民間等との共同研究 奨学寄附金 学術指導 概算要求（特別経費） GP 研究財団 ※外部資金獲得のない共同研究については、 D4(11)社会貢献領域で評価する。	代表者（中心的な役割を果たした者も含む）として 獲得した場合	5		
		共同者として獲得した場合	3		
C3	学会賞等の受賞 ※筆頭者 （学会賞、大会賞、論文賞など全て含む）	受賞した場合 国際学会	6	6	インセンティブ
		受賞した場合 国内学会	3		
	学会賞等の受賞 ※共同研究者 （学会賞、大会賞、論文賞など全て含む）	受賞した場合 国際学会	2		
		受賞した場合 国内学会	1		
	特許出願・登録	特許に登録された場合	4		

記号	評価項目	評価方法	配点	満点	区分
C4	学術研究論文・著書・学会発表 中期計画【22】【23】【24】【25】【26】 (1)学術研究論文 ※学会発表の抄録集に記載されているものは、 学術研究論文として評価しない。 ※インパクトファクターが3以上の論文は5点 加算する	査読付き論文（1編目）		20	共通
		(1)学術研究論文 査読付き国際雑誌掲載（筆頭者）	7	22	インセンティブ
		(1)学術研究論文 査読付き国際雑誌掲載（責任著者）	5		
		(1)学術研究論文 査読付き国際雑誌掲載（第2著者以降）	2		
		(1)学術研究論文 査読付き国内雑誌掲載（筆頭者）	4		
		(1)学術研究論文 査読付き国内雑誌掲載（責任著者）	3		
		(1)学術研究論文 査読付き国内雑誌掲載（第2著者以降）	1		
		(1)学術研究論文 紀要（査読者2名以上）（筆頭者）	2		
		(1)学術研究論文 上記以外論文等	1		
		(2)国際著書・啓発書等（単著）	7		
		(2)国際著書・啓発書等（共著）	5		
		(2)国際著書・啓発書等（章を単著で担当）	5		
		(2)国際著書・啓発書等（章を共著で担当）	3		
		(2)著書・啓発書等（単著）	4		
		(2)著書・啓発書等（章を単著で担当）	2		
		(3)研究発表 国際学会（単独・共同 第1発表者）	2		
		(3)研究発表 国際学会（単独・共同 第2発表者以降）	1		
		(3)研究発表 国内学会（単独・共同）	1		
		(4)国際学会依頼の総説、招待講演・特別講演・シンポジスト（単独）	4		
		(4)国内学会依頼の総説、招待講演・特別講演・シンポジスト（単独）	3		
(4)学会依頼の総説、招待講演・特別講演・シンポジスト（共同 第1発表者）	3				
(4)学会依頼の総説、招待講演・特別講演・シンポジスト（共同 第2発表者以降）	1				
C5	研究領域の優れた点（最大400字を目安として記述）	評価者の総合判断で点数化する。ただし、未記入又は未記入相当と判断される場合は、0点とする。 注）特に力を入れたことについて、記述すること。 注）上記の評価項目と重複しない特記事項について、記述すること。	-	2	インセンティブ
計			-	100	-

記号	評価項目	評価方法			区分
			配点	満点	
D1	本学主催事業及び連携事業による社会貢献への参画	蒼天祭での大学開放事業 夏祭り 新入生歓迎会	15	30	共通
D2	本学主催事業及び連携事業による社会貢献への参画	公開講座	6	18	インセンティブ
		パワーアップ研修	6		
		サイエンスキャンプ	6		
		貯筋プロジェクト	6		
		教員免許更新講習	6		
		スポーツリフレッシュセミナー	6		
		スポーツ合宿まちづくり推進事業	6		
		その他本学主催事業(学長杯大会、〇〇杯など)	6		
		「戦略的大学連携支援事業」又は「大学地域コンソーシアム鹿児島」に参画	6		
		D3	NIFSスポーツクラブにおける指導		

記号	評価項目	評価方法			
			配点	満点	区分
D4	競技団体活動、地域スポーツ活動及び講演活動等の社会貢献への参画	(1) 役員・審判・技術指導等（体協・競技団体）の活動をした場合 (2) 強化合宿（ナショナルチーム、高校チーム、外国チーム等）を受入れた場合 (3) 合同合宿（他大学）を受入れた場合 (4) 地域主催事業へ参画（学生派遣を含む）した場合（B1(5)での参画を除く） (5) 地域スポーツ団体へ参画した場合 (6) 審議会委員等の委嘱依頼による委員活動をした場合 (7) 講演、研修会等で講師をした場合 (8) 学会役員や国際学会等の開催実行委員として活動した場合 (9) 学術論文を査読した場合 (10) マスメディアからの依頼による活動をした場合（新聞コラム・一般雑誌の掲載等） (11) 外部資金獲得のない共同研究をした場合（科研費の連携研究者を含む）	5	40	インセンティブ
		競技団体・公共団体等から、功績に対し、表彰を受けた場合	5	5	インセンティブ
D5	社会貢献領域の優れた点（最大400字を目安として記述）	評価者の総合判断で点数化する。ただし、未記入又は未記入相当と判断される場合は、0点とする。 注）特に力を入れたことについて、記述すること。 注）上記の評価項目と重複しない特記事項について、記述すること。	-	2	インセンティブ
計			-	100	-

記号	評価項目	評価方法			区分
			配点	満点	
E1	委員会等担当状況 ※対象（代理出席は含まない。） 教育研究評議会 常任委員会 室会議 特別委員会 専門委員会 常任委員会のもとに置く小委員会 （ワーキンググループを含む） 蒼天祭実行委員会 東京サテライトキャンパス運営委員会 NIFSスポーツクラブ運営委員会 ハラスメント相談員 等 ※対象外 役員会、経営協議会、運営企画会議、教授会、研究科委員会、系やセンター内での会議・打合せ、学会実行委員会 ※附属図書館長、学長補佐、学内共同教育研究施設の長、保健管理センター所長、系主任、産業医については対象委員として指定がある常任委員会の委員は除く	委員長	4	36	共通
		委員（副委員長を含む）	2		
E2	センター業務への従事	日常的施設・設備等の管理運営業務	10	20	インセンティブ
		定期・不定期なセンター業務	10		
E3	健康安全管理業務への従事	衛生管理者として学内巡視	6	6	インセンティブ
E4	入試業務への従事	別紙のとおり	-	5	共通
			-	23	インセンティブ
E5	入試広報への従事	体験授業	4	4	インセンティブ
E6	管理運営領域の優れた点（最大400字を目安として記述）	評価者の総合判断で点数化する。ただし、未記入又は未記入相当と判断される場合は、0点とする。 注）特に力を入れたことについて、記述すること。 注）上記の評価項目と重複しない特記事項について、記述すること。	-	6	インセンティブ
計			-	100	-

E4 入試業務への従事

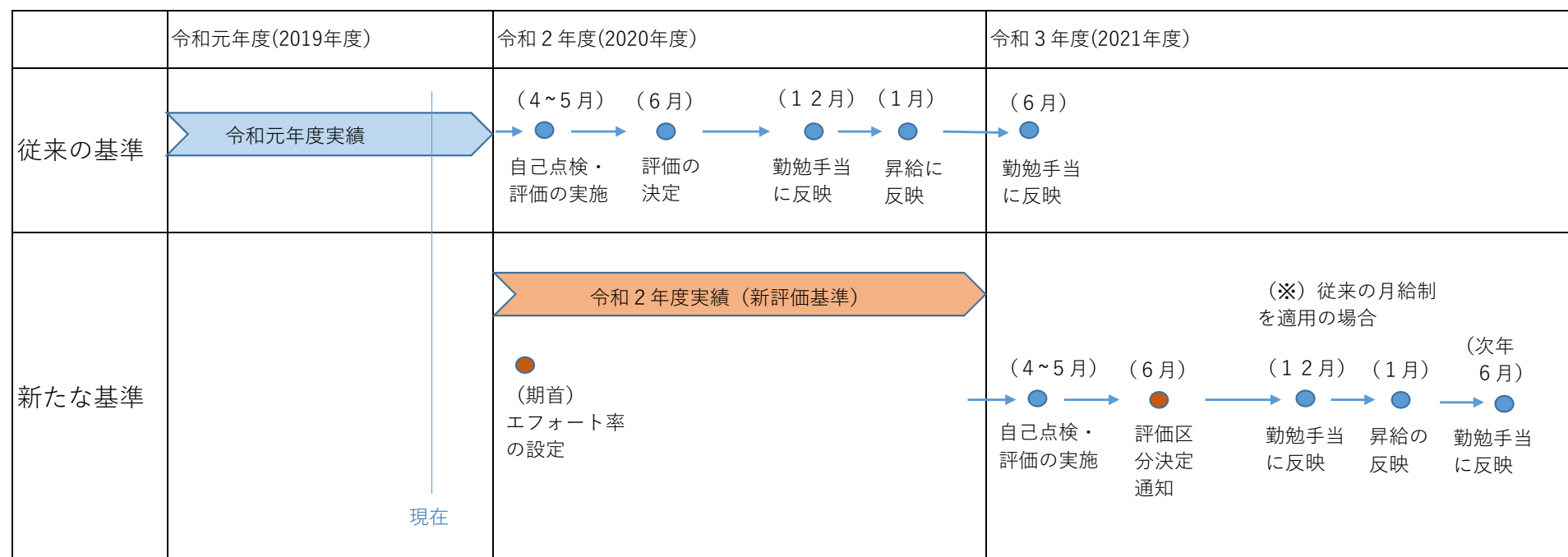
試験の種類		業務の種類									
		採点等									
		試験監督 (1点)	問題作成 (2点)	問題点検 (1点)	実技試験 (1点)	小論文 (1点)	面接試験 (1点)	健康診断 (1点)	健康診断書審査 (1点)	書類審査 (1点)	論述試験 (1点)
第3年次編入学試験	(1点)										
推薦・特別選抜	(1点)										
一般選抜・私費外国人留学生選抜	(1点)										
大学入試センター試験	(2点)										
AO入試(1次)	(1点)										
AO入試(2次)	(1点)										
修士 本試験	(1点)										
修士 欠員補充試験	(1点)										
博士 本試験	(1点)										
博士 欠員補充試験	(1点)										
共同専攻修士 本試験	(1点)										
共同専攻修士 欠員補充試験	(1点)										
共同専攻博士 本試験	(1点)										
共同専攻博士 欠員補充試験	(1点)										

※ は共通項目(5点満点)、それ以外はインセンティブ(23点満点)

※ 共通項目における試験監督は、実技試験、小論文、面接試験および健康診断の監督者(予備監督者含む)をいう。

※ 大学入試センターの試験監督のうち、救護担当者については1日の担当により、1点とする。

人事給与マネジメント改革に伴う教員業績評価の給与への反映イメージ



(※) 今後、新年俸制が導入された場合は、業績評価による年俸への反映について、月給制、現年俸制と異なることがある。

平成30年度特別講義の実施について

講義テーマ	講師名	職 名	日 時	学生数	教員数
スポーツにおける専門性を活かした職域のつくりかた	池田 亮	スポーツ情報アナリスト	10月18日（木） 14:20～15:50	10	4
大学体育スポーツ学への招待	木内 敦詞	筑波大学体育系教授	11月6日（火） 16:00～17:30	15	5
2020年のオリンピックを目指したスポーツクライミングのコーチング－ユース年代を対象としたチームサポートの経験から－	西谷 善子	スポーツクライミングユース日本代表ヘッドコーチ	6月7日（木） 14:20～15:50	12	6
Innovative hypoxic/altitude training methods - Think out of the box for better physical performance and health outcomes	Olivier Girard	Senior Lecturer in Exercise Science at Murdoch University	12月17日（月） 16:00～17:30	8	6
スイスにおけるスポーツ教育の位置づけ	ロッシ池上理恵子	Rieko Ballett代表バレエ指導者	8月2日（木） 14:20～16:00	10	8
スポーツ法学とスポーツ政策学の現在と未来	齋藤健司	筑波大学体育系教授	2月7日（木） 14:20～16:00	9	3
合計				64	32

令和元年度特別講義の実施について

講義テーマ	講師名	職 名	日 時	学生数	教員数
運動学習・パフォーマンスと自主性に関する研究と海外でのアカデミックポスト経験からのメッセージ	岩月 猛泰	ペンシルベニア州立大学 アルトナー校 助教	6月27日（木） 14:20～15:50	21	8
挑戦を楽しもう：異なる環境に身を置くことの大切さ	川端 雅人	南洋理工大学 助教	7月11日（木） 14:20～15:50	15	8
労働衛生分野における体力科学研究	松尾 知明	独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 産業疫学研究グループ	11月28日（木） 14:20～15:50	16	2
柔道好き整形外科医、その47年のカルテから ー日本柔道オリンピック チームドクターとしての 経験を含めてー	米田 實	特定医療法人米田病院 院長・理事長	1月9日（木） 14:20～15:50	17	1
フェアプレイの成立基盤 ースポーツと法（律）と の接点あるいは関係ー	中内 哲	熊本大学大学院 人文社会科学研究所 部 (法学系) 教授	1月23日（木） 15:00～16:30	15	5
史料にたずねる人馬一体の妙技	村井 文彦	馬の博物館 学芸員 (公益財団法人馬事文化財団総務部 嘱託) ※JRA競馬博物館主任学芸員、 馬事文化財団学芸部長を歴任	1月30日（木） 15:00～16:30	15	4
合 計				99	28

就職相談件数 <年度別, 学年・月別>

◆令和元年度 (2019年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部1年		2	1	1									4
学部2年	2	1					2	3			3		11
学部3年	1	4	2	3		1	6	8	10	8	16	16	75
学部4年	19	14	8	7	5	4	12	14	1		3		87
大学院										1	1	1	3
その他			1										1
合計	22	21	12	11	5	5	20	25	11	9	23	17	181

◆平成30年度 (2018年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部1年					2		2	1	1		1		7
学部2年						1	1	1		2	2		7
学部3年		3	1	8			2	7	6	13	6	6	52
学部4年	15	19	17	11	2	3	11	9	7	4	5		103
大学院		3			1								4
その他													0
合計	15	25	18	19	5	4	16	18	14	19	14	6	173

◆平成29年度 (2017年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部1年			2	2				1	1	2			8
学部2年	2		1				1	2		2			8
学部3年		1	7	6			9	12	8	10	3	12	68
学部4年	9	5	6	5			12	2					39
大学院			2	1			2	1		1			7
その他													0
合計	11	6	18	14	0	0	24	18	9	15	3	12	130

◆平成28年度 (2016年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部1年	2	1	9	5			9	10	5	7	8		56
学部2年	1	6	1	4			5	6	4	7	4		38
学部3年	7	13	19	10			13	5	7	12	8		94
学部4年	12	17	22	32			21	18	10	13	2		147
大学院			1	2			3	1	1				8
その他													0
合計	22	37	52	53	0	0	51	40	27	39	22	0	343

平成31年度鹿屋体育大学学内ワークスタディに係る取扱いについて

平成31年4月25日

学生委員会決定

キャリア形成支援室決定

第1 目的及び名称

この取扱いは、鹿屋体育大学（以下「本学」という。）の学部学生及び大学院生に教育的配慮の下に学内の業務に従事させ、学生の職業観、勤労観を涵養するとともに、学生に対し一層の経済的支援を行うことを目的とする。

2 前項に定める事業の名称を学内ワークスタディ（以下「学内WS」という。）とする。

第2 対象者

学内WSの対象者は、次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1) 学部生又は大学院生（外国人留学生、非正規生を除く。）
- (2) 「鹿屋体育大学授業料等の免除及び徴収猶予取扱規則」により授業料免除（全額免除又は半額免除）の対象となる者のうち、授業料免除の申請をした者（申請予定を含む。）
- (3) 学内WSの目的を理解し、適切に業務を遂行できる者

第3 身分

学内WSに採用する者（以下「学生スタッフ」という。）の身分は、「国立大学法人鹿屋体育大学非常勤職員就業規則（平成16年4月1日規則第34号）」別表第1に掲げる「アルバイト」とする。

第4 事業内容

学内WSの事業内容は、次の各号に掲げるところによる。

- (1) キャリア支援係に関する事業
 - ① 就職活動全般に関する相談・助言
従事期間 平成31年4月～令和2年3月
対象人数 4名程度
 - ② 就職支援行事（イベント）の企画・実施等補助
従事期間 平成31年4月～令和2年3月
対象人数 5名程度
 - ③ キャリア教育・支援に関するデータ整理等
従事期間 平成31年4月～令和2年3月
対象人数 5名程度
 - ④ その他キャリア形成支援室長が必要と認めた業務

(2) 生活支援係に関する事業

① 学生宿舎管理業務の補助

従事期間 平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月

対象人数 4 名程度

第 5 勤務時間

学生スタッフの勤務時間は、当該学生スタッフが履修する授業及び研究指導等に支障が生じないように配慮するものとする。

第 6 報酬及び経費

学生スタッフに対する報酬は、「国立大学法人鹿屋体育大学非常勤職員就業規則（平成 16 年 4 月 1 日規則第 34 号）」別表第 1 に掲げるところにより、学内ワークスタディ実施経費から支出する。

第 7 募集及び選考

学生スタッフの募集及び選考は、次の各号に掲げるところにより行う。

- (1) 募集は、第 4 の各号に掲げる事業毎に行う。
- (2) 当該業務への従事を希望する者は、別紙様式 1 による申請書を別途指定する募集期間内に提出するものとする。
- (3) キャリア形成支援室長又は学生委員会委員長は、それぞれの第 4 の各号に掲げる事業の申請について、前号の申請書による書類審査を行い、学生スタッフの選考を行う。

第 8 業務指導

キャリア形成支援室長又は学生委員会委員長は、学内 WS の業務を遂行するにあたり、学生スタッフに対して業務指導を行うものとする。

第 9 事務処理

学内 WS に関する事務は、第 4(1)については教務課キャリア支援係において、第 4(2)については学生課生活支援係において行う。

第 10 その他

この取扱いに定めるもののほか、学内 WS の実施に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この取扱いは、平成 31 年 4 月 26 日から施行する。

キャリア形成支援室長 様
 学生委員会委員長 様

学内ワークスタディ申請書

	提出日	年 月 日	
希望する係	<input type="checkbox"/> キャリア支援係 <input type="checkbox"/> 生活支援係		
ふりがな 氏名	学籍番号	学年	課程
		年	課程
携帯電話番号		小クラス担当教員／ゼミ担当教員	
P Cメールアドレス ※必ず連絡が取れるもの			
住所			
〒			
本年度の授業料免除申請			
<input type="checkbox"/> 申請した		<input type="checkbox"/> 申請していない	
※ 授業料免除の申請状況については、本学学生課に確認させていただきます。			

事務処理欄

受理日	.	.	受理者
授業料免除の確認	<input type="checkbox"/> 申請あり	<input type="checkbox"/> 申請なし	<input type="checkbox"/> 申請中

学内ワークスタディ実施状況

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	計
キャリア支援に関する業務	17名 (327時間)	19名 (1,254時間)	20名 (1,051時間)	18名 (579時間)	74名 (3,211時間)
生活支援に関する業務		2名 (106時間)	2名 (85時間)	1名 (2時間)	5名 (193時間)
計	17名 (327時間)	21名 (1,360時間)	22名 (1,136時間)	19名 (581時間)	79名 (3,404時間)

※人数は、実人数

鹿屋体育大学キャリアサポーターに関する要項

平成31年 3月29日

キャリア形成支援室決定

(趣旨)

第1条 本要項は、鹿屋体育大学（以下、「本学」という。）における学生の就職及び進路選択に関する活動を支援する学生（以下、「キャリアサポーター」という。）に関する事項を定める。

(対象)

第2条 キャリアサポーターは、次のいずれかに該当する者とする。

- (1) 本学の学生で、本学を卒業又は修了後の進路が決定している者
- (2) 就職活動（進路選択）経験を在学学生のために活かしたいと考える者
- (3) 就職活動等に関する支援について、本学と協働する意思がある者

(活動)

第3条 キャリアサポーターの活動は原則として無報酬とするが、活動内容によってはキャリア形成支援室と協議のうえ報酬を支払うことができる。

- 2 各支援活動等への参加は任意とするが、活動にあたっては、本学就職相談員及びキャリア形成支援室の指導の下に協働して行う。
- 3 活動に際し、キャリアサポーターは活動記録を提出しなければならない。

(登録)

第4条 キャリアサポーターは、第2条により申請のあった者を登録する。

- 2 募集期間については、通年とする。
- 3 登録期間は、原則として当該学生が本学を卒業又は修了するまでとする。
- 4 当該学生から登録解除の申し出があった場合は、随時登録を解除する。

(体制)

第5条 キャリアサポーターは、在学生に対し適切な活動を行うため、定期的に本学就職相談員による研修又は面談を受けなければならない。

- 2 キャリアサポーターに関する事務は、教務課キャリア支援係において行う。

附 則

この要項は、平成31年3月29日から施行する。

キャリアサポーターの実施状況（2019年度）

No	事業名	実施内容	人数	時間
1	キャリアデザインⅢ懇談	1月30日のキャリアデザインⅢ(2年次,後期)において、「大学生の職業選択；4年生との交流会」と称し、内定・合格を得た4年生による座談会を実施	21	2
2	キャリアセミナー講話	5月17日のキャリアセミナー(3年次,前期)において、「3年生での過ごし方～進路選択の視点から～」と称し、内定を得た4年生や現職教員の大学院生等による講話を実施	3	2
3	キャリア対策セミナー講話・懇談	7月5日のキャリア対策セミナー[一般企業](3年次,前期)において、「内定者との懇談会」と称し、内定を得た4年生による講話及び懇談会を実施	6	2
4	第2回就職ガイダンス講話・懇談	11月13日の第2回就職ガイダンスにおいて、「インターンシップ事前勉強会；1年生コース」、「就職活動・採用試験報告会；3年生コース」と称し、内定・合格を得た4年生による講話や座談会を実施	16	2
5	第1回就職塾サポート	7月20日・21日の第1回就職塾において、内定を得た4年生を外部講師のサポートとして従事	2	12
6	第2回就職塾サポート	10月26日・27日の第2回就職塾において、内定を得た4年生を外部講師のサポートとして従事	2	12
合計			50	32

平成28年度鹿屋体育大学卒業・修了者の進路状況について

平成29年5月1日現在

I 体育学部卒業者

学部全体	
卒業生数	199名
就職希望者数	(A) 165名
就職者数	(B) 161名
教員(非常勤講師を含む)	35名
公務員(教員を除く)	45名
スポーツ関連企業	29名
一般企業	52名
未就職者数	4名
一般企業希望	4名
就職非希望者数	34名
進学	23名
教員・公務員再受験	5名
大学院等再受験	2名
その他(就職を希望しない者)	4名

(課程別内訳)

スポーツ総合課程	武道課程
145名	54名
116名	49名
112名	49名
21名	14名
20名	25名
28名	1名
43名	9名
4名	0名
4名	0名
29名	5名
18名	5名
5名	0名
2名	0名
4名	0名

就職率

* 就職率 就職者(B)/就職希望者(A)

	本学	国公立大学平均	全国大学平均
平成28年度	97.6%	97.3%	97.6%
平成27年度	98.1%	97.1%	97.3%
平成26年度	99.3%	97.7%	96.7%

※「国公立大学平均」「全国大学平均」の数値は、文部科学省及び厚生労働省が抽出調査を行い、

II 大学院修士課程修了者

修士課程	
修了者数	17名
就職希望者数	(A) 10名
就職者数	(B) 8名
教員(非常勤講師を含む)	2名
公務員(教員を除く)	0名
スポーツ関連企業	1名
一般企業	5名
未就職者数	2名
一般企業希望	2名
就職非希望者数	7名
進学	4名
教員・公務員再受験	1名
大学院等再受験	0名
就職を希望しない	0名
その他(復職・現職)	2名

就職率 就職者B/就職希望者A

平成28年度	80.0%
平成27年度	100.0%
平成26年度	100.0%

III 大学院博士後期課程修了者

博士後期課程	
修了者数	1名
就職希望者数	(A) 0名
就職者数	(B) 0名
教員(非常勤講師を含む)	0名
公務員(教員を除く)	0名
スポーツ関連企業	0名
一般企業	0名
未就職者数	0名
一般企業希望	0名
就職非希望者数	1名
教員・公務員再受験	0名
就職を希望しない	0名
その他(復職・現職)	1名
満期退学者	名

就職率 就職者B/就職希望者A

平成28年度	—%
平成27年度	100.0%
平成26年度	100.0%

平成29年度鹿屋体育大学卒業・修了者の進路状況について

平成30年5月1日現在

体育学部卒業生

(課程別内訳)

学部全体	
卒業生数	195名
就職希望者数	(A) 167名
就職者数	(B) 166名
教員(非常勤講師を含む)	46名
公務員(教員を除く)	25名
スポーツ関連企業	34名
一般企業	61名
未就職者数	1名
一般企業希望	1名
就職非希望者数	28名
進学	19名
教員・公務員再受験	4名
大学院等再受験	0名
その他(就職を希望しない者)	5名

スポーツ総合課程	武道課程
142名	53名
123名	44名
123名	43名
35名	11名
8名	17名
31名	3名
49名	12名
0名	1名
0名	1名
19名	9名
13名	6名
1名	3名
0名	0名
5名	0名

就職率

* 就職率 就職者(B) / 就職希望者(A)

	本学	国公立大学平均	全国大学平均
平成29年度	99.4%	98.0%	98.0%
平成28年度	97.6%	97.3%	97.6%
平成27年度	98.1%	97.1%	97.3%

※「国公立大学平均」「全国大学平均」の数値は、文部科学省及び厚生労働省が抽出調査を行い、4月1日現在の集計値を公表したものである。

大学院修士課程修了者

修士課程		体育学	スポーツ開学
修了者数	18名	16名	2名
就職希望者数	(A) 14名	12名	2名
就職者数	(B) 14名	12名	2名
教員(非常勤講師を含む)	3名	3名	0名
公務員(教員を除く)	1名	1名	0名
スポーツ関連企業	5名	3名	2名
一般企業	5名	5名	0名
未就職者数	0名	0名	0名
一般企業希望	0名	0名	0名

就職非希望者数	4名	4名	0名
進学	3名	3名	0名
教員・公務員再受験	0名	0名	0名
大学院等再受験	0名	0名	0名
就職を希望しない	0名	0名	0名
その他(復職・現職)	1名	1名	0名

就職率

就職者B / 就職希望者A

平成29年度	100.0%
平成28年度	80.0%
平成27年度	100.0%

Ⅲ 大学院博士後期課程修了者

博士後期課程		体育学	体スポ学
修了者数	5名	4名	1名
就職希望者数	(A) 3名	2名	1名
就職者数	(B) 3名	2名	1名
教員(非常勤講師を含む)	2名	1名	1名
公務員(教員を除く)	0名	0名	0名
スポーツ関連企業	1名	1名	0名
一般企業	0名	0名	0名
未就職者数	0名	0名	0名
一般企業希望	0名	0名	0名

満期退学者3名 内就職決定者2名

就職非希望者数	2名	2名	0名
教員・公務員再受験	0名	0名	0名
就職を希望しない	0名	0名	0名
その他(復職・現職)	2名	2名	0名

満期退学者	5名	5名	0名
-------	----	----	----

就職率

就職者B / 就職希望者A

平成29年度	100.0%
平成28年度	-%
平成27年度	100.0%

平成30年度鹿屋体育大学卒業・修了者の進路状況について

令和元年5月1日現在

I 体育学部卒業生

〔課程別内訳〕

学部全体	
卒業生数	192名
就職希望者数	(A) 160名
就職者数	(B) 159名
教員(非常勤講師を含む)	29名
公務員(教員を除く)	38名
スポーツ健康関連企業	33名
一般企業・自営業	59名
未就職者数	1名
一般企業希望	1名
就職非希望者数	32名
進学	25名
教員・公務員再受験	2名
大学院等再受験	1名
その他(就職を望まない、不明)	4名

スポーツ総合課程	武道課程
141名	51名
112名	48名
111名	48名
19名	10名
14名	24名
33名	0名
45名	14名
1名	0名
1名	0名
29名	3名
23名	2名
2名	0名
1名	0名
3名	1名

就職率

* 就職率 就職者(B) / 就職希望者(A)

	本学	国公立大学平均	全国大学平均
平成30年度	99.4%	97.3%	97.6%
平成29年度	99.4%	98.0%	98.0%
平成28年度	97.6%	97.3%	97.6%

※「国公立大学平均」「全国大学平均」の数値は、文部科学省及び厚生労働省が抽出調査を行い、4月1日現在の集計値を公表したものである。

II 大学院修士課程修了者

修士課程		体育学	国際開発学
修了者数	15名	12名	3名
就職希望者数	(A) 7名	6名	1名
就職者数	(B) 7名	6名	1名
教員(非常勤講師を含む)	1名	1名	0名
公務員(教員を除く)	0名	0名	0名
スポーツ健康関連企業	3名	2名	1名
一般企業・自営業	3名	3名	0名
未就職者数	0名	0名	0名
一般企業希望	0名	0名	0名
就職非希望者数	8名	6名	2名
進学	7名	5名	2名
教員・公務員再受験	0名	0名	0名
大学院等再受験	0名	0名	0名
就職を希望しない	0名	0名	0名
その他(復職・現職)	1名	1名	0名

就職率

就職者B / 就職希望者A

平成30年度	100.0%
平成29年度	100.0%
平成28年度	80.0%

III 大学院博士後期・3年制博士課程修了者

博士後期課程		体育学	高度化共同
修了者数	7名	5名	2名
就職希望者数	(A) 4名	3名	1名
就職者数	(B) 4名	3名	1名
教員(非常勤講師を含む)	2名	1名	1名
公務員(教員を除く)	0名	0名	0名
スポーツ健康関連企業	0名	0名	0名
一般企業・自営業	2名	2名	0名
未就職者数	0名	0名	0名
一般企業希望	0名	0名	0名
就職非希望者数	3名	2名	1名
教員・公務員再受験	0名	0名	0名
就職を希望しない	0名	0名	0名
その他(復職・現職)	3名	2名	1名
満期退学者	6名	6名	0名

就職率

就職者B / 就職希望者A

平成30年度	100.0%
平成29年度	100.0%
平成28年度	-%

令和元年度鹿屋体育大学卒業・修了者の進路状況について

令和2年5月1日現在

I 体育学部卒業者

〔課程別内訳〕

学部全体		スポーツ総合課程	うち編入生	武道課程
卒業者数	187名	137名	18名	50名
就職希望者数	(A) 161名	117名	14名	44名
就職者数	(B) 161名	117名	14名	44名
教員(非常勤講師を含む)	34名	20名	4名	14名
公務員等(教員を除く)	37名	17名	1名	20名
スポーツ健康関連企業	36名	36名	8名	0名
その他の一般企業	54名	44名	1名	10名
未就職者数	0名	0名	0名	0名
一般企業希望	0名	0名	0名	0名
就職非希望者数	26名	20名	4名	6名
進学	17名	14名	2名	3名
教員・公務員再受験	4名	2名	0名	2名
大学院等再受験	0名	0名	0名	0名
その他(就職を望まない、不明)	5名	4名	2名	1名

就職率 * 就職率 就職者(B) / 就職希望者(A)

	本学	国公立大学平均	全国大学平均
令和元年度	100.0%	98.2%	98.0%
平成30年度	99.4%	97.3%	97.6%
平成29年度	99.4%	98.0%	98.0%

※「国公立大学平均」「全国大学平均」の数値は、文部科学省及び厚生労働省が抽出調査を行い、4月1日現在の集計値を公表したものである。

II 大学院修士課程修了者

修士課程		体育学	国際開発学
修了者数	9名	9名	0名
就職希望者数	(A) 5名	5名	0名
就職者数	(B) 4名	4名	0名
教員(非常勤講師を含む)	1名	1名	0名
公務員(教員を除く)	0名	0名	0名
スポーツ健康関連企業	3名	3名	0名
一般企業・自営業	0名	0名	0名
未就職者数	1名	1名	0名
一般企業希望	1名	1名	0名
就職非希望者数	4名	4名	0名
進学	4名	4名	0名
教員・公務員再受験	0名	0名	0名
大学院等再受験	0名	0名	0名
就職を希望しない	0名	0名	0名
その他(復職・現職)	0名	0名	0名

就職率 就職者B / 就職希望者A

令和元年度	80.0%
平成30年度	100.0%
平成29年度	100.0%

III 大学院博士後期・3年制博士課程修了者

博士後期・3年制博士課程		体育学	高度化共同
修了者数	1名	0名	1名
就職希望者数	(A) 1名	0名	1名
就職者数	(B) 1名	0名	1名
教員(非常勤講師を含む)	1名	0名	1名
公務員(教員を除く)	0名	0名	0名
スポーツ健康関連企業	0名	0名	0名
一般企業・自営業	0名	0名	0名
未就職者数	0名	0名	0名
一般企業希望	0名	0名	0名
就職非希望者数	0名	0名	0名
教員・公務員再受験	0名	0名	0名
就職を希望しない	0名	0名	0名
その他(復職・現職)	0名	0名	0名
満期退学者	5名	5名	0名

就職率 就職者B / 就職希望者A

令和元年度	100.0%
平成30年度	100.0%
平成29年度	100.0%

学生面談シートを活用した学生面談に関する取扱い

平成28年10月17日
学生相談支援室決定

(趣旨)

第1 この取扱いは、鹿屋体育大学の学生が抱える多様な問題に適切に対応し、迅速な解決に向けて有効な学生相談体制を構築するため、学生面談その他必要な事項について定める。

(指導教員による面談)

第2 修学・学生生活指導教員（以下「指導教員」という。）は、学生相談支援室の依頼により、年1回以上、担当学生全員に学生面談シート（別記様式1）を提出させ、それに基づき学生面談（以下「面談」という。）を行う。

- 2 指導教員は、前項の面談結果に基づき、面談アセスメントシート（別記様式2）を作成する。
- 3 指導教員は、面談が終了した後に、学生面談シート及び面談アセスメントシート（以下「面談シート等」という。）をすみやかに学生相談支援室に提出する。その際、支援が必要と判断した学生について報告する。

(学生相談支援室による支援)

第3 学生相談支援室は、指導教員から学生への支援が必要との報告を受けたときは、必要な支援について検討し、実行する。

- 2 学生相談支援室は、学生の抱える問題に応じて、保健管理センター、障がい学生支援室、教務課又は学生課等と連携して学生の支援を行い、特に学生の心理的問題については、心理相談員及び心理カウンセラーとの連携を密にする。

(指導教員による支援)

第4 指導教員は、学生相談支援室と連携して学生への支援を行う。

- 2 指導教員は、特に学生の心理的問題については、保健管理センター、心理相談員及び心理カウンセラーとの情報共有を行い、かつ助言を得ながら、学生への支援を行う。

(面談シート等の取扱い)

第5 面談シート等の取扱いについて、次のとおり定める。

- (1) 面談シート等の利用は、当該学生の支援に関して必要な範囲に限る。
- (2) 開示された面談シート等の内容について、教職員、心理カウンセラー及び次年度以降の指導教員は、取扱いについて充分注意する。
- (3) 指導教員から提出された面談シート等は、国立大学法人鹿屋体育大学個人情報取扱規程（平成17年3月22日規程第3号）に定めるところにより、適切に保管する。

(情報の保持)

第6 この取扱いに定める面談に関わる者は、知り得た情報を他に漏らしてはならない。

(事務)

第7 この取扱いに定める面談に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第8 この取扱いに定めるもののほか、面談に関し必要な事項は、学生相談支援室が別に定める。

附 則

この取扱いは、平成29年4月1日から施行する。

別記様式1

学生面談シート

面接日

平成 年 月 日

面接者

学籍番号		氏名		A0 ・ 推薦 ・ 一般 ・ 編入
課外活動		出身地		学生宿舎 ・ 一人暮らし ・ その他

- ・ 下の質問項目について1～5のレベルのうち、あてはまるレベルに丸を付けてください。
- ・ 「具体的内容など」の欄には、質問項目について思いつくことや補足説明などを記入してください。

	そうでない←——→ そうだ	具体的内容など
食事は取れているか	1 2 3 4 5	
睡眠は十分か	1 2 3 4 5	
友人との関わりは良好か	1 2 3 4 5	
現在交流することが多い友人は？ (当てはまるものに丸を付ける)		小クラスやゼミ ・ 課外活動関係 ・ アルバイト関係 地元 ・ その他 ()
授業に興味を持てるか	1 2 3 4 5	
部活への意欲があるか	1 2 3 4 5	
ストレスを感じるか	1 2 3 4 5	
ストレスを感じるのはどんなときか？		
ストレスを感じたときの対処方があるか？ あるなら、それはどんな方法か？		
【1年次向け質問】どんな大学生生活にしたいか？ 【2年次以上向け質問】入学時に考えていた大学生生活と今の現状を比べてどうか？ (授業、課外活動、友達、就職、卒論など)		
その他 気になっていることなど		

※ 学生面談シートは、学生の皆さんへの支援が必要な場合に関係部署（保健管理センター、心理カウンセラー、教務課、学生課、障がい学生支援室等）に開示する他、次年度以降の指導教員へ開示することがありますので、予めご了承ください。

面談アセスメントシート

教員名 () 学生名 ()

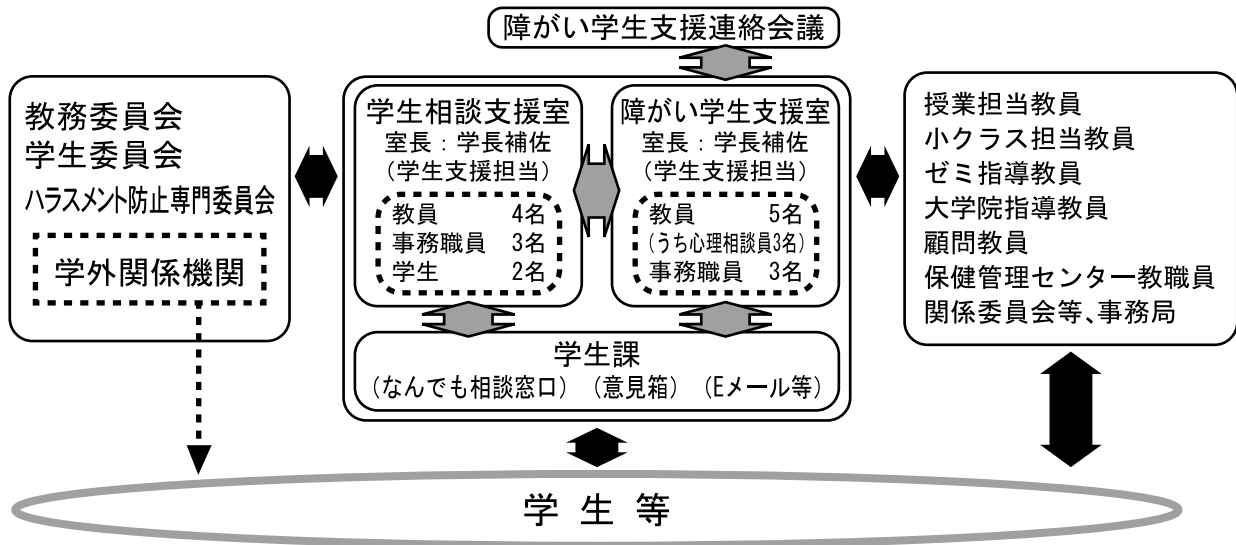
- ・下の質問項目について1～5のレベルのうち、あてはまるレベルに丸を付けてください。
- ・「気づかれた点など」の欄には、質問項目について思いつくことや補足説明などを記入してください。

	そうでない ← → そうだ					気づかれた点など
自分の考えを話せているか	1	2	3	4	5	
緊張しすぎているか	1	2	3	4	5	
視線や振る舞いなどに違和感はないか	1	2	3	4	5	
コミュニケーションがとれているか	1	2	3	4	5	
総合評価 (A～Cの中から選択)	A	目立った困り感が見られない 継続して見守りを行う				【 必要の種類 】 修学面・友人関係・メンタル面 日常生活・課外活動・経済面 その他 () ※ 当てはまるものに○ 複数選択可
	B	本人に困り感がみられる 専門的支援へ繋ぎが必要				
	C	目立った心身の不調あり 早急に専門的支援が必要				
その他 気になったことなど						

面談実施後の対応記録

対応部署	(担当)	対応日

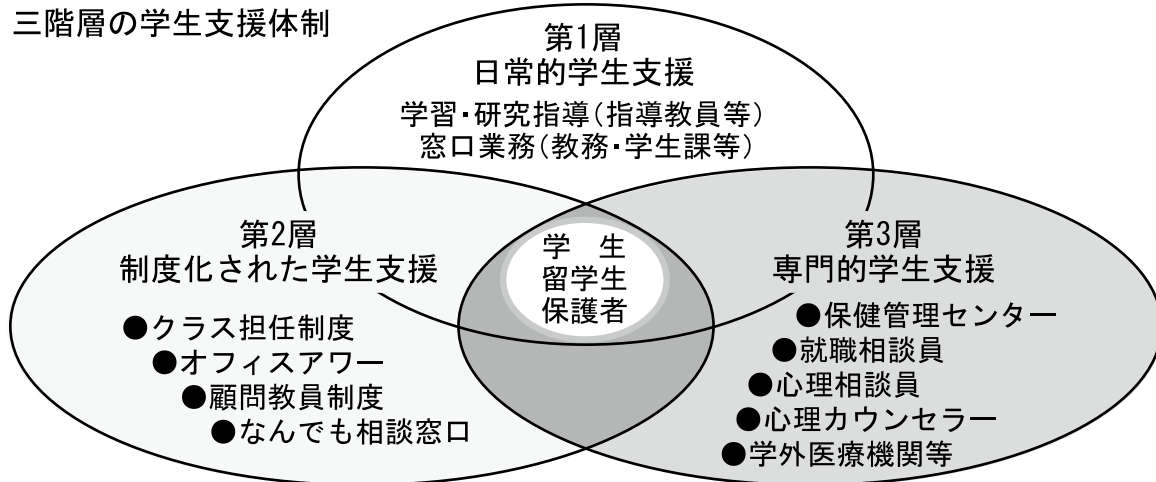
● 学生相談支援室・障がい学生支援室による学生支援体制



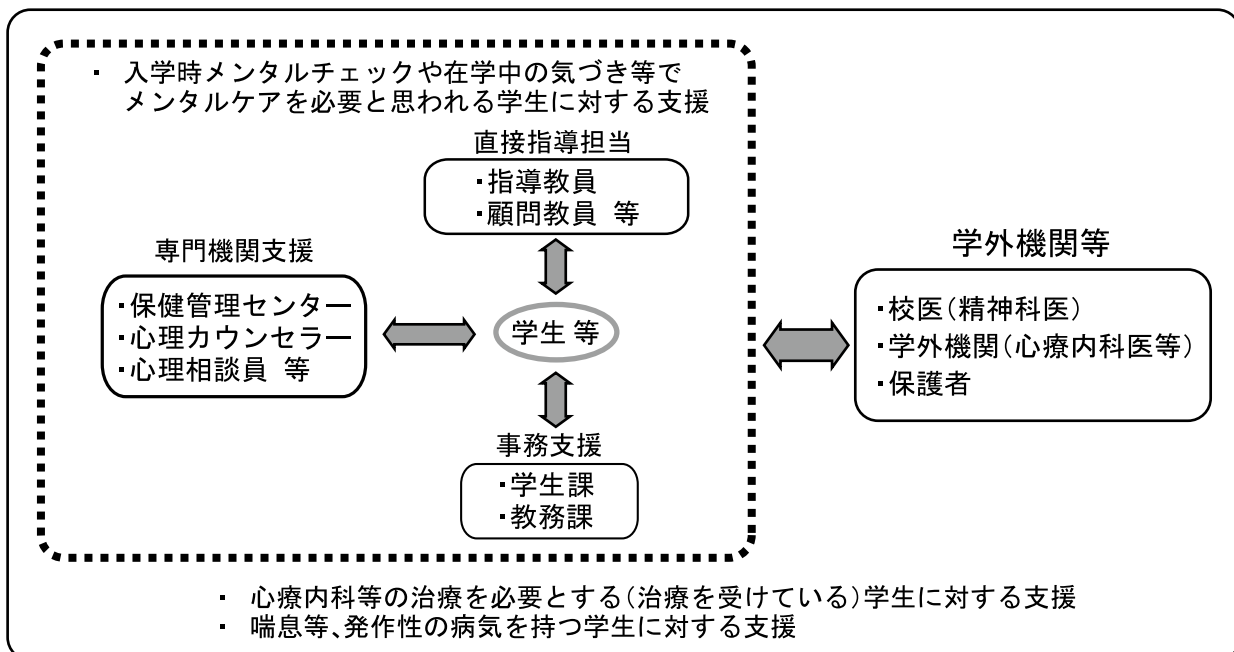
2

学生対応の窓口

● 三階層の学生支援体制



● メンタルケア等を必要とする学生に対する連携体制(情報の共有含む)



保健管理センター
2016年度 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	38	68	78	45	28	4	27	34	15	16	23	26	402
外科	0	0	1	4	1	0	1	1	2	1	0	1	12
内科	60	35	27	41	12	6	21	30	19	18	10	6	285
皮膚疾患	1	2	4	6	1	2	2	0	1	0	1	0	20
耳鼻科	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	4
眼科	0	1	0	1	0	0	0	1	1	1	1	1	7
歯科口腔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処置	22	25	23	17	4	5	8	12	7	10	5	12	150
投薬	14	35	47	28	15	11	40	53	21	15	12	15	306
理学療法	9	15	20	24	4	38	12	14	3	1	1	2	143
血液検査	7	0	1	1	0	39	0	10	0	40	0	1	99
検尿	69	2	3	4	1	2	0	1	0	0	0	0	82
エコー	19	15	1	16	12	1	12	15	12	6	31	2	142
心電図	10	2	0	2	0	1	15	6	0	0	1	2	39
血圧・検温・検査	21	47	9	8	8	98	19	100	24	139	23	6	502
In Body	84	135	147	172	48	44	110	150	104	76	122	112	1,304
測定	69	69	83	138	48	56	97	59	39	26	21	8	713
休養	3	0	9	1	2	0	0	2	3	2	0	1	23
カウンセリング	75	16	8	9	0	1	8	6	9	6	3	1	142
電話フォロー	1	2	2	0	3	2	14	3	6	6	1	3	43
学生相談	2	0	5	5	4	3	5	4	3	0	1	0	32
証明書発行・作成	58	178	8	143	5	36	11	3	14	2	4	3	465
病院紹介・作成	9	8	16	17	8	5	16	10	12	6	11	6	124
その他	205	16	12	30	14	14	33	23	36	25	18	29	455
計	776	672	504	713	218	368	451	537	332	398	290	237	5,496

2017年度 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	42	37	35	56	18	28	48	44	21	49	34	9	421
外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
内科	36	44	15	12	14	12	30	13	16	10	16	8	226
皮膚疾患	1	4	7	2	0	4	2	0	0	0	1	0	21
耳鼻科	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
眼科	2	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	6
歯科口腔	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処置	11	7	13	19	6	7	7	3	5	16	5	1	100
投薬	28	36	28	23	8	20	34	25	18	18	16	20	274
理学療法	9	5	12	9	8	11	24	9	11	12	19	9	138
血液検査	0	1	2	0	9	45	23	1	0	0	0	2	83
検尿	51	2	0	2	2	0	3	0	0	0	0	2	62
エコー	56	3	0	4	6	3	19	14	5	4	24	0	138
心電図	6	0	0	1	0	0	17	0	2	1	0	0	27
血圧・検温・検査	35	28	20	7	3	89	37	136	20	26	19	6	426
In Body	159	136	86	178	90	24	45	0	0	0	0	0	718
測定	30	38	46	34	16	12	56	54	43	42	44	22	437
休養	0	2	2	4	0	0	3	0	1	4	3	2	21
カウンセリング	84	15	15	18	9	4	22	11	15	10	11	13	227
電話フォロー	6	4	8	1	12	23	21	9	4	6	2	3	99
学生相談	2	2	7	3	4	4	14	5	7	3	2	1	54
証明書発行・作成	40	34	166	42	12	20	11	7	3	1	5	6	347
病院紹介・作成	25	12	12	21	7	5	15	8	10	20	8	6	149
その他	239	76	74	71	18	78	30	117	24	29	18	16	790
計	863	488	549	507	242	389	462	459	205	253	227	127	4,771

2018年度 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	37	44	40	55	21	17	34	40	24	17	56	33	418
外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内科	81	37	15	40	23	11	14	23	17	14	10	3	288
皮膚疾患	4	3	2	2	0	1	1	2	1	1	2	1	20
耳鼻科	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
眼科	3	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	7
歯科口腔	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処置	10	8	13	30	5	2	3	14	4	2	5	1	97
投薬	39	33	30	45	11	11	27	50	21	16	19	12	314
理学療法	7	29	31	36	34	35	40	61	25	13	24	11	346
血液検査	9	0	0	0	32	2	18	12	1	23	12	1	110
検尿	58	14	2	1	3	1	1	0	0	1	1	0	82
エコー	34	16	1	2	7	1	12	0	14	17	28	15	147
心電図	30	3	3	1	0	1	3	1	2	2	0	0	46
血圧・検温・検査	64	29	30	30	20	4	19	30	17	40	14	6	303
In Body	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
測定	51	45	68	131	82	76	145	134	66	89	76	48	1,011
休養	2	1	2	5	3	1	1	0	1	2	1	0	19
カウンセリング	72	22	19	16	2	7	8	12	13	17	16	16	220
電話フォロー	4	12	11	22	3	5	3	9	7	7	4	6	93
学生相談	2	5	4	1	7	3	8	10	2	4	2	8	56
証明書発行・作成	52	62	142	65	14	23	5	2	8	3	2	5	383
病院紹介・作成	42	12	13	19	13	8	8	17	13	17	5	7	174
その他	256	74	31	46	20	24	21	124	20	18	22	28	684
計	859	450	459	547	301	233	371	542	258	303	299	203	4,825

業 務 報 告

(1) 令和元年度 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
整 形	83	45	60	68	18	20	23	32	47	34	29	30	489
外 科	0	0	1	0	0	0	2	1	0	2	0	1	7
内 科	82	34	34	51	9	7	8	10	20	20	19	4	298
皮 膚 疾 患	2	2	4	5	0	0	4	2	1	0	0	0	20
耳 鼻 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
眼 科	0	1	0	0	2	1	1	0	1	0	2	0	8
歯 科 口 腔	0	0	3	0	1	0	1	0	0	1	0	0	6
婦 人 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処 置	8	7	26	32	10	11	13	8	8	12	2	4	141
投 薬	20	10	25	30	14	14	22	15	20	26	16	4	216
理 学 療 法	16	31	35	83	26	37	54	53	42	27	26	33	463
血 液 検 査	5	4	6	8	5	3	1	1	1	2	0	0	36
検 尿	67	15	3	2	0	0	0	1	0	0	0	0	88
エ コ ー	57	22	3	6	2	0	10	11	3	0	32	1	147
心 電 図	14	4	5	5	1	0	1	0	2	0	1	1	34
血 圧・検 温・パルス	43	24	22	16	13	8	18	28	20	28	28	3	251
検 査(装 置・そ の 他)	72	1	1	3	1	0	0	3	8	1	2	1	93
測 定	73	225	357	180	60	83	148	194	134	99	73	40	1,666
休 養	2	0	0	1	1	0	5	8	2	4	2	0	25
心 理 カウンセリング	62	24	19	25	11	3	9	20	25	21	13	26	258
心 理 電 話 フォロ ー	10	9	26	11	12	1	2	15	11	8	13	24	142
相 談・電 話 フォロ ー	3	13	29	12	5	6	27	20	31	15	24	21	206
証 明 書 発 行・作 成	28	22	25	5	7	45	6	2	10	4	2	1	157
病 院 紹 介・作 成	25	21	22	15	10	7	14	12	10	17	12	6	171
そ の 他	76	113	39	34	23	29	18	110	23	12	17	8	502
計	748	627	745	592	231	275	387	546	419	334	313	208	5,425

鹿屋体育大学障がい学生支援室要項

平成28年 1 月 21 日
学 長 裁 定

(趣旨)

第1 この要項は、鹿屋体育大学（以下「本学」という。）に在籍又は在籍する見込みの障がい学生（障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある学生をいう。以下同じ。）を支援する障がい学生支援室（以下「支援室」という。）に関する必要な事項について定める。

(設置)

第2 本学に、障がい学生が円滑かつ良好な修学・学生生活を行う上で必要な支援を行うため、支援室を置く。
2 支援室は、学長の指揮のもと、本学内の機関・組織等と協力連携した全学の協働組織とする。

(組織)

第3 支援室は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
(1) 室長
(2) 心理相談員のうちから室長の指名した者 若干名
(3) 学長が指名した教員 若干名
(4) 事務局長が指名した事務職員 若干名
2 室長は、学長補佐（学生支援担当）をもって充てる。
3 室長は、支援室の業務を掌理し、学生委員会ほか学内関係機関・組織等との連絡調整を行う。
4 第1項第2号及び第3号に掲げる者の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(業務)

第4 支援室は、次に掲げる業務を行う。
(1) 障がい学生からの相談に関すること。
(2) 障がい学生への支援に関する課題解決に関すること。
(3) 障がい学生への支援に関する連絡調整・連携に関すること。
(4) 障がい学生への支援に関する調査研究に関すること。
(5) 障がい学生への支援の情報公開に関すること。
(6) 障がい学生への支援に関する啓発に関すること。
(7) その他支援室の目的を達成するために必要な事項

(連絡会議)

第5 障がい学生に関する事項について、全学的な連絡調整を行うため、本学に障がい学生支援連絡会議（以下「連絡会議」という。）を置く。
2 連絡会議に関し必要な事項は、別に定める。

(秘密の保持)

第6 障がい学生への支援に関わる者は、知り得た秘密を、職務上必要な場合を除き他に漏らしてはならない。

(事務)

第7 支援室に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第8 この要項に定めるもののほか、支援室に関し必要な事項は、室長が別に定める。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。

鹿屋体育大学障がい学生支援連絡会議要項

平成28年 1月21日
学 長 裁 定
改正 平成28年 7月27日

(趣旨)

第1 この要項は、鹿屋体育大学（以下「本学」という。）に在籍又は在籍する見込みの障がいのある学生（以下「障がい学生」という。）について、全学的な連絡調整を行うために置く障がい学生支援連絡会議（以下「連絡会議」という。）に関する必要な事項について定める。

(業務)

第2 連絡会議は、障がい学生の円滑かつ良好な修学・学生生活への支援に必要な全学的な連絡調整を行う。
2 連絡会議は、前項の連絡調整について、本学障がい学生支援室と連絡を密にして行う。

(組織)

第3 連絡会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 障がい学生支援室室長
- (2) 保健管理センター所長
- (3) 教務委員会副委員長
- (4) 入試委員会副委員長
- (5) 学生委員会副委員長
- (6) 財務・施設環境委員会副委員長
- (7) 教務課長
- (8) 学生課長
- (9) その他学長が必要と認めた者

2 連絡会議の議長は、障がい学生支援室室長をもって充てる。

3 議長は、連絡会議を招集し、議長に事故があるときは、前もって議長が第1項に定める構成員のうちから定めた者がその職務を代行する。

(意見の聴取)

第4 議長は、必要と認めたときは、連絡会議に構成員以外の者を出席させ、意見を聴取することができる。

(秘密の保持)

第5 障がい学生への支援に関わる者は、知り得た秘密を、職務上必要な場合を除き他に漏らしてはならない。

(事務)

第6 連絡会議に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第7 この要項に定めるもののほか、連絡会議に関し必要な事項は、別に定めることができる。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。

附 則 (平28. 7. 27)

この要項は、平成28年8月1日から施行する。

なんでんかんでん語ろう会、学生なんでも意見箱における学生の要望内容及び対応状況（2016～2019年度）

意見・要望等の内容（主旨）	措置等
食堂横のトイレを綺麗にしてください。 トイレを様式にしてほしい。	学生委員会委員長から施設課へ要望書を提出。 令和元年度に改修された。
学生ラウンジ及びロッカールームの使用について私物が多かったり、溜まり場になっているため使用出来ません。 ごはんを食べたり、集まる場所が少ない。	学生ラウンジ、ロッカールームについて、現在置かれている私物等については、持ち帰るよう呼びかけ、不要物品の撤去等を行った。 その後、学生ラウンジの清掃、机・いすの入れ替え等の整備を行った。
トレーニング場の床が割れたり、穴があいているためケガをしそうになった。	屋外トレーニング場のプラットフォームにおいて、一部破損が見受けられたので、安全対策のために破損度合いの大きい箇所から順次（平成29年度～30年度）修理した。
レッグプレスを2台購入して欲しい。腰をケガした時にトレーニングする機器が不足している。	屋外トレーニング場において、レッグプレスマシンを1台購入した。
パワーラックが老朽化しているので、メンテナンスをして欲しい。	屋外トレーニング場において、安全対策のためにパワーラックの不良箇所を平成29年度中に修理した。 なお、屋内外のトレーニング場では、安全対策のために年に2回、トレーニング機器の保守・点検、必要に応じて修理している。
トレーニング場に、ランニングマシーンを増やしてほしい。	屋内トレーニング場に、ランニングマシーンを1台増設した。
屋外トレーニング場と陸上競技場の掃除用具がボロボロであり、掃除ができない。交換してほしい。	屋外トレーニング場及び屋内トレーニング室について、年度末までに掃除道具の交換を行った。
屋外トレーニング場にトイレを作してほしい。	令和2年度に屋外トレーニング場トイレ増築工事を実施。
主体育室にある冷水機と製氷機を修理して欲しい。	冷水機は、交換を行った。 製氷機は、定期的に保守・点検を行っている。
学部生も本を10冊まで貸し出し可能にして頂けると嬉しいです。	令和元年6月21日から、学部学生も10冊まで、4週間貸出できるようにした。
食堂や売店で使うことのできる電子マネーを作してほしい。チャージは、日本どこでもできるようなもの。	学生食堂および厚生会売店で、QRコード決済「PayPay」を導入した。
売店や食堂をもっと大規模にしてほしい。	学生食堂について、令和2年1月にフローリングの張替え、コンセント付きのカウンター席やレイアウトを自由に変えられるキャスター付き勾玉型テーブルを新設等のリニューアルを行った。
オリンピックボランティアの補助	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、ボランティアに参加する学生が期間中のボランティア活動、事前研修等に支障がないよう、学事日程等の配慮、経済的な支援を実施予定。
インフルエンザ予防対策（毎年冬になると、風邪やインフルエンザが流行するので、大学全体での予防策を考えておくと良いと思う）	令和元年度健康セミナーにおいて感染症予防をテーマに実施した。
学生宿舎補食室の冷たい水の出が悪いです。 直りますか？	意見を確認した当日に職員が現場を確認し、水の流量を調整した。
体育館から聞こえる音楽がうるさすぎます。研究棟まで聞こえていて、実験等に影響するので音を小さくしてほしい。	学生課から該当する部に要望を伝え、改善するよう指導した。

第11回 学生生活実態調査報告書

The Report on the 11th survey of NIFS Student's Life



[編] 鹿屋体育大学学生委員会



令和2年3月

国立大学法人鹿屋体育大学

National Institute of Fitness and Sports in KANOYA

はじめに

本調査は、本学学生の生活状況の実態を把握し、心身の健康管理など学生が抱える諸問題を大学として、生活・就学の指導に役立たせることを目的に行われているものです。前回は3年前の平成28年(2016年)度に実施し、今年で11回目になります。調査内容は学年毎に、「生活状況」、「健康状態」、「課外活動」、「大学生活」、「ハラスメント」、「学内施設利用状況」等、多項目にわたる視点から調査を行いました。

また、本学の特徴として少人数教育が挙げられます。具体的には、1、2年生では10名程度の小クラスでの学生の指導、3、4年生では各自の関心・進路により選択したゼミナール指導という形式を取り、学生個人が充実した大学生活を営めるように、組織的に取り組んでいます。このような指導の中で、担当教員や同級生との人間関係を深め充実した学生生活が送れるよう努めているところです。また、本学が体育大学であることから、学生の9割近くが課外活動団体に所属し、日々活動に取り組む中での社会性(倫理観や社会規範、フェアプレイ等)も培われています。

本報告書が全国から集まっている学生諸君が、学生相互間の連帯感、信頼感などの醸成、自分自身が抱えている問題の解決の手掛かりとして活用され、有意義な学生生活を送っていただくための資料となることを期待します。また、教職員の方々にも、本報告書を様々な場面で学生生活の指導に有効に活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本調査にご協力いただいた学生諸氏、本調査の実施・報告書の作成にご協力いただいた学生委員会委員及び関係の教職員の皆様方に、ここに意を尽くせませんが、深く厚く御礼申し上げます。

令和2年3月

令和元年度学生委員会

委員長 濱田 幸二

目 次

●	はじめに	
●	学生生活実態調査の概要	1
●	調査の結果	
I	調査の実施状況	2
II	生活状況	3
III	健康状態	9
IV	課外活動状況	12
V	大学生活の状況	15
VI	ハラスメント	19
VII	学内施設利用状況	22
VIII	大学への意見・要望	24
IX	大学に対する満足度	24
	あとがき	25
●	参考資料 第 11 回学生生活実態調査「学生生活アンケート用紙」	26

学生生活実態調査の概要

1. 調査目的

本調査（学生生活実態調査）は、本学学生の生活及び課外活動などの状況を把握し、学生の経済的実情及び課外活動などに対する意識や取組みを明らかにするとともに、今後の学生に対する支援事業等の改善充実を図るための基礎資料を得ることを目的として実施しています。

なお、本調査結果については分析した上で報告書を作成し、その報告書を今後の学生に対するより一層の支援事業等の改善充実を図るための基礎資料として活用します。

2. 調査実施組織

本調査については、本学常任委員会である学生委員会が担当し、実施しました。
同委員会の構成員（令和元年度）については、次のとおり。

委員長：濱田 幸二 学長補佐（学生支援担当）・教授
副委員長：瓜田 吉久 学長補佐（競技力向上担当）・教授
委員：濱田 初幸 教授 吉重 美紀 教授 安田 修 教授
木葉 一総 准教授 藤田 英二 准教授 沼尾 成晴 准教授
浜田 幸史 准教授 與谷 謙吾 准教授 榮樂 洋光 講師
幾留 沙智 講師 有馬 正人 事務局次長 宮園 礼子 学生課長

3. 調査対象及び方法

本学に在学する学部学生全員 756 人（令和元年 10 月 1 日に在籍する正規生のうち休学者を除いた者）を調査対象としました。

調査方法は、本学のタブレット必携化を鑑み、回答及び集計の時間短縮を図るため、前回までの紙媒体から Web を活用した方法へと変更しました。

対象学生(全体)については次のとおり。

在籍学生数（令和元年10月1日現在） (単位:人)

学年 課程	1年 (平成31年度入学)	2年 (平成30年度入学)	3年 (平成29年度入学)	4年 (平成28年度以前入学)	計
スポーツ総合課程	129	127	148	144	548
武道課程	52	50	53	53	208
計	181	177	201	197	756

※休学者、非正規生は除く。

4. 調査時期

調査基準日：令和元年 10 月 1 日

調査期間：令和元年 10 月 2 日（水）～10 月 31 日（木）

5. 調査項目

調査項目については、これまでの質問内容及び他部署で行っているアンケート調査の項目等を精査し、設問数を減らすとともに、内容の修正を行いました。

I 基本事項、II 生活状況、III 健康状態、IV 課外活動状況、V 大学生生活の状況、VI ハラスメント
VII 学内施設利用状況、VIII 大学への意見・要望、IX 大学に対する満足度

6. 調査結果の分析、報告書の作成

本調査の集計は学生課で行い、集計結果をもとに学生委員会委員が分析を行いました。

なお、本報告書は電子ファイル（PDF）により、学内公開します。

I 調査の実施状況

1. 回答状況

学部学生 756 名（休学者、非正規生は除く）のうち、回答者は 438 名で回収率は 57.9%でした（前回調査の回答率は 56.6%）。課程別の回収率はスポーツ総合課程 58.6%、武道課程 56.3%でした。学年別の回答率をみると最も高いのは 1 年次生で 75.1%でした。次に 3 年次生 61.2%、4 年次生 50.0%と続いており、2 年次生は 47.5%と 5 割を切る回答率でした。

回答数の男女比は男子学生 69.4%、女子学生 30.6%でした。男女別に回答率を求めたところ男子学生が 54.5%、女子学生が 67.7%となり、女子学生の回答率の方が高くなりました。

回答状況一覧（休学者、非正規生は除く）

【課程・学年別】

学 年	課 程	スポーツ総合	武道	総計
		対象数		
1 年 (平成31年度入学)	対象数	129	52	181
	回答数	99	37	136
	回答率	76.7%	71.2%	75.1%
2 年 (平成30年度入学)	対象数	127	50	177
	回答数	68	16	84
	回答率	53.5%	32.0%	47.5%
3 年 (平成29年度入学)	対象数	148	53	201
	回答数	86	37	123
	回答率	58.1%	69.8%	61.2%
4 年 (平成28年度入学)	対象数	140	50	190
	回答数	68	27	95
	回答率	48.6%	54.0%	50.0%
4 年 (平成27年度以前入学)	対象数	4	3	7
	回答数	0	0	0
	回答率	0.0%	0.0%	0.0%
総計	対象数	548	208	756
	回答数	321	117	438
	回答率	58.6%	56.3%	57.9%

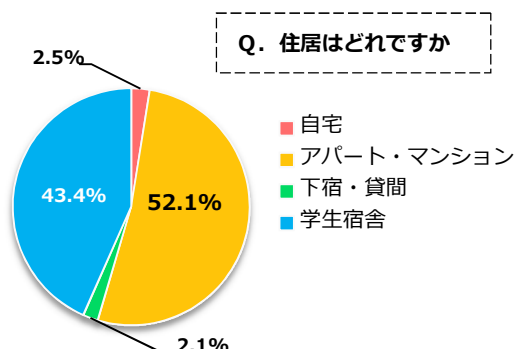
【性別・学年別】

学年	1 年 (平成31年度入学)		2 年 (平成30年度入学)		3 年 (平成29年度入学)		4 年 (平成28年度入学)		4 年 (平成27年度以前入学)		総計	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
対象数	128	53	132	45	154	47	137	53	7	0	558	198
回答数	90	46	63	21	89	34	62	33	0	0	304	134
回答率	70.3%	86.8%	47.7%	46.7%	57.8%	72.3%	45.3%	62.3%	0.0%		54.5%	67.7%

II 生活状況

1. 住居

「アパート・マンション」52.1%、および「学生宿舎」43.4%で殆どを占めています。前回から若干ですが下宿、賃間は減少となりました。「アパート・マンション」へ移行したようです。「学生宿舎」については、学生数と「学生宿舎」の定員が毎年ほぼ同数であることから、変動しにくいものと考えられます。



2. 食事

(1) 朝食について

朝食を「毎日食べる」と答えた学生は、60.0%で、過去5回の調査結果(53.7%、55.5%、60.0%、61.0%、58.5%)と同様の結果となりました。「食べない」5.3%、「週に1~3日」10.3%という欠食が多い学生もいることから、改善が必要と考えられます。

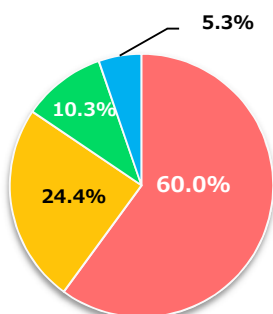
(2) 昼食について

昼食は、「毎日食べる」が81.1%と前回より3%程増加しましたが、全体的には前回同様の傾向となりました。競技種目によっては減量を必要とする競技もあり、この学生が毎日食べる以外の割合に含まれていることも考えられます。

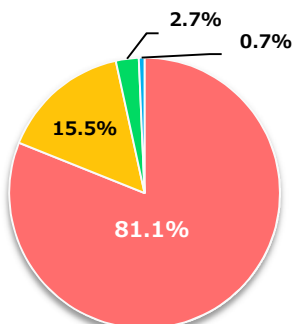
(3) 夕食について

夕食は「毎日食べる」が90.6%で(過去 86.7%、88.8%)若干の増加傾向にある結果となりました。一方で、1割ほどの学生が週に1回以上夕食を抜くという点が、過去同様の結果であることから、規則正しい生活、食習慣について経過をみる必要があると考えられます。

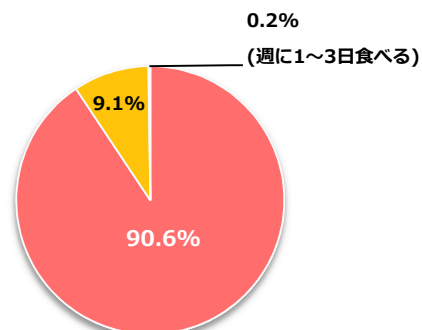
Q. 朝食について



Q. 昼食について



Q. 夕食について



■ 毎日食べる

■ 週に4~6日食べる

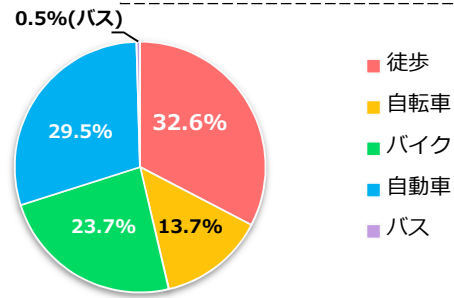
■ 週に1~3日食べる

■ 食べない

3. 交通手段

「徒歩」が32.6%と最も多く、次いで「自動車」29.5%、「バイク」23.7%となりました。「徒歩」が最も多かった結果は、前回の調査と同様です。しかしながら、今回の調査では前回の調査とは異なり、「自動車」での通学が「バイク」での通学を上回る結果となり、「バイク」よりも「自動車」での通学が増加傾向にあることがうかがえます。

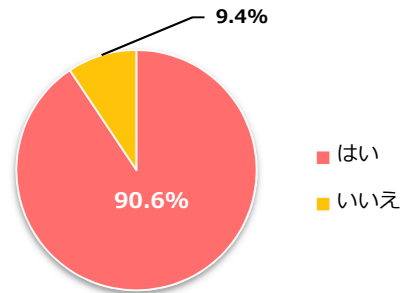
Q. 通学のための交通手段は主に何ですか



4. 運転免許の取得

「運転免許を取得している」と回答した人は90.6%と、9割以上の人々が自動車およびバイクの運転免許を取得していました。

Q. 運転免許(バイクを含む)を取得していますか

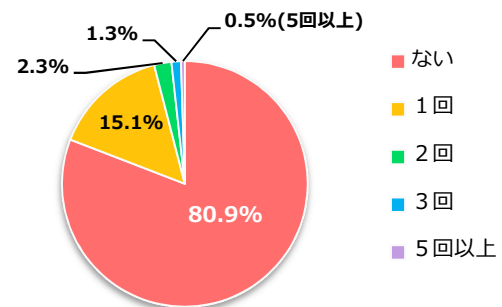


5. 交通違反

(1) 入学後の交通違反回数

「ない」と回答した人が80.9%と前回の調査の72.2%よりも高くなっています。一方、2回以上の違反者は5%程度でした。前々回および前回の調査と比較すると、年々、交通違反者が減少していることがうかがえます。学生の交通ルールに対する意識が向上していることが考えられますが、引き続き、交通安全に関する取組を継続していくことが必要です。

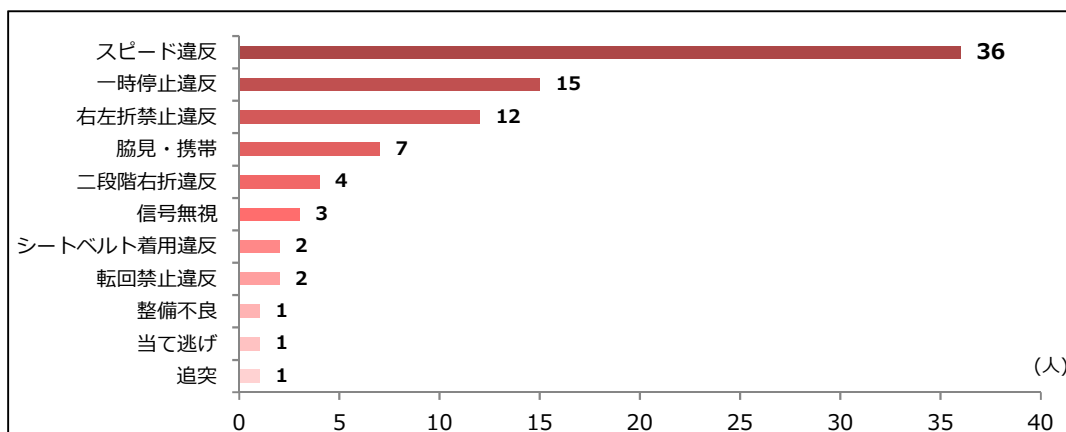
Q. 入学後交通違反をしたことがありますか



(2) 違反の内容

「スピード違反」の件数(36件)が最も多く、次いで「一時停止違反」(15件)、「右左折禁止違反」(12件)となっています。「脇見・携帯」も7件となっており、運転中にスマートフォン等の操作をしないよう注意喚起することが必要です。また、「当て逃げ」の違反が見られる点はより早急な対応が必要と考えます。違反者が減少しているとはいえ、大学として交通安全のさらなる啓発活動が必要といえます。

Q. どんな違反でしたか(複数回答)

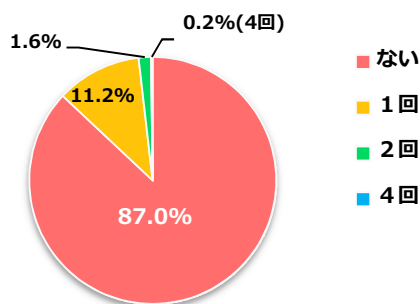


6. 交通事故

(1) 入学後の交通事故

「ない」が87.0%、「1回」が11.2%、「2回以上」が1.8%と前回の調査とほとんど同様の結果となりました。交通事故には未然に防ぐことができる場合とできない場合がありますが、被害者もしくは加害者にならないために今後も学生の交通マナーを向上させることが重要といえます。

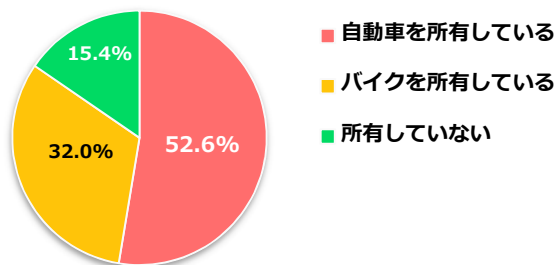
Q. 入学後交通事故にあった(をした)ことがありますか



(2) 自動車、バイクの所有

約5割の人が「自動車」、約3割の人が「バイク」を所有しており、8割をこえる学生が自動車もしくはバイクを所有している結果となりました。

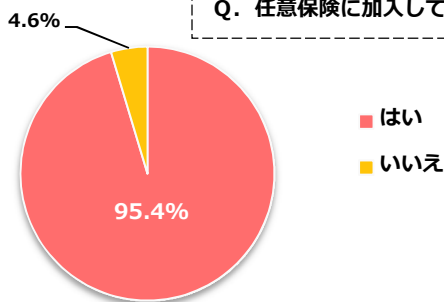
Q. 自動車(バイクを含む)を所有していますか



(3) 任意保険の加入状況

「はい」と回答した人は95.4%と前回の調査(90.0%)よりは任意保険の加入者が増加しています。しかしながら、万が一の事故に備え、任意保険の加入を強く呼びかける必要があると考えられます。

Q. 任意保険に加入していますか

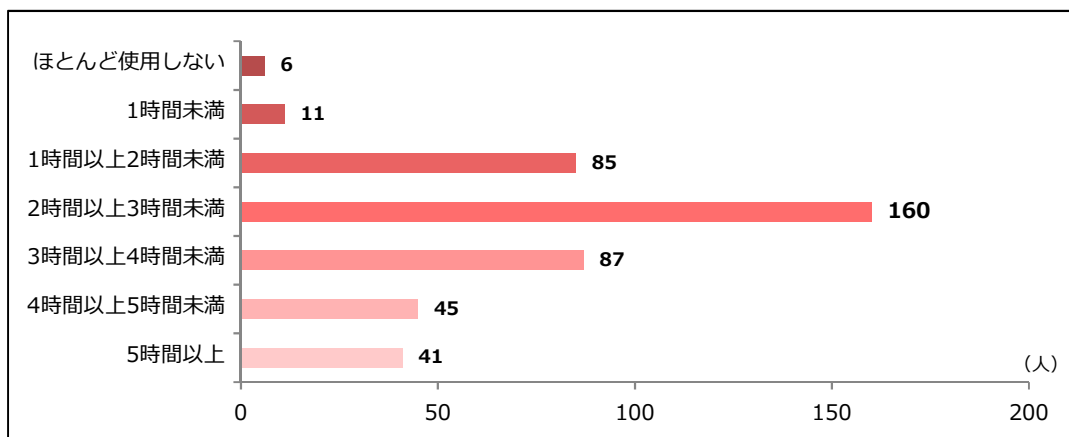


7. 学修目的以外でのインターネット・スマートフォン等の使用状況

「2時間以上3時間未満」(160人)が最も多く、次いで「3時間以上4時間未満」(87人)、「1時間以上2時間未満」(85人)となっています。1時間以上使用する者の割合は95%を超えており、通信端末の利用が生活の一部になっていることがうかがえます。

しかしながら、利用方法によっては、学業の妨げだけでなく、事件・事故の誘発や身体・精神的問題に発展することも懸念されます。大学として利用方法に関するリテラシーを高める活動が必要であると考えられます。

Q. 学修目的以外でインターネット・携帯電話・スマートフォンを1日平均どのくらい使用していますか

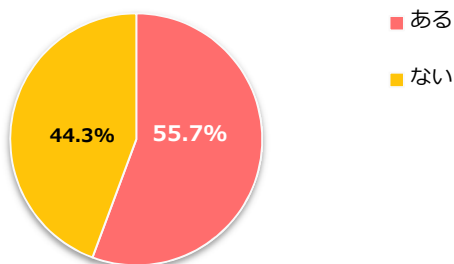


8. アルバイト経験と紹介先

(1) 今年度のアルバイト経験

前回の調査に比べ、アルバイト経験者が若干減少しましたが、「ある」が55.7%、「なし」が44.3%でアルバイト経験者が多く、6割近くの学生はアルバイトに従事していることとなります。後述のように、生活費など生活のためにアルバイトに従事する学生が多いことがうかがえます。

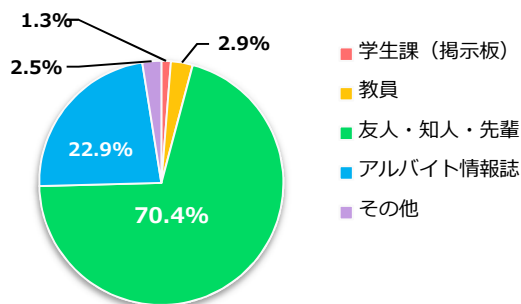
Q. 今年度、アルバイトをしたことがありますか
(していますか)



(2) アルバイトの紹介元

前回の調査と同様、「友人・知人・先輩」がアルバイトの紹介元として最も多く(70.4%)、次いで「アルバイト情報誌」(22.9%)となりました。個人の人脈を通じてアルバイトが紹介される場合が多いようです。

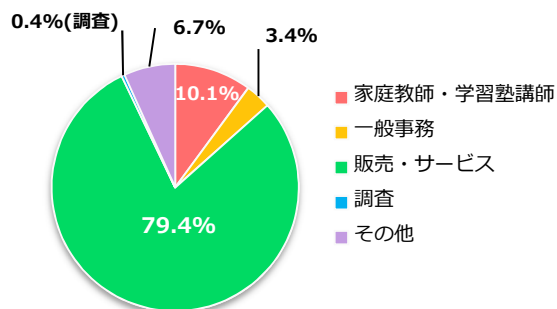
Q. アルバイトの主な紹介先はどこですか



(3) アルバイトの職種

「販売・サービス」が約8割(79.4%)を占め、次いで「家庭教師・学生塾講師」(10.1%)となりました。

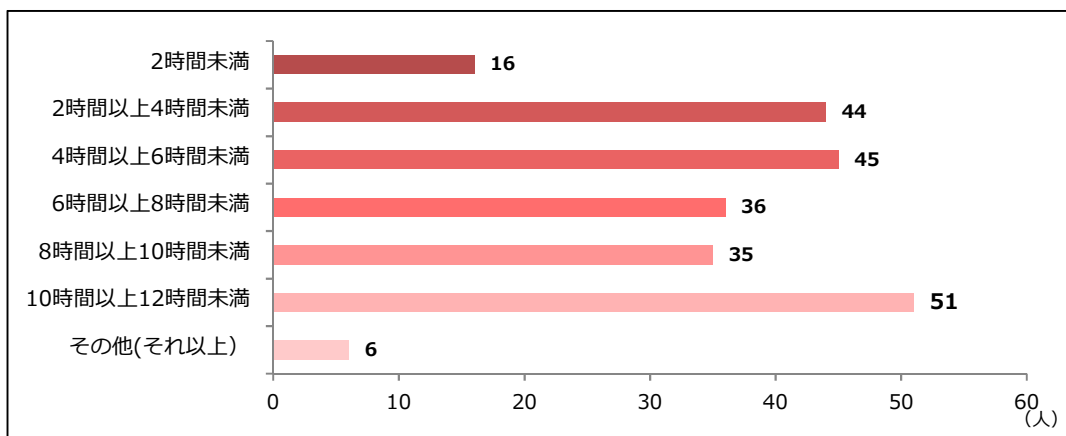
Q. アルバイトの職種は何ですか



(4) 週平均のアルバイト時間

前回の調査と同様、「10時間以上」(51人)が最も多い結果となりました。一方、「2時間未満」(16人)は前回の調査に比べ減少しており、1回のみアルバイトよりも継続的なアルバイトに従事する学生が増加していることがうかがえます。

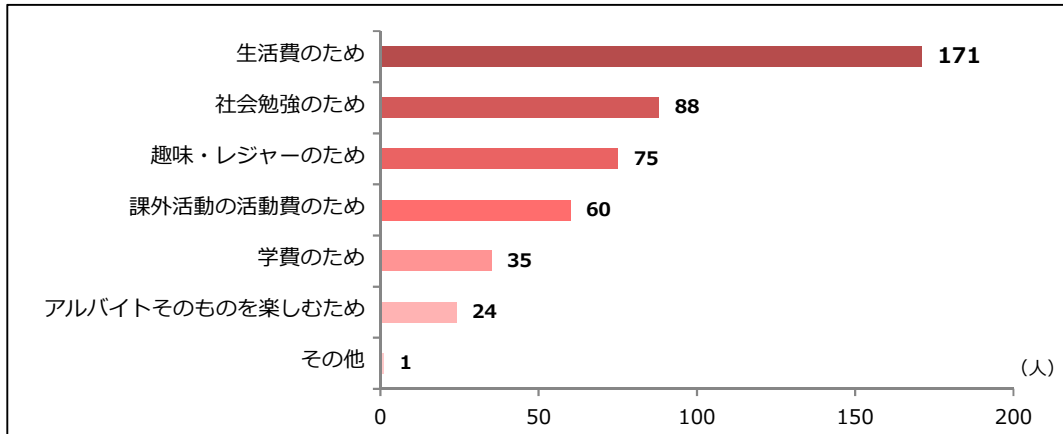
Q. 1週間に平均何時間くらいアルバイトをしますか



(5) アルバイトの主な目的

「生活費のため」(171人)が前回の調査と同様、最も多い結果となりました。次いで、「社会勉強のため」(88人)、「趣味・レジャーのため」(75人)があげられています。学生はアルバイトを「生活費」「課外活動」「学費」といった直接的な支出のためだけではなく、就職活動に向けた取り組みとして位置付けていることも垣間見えます。

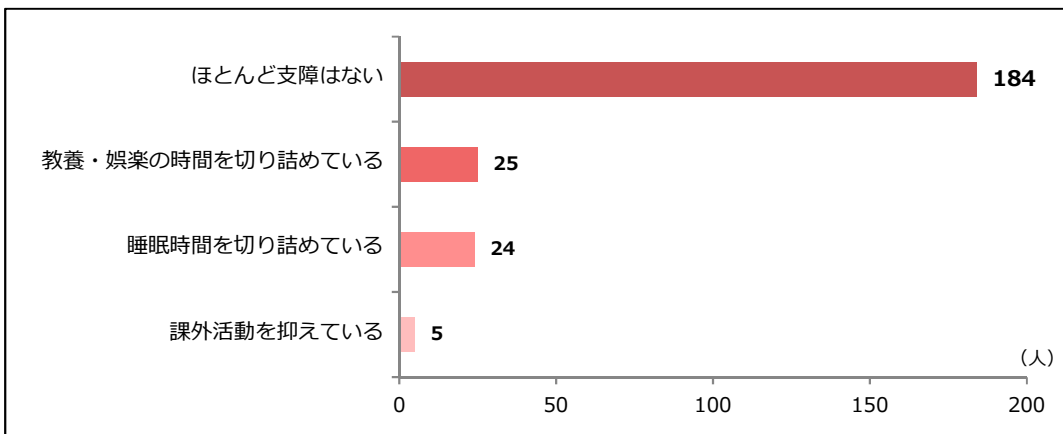
Q. アルバイトをする主な目的は何ですか (複数回答)



(6) 学生生活とアルバイトとの関係

前回の調査と同様、「ほとんど支障がない」(184名)が多数を占めています。しかしながら、「教養・娯楽の時間を切り詰めている」や「睡眠時間を切り詰めている」もあげられていることを考えると、学業や課外活動への影響が懸念されます。

Q. 学生生活とアルバイトとの関係はどうか

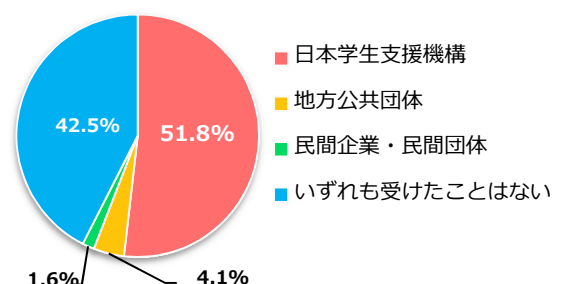


9. 授業料免除・奨学金

(1) 奨学金の受給先

奨学金の貸与または給付を受けたことがある学生は、日本学生支援機構が51.8%となりました。その他の地方公共団体、民間企業等の奨学金を含めると約6割の学生が貸与または給付を受けている結果となりました。

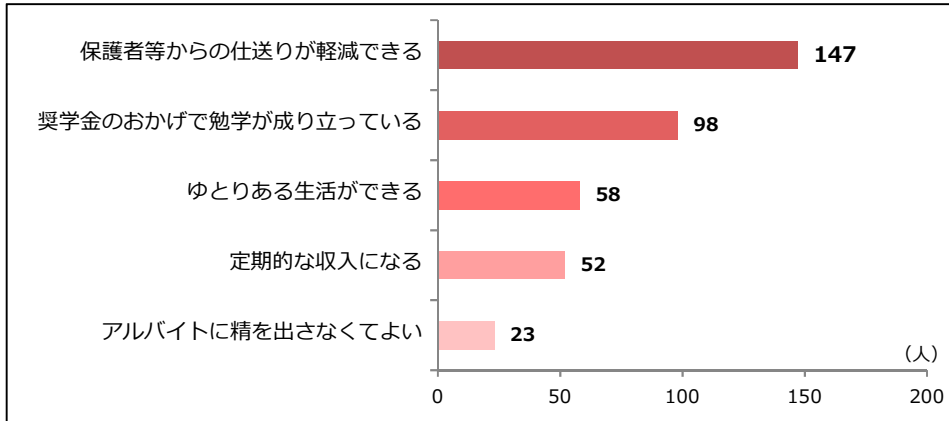
Q. 奨学金の貸与又は給付を受けたことがありますか (複数回答)



(2) 奨学金の役立て方

奨学金をどんな面に役立てているかについての質問では、「保護者からの仕送りが軽減できる」が最も多い回答となり前回同様の結果となりました。次いで「奨学金のおかげで勉学が成り立っている」、「ゆとりある生活ができる」、「定期的な収入になる」、「アルバイトに精を出さなくてよい」という結果となりました。

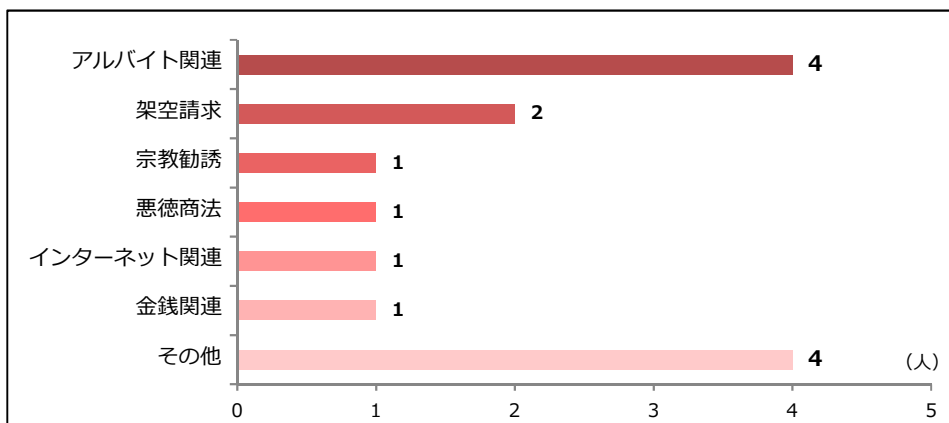
Q. 奨学金はどんな面で役に立っていますか（複数回答）



10. 消費者トラブル

入学後のトラブルについて、「アルバイト関連」で4件、「架空請求」2件、「宗教勧誘」、「悪徳商法」、「インターネット関連」、「金銭関連」が1件ずつとなりました。「その他」4件を含めると述べ14件となりました。予防や対処法の啓発活動を引き続き行っていく必要が考えられます。

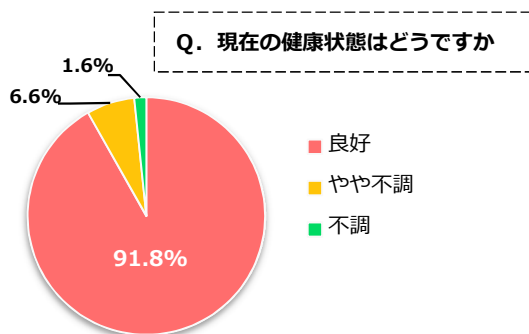
Q. 入学後トラブルにあったことがありますか（複数回答）



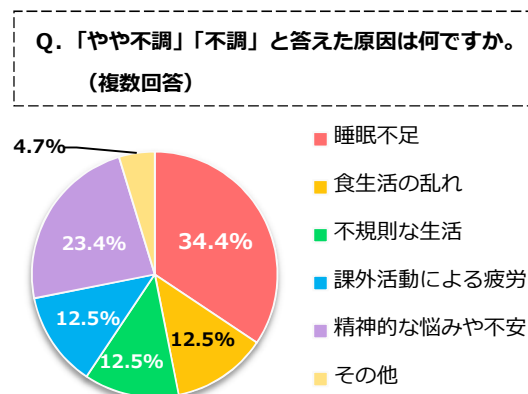
Ⅲ 健康状態

(1) 現在の健康状態は？

現在の健康状態は「良好」と答えた学生が91.8%で、ほとんどの学生は健康状態がよいと感じているようです。その一方で、「やや不調」と感じている学生が6.6%、「不調」と感じている学生も1.6%います。



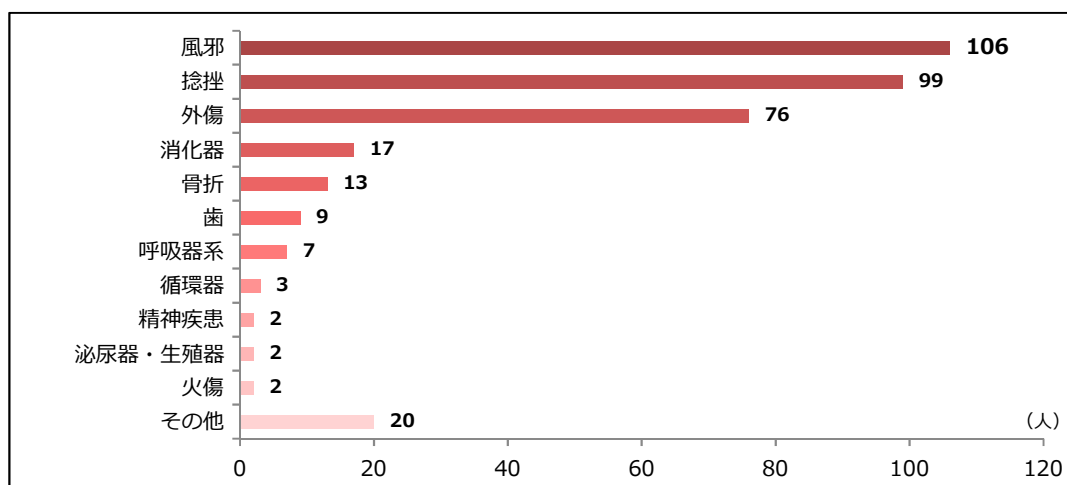
「やや不調」あるいは「不調」と感じる原因の内訳を見てみると「睡眠不足」が最も多くて34.4%、次いで「精神的な悩みや不安」が23.4%でした。この傾向は前回と同じです。次に見られるのが「食生活の乱れ」「不規則な生活」「課外活動による疲労」で、すべて12.5%でした。



(2) 学生の健康状態

病気・ケガのなかでは「風邪」が最も多くて106件でした。「捻挫」と「外傷」がその次に多く、それぞれ99件、76件でした。「捻挫」と「外傷」は前回の18件、13件よりも増えています。本学は体育大学ですからケガはつきものですが、気をつけたいものです。「骨折」も前回の6件から13件に増えていました。

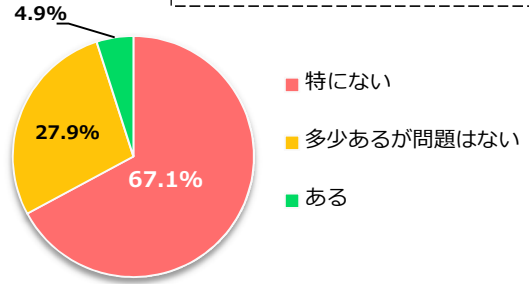
Q. 本年4月以降、病気・ケガをしましたか(複数回答)



(3) 悩みや不安はありますか？

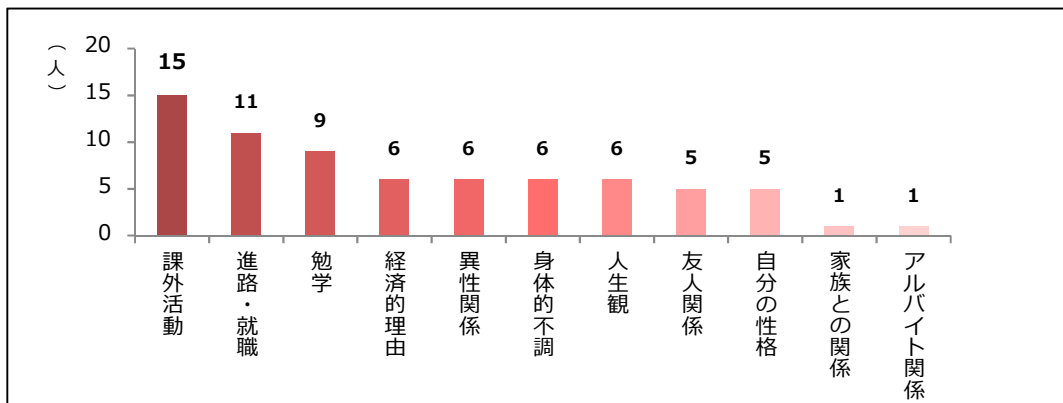
悩みや不安は「特にない」と答えた学生が、全体の約3分の2の67.1%でした。逆に悩みや不安が「ある」と答えた学生は4.9%でした。これは前回の9.4%に比べると約半分に減っています。「多少あるが問題は無い」と答えた学生も前回の34.5%から27.9%に減っていました。

Q. 現在、悩みや不安がありますか



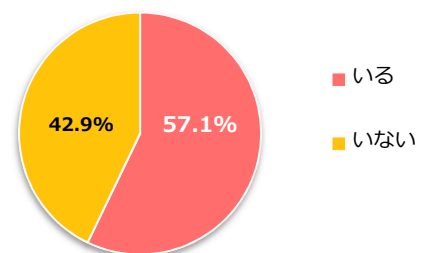
悩みや不安の原因で前回に比べて最も大きく変化していた項目は「勉学」で、44件から9件に減っていました。その他でも「進路・就職」（前回の調査では「就職問題」）が20件から11件、「経済的理由」が18件から6件とほとんどすべての項目が減少していました。今回の調査で最も多かったのは「課外活動」で、この項目だけは前回の調査と同数の15件でした。

Q. あなたの持っている悩みや不安はどんなことですか（複数回答）



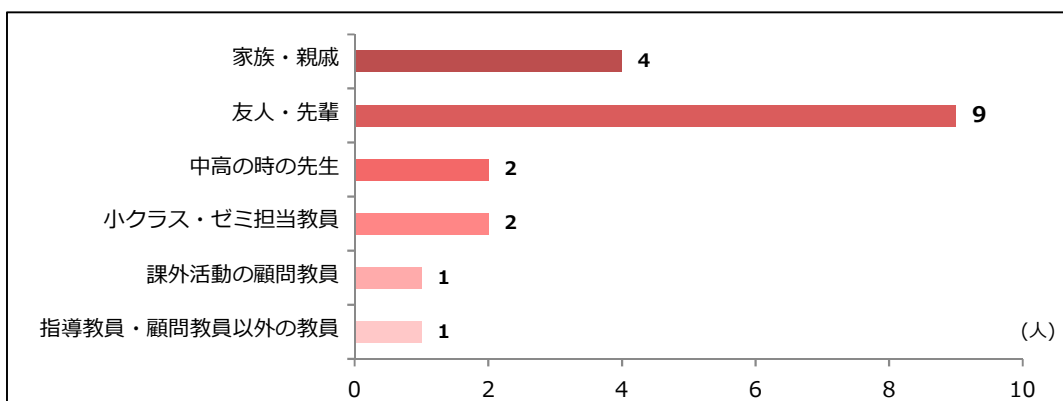
また、悩みを相談できる身近な人の存在に関しては、「いる」を答えた学生は57.1%で、前回の95.3%よりも大きく減っていました。原因はわかりませんが、悩みや不安が「ある」と答えた学生が前回よりも減少していることと関係しているのかもしれませんが。

Q. あなたの悩みについて相談できる身近な人がいますか



相談している相手は「友人・先輩」が最も多く、次が「家族、親戚」でした。この傾向は前回の調査と同じです。

Q. どの人に相談しますか（複数回答）

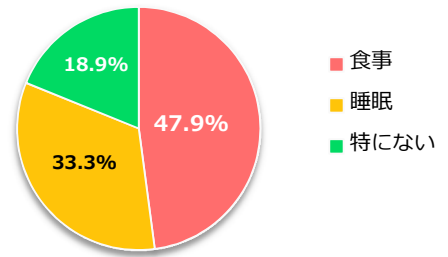


(4) 健康維持のためには

学生自身が健康維持のために意識して取り組んでいる内容は、食事(約5割)と睡眠(約3割)が8割を占める傾向でした。

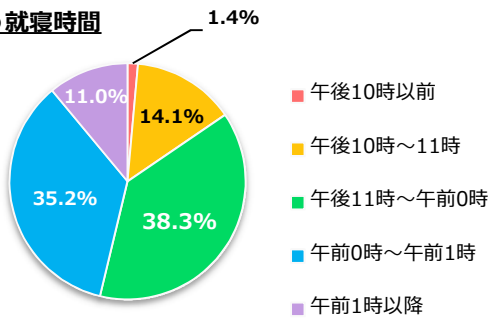
その内、睡眠に関しては、早め(22時以前)に就寝する者や25時以降から就寝する者と個人差が大きく、それに伴い起床時間も早い者と遅い者にパターン化される傾向であったため、平日の朝食や1限目の授業に遅刻しないためにも、早々に就寝できるように生活リズムを整える方が良いと感じました。

Q. 健康上心がけていることは何ですか

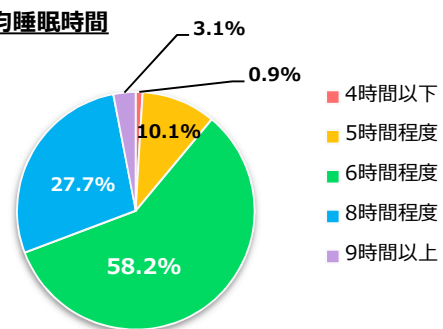


Q. 就寝、起床は何時ごろですか。また、平均睡眠時間はどれくらいですか。

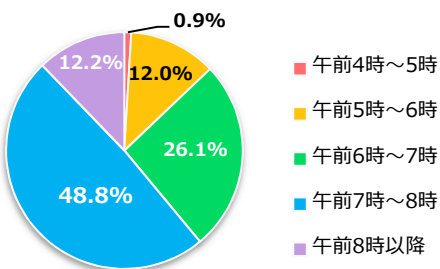
●就寝時間



●平均睡眠時間



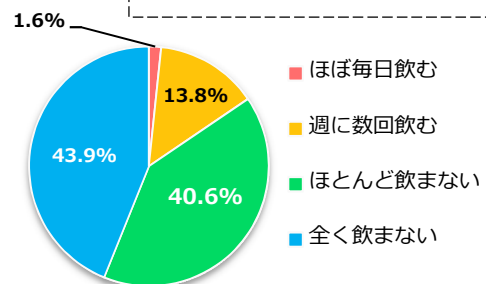
●起床時間



(5) 飲酒や喫煙

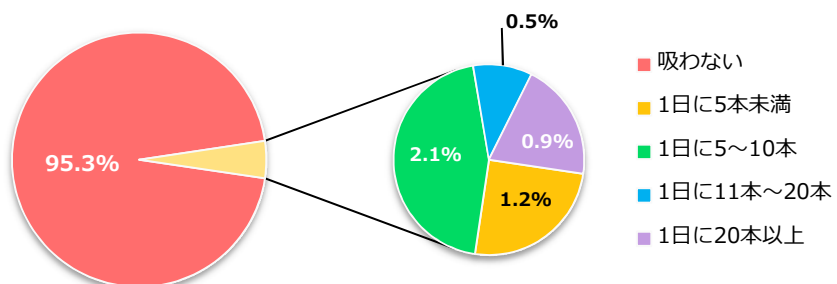
お酒を飲む頻度については、前回と大きな変化はみられず、「ほとんど飲まない(月1回程度)」あるいは「全く飲まない」が8割以上を占めている一方で、1割程度が「ほぼ毎日飲む」と回答しています。この結果(「ほぼ毎日飲む」)を一概に問題視することは出来ませんが、勉学や部活動への取組みを考えると、「週に数回飲む」程度へ移行する方が望ましいと感じます。

Q. お酒をどのくらい飲みますか。



タバコについては9割以上が非喫煙者であり、来年度から本学が敷地内全面禁煙になることを考慮すると、大きな問題は生じないと思われれます。

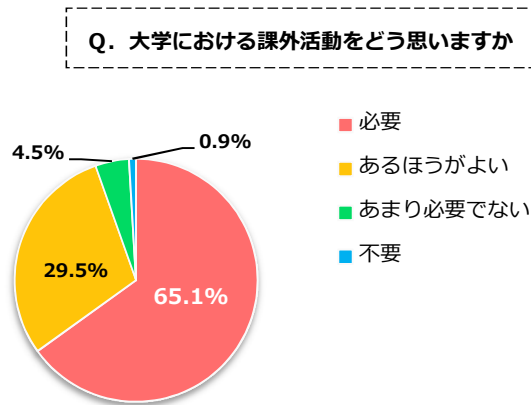
Q. タバコは吸いますか。



IV 課外活動状況

1. 課外活動をどう思うか

体育大生にとって、課外活動は同好会的意味合いではなく自身の得意分野を活かした研鑽の場であり、競技者として常に努力し将来の体育人としての知識・経験を得る場として考えているためでしょう。課外活動が必要、およびある方がよいを合わせると94.6%と今回も高い率を示しました。

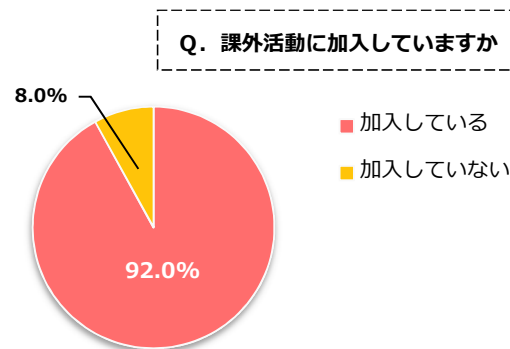


2. 活動状況

(1) 加入状況

必然的に実際の加入状況においても92.0%と前回より高くなりました。8%と一割に満たない数とはなりましたが、何らかの理由により加入していないまたはできない学生がいることも事実です。個人の抱える理由はそれぞれ異なっていると思いますが、学生が活動に広く参加できるように、各団体において加入や練習の条件等を調整することや、個々の問題点に対応することによって今以上の参加率につなげたいものです。

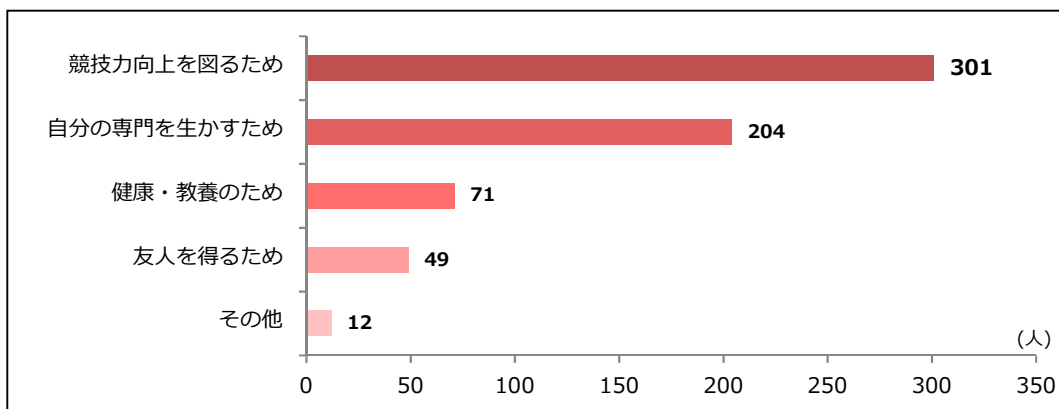
しかしながら少数派として部活動に加入していない学生に対しても、それにとって代わる個人の目的に沿った有意義な学生生活を目指した多方面における環境づくりがこれからの課題となるでしょう。



(2) 主な動機

加入している多くの学生たちは、自分の専門性を生かしたい、競技力を向上させたいという動機で課外活動を行っています。加えて友人作りや健康志向も部活動を行う理由として挙げています。充実した学生生活を送るためには欠かせない要素かもしれません。

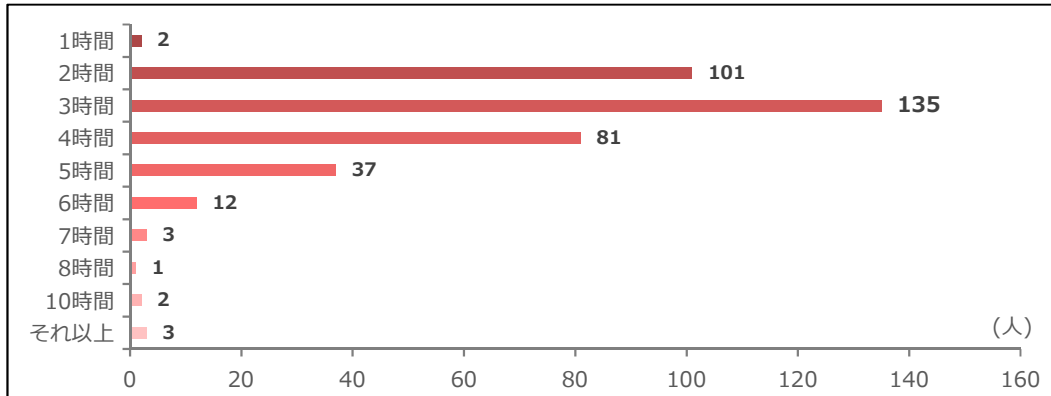
Q. 課外活動に加入した動機は何ですか (複数回答)



(3) 平均活動時間

課外活動日における1日平均の活動時間は、1時間以下という短い練習はあまりみられず、3/4強の学生が2~4時間程度の練習時間をベースと考えているようです。個人種目や団体種目等の競技特性によって一概には言えませんが、前回に比較してやや練習時間が増加しているようです。対して5時間を超える練習に関してはやや減少方向にあります。引き続きオーバーユースによる怪我や集中力の欠如に十分配慮して活動してください。

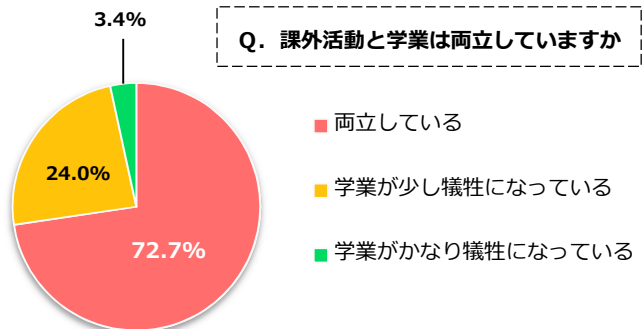
Q. 1日あたり平均何時間くらい活動していますか(遠征、試合等を除く)



(4) 課外活動と学業

課外活動と学業の関係については、72.7%の学生が両立していると回答しました。しかし残りの4人に1人の学生は、部活動が学業に少しあるいはかなり影響を与えているとまだまだ感じています。本人・団体・大学が学業の位置づけを共通認識し協力して対応することが必要かもしれません。一方で各個人における時間の使い方をもう一度考えなおすことも大切な要素だと考えます。

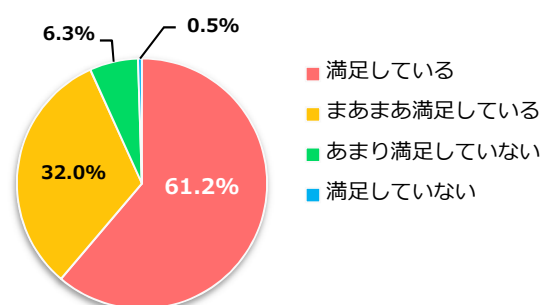
Q. 課外活動と学業は両立していますか



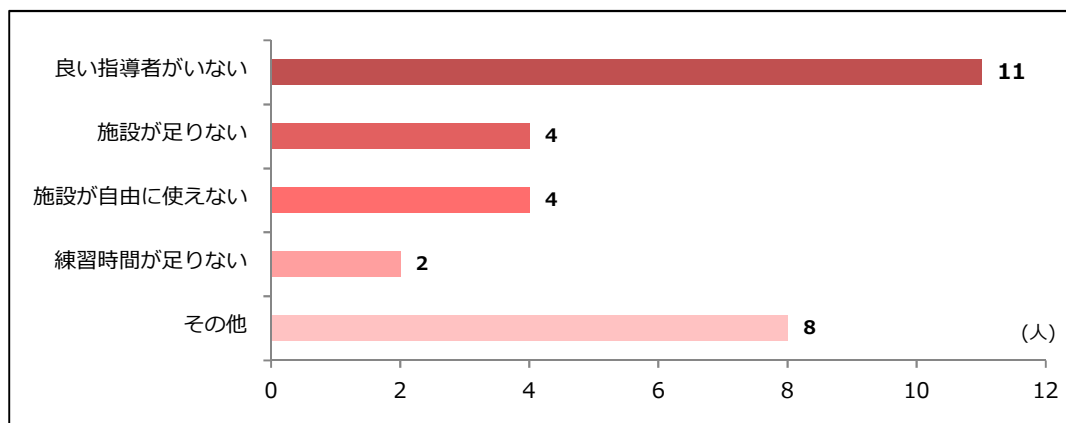
(5) 課外活動の満足度

課外活動の満足度は90%を超える学生が満足、まあまあ満足していると答えています。しかし若干名とはいえ課外活動に満足していない学生にとって、今回も指導者がいないことが理由のトップとしてあげられています。この問題を完全に解消することは困難なことですが、それぞれの指導者が持つ魅力を否定的観点からではなく選手たちが引き出すことで緩和されるでしょう。現在ではいろいろなメディアから情報を簡単に得ることができます。そこで指導者がいないことを不満とせず、コーチングの実践学習ができる環境と逆手に取り、将来の指導力や競技力の向上に向けた大きなチャンスとして考えることも大切です。施設利用や練習時間の確保に関する不満も残ります、競技力向上に対する学生の強い意欲のあらわれと感じ取れますが、大学側施設の充実は大切ですが、課外活動団体として学外も含む他団体や施設と情報を共有し、協力しあうことで有効活用できる場所を見つけましょう。

Q. 課外活動に満足していますか



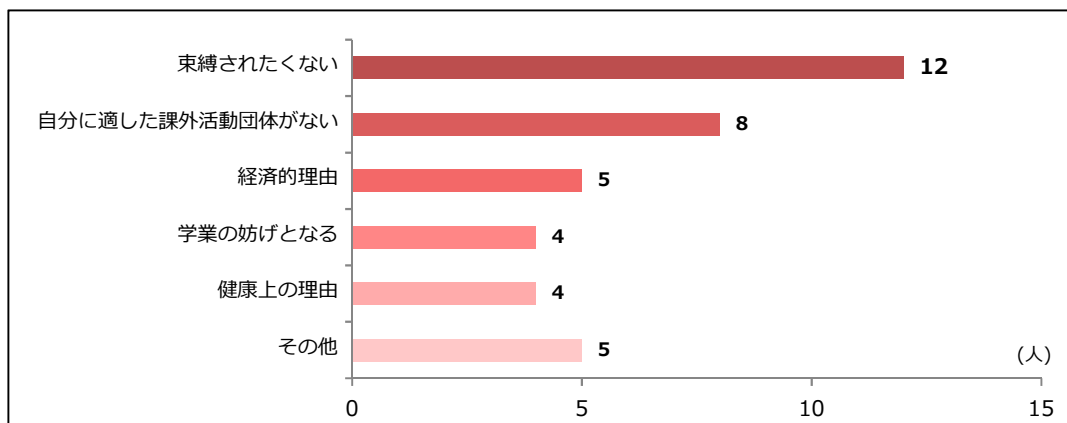
Q. 「あまり満足していない」「満足していない」と答えた理由は何ですか（複数回答）



3. 未加入の理由

あまり多くはありませんが、課外活動に参加しない理由は「束縛されたくない」を筆頭に以下、「適した課外活動がない」、「経済的理由」、「学業の妨げ」、「健康上の理由」、「その他」となりました。大学や課外活動団体に相談することで解決できることもあるでしょう。しかし複合的な理由などで難しいケースもあります。課外活動団体への加入にこだわる必要は全くありません。自分らしい道をぜひ見つけてください。

Q. 課外活動に加入していない理由は何ですか（複数回答）



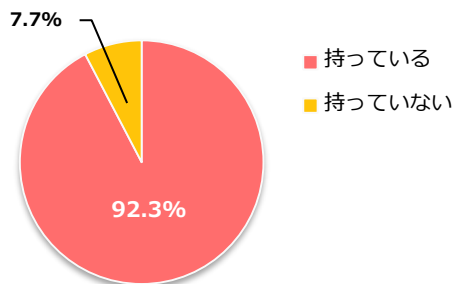
V 大学生活の状況

1. 大学生活の充実度

(1) 鹿屋体育大学生であることに誇りを持っていますか

ほとんどの学生が鹿屋体育大学に誇りを持っている！
92.3%の学生が「鹿屋体育大学に誇りを持っている」と答えています。前回の88.3%、前々回の88.2%と比較すると、着実に高まっていることがわかります。

Q. あなたは鹿屋体育大学生であることに誇りを持っていますか



(2) あなたにとって、大学はどのようなところですか。

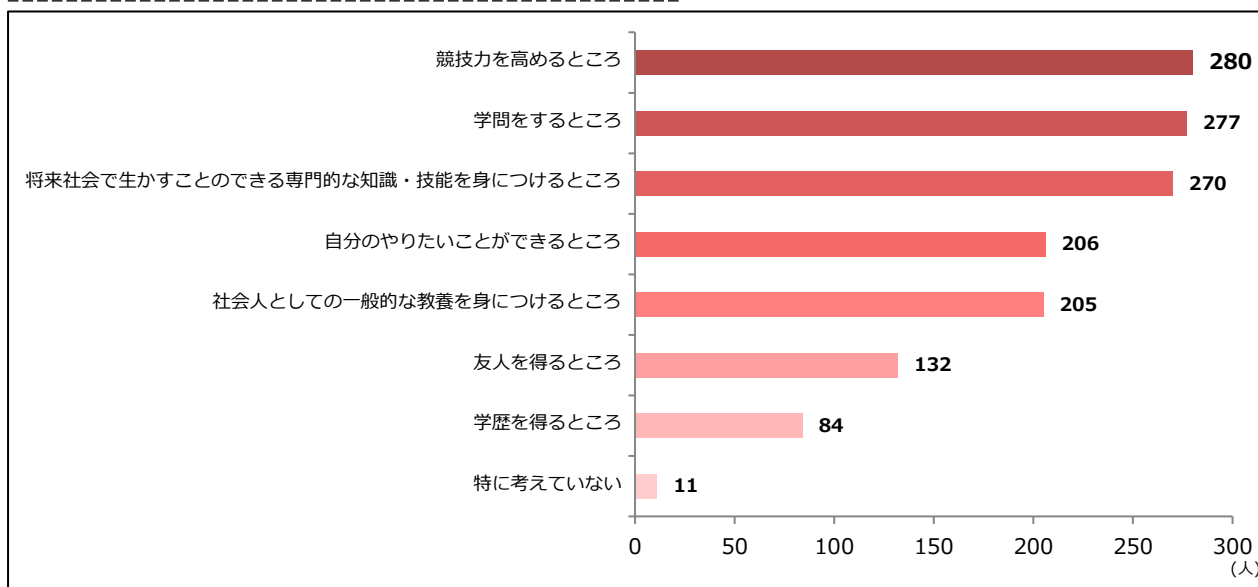
競技力を高めるところ、学問をすることで、将来社会で生かすことのできる専門的な知識・技能を身につけるところがベスト3！

【前回】 【今回】

- | | |
|------------------------------------|-----------|
| ① 競技力を高めるところ | 307人→280人 |
| ② 学問をすることで | 291人→277人 |
| ③ 将来社会で生かすことのできる専門的な知識・技能を身につけるところ | 265人→270人 |
| ④ 自分のやりたいことができるところ | 209人→206人 |
| ⑤ 社会人としての一般的な教養を身につけるところ | 185人→205人 |

ベスト5は前回と同じ項目となりました。

Q. あなたにとって、大学はどのようなところですか（複数回答）



(3) 学生生活の中心となっているものや充実度

学生生活の中心は、課外活動がダントツトップ！次いで学業！

学生生活に充実感を得ている学生がほとんど！

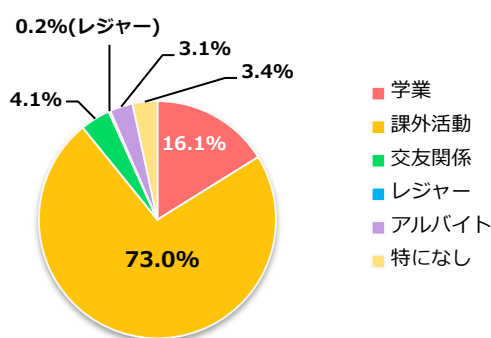
学生生活の中心については、ランキングに変動はありません。「特になし」と回答している学生が、前々回は1.1%、前回は2.3%、今回は3.4%と徐々に増加していることは気になるところです。

学生生活の充実度については、充実感を得ていると回答した学生が前回は92.8%、今回は94.7%と増加しています。

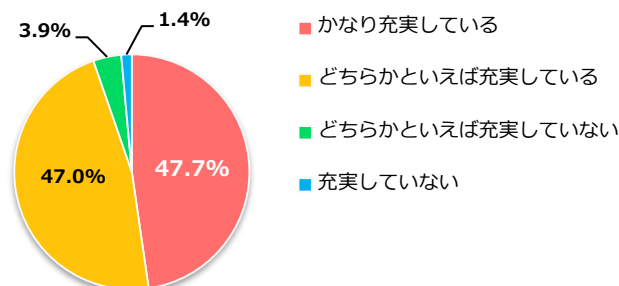
特筆すべきは、その内訳です。

- ・ かなり充実している（前回）37.4%→（今回）47.7%
 - ・ どちらかといえば充実している（前回）55.4%→（今回）47.0%
- 2つの回答の合計 92.8%→94.7

Q. 学生生活の中心になっているものは何ですか



Q. 学生生活は充実していますか



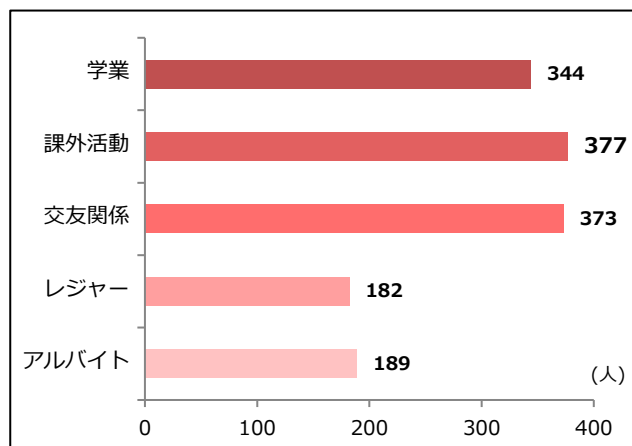
(4) 充実している点・充実していない点

課外活動、交友関係、学業が充実！

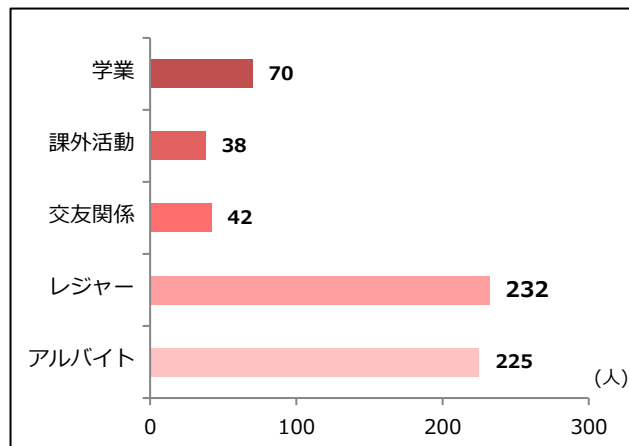
充実している点、充実していない点とも、前回と変わらないものの、数値（充実度）に大きな変化が見られます。学生生活に充足感を得ている学生が激増していることがわかります。

- ・ 学業・・・192人→344人
- ・ 課外活動・・・333人→377人
- ・ 交友関係・・・250人→373人
- ・ レジャー・・・49人→182人
- ・ アルバイト・・・97人→189人

Q. 充実している点（複数回答）



Q. 充実していない点（複数回答）

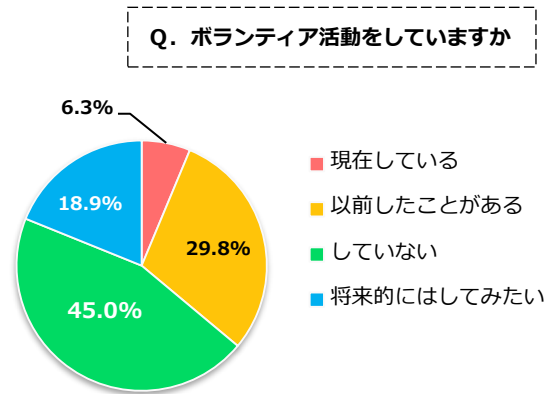


2. ボランティア活動

(1) ボランティア活動について

ボランティア活動へ参画している（していた）学生の割合は横ばい！

ボランティア活動について、現在している、以前したことがある、していない、将来的にはしてみたいの全項目において、前回とほぼ同じ結果となっています。

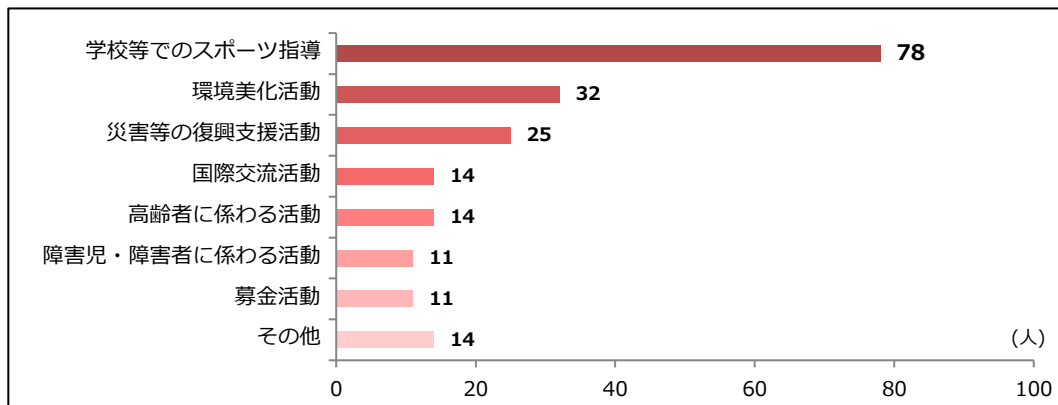


(2) ボランティア活動の内容

学校等でのスポーツ指導が増加！

学校等でのスポーツ指導については50人から78人（2位→1位）と増加しているものの、環境美化活動については67人から32人（1位→2位）と激減しています。

Q. ボランティア活動の内容はどれですか（複数回答）

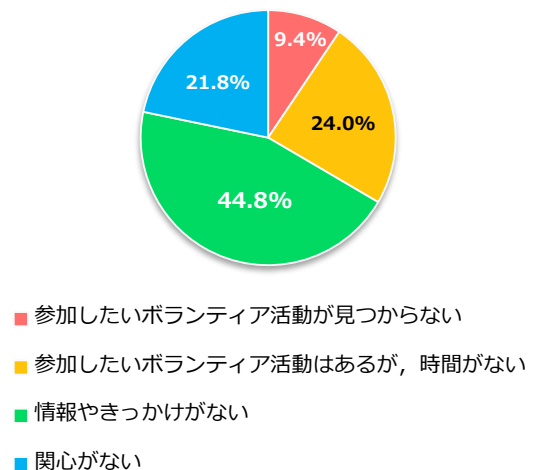


(3) ボランティアに参加しない理由

時間がない、情報やきっかけがないという学生が7割弱！

参加したいボランティア活動があるが、時間がないについては33.6%から24.0%と減少、情報やきっかけがないについては34.6%から44.8%と増加しています。学生生活が充実しているものの、ボランティア活動への意識高揚は見られないのが現状です。

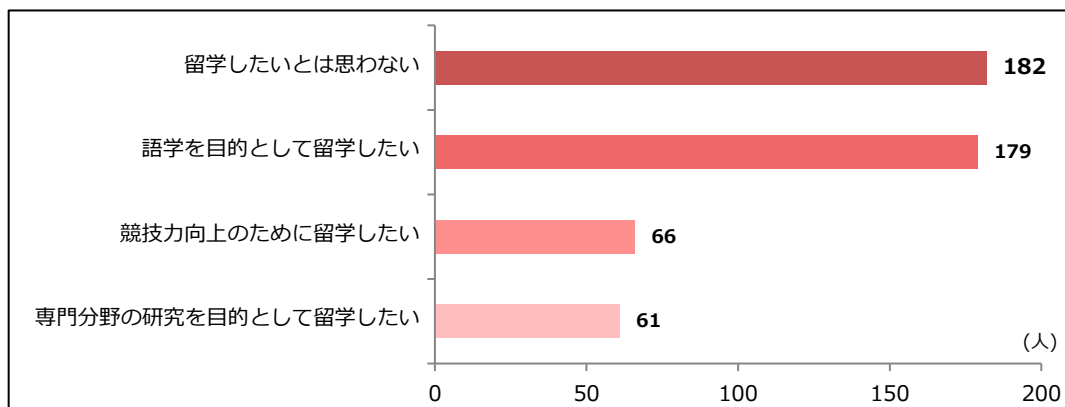
Q. ボランティア活動に参加していない主な理由は何ですか



3. 海外留学

語学を目的として留学したい、競技力向上のために留学したい、専門分野の研究を目的として留学したいについては、前回と比べてほぼ横ばいです。また、留学したいとは思わないについては、156人から182人と増加しています。

Q. 海外留学についてどう思いますか（複数回答）

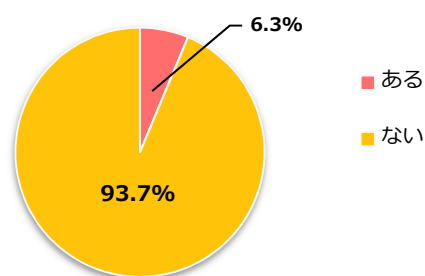


VI ハラスメント

1. ハラスメントの状況は、わずかに改善

6.3%の学生が「ハラスメントを受けたことがある」と回答し、前回と比べわずか（1%）ではありますが、被害を受けた学生の割合は減ってきました。最近大学院の授業でハラスメントについて発表した（英語で）学生がいましたが、カラオケや飲酒を強要するなど様々なハラスメントがあるようです。今回もハラスメントの種類については調査していませんので、どんなハラスメントがあるのかを把握して防止対策に役立てる必要があります。

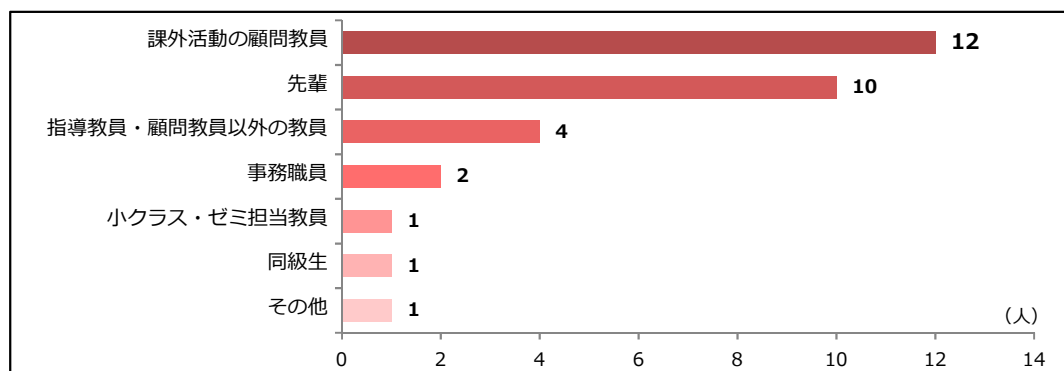
Q. 大学入学後ハラスメントを受けたことがありますか



2. 顧問教員や事務職員、上級生や先輩からが多い

ハラスメントを受けた相手については、前は「上級生や先輩」と回答した学生が6割でしたが、今年度は約4割が「課外活動の顧問教員」、次に3割が「先輩」で、教員と回答した学生が増えました。また前は皆無であった「事務職員」の回答もありました。全体的には、「ハラスメントを受けた」という学生の人数は、前回47人から今年度31人と減りました。

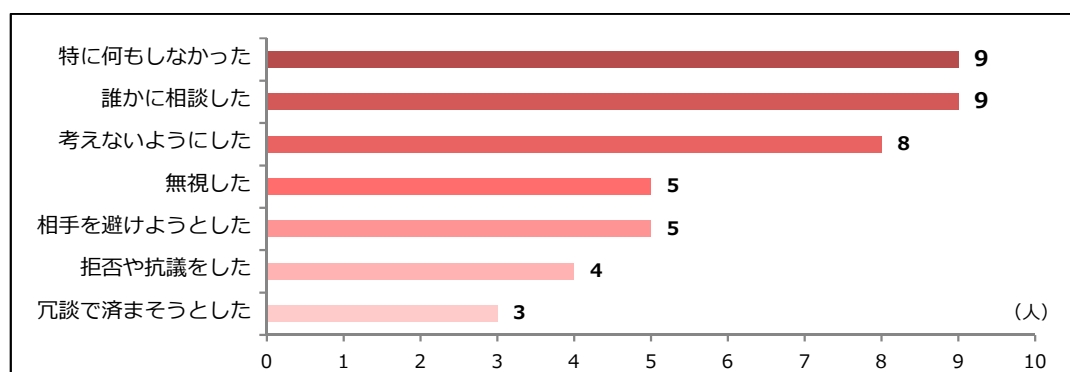
Q. どういう人からハラスメントを受けましたか（複数回答）



3. ハラスメントへの対応

例年同様、比較的消極的な対応が多いのですが、「誰かに相談した」と回答した者が、前回の6名から9名へわずかではありますが増え、いい傾向にあると思われます。受けた相手のこともあり、問題が生じてもなかなか相談できないのが実情だと予想されます。

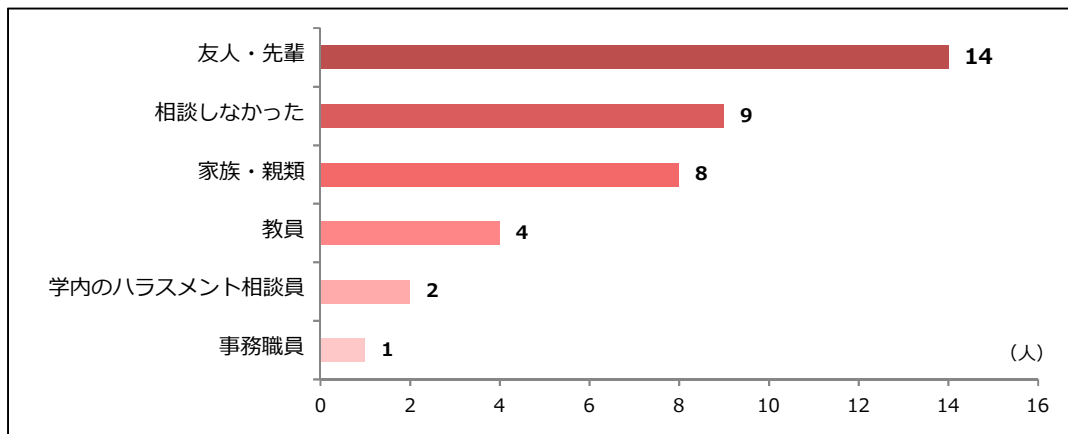
Q. ハラスメントに対してあなたはどのように対応しましたか（複数回答）



4. 相談相手は友人や先輩、家族

相談相手については、前は0であった「学内のハラスメント相談員」や「事務職員」「教員」も増えているので、学内で学生がハラスメントについて相談できる環境ができつつあるのではないのでしょうか。

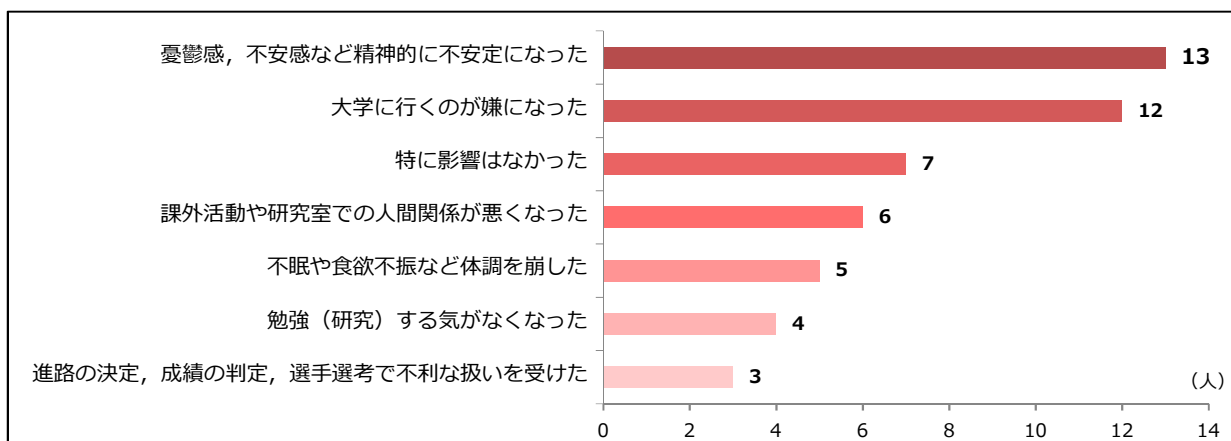
Q. 相談した人は誰でしたか（複数回答）



5. ハラスメントの影響

ハラスメントの影響については、前回より「大学に行くのが嫌になった」「勉強（研究）する気がなくなった」と回答した人数がどちらも2倍以上に増え、ハラスメントの大学生活に及ぼす影響は大であると言えます。

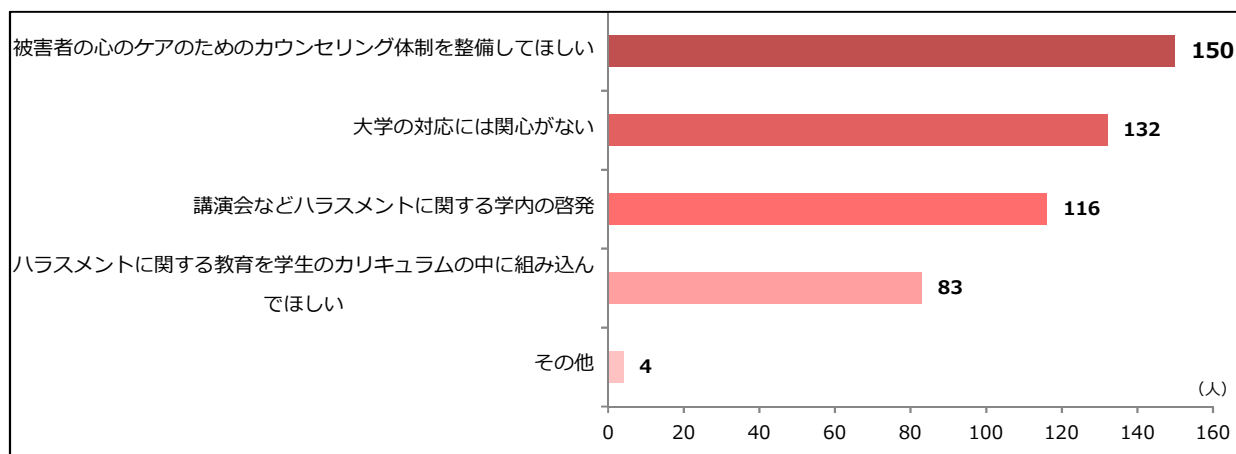
Q. ハラスメントはあなたにとってどんな影響がありましたか（複数回答）



6. 大学にとってほしい対応と相談窓口

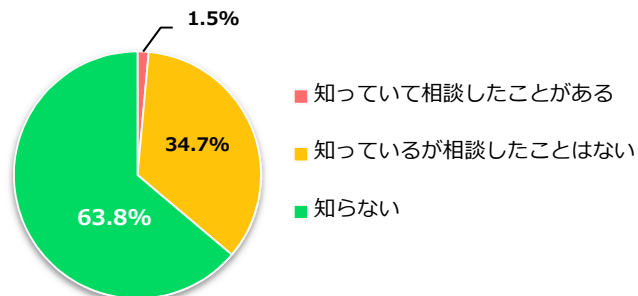
大学にとってほしい対応については前回とあまり変わりませんが、「大学の対応には関心がない」という回答が少し増えています。今回の調査でも前回同様、「学内の啓発」や「ハラスメント教育のカリキュラムへの組み入れ」を求める学生が41%います。学生の大学側への期待に、いかに応えていけるか検討しなければなりません。

Q. ハラスメント問題について、大学にどのような対応をとってほしいですか（複数回答）



相談窓口については、今回も6割を超える学生が「知らない」と回答しており、前回からあまり改善されていません。学生への認知度を高める広報活動と、守秘義務が徹底された学生が相談しやすい環境づくりが今後も必要だと考えられます。

Q. 本学にハラスメント相談窓口があり、ハラスメント相談員が置かれているのを知っていますか



Ⅶ 学内施設利用状況

1. 食堂・売店・理容室・ATM

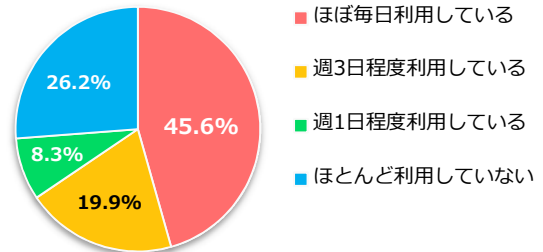
(1) 学生食堂の利用状況は？

「学生食堂をどれくらい利用していますか？」と尋ねると、ほぼ半数の45.6%が「ほぼ毎日」と回答しました。「週3日程度」を合わせると65.5%となり、前回調査の54.5%（「ほぼ毎日」と「週に3日程度」）を上回る結果でした。

今回の調査では、食堂の利用は増加しており、概ね良い傾向であると捉えることができますが、今後も大学と学生食堂運営側の連携によってさらなる改善が必要でしょう。

そんな中、令和元年末には学生食堂の改装も実施され、ついに「ぼっち席」も誕生しました。次回の調査では、さらなる学生食堂の利用が見込まれるであろうと思います。

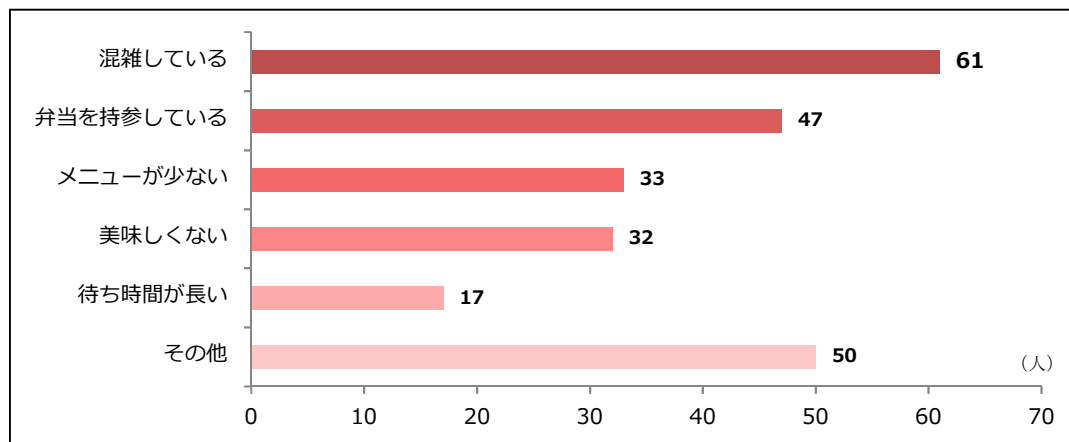
Q. 学生食堂をどれくらい利用していますか



(2) 学生食堂を利用しない理由は？

少数派である「ほとんど利用していない」と回答した26.2%の方々に理由を聞くと、「混雑している」からとの回答が61人からあり、前回の53人を上回る結果でした。これは朝食、昼食ともに利用時間が集中することが原因と考えられ、限られた休み時間内での利用に不都合を感じている結果と考えられます。また、今回の調査では味へのこだわりやメニューへの不満は前回とさほど変わりがなかった一方で、弁当男子・女子も、前回の29人から47人と増加していました。この弁当持参の傾向は近年増加してきているようで、生活費の節約などの理由も背景にあると考えられます。

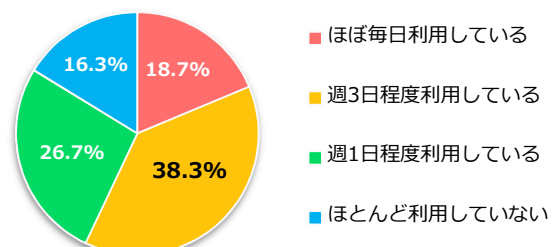
Q. 「ほとんど利用していない」理由は何ですか（複数回答）



(3) 売店をどれくらい利用していますか？

売店については、前回調査と同様にほぼ6割の学生がよく利用しているようです（「ほぼ毎日」18.7%、「週3日程度」38.3%）。

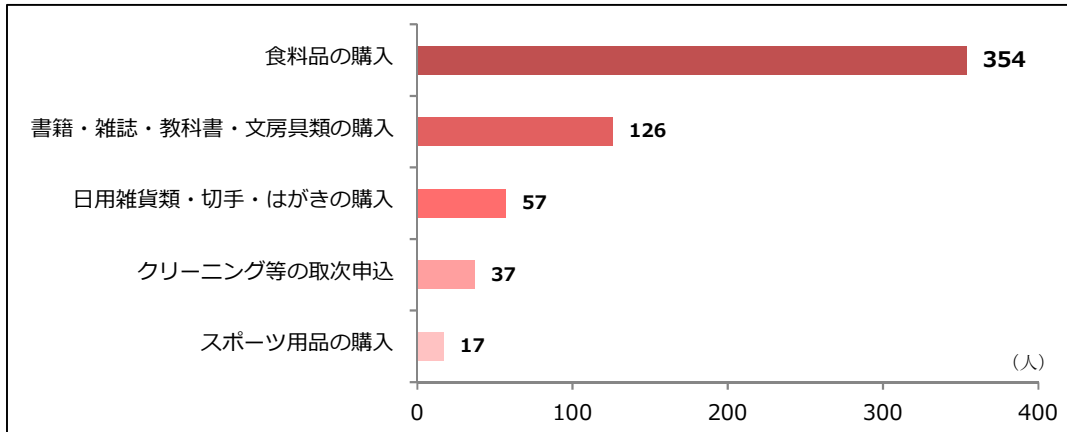
Q. 売店をどれくらい利用していますか



(4) 売店の利用目的は？

利用目的は、やはり「食料品の購入」が断トツでした。皆さん練習・稽古前の補食や間食を目的に利用しているようです。自由記述では、「弁当類やプロテインなどの品数を増やして欲しい」等の要望もみられることから、アスリートを支える場としての売店を期待されているようです。

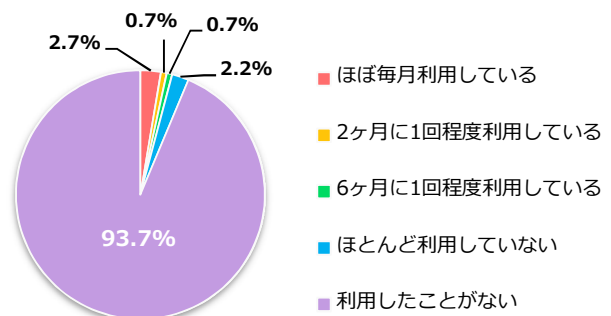
Q. 売店の利用目的は何ですか（複数回答）



(5) どれくらい理容室を利用していますか？

理容室を「利用したことがない」と言い切ったのは、ほぼ全員の93.7%でした。これは前回調査の96.2%とほぼ変わらず、今回の調査でも利用状況は良くないようです。しかしながら、「ほぼ毎月利用している」というヘビーなリピーターは、前回の0.0%から2.7%へと増加していました。このように少し良い傾向もうかがえますが、本学の学生サービス施設としては最も利用されていない施設の一つであると言えるでしょう。学生に利用される理容室（なぜ「美容室」が無いのよ！という意見があるかどうかは知りませんが）とはどのような施設であるべきかを、今後も検討していく必要がありそうです。

Q. 学内の理美容室を利用していますか



Ⅷ 大学への意見・要望

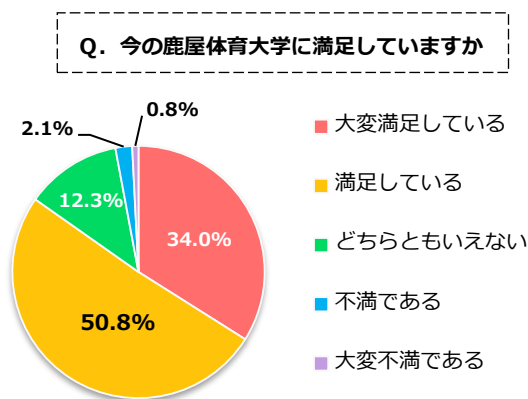
学生の皆さんより、大学への意見・要望として自由記述にて回答を頂きました。結果として、得られた回答のほぼ全てが要望であり、内容としては、設備の充実に関すること（空調の設置、トレーニング器具の追加、故障個所の修理など）が最も多く、次いで、食事環境の改善（アスリート向けメニューの充実、補食の販売充実、寮生朝食自由化など）、学習環境の改善（図書館開室時間の延長、自習室の設置など）についての要望が多くみられました。

これらの意見は、学生委員会から各関係委員会などに検討を依頼し、今後の学生生活支援に役立てたいと思います。一方で、全ての要望にすぐに応えることができないのも事実です。そのため、学生の皆さんが足りないものに目を向けるのではなく、今あるものに目を向けやすくするために学内施設・設備の利用をより広く伝えていくことが大切だと思われます。また、回答の中には、学生による迷惑行為をやめさせてほしいという要望も複数みられました。学生同士で自ら問題を解決してくという自主・自律の風土を作っていくことも重要であると思われます。

Ⅸ 大学に対する満足度

最後に、学生の皆さんが本学に満足しているか調査しました。「大変満足している」が34.0%、「満足している」が50.8%と、合わせると84.8%の学生が満足しているという結果になりました。

前回の調査では78.0%（前者23.6%、後者54.6%）でしたので、「大変満足している」の割合が上がり、全体としても満足度が上がったといえます。学生委員会は、皆さんの学生生活が少しでも楽しく、有意義なものになるように企画・運営する委員会ですので、この数字がまだまだ伸びるようこれからも学生の皆さんの意見を聞き、協力しながら、改善していきたいと考えます。



あ と が き

今回の調査報告書の回答率は、前回（56.6%）よりも若干高い57.9%でした。回答率が5割に満たなかった学年は、2年(47.5%)、学年・課程は、2年武道課程(32.0%)、4年スポーツ総合課程(48.6%)でした。1年生の回答率は両課程とも7割を超えていたことから、小クラス懇談会等での周知が回答率に影響を与えたものと考えます。しかし、2年生になると47.5%と回答率が下がりました。今回の調査では、2年武道課程の回答率が極端に低かった(32.0%)ことが影響したと思いますが、それ以外の理由として、2年生になるとクラス毎に集まる機会が少なくなり、クラスの連絡網も上手く機能していないことが関係しているのかもしれませんが。次回調査に向けて、2年生に対する周知の仕方を工夫する必要があるようです。なお、3年生や4年生の回答率を上げるためには、ゼミでの周知を第1に、課外活動においても周知を徹底する必要があると考えます。

今回の調査結果については、本報告書に掲載されている通りですが、今後、学生が充実した大学生活を送るために、大学は今回の調査結果から判明した諸課題に対して対応策を考え、学生が豊かな大学生活を送れるようにサポートしていく必要があります。そのためにも、大学構成員が智恵を出し合い、課題解決に向けた協力態勢を組むことが望まれます。

令和2年3月

令和元年度学生委員会

副委員長 瓜田 吉久

学生生活アンケート調査

令和元年10月
鹿屋体育大学学生委員会

このアンケートは、あなたの学生生活の実態を知り、今後における学生諸君の課外活動及び健康管理などの福利厚生について、学生生活の充実を図るための参考とするものです。また、このアンケートは無記名で行うものであり、ありのままを記入してください。
なお、アンケート結果については、大学の学生支援・修学支援に係る施策に利用いたしますので、あらかじめご承知おきください。その他の目的に利用することはありません。

回答記入上の注意

1. 回答は無記名とし、令和元年10月1日現在で記入してください。
2. 回答は原則として1つですが、【複数選択可】と記載されている場合、あてはまるものすべてを選択してください。
3. 質問事項で該当する回答項目がない場合は、できるだけ近いものを選んで回答してください。
4. 「その他」を選んだときは、具体的な内容を記入してください。また、設問によっては、必要事項を記入するものがありますので、注意してください。

アンケート回答期限：10月31日(木)

I. 基本事項

1. 課程	1. スポーツ総合課程 2. 武道課程
2. 学年	1. 1年次 2. 2年次 3. 3年次 4. 4年次 5. 5年次以上(平成27年度以前入学)
3. 性別	1. 男 2. 女

II. 生活状況

4. 住居は次のどれですか。	1. 自宅 2. アパート・マンション(保証人または親類のマンションを含む) 3. 下宿・貸間 4. 学生宿舎 5. その他(親戚宅など)
5. 朝食について	1. 毎日食べる 2. 週に4~6日食べる 3. 週に1~3日食べる 4. 食べない
6. 昼食について	1. 毎日食べる 2. 週に4~6日食べる 3. 週に1~3日食べる 4. 食べない
7. 夕食について	1. 毎日食べる 2. 週に4~6日食べる 3. 週に1~3日食べる 4. 食べない
8. 通学のための交通手段は主に何ですか。	1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. 自動車 5. バス
9. 運転免許(バイクを含む)を取得していますか。	1. はい 2. いいえ
10. 運転免許を取得している人にお尋ねします。 (1)入学後交通違反をしたことがありますか。	1. ない 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回 6. 5回以上
(2)交通違反をした人にお尋ねします。どんな違反でしたか。 【複数選択可】	1. スピード違反 2. 酒気帯び運転 3. 駐車違反 4. 一時停止違反 5. 右左折禁止違反 6. 免許不携帯 7. シートベルト着用違反 8. その他()

11. 入学後交通事故にあった(をした)ことがありますか。	1. ない 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回 6. 5回以上
12. 自動車(バイクを含む)を所有していますか。	1. 自動車を所有している 2. バイクを所有している 3. 所有してない
13. 自動車(バイクを含む)を所有している人にお尋ねします。任意保険に加入していますか。	1. はい 2. いいえ
14. 学修目的以外でインターネット・携帯電話・スマートフォンを1日平均どのくらい使用していますか。	1. ほとんど使用しない 2. 1時間未満 3. 1時間以上2時間未満 4. 2時間以上3時間未満 5. 3時間以上4時間未満 6. 4時間以上5時間未満 7. 5時間以上
15. 今年度、アルバイトをしたことがありますか。(していますか。)	1. ある 2. ない
16. 15で「ある」と答えた人にお尋ねします。 (1)アルバイトの主な紹介先はどこですか。	1. 学生課(掲示板) 2. 教員 3. 友人・知人・先輩 4. アルバイト情報誌 5. その他()
(2)アルバイトの職種は何ですか。	1. 家庭教師・学習塾講師 2. 一般事務 3. 販売・サービス 4. 調査 5. 土木工事 6. その他()
(3)1週間に平均何時間くらいアルバイトをしますか。(夏期休業期間を除く。)	1. 2時間未満 2. 2時間以上4時間未満 3. 4時間以上6時間未満 4. 6時間以上8時間未満 5. 8時間以上10時間未満 6. 10時間以上12時間未満 7. 上記以上() 時間)
(4)アルバイトをする主な目的は何ですか。【複数選択可】	1. 社会勉強のため 2. 生活費のため 3. 学費のため 4. 課外活動の活動費のため 5. 趣味・レジャーのため 6. アルバイトそのものを楽しむため 7. その他()
(5)学生生活とアルバイトとの関係はどうか。	1. 採業を犠牲にしている 2. 教養・娯楽の時間を切り詰めている 3. 睡眠時間を切り詰めている 4. 課外活動を抑えている 5. ほとんど支障はない
17. 奨学金の貸与又は給付を受けたことがありますか。【複数選択可】	1. 日本学生支援機構 2. 地方公共団体(都道府県・市区町村) 3. 民間企業・民間団体 4. いずれも受けたことはない
18. 奨学金はどんな面で役に立っていますか。 【複数選択可】	1. 保護者等からの仕送りが軽減できる 2. ゆとりある生活ができる 3. 定期的な収入になる 4. アルバイトに精を出さなくてよい 5. 奨学金のおかげで勉強が成り立っている
19. 入学後トラブルにあったことがありますか。 【複数選択可】	1. ない 2. 悪徳商法 3. 架空請求 4. アルバイト関連 5. 宗教勧誘 6. 金銭関連 7. インターネット関連 8. その他()

III. 健康状態

20. 現在の健康状態はどうか。	1. 良好 2. やや不調 3. 不調
21. 20で「やや不調」「不調」と答えた人にお尋ねします。 その原因は何ですか。【複数選択可】	1. 睡眠不足 2. 食生活の乱れ 3. 不規則な生活 4. 課外活動による疲労 5. 精神的な悩みや不安 6. その他()
22. 本年4月以降、病氣・ケガをしましたか。 【複数選択可】	1. いいえ 2. 風邪 3. 循環器(心臓・血圧) 4. 精神疾患 5. 消化器(胃腸・肝臓) 6. 呼吸器系 7. 泌尿器・生殖器(腎臓・膀胱・前立腺) 8. 外傷(切り傷・擦り傷・打撲) 9. 捻挫 10. 骨折 11. 火傷 12. 歯 13. その他()
23. 現在、悩みや不安がありますか。	1. 特にない 2. 多少あるが問題はない 3. ある
24. 23で「ある」と答えた人にお尋ねします。 (1)あなたの持っている悩みや不安はどんなことですか。 【複数選択可】	1. 勉学 2. 進路・就職 3. 経済的理由 4. 友人関係 5. 異性関係 6. 身体的不調 7. 家族との関係 8. 課外活動 9. 政治社会問題 10. 自分の性格 11. 人生観 12. アルバイト関係 13. その他()
(2)あなたの悩みについて相談できる身近な人がいますか。	1. いる 2. いない
(3)(2)の設問で相談できる人が「いる」と答えた人にお尋ねします。 次のどの人に相談しますか。 【複数選択可】	1. 家族・親戚 2. 友人・先輩 3. 中高の時の先生 4. 小クラス・ゼミ担当教員 5. 課外活動の顧問教員 6. 4, 5以外の教員 7. カウンセラーなどの専門家 8. その他()
25. 日頃健康上心がけていることは何ですか。	1. 食事 2. 睡眠 3. 特にない 4. その他()
26. 就寝時間は何時ごろですか。	1. 午後10時以前 2. 午後10時~11時 3. 午後11時~午前0時 4. 午前0時~午前1時 5. 午前1時以降
27. 起床時間は何時ごろですか。	1. 午前4時以前 2. 午前4時~5時 3. 午前5時~6時 4. 午前6時~7時 5. 午前7時~8時 6. 午前8時以降
28. 平均睡眠時間はどれくらいですか。	1. 4時間以下 2. 5時間程度 3. 6時間程度 4. 8時間程度 5. 9時間以上
29. お酒をどのくらい飲みますか。	1. ほぼ毎日飲む 2. 週に数回飲む 3. ほとんど飲まない 4. 全く飲まない
30. タバコは吸いますか。	1. 吸わない 2. 1日に5本未満 3. 1日に5~10本 3. 1日に11本~20本 4. 1日に20本以上

IV. 課外活動状況

31. 大学における課外活動をどう思いますか。	1. 必要 2. あるほうがよい 3. あまり必要でない 4. 不要
32. 課外活動に加入していますか。	1. 加入している 2. 加入していない
33. 課外活動の加入している人にお尋ねします。 (1)課外活動に加入した動機は何ですか。 【複数選択可】	1. 自分の専門を生かすため 2. 健康・教養のため 3. 競技力向上を図るため 4. 友人を得るため 5. その他()
(2)1日あたり平均何時間くらい活動していますか。(遠征、試合等を除く)	() 時間)
(3)課外活動と学業は両立していますか。	1. 両立している 2. 学業が少し犠牲になっている 3. 学業がかなり犠牲になっている
(4)課外活動に満足していますか。	1. 満足している 2. まあまあ満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない
(5)(4)で「あまり満足していない」「満足していない」と答えた人にお尋ねします。 その理由は何かですか。 【複数選択可】	1. 施設が足りない 2. 良い指導者がいない 3. 施設が自由に使えない 4. 練習時間が足りない 5. その他()
34. 課外活動に加入していない人にお尋ねします。 その理由は何かですか。 【複数選択可】	1. 学業の妨げとなる 2. 健康上の理由 3. 自分に適した課外活動団体がない 4. 経済的理由 5. 束縛されたくない 6. その他()

V. 大学生生活の状況

35. あなたは鹿屋体育大学生であることに誇りを持っていますか。	1. 持っている 2. 持っていない
36. あなたにとって、大学はどのようなところですか。 【複数選択可】	1. 学問をするところ 2. 競技力を高めるところ 3. 将来社会で生かすことのできる専門的な知識・技能を身につけること 4. 社会人としての一般的な教養を身につけること 5. 自分のやりたいことができること 6. 友人を得るところ 7. 学歴を得るところ 8. 特に考えていない
37. 現在の大学生生活の中心になっているものは何ですか。	1. 学業 2. 課外活動 3. 交友関係 4. レジャー 5. アルバイト 6. 特になし
38. 現在の大学生生活は充実していますか。	1. かなり充実している 2. どちらかといえば充実している 3. どちらかといえば充実していない 4. 充実していない
39. 充実している点をすべて挙げてください。【複数選択可】	1. 学業 2. 課外活動 3. 交友関係 4. レジャー 5. アルバイト
40. 充実していない点をすべて挙げてください。【複数選択可】	1. 学業 2. 課外活動 3. 交友関係 4. レジャー 5. アルバイト
41. ボランティア活動をしていますか。	1. 現在している 2. 以前したことがある 3. していない 4. 将来的にはしてみたい
42. 41で「現在している」「以前したことがある」と答えた人にお尋ねします。その内容はどれですか。 【複数選択可】	1. 障害児・障害者に係わる活動 2. 学校等でのスポーツ指導 3. 高齢者に係わる活動 4. 環境美化活動 5. 募金活動 6. 国際交流活動 7. 災害等の復興支援活動 8. その他()
43. 41で「していない」「将来的にはしてみたい」と答えた人にお尋ねします。その主な理由は何かですか。 【複数選択可】	1. 参加したいボランティア活動が見つからない 2. 参加したいボランティア活動はあるが、時間が足りない 3. 情報やきっかけがない 4. 関心がない
44. 海外留学についてどう思いますか。 【複数選択可】	1. 語学を目的として留学したい 2. 専門分野の研究を目的として留学したい 3. 競技力向上のために留学したい 4. 留学したいとは思わない

- 5 -

VI. ハラスメント

45. 大学入学後ハラスメントを受けたことがありますか。	1. ある 2. ない
46. 45で「ある」と答えた人にお尋ねします。 (1) どのような人からハラスメントを受けましたか。【複数選択可】	1. 先輩 2. 同級生 3. 後輩 4. 小クラス・ゼミ担当教員 5. 課外活動の顧問教員 6. 4, 5以外の教員 7. 事務職員 8. その他()
(2) ハラスメントに対してあなたはどのように対応しましたか。【複数選択可】	1. 特に何もしなかった 2. 拒否や抗議をした 3. 冗談で済まそうとした 4. 無視した 5. 考えないようにした 6. 相手を避けようとした 7. 誰かに相談した 8. その他()
(3) 相談した人は誰でしたか。 【複数選択可】	1. 学内のハラスメント相談員 2. 家族・親類 3. 友人・先輩 4. 教員 5. 事務職員 6. 相談しなかった 7. その他()
(4) ハラスメントはあなたにとってどんな影響がありましたか。 【複数選択可】	1. 進路の決定、成績の判定、選手選考で不利な扱いを受けた。 2. 課外活動や研究室での人間関係が悪くなった。 3. 大学に行くのが嫌になった。 4. 勉強(研究)する気がなくなった。 5. 憂鬱感、不安感など精神的に不安定になった。 6. 不眠や食欲不振など体調を崩した。 7. 特に影響はなかった。
47. 全員にお聞きします。 ハラスメント問題について、大学にどのような対応をとってほしいですか。 【複数選択可】	1. 講演会などハラスメントに関する学内の啓発を進めてほしい 2. ハラスメントに関する教育を学生のカリキュラムの中に組み込んでほしい 3. 被害者の心のケアのためのカウンセリング体制を整備してほしい 4. 大学の対応には関心がない 5. その他(具体的に:)
48. 本学にハラスメント相談窓口があり、ハラスメント相談員が置かれているのを知っていますか。	1. 知っていて相談したことがある 2. 知っているが相談したことはない 3. 知らない

- 6 -

VII. 学内施設利用状況

49. 学生食堂をどのくらい利用していますか。	1. ほぼ毎日利用している 2. 週3日程度利用している 3. 週1日程度利用している 4. ほとんど利用していない
50. 49で「ほとんど利用していない」と答えた人にお尋ねします。その理由は何ですか。 【複数選択可】	1. 混雑している 2. 待ち時間が長い 3. メニューが少ない 4. 美味しくないと 5. 弁当を持参している 6. その他()
51. 売店をどのくらい利用していますか。	1. ほぼ毎日利用している 2. 週3日程度利用している 3. 週1日程度利用している 4. ほとんど利用していない
52. 売店の利用目的は次のどれですか。 【複数選択可】	1. 書籍・雑誌・教科書・文房具類の購入 2. スポーツ用品の購入 3. 食料品の購入 4. 日用雑貨類・切手・はがきの購入 5. クリーニング等の取次申込
53. 学内の理美容室を利用していますか。	1. ほぼ毎月利用している 2. 2ヶ月に1回程度利用している 3. 6ヶ月に1回程度利用している 4. ほとんど利用していない 5. 利用したことがない

VIII. 大学に対する要望(大学生生活全般、施設設備、課外活動等)や期待することがあれば、記入してください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

IX. 大学に対する満足度

54. 総合して、あなたは学生として、今の鹿屋体育大学に満足していますか?	1. 大変満足している 2. 満足している 3. どちらともいえない 4. 不満である 5. 大変不満である
---------------------------------------	--

学生生活アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

- 7 -

執筆者一覧

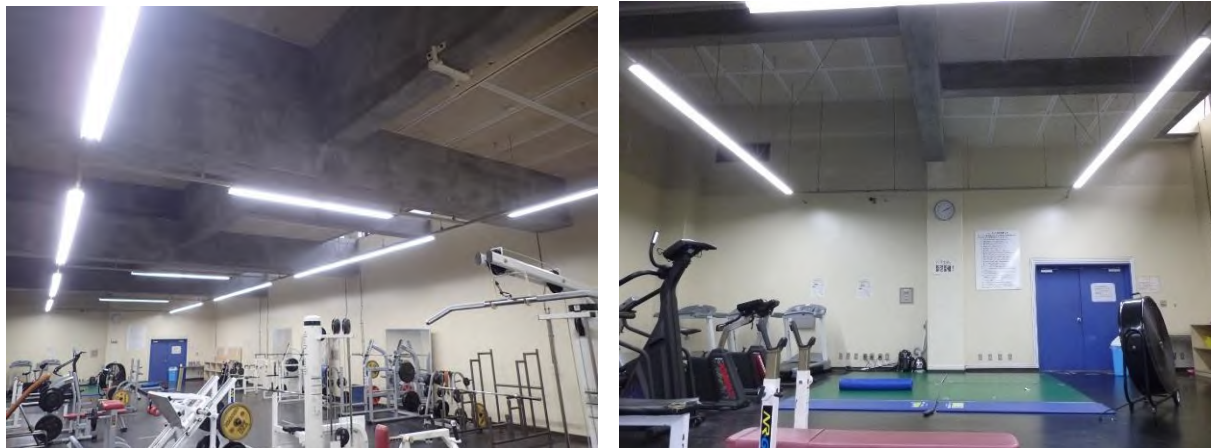
令和元年度学生委員会委員

- 濱田 幸二 学長補佐（学生支援担当）・教授
- 瓜田 吉久 学長補佐（競技力向上担当）・教授
- 濱田 初幸 教授
- 吉重 美紀 教授
- 安田 修 教授
- 木葉 一総 准教授
- 藤田 英二 准教授
- 沼尾 成晴 准教授
- 浜田 幸史 准教授
- 與谷 謙吾 准教授
- 榮樂 洋光 講師
- 幾留 沙智 講師
- 有馬 正人 事務局次長
- 宮園 礼子 学生課長

National
Institute of
Fitness and
Sports
in KANOYA

平成 29 年度屋外トレーニング場の環境整備

【整備前】



老朽化したバーベルの入替、床マットの貼替、
バーベルステージの新規設置等を行った



【整備後】



学生ラウンジの環境整備について



2018.3 不要物品の撤去・清掃、机・いす等の入れ替えを行った。



入学料・授業料特別免除及び特別奨学金給付実績(2016年度～2019年度)

(単位：人・円)

年度	免除等区分	対象区分	免除区分	免除額 (1人当たり)	免除者数・給付者数(延べ)				免除額 給付額	
					学 部	大学院		計		
						修士	博士			
2016	授業料 特別免除	競技成績優秀	前・後期	535,800	2	0		2	1,071,600	
			前期	267,900	3	0		3	803,700	
			後期	267,900	2	0		2	535,800	
		計		7	0		7	2,411,100		
		学業成績優秀	前・後期	535,800		0	0	0	0	0
			前期	267,900	10	1	2	13	3,482,700	
	計			10	1	2	13	3,482,700		
	計			17	1	2	20	5,893,800		
		入学料 特別免除 (2017年度入学者)	競技成績優秀	全額	282,000	11			11	3,102,000
			学業(入試)成績優秀	全額	282,000		0	0	0	0
計			11	0	0	11	3,102,000			
特別奨学金給付		200,000	4	0	0	4	800,000			
合計						35	9,795,800			
2017	授業料 特別免除	競技成績優秀	前・後期	535,800	2	0		2	1,071,600	
			前期	267,900	4	0		4	1,071,600	
			後期	267,900	3	0		3	803,700	
		計		9	0		9	2,946,900		
		学業成績優秀	前・後期	535,800		0	1	1	535,800	
			前期	267,900	11	0	2	13	3,482,700	
	計			11	0	3	14	4,018,500		
	計		20	0	3	23	6,965,400			
	入学料 特別免除 (2018年度入学者)	競技成績優秀	全額	282,000	15			15	4,230,000	
		学業(入試)成績優秀	全額	282,000		0	0	0	0	
計			15	0	0	15	4,230,000			
特別奨学金給付		200,000	0	0	0	0	0			
合計						38	11,195,400			
2018	授業料 特別免除	競技成績優秀	前・後期	535,800	3	0		3	1,607,400	
			前期	267,900	3	0		3	803,700	
			後期	267,900	4	0		4	1,071,600	
		計		10	0		10	3,482,700		
		学業成績優秀	前・後期	535,800		0	1	1	535,800	
			前期	267,900	13	1	2	16	4,286,400	
	計			13	1	3	17	4,822,200		
	計		23	1	3	27	8,304,900			
	入学料 特別免除 (2019年度入学者)	競技成績優秀	全額	282,000	13			13	3,666,000	
		学業(入試)成績優秀	全額	282,000		0	0	0	0	
計			13	0	0	13	3,666,000			
特別奨学金給付		200,000	3	0	0	3	600,000			
合計						43	12,570,900			
2019	授業料 特別免除	競技成績優秀	前・後期	535,800	1	0		1	535,800	
			前期	267,900	2	0		2	535,800	
			後期	267,900	2	0		2	535,800	
		計		5	0		5	1,607,400		
		学業成績優秀	前・後期	535,800		0	1	1	535,800	
			前期	267,900	13	0	3	16	4,286,400	
	計			13	0	4	17	4,822,200		
	計		18	0	4	22	6,429,600			
	入学料 特別免除 (2020年度入学者)	競技成績優秀	全額	282,000	8			8	2,256,000	
		学業(入試)成績優秀	全額	282,000		1	0	1	282,000	
計			8	1	0	9	2,538,000			
特別奨学金給付		200,000	2	0	0	2	400,000			
合計						33	9,367,600			

国立大学法人鹿屋体育大学修学支援基金規則

〔平成29年9月21日〕
規 則 第 2 4 号

（設置）

第1条 国立大学法人鹿屋体育大学（以下「本学」という。）に、鹿屋体育大学修学支援基金（以下「基金」という。）を置く。

（目的）

第2条 基金は、本学において、経済的理由により修学が困難な学部学生、大学院生（以下「学生」という。）を支援することを目的とする。

（事業）

第3条 基金は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業の用に供するものとする。

- （1）授業料、入学料又は寄宿料の全部又は一部を免除する事業
- （2）学資金を支給する事業
- （3）本法人が教育研究上必要であると認めた学生の留学に係る費用を負担する事業
- （4）本法人の非常勤職員就業規則等において定めるところにより、学生の資質を向上させることを主たる目的として、学生を本学の教育研究に係る業務に従事させ、学生に対して本給を支給する事業

（基金の構成）

第4条 基金は、寄附金及びその運用による果実をもって構成する。

（運営委員会）

第5条 第3条に規定する事業を実施するため、鹿屋体育大学修学支援基金運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

（寄附金等の受入及び管理）

第6条 寄附金等の受入に関し、原則として受入承認手続きは要しないものとする。

ただし、受入内容に疑義が生じた場合は、運営委員会において審議し、受入の可否を決定する。

- 2 基金は、他の寄附金と独立して管理を行う。
- 3 前2項に定めるもののほか、寄附金等の受入及び管理については、鹿屋体育大学寄附金取扱細則（平成16年細則第12号）の定めるところによる。

（事業年度）

第7条 基金の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

（事務）

第8条 基金の事務は、事務局関係課等の協力を得て、学生課において処理する。

（雑則）

第9条 この規則に定めるもののほか、基金の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成29年9月21日から施行する。
- 2 平成29年度の事業年度については、第7条の規定に関わらず、本規則が施行された日から、平成30年3月31日までとする。

鹿屋体育大学修学支援基金：学生への支援実施状況

年度	支援内容	金額	備考
平成31年度 (令和元年度)	入学料の免除	564,000円	※平成31年度より支援開始 平成31年度入学料免除適格者 4名に対する半額免除を実施

※鹿屋体育大学HP掲載

<https://www.nifs-k.ac.jp/campus-life/fees/support-fund2.html>

3. コンディション記録サービス

スポーツ情報センターでは2017年4月より、One TAP Sportsを使ったコンディション情報管理サービスを提供する予定です。そこで本稿では新サービスの目的とその使用方法について紹介します。

01 目標を達成するために コンディションを「見える化」

鹿屋体育大学 スポーツ生命科学系
長島 未央子

競技力向上のためには、体力、技術、戦術、心理、栄養等のトレーニングを計画的に実施していく事が重要である。トレーニングにより刺激を与えられた身体は疲労と超回復を繰り返し徐々に身体は作られていくがその過程において、休養（睡眠）、栄養が非常に重要となる。さらに、「スポーツ選手は身体が強く風邪もひかない」とイメージされる事もあるが、実際は長時間・高強度運動を継続した場合、免疫抑制状態に陥るため、激しいトレーニングを連日に渡って行うアスリートは感染しやすいと言われている¹⁾。トレーニング計画を遂行する過程において、選手が体調を崩しては予定されていたトレーニングが実行できず、競技力向上の観点からもマイナスであるため、コンディション管理は重要である。しかし、実際は“発症してから対処する”という形が多に多いのではないだろうか。

2015年ラグビーワールドカップにおいて日本代表が強豪南アフリカに勝利したことは“歴史的勝利”と言われ記憶に新しい。その歴史的勝利は決して偶然ではなく、エディジョーンズヘッドコーチが「世界でナンバーワンのフィットネスの高いチーム」になる事を明言し、具体的に4年間取り組まれた成果であると報告されている²⁾。世界でナンバーワンのフィットネスの高いチームになるためには、当然トレーニングもハードになる。「けがをさせないためにギリギリまで追い込んだところで止めなければいけない。そのために“体調が見える化”するためのツールを作ってほしい」と要請を受け、(株)ユーフォリアによりコンディション情報管理サービス One TAP Sports が開発された³⁾。

ラグビー日本代表は疲労度、睡眠の質、ストレスレベル、体重など計11項目を入力項目として設定し、毎朝選手が入力した。入力した情報はスタッフ間で共有し、その日の練習参加強度や練習内容にも反映された。実際、合宿や遠征、大会期間中には、選手たちのコンディションをチームスタッフがいち早く情報収集及び共有する事が様々な状況に対して迅速に対応するためには重要である。また、継続的に測定する事で、選手個々の傾向やチームとしてのコンディション状況を把握する事が可能であったと報告されている²⁾。つまり、日々の入力情報によりその日の状況に対して素早く対処ができる事、さらに継続してデータを収集する事でチームの分析が可能となり、チームの取り組むべき課題も見えてくる。

継続してデータを蓄積していくためには①選手やスタッフにかかる手間や負担が最小限であること、さらに選手視点でいうと②入力情報に対しての反応がすぐにある事が重要である。本学自転車部も2009年から試行錯誤を繰り返し WebClass や LINE を活用してコンディション入力を行ってきた⁴⁻⁵。特に LINE に関しては、選手が入力した情報はすぐに把握できるものの、継続したデータの分析を行うためには別で入力を実施しなければならないため、管理者視点では決して使い勝手は悪くないものの、利用者（選手）視点でいうと「何のために入力しているかわからない」と思う者もあり、入力実施状況が40%程度と非常に悪かった。その点 One TAP では、入力情報が全てグラフ化され（図1）選手、スタッフもすぐに確認できる。これは継続利用のための非常に重要なポイントであると考ええる。

コンディションを整えていくためには、自分の体調の変化をいち早く察知し、先手で取り組むこと、また体調不良が起きた時には迅速に対処する事が重要である。

ラグビー日本代表は「世界でナンバーワンのフィットネスの高いチームを目指すのであれば「世界でナンバーワンのリカバリー能力を身に付けよう」と睡眠や食事などの基本的な生活習慣を徹底して取り組まれていた¹²。つまり、今より高いレベルへ行くためには、生活習慣を整えコンディションを維持向上させながら、トレーニングのレベルを段階的に高めていく事が重要なのではないだろうか。

特に自分自身の体調の変化に関しては「経験」や「勘」ではなく身体の変化に気が付ける事が重要であり、そのためには身体の状態を「見える化」をする事は必要不可欠となる。

全ての選手がオリンピックを目指すわけではないが、自身の目標達成に向けて個人・チームでは是非積極的に活用して頂きたい。

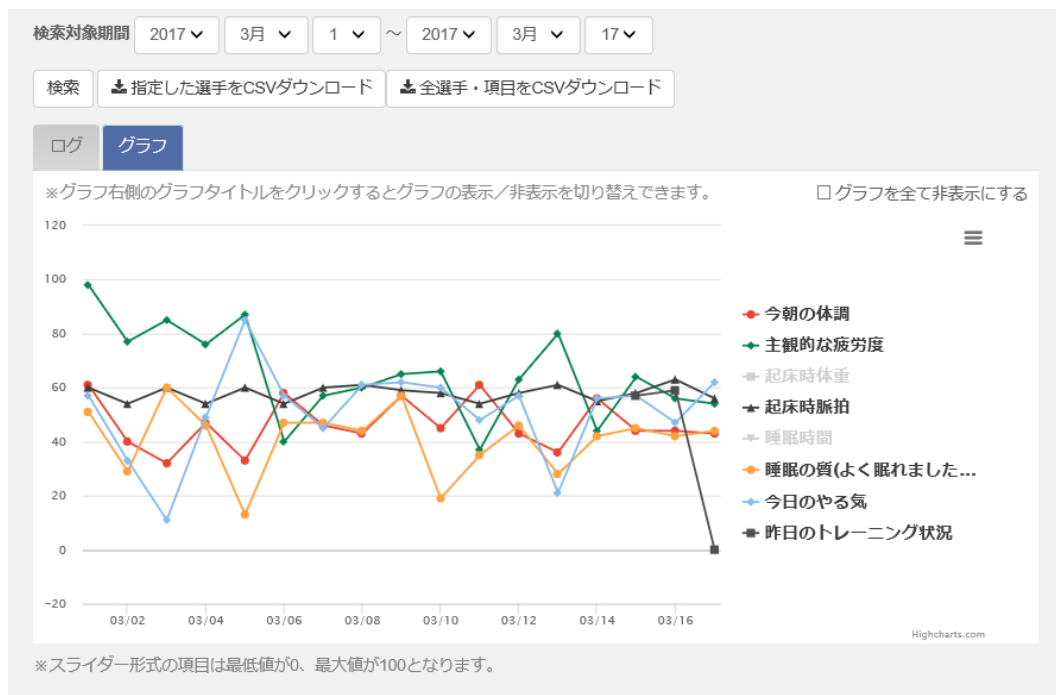


図1 One TAP によるグラフ表示の例

引用文献

1. Pedersen BK, Ullum H, NK cell response to physical activity : possible mechanisms of action. Med Sci Sports Exerc. 26:140-6,1994.
2. 井澤秀典 ワールドカップに向けたメディカルサポート 日本代表チームにおけるメディカルサポート：トレーナー 臨床スポーツ医学 34(2),122-125,2017.
3. マイナビニュース ラグビー日本代表を支える見える化ツール「ONE TAP SPORTS」とは？
<http://news.mynavi.jp/articles/2016/07/05/euphoria/>
4. 長島未央子, 黒川剛, 和田智仁, 萩原康幸, 山本正嘉 e-learning システムと携帯電話を用いたアスリートの新しいコンディショニング管理手法の提案 - K 大学自転車競技部の事例を通して - スポーツパフォーマンス研究 ,3,1-10,2011.
5. 長島未央子 アスリートのコンディション管理及び授業の効率化を目的とした IT の活用 鹿屋体育大学スポーツ情報センター広報誌 第6号 ,12-15,2016.

02 One TAP Sports の利用手順

1. One TAP の利用開始時は、大学のメールアドレス宛てに One TAP Sports からの招待メールが届きます。招待メールにある「許可する」をクリックし、One TAP のサイトにアクセスし、パスワードを設定してください。



2. One TAP Sports のログイン選択画面です。

<https://www.one-tap.jp/>

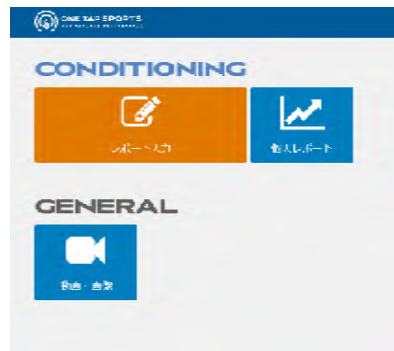
学生の皆さんは「選手ログイン」をクリックしてください。

監督・コーチ・スタッフは「スタッフログイン」から進みます。



3. ログインの際の ID は、大学のメールアドレスになります。パスワードは1の手順で設定したものになります。スポーツ情報センターのパスワードとは異なりますので注意してください。

4. 選手ログイン後の画面です。



5. スタッフログイン後の画面です。



6. 選手用向けのコンディション入力 画面です.

項目により, 直接データを入力したり, スライダーで選択したりと入力方法が異なります.

トップ > コンディションの入力

コンディションの入力

スライダー形式項目の入力について
 ・自身の今の状態に合った場所をタップしてください。(タップするとスライダーが表示されます)
 ・数値は、一番左が「0」一番右が「100」です。(スライダー上に数値は表示されません)

必須 起床時脈拍

起床時体重

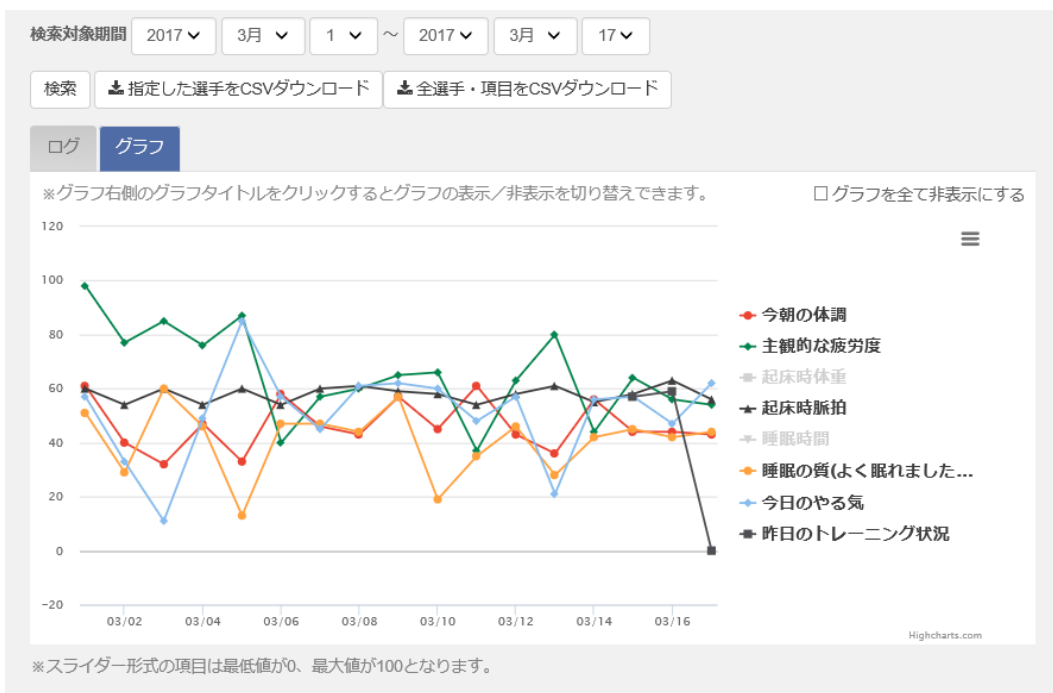
必須 主観的疲労度
 (悪い ~ 良い) ✕ リセットする

必須 睡眠時間
 ~ 計 6.5 時間

必須 睡眠の質 (よく眠れたか?)

7. 入力したデータは, 期間を指定してのグラフ化が可能です.

画面右の項目をクリックして特定の項目を表示したり非表示にしたりすることができます.



8. 監督からコメントを入れることも可能です。

入力項目については、追加や変更も可能です。チームの要望などによって変わることもあります。

A選手 選手 2017年03月15日(水) のコンディション	
記録日	2017年03月15日(水) 05時39分
今朝の体調	57
主観的な疲労度	61
起床時体重	59.6 kg
起床時脈拍	52.0 回/分
睡眠時間	22-5.5 (7.5)
睡眠の質(よく眠れましたか??)	58
今日のやる気	54
昨日のトレーニング状況	100

ここから未読コメント

<p>A選手</p> <p>疲労で足がいっぱいです。</p> <p style="text-align: right;">2017/03/15 05:41:38</p>
<p>○監督</p> <p>昨日の練習は動きに余裕が見られました。 主観的に疲労はどの程度のレスト期間があれば抜ける？</p> <p style="text-align: right;">2017/03/15 08:06:12</p>

平成28年度 体育教育の充実促進経費配分

サークル名	1. 引率旅費 (円)	2. 重点強化指定選手・チーム (円)	3. インカレ団体総合・学校対抗3位入賞 (円)	4. 強化指定基準を満たすH27年度卒業生に関する評価(E) (円)	5. 運搬費 (円)	7. 社会貢献または地域貢献に関する評価項目(F) (円)	8. SS特別支援(D) (円)	(S1S) 学生数 (名)	小計(A) (円)	9. 各サークルへの傾斜配分に関する項目(①~④)										10. 前年度執行額超過調整(1000円未満切捨) (円)	11. 強化指定選手及び チーム	配分類合計(A+B+C+D+E+F) (円)		
										①前年度競技大会の実績 (点)	前年度実績(合計ポイント/該当試合数) (pt)	②指導者の有無 (点)	指導者数 (名)	③各サークル構成員 (点)	各サークル構成員数 (名)	④大学の強化種目 (点)	小計 (点)	パーセンテージ (%)	重点配分、引率旅費、共通費等を除く1099.9万円を配分 (円)				左記金額1000円未満切捨: 切捨分は共通経費へ(B) (円)	
1 陸上競技部	選手 チーム(駅伝)	654,000	520,000 240,000	50,000	74,000	58,000	0		1,596,000	22.0	22.0	30	4	40	78	50	142.0	7.53%	782,958	782,000		○	2,378,000	
2 硬式野球部						58,000			58,000	0.0	0.0	0	0	30	40		0.0	0.00%	100,000	100,000			158,000	
3 テニス部	選手 チーム	178,000	960,000	40,000			0		1,178,000	6.0	6.0	10	1	20	21	50	86.0	4.56%	474,186	474,000		○	1,652,000	
4 男子バレーボール部(びーチバレー)	選手 チーム	69,000	120,000	70,000		58,000	0		317,000	7.0	7.0	10	1	10	8	50	77.0	4.08%	424,562	424,000		○	741,000	
5 女子バレーボール部	選手 チーム	350,000	800,000 960,000	60,000		58,000	160,000	2	2,388,000	6.0	6.0	20	2	20	28	50	96.0	5.09%	529,323	529,000	-205,000	○	2,712,000	
6 男子バスケットボール部	選手 チーム					58,000	0		58,000	0.0	0.0	20	2	20	34	50	90.0	4.77%	496,241	496,000	-69,000	○	485,000	
7 女子バスケットボール部	選手 チーム					58,000	0		58,000	0.0	0.0	10	1	20	29	50	80.0	4.24%	441,103	441,000			499,000	
8 サッカー部	選手 チーム	370,000	160,000			58,000	160,000	2	748,000	0.0	0.0	20	2	50	99	50	120.0	6.36%	661,654	661,000		○	1,409,000	
9 ラグビー部						58,000			58,000	0.0	0.0	0	0	10	7		0.0	0.00%	100,000	100,000			158,000	
10 体操競技部	選手 チーム	398,000	220,000 840,000	90,000		58,000	160,000	2	1,766,000	36.0	36.0	20	2	20	25	50	126.0	6.68%	694,737	694,000	-9,000	○	2,451,000	
11 水泳部	選手	534,000	280,000	110,000			80,000	1	1,004,000	35.0	35.0	30	3	30	46	50	145.0	7.69%	799,499	799,000		○	1,803,000	
12 柔道部	選手 チーム	138,000	270,000 1,480,000	190,000		58,000	0		2,136,000	86.0	86.0	10	1	30	59	50	176.0	9.33%	970,426	970,000	-217,000	○	2,889,000	
13 剣道部	選手 チーム	413,000	1,600,000	380,000		58,000	160,000	2	2,611,000	19.0	19.0	30	3	50	138	50	149.0	7.90%	821,554	821,000		○	3,432,000	
14 ヨット部	チーム	184,000	1,200,000	180,000	898,000	58,000			2,520,000	12.0	12.0	10	1	10	12	50	82.0	4.35%	452,130	452,000	-1,000	○	2,971,000	
15 漕艇部	選手	207,000	80,000		816,000	58,000			1,161,000	0.0	0.0	10	1	10	3	50	70.0	3.71%	385,965	385,000	-603,000	○	943,000	
16 自転車競技部	選手	244,000	2,700,000	400,000	420,000	162,000	58,000	160,000	2	4,144,000	100.0	409.0	10	1	20	26	50	180.0	9.54%	992,481	992,000		○	5,136,000
17 カヌー部	選手	154,000	1,540,000	300,000	310,000	556,000	58,000	80,000	1	2,998,000	100.0	196.0	10	1	20	20	50	180.0	9.54%	992,481	992,000		○	3,990,000
18 なぎなた部	選手 チーム	106,000	160,000 600,000	60,000		58,000	160,000	2	1,144,000	27.0	27.0	0	0	10	9	50	87.0	4.61%	479,699	479,000		○	1,623,000	
19 セパタクロー部									0	0.0		0	0	10	13		0.0	0.00%	100,000	100,000			100,000	
20 ウインドサーフィン部						58,000	0		58,000	0.0		10	1	10	11	50	0.0	0.00%	100,000	100,000	-59,000		99,000	
21 アスレチックトレーナー部									0	0.0		0	0	10	7		0.0	0.00%	100,000	100,000			100,000	
22 ゴルフ部									0	0.0		0	0	10	2		0.0	0.00%	100,000	100,000			100,000	
小計			14,730,000	700,000	1,960,000	2,506,000	986,000	1,120,000	14	26,001,000	456.0	861.0	260	27	460	715	850	1,886.0	100.00%	10,999,000	10,999,000	-1,163,000		35,829,000
1 引率旅費		3,999,000																						0
6 共通経費・予備費									500,000											8,000	1,163,000			1,671,000
合計		3,999,000	14,730,000	700,000	1,960,000	2,506,000	986,000	1,120,000		26,501,000	456.0	861.0	260	27	460	715	850	1,886.0	100%	10,999,000	10,999,000	0		37,500,000
備考(共通経費で屋内トレーニング場の清掃費70,000円(アスレチックトレーナー部)、屋外トレーニング場清掃費15万円(陸上部)に配分)			1人当たり(選手/チーム) S I 27万円 S II 22万円/S20万円 A: 16万円/16万円 B: 12万円/12万円 C: 8万円/8万円	個人種目競技の学校対抗3位入賞以上 1位: 20万円 2位: 15万円 3位: 10万円	予算2,000千円個人 S I 相当: 80千円 S II 相当: 70千円 A相当: 50千円 B相当: 30千円 C相当: 20千円 チーム S相当: 60千円 A相当: 50千円 B相当: 20千円	100万円上限(1サークル当たり上限10万円)	SS1年生1名につき、80,000円(重点強化指定選手C相当)			別紙にて算出した合計点数(100点を上限とする)	1名: 10点 2名: 20点 3名以上: 30点	20名未満: 10点 20-40未満: 20点 40-60未満: 30点 60-80未満: 40点 80以上50点 (27.5月現在)	1種目: 50点					強化指定競技に指定されない場合は、競技力向上の底上げのため一律10万円を配分 100,000		前年度の配分額において、超過して使用した分について今年度の配分で減額調整する。算出後の額は共通経費へ組入。			平成28年度予算 37,500,000	

平成29年度 体育教育の充実促進経費配分

団体名	重点強化	予強化指定選手及び	1. 引率旅費 (円)	2. 重点強化指定選手・チーム (円)	3. 強化指定基準を満たすH28年度卒業生に関する評価 (円)	4. 運搬費 (円)	5. 社会貢献または地域貢献に関する評価項目 (円)	6. AO(SS)特別支援 (円)	S S 学生数 (名)	小計 (A) (円)	8. 各団体への傾斜配分に関する項目(①~②)						9. 前年度執行額超過調整(1000円未満切捨) (C) (円)	配分額合計 (A+B+C) (円)		
											①前年度競技大会の実績 (点)	前年度実績(合計ポイント/該当試合数) (pt)	②各団体構成員 (点)	各団体構成員数 (名)	小計 (点)	パーセンテージ (%)			重点配分、引率旅費、共通費等を除く1,299.3万円を配分 (円)	左記金額1,000円未満切捨:切捨分は共通経費へ (B) (円)
1 陸上競技部	選手 チーム	○ -	612,000	400,000 -	153,000	78,000	72,000	-	-	1,315,000	20	20	100	90	120	11.040%	1,357,093	1,357,000	0	2,672,000
2 硬式野球部	-	-	-	-	-	-	72,000	-	-	72,000	-	0	-	43	-	-	100,000	100,000	0	172,000
3 テニス部	選手 チーム	○ ○	153,000	- 600,000	29,000	-	72,000	-	-	854,000	3	3	40	24	43	3.956%	486,292	486,000	0	1,340,000
4 男子バレーボール部 (ビーチバレー)	選手 チーム	○ ○	153,000	- 100,000	-	-	72,000	-	-	325,000	1	1	20	9	21	1.932%	237,491	237,000	0	562,000
5 女子バレーボール部	選手 チーム	○ ○	306,000	200,000 1,800,000	761,000	-	72,000	-	-	3,139,000	25	25	40	25	65	5.980%	735,092	735,000	0	3,874,000
6 男子バスケットボール部	-	-	153,000	-	-	-	-	-	-	153,000	-	0	-	30	-	-	100,000	100,000	0	253,000
7 女子バスケットボール部	選手 チーム	○ -	153,000	- -	-	-	72,000	-	-	225,000	0	0	40	27	40	3.680%	452,364	452,000	0	677,000
8 サッカー部	選手 チーム	○ -	306,000	150,000 -	-	-	-	-	-	456,000	0	0	100	99	100	9.200%	1,130,911	1,130,000	0	1,586,000
9 ラグビー部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	11	-	-	100,000	100,000	0	100,000
10 体操競技部	選手 チーム	○ ○	306,000	350,000 400,000	106,000	-	72,000	120,000	2	1,354,000	65	65	40	29	105	9.660%	1,187,456	1,187,000	0	2,541,000
11 水泳部	選手	○	306,000	100,000	-	-	-	-	-	406,000	1	1	60	46	61	5.612%	689,856	689,000	-119,000	976,000
12 柔道部	選手 チーム	○ -	153,000	150,000 150,000	35,000	-	-	120,000	2	608,000	0	0	80	61	80	7.360%	904,729	904,000	0	1,512,000
13 剣道部	選手 チーム	○ -	459,000	850,000 180,000	-	-	72,000	120,000	2	1,681,000	4	4	100	138	104	9.568%	1,176,147	1,176,000	0	2,857,000
14 ヨット部	選手 チーム	○ ○	153,000	60,000 200,000	35,000	1,052,000	72,000	-	-	1,572,000	5	5	20	10	25	2.300%	282,728	282,000	0	1,854,000
15 漕艇部	選手	○	153,000	-	59,000	728,000	-	-	-	940,000	3	3	20	7	23	2.116%	260,109	260,000	-11,000	1,189,000
16 自転車競技部	選手	○	153,000	1,780,000	272,000	108,000	-	120,000	2	2,433,000	100	250	40	27	140	12.879%	1,583,275	1,583,000	0	4,016,000
17 カヌー部	選手	○	153,000	1,300,000	327,000	630,000	-	-	-	2,410,000	100	186	20	19	120	11.040%	1,357,093	1,357,000	0	3,767,000
18 なぎなた部	選手 チーム	○ ○	153,000	60,000 720,000	214,000	-	72,000	60,000	1	1,279,000	20	20	20	8	40	3.680%	452,364	452,000	0	1,731,000
19 セパタクロー部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	11	-	-	100,000	100,000	0	100,000
20 ウインドサーフィン部	-	-	153,000	-	-	-	72,000	60,000	1	285,000	-	0	-	11	-	-	100,000	100,000	0	385,000
21 アスレチックトレーナー部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	4	-	-	100,000	100,000	0	100,000
22 ゴルフ部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	3	-	-	100,000	100,000	0	100,000
小計			3,978,000	9,550,000	1,991,000	2,596,000	792,000	600,000	10	19,507,000	347	583	740	732	1,087	100.000%	12,993,000	12,987,000	-130,000	32,364,000
7 共通経費・予備費			-	-	-	-	-	-	-	5,000,000	-	-	-	-	-	-	6,000	130,000	0	5,136,000
合計			3,978,000	9,550,000	1,991,000	2,596,000	792,000	600,000		24,507,000	-	-	-	-	-	-	12,993,000	0	0	37,500,000
備考: 共通経費で屋内トレーニング場の清掃費70,000円、屋外トレーニング場清掃費15万円に配分予定				1人当たり(選手/チーム) S I (25万円/-) S II (20万円/S18万円) A(15万円/12万円) B(10万円/8万円) C(6万円/5万円) C-(-/3万円)	予算2,000千円個人 S I 相当: 149千円 S II 相当: 119千円 A相当: 89千円 B相当: 59千円 C相当: 35千円 チーム S相当: 107千円 A相当: 71千円 B相当: 47千円 C相当: 29千円	80万円上限	SS1年生1名につき、60,000円(重点強化指定選手C相当)			別紙にて算出した合計点数(100点を上限とする)	20名未満: 20点 20-40名未満: 40点 40-60名未満: 60点 60-80名未満: 80点 80名以上: 100点 (28.5月現在)		強化指定競技に指定されない場合は、競技力向上のため一律10万円を配分				前年度の配分額において、超過して使用した分について今年度の配分で減額調整する。算出後の額は共通経費へ組入。			平成29年度予算 37,500,000

平成30年度 体育教育の充実促進経費配分

団体名	選手 チーム	重点強化	強化指定選手及びチーム	1. 引率旅費	2. 重点強化指定選手・チーム	3. 重点強化指定「チーム」の設定の無い個人競技種目の団体総合入賞(1位～3位)への配分	4. 平成29年度卒業・修了生が獲得した競技成績に対する評価	5. 運搬費補助	7. 社会貢献又は地域貢献活動に関する評価	8. SS1年生に対する配分	SS学生数 (名)	小計 (A) (円)	9. 各団体への傾斜配分に関する項目(①～②)							前年度執行額超過調整 (C) (円)	配分額合計 (A+B+C) (円)	
				(円)	(円)	(円)	(円)	(円)	(円)	(円)			(円)	(円)	(円)	(円)	(円)	(円)	(円)			(円)
													①前年度競技大会の実績	前年度実績(合計ポイント/該当試合数)	②各団体構成員	各団体構成員数	小計	パーセンテージ	重点配分、引率旅費、共通費等を除く1,302.8万円を配分	左記金額1,000円未満切捨:切捨分は共通経費へ(B)		
1 陸上競技部	選手 チーム	○	○	612,000	300,000	-	48,000	94,000	50,000	60,000	1	1,164,000	19	19	100	96	119	9.810%	1,208,934	1,208,000	0	2,372,000
2 硬式野球部	-	-	-	-	-	-	-	-	50,000	-	-	50,000	-	0	-	42	-	-	100,000	100,000	0	150,000
3 テニス部	選手 チーム	○	○	153,000	60,000 900,000	-	60,000	-	50,000	-	-	1,223,000	6	6	40	27	46	3.792%	467,319	467,000	0	1,690,000
4 男子バレーボール部 (ビーチバレー)	選手 チーム	○	○	153,000	- 160,000	-	33,000	-	50,000	-	-	396,000	5	5	20	10	25	2.061%	253,978	253,000	0	649,000
5 女子バレーボール部	選手 チーム	○	○	306,000	300,000 720,000	-	198,000	-	50,000	120,000	2	1,694,000	13	13	40	21	53	4.369%	538,433	538,000	0	2,232,000
6 男子バスケットボール部	-	-	-	153,000	-	-	-	-	50,000	-	-	203,000	-	0	-	28	-	-	100,000	100,000	0	303,000
7 女子バスケットボール部	選手 チーム	○	○	153,000	150,000 720,000	-	297,000	-	50,000	-	-	1,370,000	7	7	40	24	47	3.875%	477,478	477,000	0	1,847,000
8 サッカー部	選手 チーム	○	○	459,000	-	-	83,000	-	50,000	120,000	2	712,000	16	16	100	94	116	9.563%	1,178,457	1,178,000	0	1,890,000
9 ラグビー部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	11	-	-	100,000	100,000	0	100,000
10 体操競技部	選手 チーム	○	○	306,000	950,000 480,000	-	147,000	-	50,000	60,000	1	1,993,000	100	162	40	31	140	11.542%	1,422,275	1,422,000	0	3,415,000
11 水泳部	選手	○	○	306,000	160,000	-	-	-	50,000	-	-	516,000	9	9	60	42	69	5.688%	700,979	700,000	0	1,216,000
12 柔道部	選手 チーム	○	○	153,000	320,000 -	-	89,000	-	50,000	120,000	2	732,000	7	7	80	63	87	7.172%	883,843	883,000	0	1,615,000
13 剣道部	選手 チーム	○	○	306,000	750,000 960,000	-	245,000	-	50,000	120,000	2	2,431,000	30	30	100	131	130	10.717%	1,320,684	1,320,000	0	3,751,000
14 ヨット部	選手 チーム	○	○	153,000	120,000 60,000	-	-	1,148,000	50,000	120,000	2	1,651,000	1	1	20	8	21	1.731%	213,341	213,000	0	1,864,000
15 漕艇部	選手	○	○	153,000	150,000	-	-	718,000	-	-	-	1,021,000	5	5	20	8	25	2.061%	253,978	253,000	0	1,274,000
16 自転車競技部	選手	○	○	153,000	1,450,000	-	206,000	22,000	-	120,000	2	1,951,000	100	241	40	30	140	11.542%	1,422,275	1,422,000	0	3,373,000
17 カヌー部	選手	○	○	153,000	1,580,000	-	372,000	617,000	-	-	-	2,722,000	100	207	40	22	140	11.542%	1,422,275	1,422,000	0	4,144,000
18 なぎなた部	選手 チーム	○	○	153,000	- 540,000	-	222,000	-	50,000	60,000	1	1,025,000	15	15	20	8	35	2.885%	355,569	355,000	0	1,380,000
19 セパタクロー部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	10	-	-	100,000	100,000	0	100,000
20 ウインドサーフィン部	-	○	○	153,000	500,000	-	-	-	50,000	-	-	703,000	0	0	20	12	20	1.649%	203,182	203,000	0	906,000
21 アスレチックトレーナー部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	5	-	-	100,000	100,000	0	100,000
22 ゴルフ部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	2	-	-	100,000	100,000	0	100,000
23 ダンス部	-	-	-	-	-	-	-	-	50,000	-	-	50,000	-	0	-	6	-	-	100,000	100,000	0	150,000
小計				3,978,000	11,330,000	0	2,000,000	2,599,000	800,000	900,000	15	21,607,000	433	743	780	731	1,213	100.000%	13,023,000	13,014,000	0	34,621,000
6. 共通経費・予備費				-	-	-	-	-	-	-	-	2,870,000	-	-	-	-	-	-	-	9,000	0	2,879,000
合計				3,978,000	11,330,000	0	2,000,000	2,599,000	800,000	900,000	15	24,477,000	-	-	-	-	-	-	-	13,023,000	0	37,500,000
				1人当たり (選手/チーム) S I (25万円/-) S II (20万円/S18万円) A(15万円/12万円) B(10万円/8万円) C(6万円/5万円) C-(-/3万円)	個人 S I 相当: 103千円 S II 相当: 83千円 A相当: 62千円 B相当: 41千円 C相当: 24千円 チーム S相当: 74千円 A相当: 49千円 B相当: 33千円 C相当: 20千円	SS1年生1名につき、 60,000円(重点強化指定 選手C相当)	別紙にて算出した合 計点数(100点を上限 とする)	20名未満: 20点 20-40名未満: 40点 40-60名未満: 60点 60-80名未満: 80点 80名以上: 100点 (29.5月現在)	強化指定競技に 指定されない場 合は、競技力向 上の底上げのため一律10万円を 配分	前年度の配分額 において、超過 して使用した分 を今年度の配分 で減額調整。 (1,000円未満切 捨) 算出後の額は共 通経費へ組入。	平成30年度予算 37,500,000											

平成31年度 体育教育の充実促進経費配分

課外活動団体名	重点強化	強化指定選手及びチーム	1. 引率旅費 (円)	2. 重点強化指定選手・チームへの重点配分 (円)	3. 卒業生が獲得した競技成績に対する評価 (円)	4. 運搬費補助 (円)	6. SS1年生に対する配分 (円)	SS学生数 (名)	小計(A) (円)	7. 各課外活動団体への傾斜配分に関する項目(①~②)							前年度執行額超過調整(C) (円)	配分額合計(A+B+C) (円)	
										①前年度競技大会の実績 (点)	前年度実績(合計ポイント) (pt)	②各団体構成員 (点)	各団体構成員数 (名)	小計 (点)	パーセンテージ (%)	重点配分、引率旅費、共通費等を除く (円)			左記金額1,000円未満切捨 (円)
1 陸上競技部	選手	○	548,000	420,000	75,000	65,000	-	-	1,108,000	15	15	100	91	115	11.807%	1,852,043	1,852,000	0	2,960,000
2 硬式野球部	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	50	-	-	200,000	200,000	0	200,000
3 テニス部	選手	○	274,000	100,000	-	-	-	-	774,000	8	8	40	27	48	4.928%	773,027	773,000	0	1,547,000
4 男子バレーボール部 (ビーチバレー)	選手	○	137,000	-	-	-	-	-	337,000	5	5	20	7	25	2.567%	402,618	402,000	0	739,000
5 女子バレーボール部	選手	○	274,000	-	-	-	120,000	2	844,000	0	0	40	21	40	4.107%	644,189	644,000	0	1,488,000
6 男子バスケットボール部	-	-	137,000	-	-	-	-	-	137,000	-	0	-	28	-	-	200,000	200,000	-18,000	319,000
7 女子バスケットボール部	選手	○	137,000	-	-	-	-	-	137,000	0	0	40	23	40	4.107%	644,189	644,000	0	781,000
8 サッカ一部	選手	○	548,000	-	-	-	60,000	1	1,208,000	3	3	100	94	103	10.575%	1,658,786	1,658,000	0	2,866,000
9 ラグビー部	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	9	-	-	100,000	100,000	0	100,000
10 体操競技部	選手	○	274,000	620,000	150,000	-	120,000	2	1,664,000	43	43	40	29	83	8.522%	1,336,692	1,336,000	0	3,000,000
11 水泳部	選手	○	274,000	120,000	120,000	-	-	-	514,000	8	8	40	36	48	4.928%	773,027	773,000	-121,000	1,166,000
12 柔道部	選手	○	274,000	310,000	120,000	-	-	-	704,000	14	14	60	59	74	7.598%	1,191,749	1,191,000	0	1,895,000
13 剣道部	選手	○	274,000	660,000	187,000	-	120,000	2	1,941,000	22	22	100	131	122	12.526%	1,964,776	1,964,000	0	3,905,000
14 ヨット部	選手	○	137,000	200,000	-	1,222,000	-	-	1,559,000	4	4	20	12	24	2.464%	386,513	386,000	0	1,945,000
15 漕艇部	選手	○	137,000	500,000	-	868,000	-	-	1,505,000	9	9	20	8	29	2.977%	467,037	467,000	-584,000	1,388,000
16 自転車競技部	選手	○	137,000	1,730,000	607,000	16,000	120,000	2	2,610,000	63	63	40	32	103	10.575%	1,658,786	1,658,000	0	4,268,000
17 カヌー部	選手	○	137,000	1,660,000	112,000	740,000	60,000	1	2,709,000	45	45	40	20	85	8.727%	1,368,901	1,368,000	0	4,077,000
18 なぎなた部	選手	○	137,000	150,000	-	-	120,000	2	707,000	15	15	20	7	35	3.593%	563,665	563,000	0	1,270,000
19 セパタクロー部	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	10	-	-	100,000	100,000	0	100,000
20 ウインドサーフィン部	-	-	137,000	-	-	-	-	-	137,000	-	0	-	11	-	-	150,000	150,000	0	287,000
21 アスレチックトレーナー部	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	5	-	-	50,000	50,000	0	50,000
22 ゴルフ部	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	3	-	-	50,000	50,000	0	50,000
23 ダンス部	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	7	-	-	100,000	100,000	0	100,000
小計			3,973,000	9,620,000	1,371,000	2,911,000	720,000	12	18,595,000	254	254	720	720	974	100.000%	16,636,000	16,629,000	-723,000	34,501,000
5. 共通経費・予備費			-	-	-	-	-	-	2,269,000	-	-	-	-	-	-	-	7,000	723,000	2,999,000
合計			3,973,000	9,620,000	1,371,000	2,911,000	720,000	12	20,864,000	-	-	-	-	-	-	-	16,636,000	0	37,500,000
				【個人】 S I : 25万円 S II : 20万円 A : 15万円 B : 10万円 C : 6万円 【チーム】 対応ランク別	個人 S I 相当: 18.7万円 S II 相当: 15万円 A相当: 11.2万円 B相当: 7.5万円 C相当: 4.5万円		SS1年生1名につき、 60,000円(重点強化指定 選手C相当)			別紙にて算出した合 計点数(100点上限)	・20名未満: 20点 ・20-40名未満: 40点 ・40-60名未満: 60点 ・60-80名未満: 80点 ・80名以上: 100点 (平成30年5月現在)				強化指定競技に指 定されない場合 は、構成員の数を 基に配分 ・1~5名: 5万円 ・6~10名: 10万円 ・11~20名: 15万円 ・21名以上: 20万円	切捨分は共通経 費へ組入	共通経費へ組入 (1,000円未満切 捨)	平成31年度予算 37,500,000	

平成28年度国際競技大会特別強化指定選手

番号	学年	所属団体名	H27年度主な競技成績		対象となる大会		選考基準	支援額
				グレード		グレード		
1	2年	体操競技部	チャレンジカップ(カタール大会)出場	G2	オリンピック及びチャレンジカップ	G1 G2	3-(1)	200,000
2	3年	柔道部	ユニバーシアード競技大会柔道競技女子団体1位	G2	グランドスラム東京	G2	3-(1)	200,000
3	2年	柔道部	全日本学生柔道優勝大会1位	G5	グランドスラム東京	G2	3-(3)	200,000
4	4年	自転車競技部	2015年全日本大学対抗選手権個人追い抜き1位	G5	世界大学選手権	G2	3-(3)	200,000
5	4年	自転車競技部	2015年世界ロードレース選手権出場(U23ロード)	G2	世界ロードレース選手権	G2	3-(1)	200,000
6	4年	自転車競技部	世界大学選手権出場	G2	世界大学選手権	G2	3-(1)	200,000
7	3年	自転車競技部	第56回全日本学生選手権トラック自転車競技大会 マディソン1位	G5	世界ロードレース選手権	G2	3-(3)	200,000
8	3年	自転車競技部	2015年全日本トラック選手権1kmタイムトライアル1位	G4	アジアトラック選手権	G2	3-(2)	200,000
9	3年	自転車競技部	2015年全日本トラック選手権チームスプリント1位	G4	アジアトラック選手権	G2	3-(2)	200,000
10	3年	自転車競技部	2015年アジア選手権ロードU23ロードタイムトライアル3位	G2	世界ロードレース選手権	G2	3-(1)	200,000
11	2年	自転車競技部	2016年世界大学選手権出場	G2	世界大学選手権	G2	3-(1)	200,000
12	2年	自転車競技部	2016年世界大学選手権出場	G2	世界大学選手権	G2	3-(1)	200,000

平成29年度国際競技大会特別強化指定選手の選考について

番号	競技名	申請資格となる大会名等		対象となる国際大会等		支援額	
			選考基準	グレード	グレード		
1	サッカー	-	-	-	ユニバーシアード 平成29年8月(チャイニーズタイペイ)	G2	71,000
2	体操競技	ハンガリー国際 平成28年10月(ハンガリー) 鉄棒・2位	3-(1)	G2	ユニバーシアード 平成29年8月(チャイニーズタイペイ)	G2	362,000
3	体操競技	第71回全日本体操競技選手権大会 平成29年4月(東京) あん馬・4位	3-(2)	G4	世界選手権 平成29年10月(カナダ)	G1	196,000
4	体操競技	第7回アジア体操競技選手権大会 平成29年5月(タイ)	3-(1)	G2	第7回アジア体操競技選手権大会 平成29年5月(タイ)	G2	196,000
5	柔道	全日本学生柔道優勝大会 平成27年6月(東京都) 女子団体3人制・優勝	3-(3)	G5	グランドスラム東京 平成29年12月(東京)	G2	197,000
6	カヌー	2016カヌースプリントワールドカップ 平成28年5月 出場	3-(1)	G2	カヌースプリント アジア選手権大会 平成29年10月(中国)	G2	350,000
合計							1,372,000

平成 30 年度国際競技大会特別強化指定選手について

番号	競技名	競技成績 【大会ランク】	目標となる国際大会 【大会ランク】	支援額 【支援期間】
1	体操競技	<ul style="list-style-type: none"> ・ FIG チャレンジカップ・フランス大会 平成 29 年 9 月(フランス) あん馬 1 位【G2】 ・ 豊田国際体操競技大会 平成 29 年 12 月(愛知県) あん馬 1 位【G2】 ・ FIG 種目別ワールドカップ・バクー大会 平成 30 年 3 月(アゼルバイジャン) あん馬 3 位【G2】 	第 32 回オリンピック競技大会(2020/東京) 平成 32 年 7 月【G1】	1,000,000 円 【*平成 30, 31 年度】
2	自転車競技	<ul style="list-style-type: none"> ・ UCI トラック世界選手権 平成 30 年 2 月(オランダ) 団体追抜 9 位【G1】 	第 32 回オリンピック競技大会(2020/東京) 平成 32 年 7 月【G1】	1,800,000 円 【*平成 30, 31 年度】
3	剣道	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全日本女子学生剣道優勝大会 平成 27 年 11 月(愛知県) 優勝【G5】 ・ 全日本女子学生選手権大会 平成 29 年 7 月(大阪府) 2 位【G5】 ・ 全日本女子学生剣道優勝大会 平成 29 年 11 月(愛知県) 2 位【G5】 	第 17 回世界剣道選手権大会 平成 30 年 9 月(韓国)【G1】	200,000 円 【平成 30 年度】

* 番号 1, 2 における支援期間は平成 30, 31 年度の 2 年間であるが、改めて平成 31 年度に選考を実施

令和元年度国際競技大会特別強化指定選手について

番号	課外活動 団体名	競技成績 【大会ランク】	目標となる国際大会 【大会ランク】	支援額 【支援期間】
1	体操競技部	2018FIG 種目別チャレンジカップ・ スロベニア大会 ・平成 30 年 6 月(スロベニア) ・鉄棒 1 位【G2】	第 32 回オリンピック競技大会(2020/ 東京) ・令和 2 年 7 月【G1】	2,400,000 円 【令和元年度】
2	自転車競技部	第 18 回アジア競技大会 ・平成 30 年 8 月(インドネシア) ・チームパーシュート 3 位【G2】	2019 年度 UCI トラックサイクリング ワールドカップ ・開催期間・場所未定【G2】 * 例年 3-6 カ国開催	300,000 円 【令和元年度】
		2018 ジュニアアジア自転車競技選手権 大会 ・平成 30 年 2 月(マレーシア) ・オムニアム 1 位【G3】	2019 年度 UCI トラックサイクリング ワールドカップ ・開催期間・場所未定【G2】 * 例年 3-6 カ国開催	
3	剣道部	第 17 回世界剣道選手権大会 ・平成 30 年 9 月(韓国) ・個人 3 位【G1】	第 18 回世界剣道選手権大会 ・令和 3 年(フランス)【G1】	300,000 円 【令和元年度】

平成31年度

冠スポーツ奨学金証書授与式を開催

4月5日、平成31年度鹿屋体育大学入学式終了後に、本財団は冠スポーツ奨学金証書授与式を行いました。

この奨学金は、企業、団体等の方々からご寄附をいただき、その名称を冠した奨学金として、優れた競技成績や国際交流の推進に資する個人や団体に給付しているものです。

式では、平成31年度の冠スポーツ奨学金給付者の企業19社の代表者から風呂井敬本財団理事長へ奨学金目録が授与された後、**全日本又は国際試合などで活躍している将来有望な学生5名に対し**風呂井理事長から冠スポーツ奨学金証書の授与が行われました。

多額のご寄附をいただきました企業等の皆様から感謝いたします。

冠スポーツ奨学金給付者

企業等名	代表者名
医療法人秋津会徳田脳神経外科病院	理事長 徳田 元 様
おおうら皮ふ科	院長 寺崎 祐太郎 様
カイコー株式会社	代表取締役社長 宝地 雅浩 様
株式会社鹿児島銀行	取締役頭取 上村 基宏 様
株式会社かのや寿自動車学校	代表取締役 水口 拓己 様
株式会社きたやま	代表取締役社長 北山 勉 様
旭信興産株式会社	代表取締役 大石 博資 様
小鹿酒造株式会社	代表取締役 日高 裕二 様
有限会社寿スポーツ	代表取締役 二川 健治 様
サツマガス工業株式会社	代表取締役 宮 蘭春 人 様
株式会社新生社印刷	代表取締役 岡崎 洋人 様
医療法人青仁会池田病院	理事長 池田 徹 様
大海酒造株式会社	代表取締役 河野 直正 様
有限会社風呂井会計	代表取締役 風呂井 敬 様
株式会社松下ホテル大蔵	代表取締役 松下 れい子 様
株式会社丸屋	代表取締役社長 家迫 崇史 様
株式会社三井	代表取締役 郷原 忠男 様
公益財団法人ミズノスポーツ振興財団	会長 水野 明人 様
株式会社ミズホ商会	代表取締役 田中 丈尋 様

冠スポーツ奨学金対象学生

漕艇部	四方 美咲
自転車競技部	橋本 優弥
体操競技部	杉野 正堯
剣道部	妹尾 舞香
〃	村田 桃子



冠スポーツ奨学金証書授与式の様子



奨学金証書授与



編集・発行／
公益財団法人 鹿屋体育大学
体育・スポーツ振興教育財団
〒891-2393 鹿屋市白水町1番地
鹿屋体育大学内
0994-46-4827 (直)
編集兼発行人 風呂井 敬

平成三十一年度 鹿屋体育大学入学式告辞

学長 松下 雅雄



本日ここに、鹿屋体育大学体育学部一九九名、体育学研究科二十七名、合計二六名の新入生を迎え、平成三十一年度の入学式を挙行できますことは、国立大学法人鹿屋体育大学の教職員ならびに在学生にとりまして、大きな喜びとするところであります。また、今日までご子弟を温かく見守り、ご支援を惜しまれなかつた保護者の皆様をはじめ、関係の皆様方に、心からお祝いを申し上げます。

大学における学びは、ただ知識を習得するだけでなく、自分の考え方を作るところです。これからの社会においては、知識を手に入れるだけでなく、自分の考えを持つこと、人の意見をしっかりと聞き、その考えを伝えることが必要になります。教師や友人との対話を大事にしてください。

さて、我が国では「スポーツを通じて幸福で、豊かな生活を営むことは全ての国民の権利である」ことを法律として謳っております。我が国のスポーツは学校を中心として発展してきました。そして、本年三月には、大学スポーツを振興し、卓越性を有する人材を育成するため、大学横断的かつ競技横断的統括組織の「大学スポーツ協会(UNIVERSITY SPO)ユニバスが発足しました。

スポーツの健全な発展と推進のためには、科学的に裏付けられた理論と方法に従った指導が必要不可欠になります。鹿屋体育大学はスポーツに関する科学をさらに発展させる使命を持った大学であり、その研究成果を基に教育し、社会に貢献することを目的とした大学であります。

鹿屋体育大学体育学部の教育目標は、「スポーツ・健康・武道分野における研究成果に基づいた教育を通じて、国民のスポーツ、健康及び武道を適切に指導し得る専門的知識、実践力・実技力や指導力を有し、広く国際社会で活躍できる有為な人材の養成」です。

鹿屋体育大学が養成するスポーツ・健康・武道分野に関する専門職として、大きくは四つあります。一つ目は、指導者です。学校の体育教師や、スポーツクラブのインストラクター、トップアスリートを目指すスポーツコーチなどです。二つ目は、スポーツを科学する研究者です。具体的には、自然科学的手法を用いた領域、人文社会科学的手法を用いた領域、コーチングやトレーニングなどのスポーツ実践研究の領域を専門とする研究者です。三つ目は、国や地方のスポーツ行政の専門家です。そして、四つ目は、プロスポーツ選手やオリンピック選手などトップアスリートであります。

平成31年度 鹿屋体育大学入学式

最後にりましたが、本日ここに、ご来賓の皆様ならびに保護者の皆様方にご列席を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。そして、新入生の皆さんへの期待と激励を述べて、告辞いたします。

ミズノスポーツ振興財団は、スポーツの振興・普及を目指し、スポーツを愛する人たちを応援しています。

スポーツを愛するすべての人とともに

鹿児島県知事表彰「スポーツ部門」 鹿屋体育大学から10名受賞!!

国際大会・全国大会等で顕著な成績を収め、鹿児島県のスポーツ振興に貢献した選手を表彰する鹿児島県知事表彰「スポーツ部門」で、鹿屋体育大学からも学生10名が表彰されました。表彰式は2月4日に鹿児島県庁で行われ、三反園訓知事から受賞者へ表彰状等とともに激励の言葉が贈られました。一部の学生は授業等が重なり残念ながら出席できませんでした。出席した学生らは受賞の喜びを胸に、誇らしげな表情で表彰を受けていました。

受賞式後カヌー部元キャプテンで4年生の柚野秀斗さんは「鹿児島県知事表彰という素晴らしい賞をいただくことができて大変うれしく思います。大学への入学を機に鹿児島県にやってきました4年間、鹿屋体育大学の皆さんを始め地域の皆さんに支えられてこのような結果を残すことができたのは、今年度の鹿屋国体では、カヌー部の後輩のみなさんが先頭に立って結果を残してほしいと思います」と感謝の言葉と後輩への期待の言葉を述べました。

【鹿児島県知事表彰「スポーツ部門」受賞者（本学関係）】		
区分	種目	氏名 功績
個人	カヌー	柚野 秀斗 2019年度日本カヌースプリント選手権大会男子カナディアンフォア500m 優勝
		森 愛奈 2019年度日本カヌースプリント選手権大会女子カヤックペア200m 500m 優勝
		林田 薫 2019年度日本カヌースプリント選手権大会女子カヤックペア500m 優勝
		田原 瞭太 2019年度日本カヌースプリント選手権大会男子カヤックペア200m 優勝
		橋 沼新 2019年度日本カヌースプリント選手権大会男子カヤックペア200m 優勝
	ボート	四方 美咲 第97回全日本選手権大会ボート競技軽量級女子ダブルスカル 優勝
		谷口 智佳子 第97回全日本選手権大会ボート競技軽量級女子ダブルスカル 優勝
団体	カヌー	田原 瞭太 2019年度日本カヌースプリント選手権大会男子カヤックフォア500m 優勝
		森黒 開
		安藤 久騎
		下川 拓樹



受賞したカヌー部のみなさんと顧問教員の中村夏実准教授



編集・発行／
公益財団法人 鹿屋体育大学
体育・スポーツ振興教育財団
〒891-2393 鹿児島市白水町1番地
鹿屋体育大学内
0994-46-4827 (直)
編集兼発行人 風呂井 敬

令和元年度 「競技成績報告会」を開催

鹿屋体育大学及び本財団主催による令和元年度「競技成績報告会」を2月13日に開催しました。この会は、令和元年度に優秀な成績を収めた学生の健闘を讃えるとともに、日頃ご声援をいただいている学内外の支援者に対し、感謝の意をこめて競技成績の報告を行うために毎年開催されているものです。

会は松下雅雄学長から日ごろのご支援への感謝と学生のさらなる活躍を期待する挨拶が始まりました。続いて中野健作鹿屋市教育委員会教育長による来賓挨拶では、2020東京オリンピックやかごしま国体での活躍に期待を込めて、2024アテネオリンピックの競泳800m自由形で金メダルに輝いた柴田亜衣さんの当時のエピソードが紹介され、学生たちへエールを送りました。最後に主催者である当財団風呂井敬理事長から乾杯の発声で和やかな雰囲気の中、懇親会がスタートしました。乾杯後に

鹿屋体育大学及び本財団主催による令和元年度「競技成績報告会」を2月13日に開催しました。この会は、令和元年度に優秀な成績を収めた学生の健闘を讃えるとともに、日頃ご声援をいただいている学内外の支援者に対し、感謝の意をこめて競技成績の報告を行うために毎年開催されているものです。

会は松下雅雄学長から日ごろのご支援への感謝と学生のさらなる活躍を期待する挨拶が始まりました。続いて中野健作鹿屋市教育委員会教育長による来賓挨拶では、2020東京オリンピックやかごしま国体での活躍に期待を込めて、2024アテネオリンピックの競泳800m自由形で金メダルに輝いた柴田亜衣さんの当時のエピソードが紹介され、学生たちへエールを送りました。最後に主催者である当財団風呂井敬理事長から乾杯の発声で和やかな雰囲気の中、懇親会がスタートしました。乾杯後に

は、各課外活動団体顧問から今年度の成績と選手紹介があり、出席者からの盛大な拍手であたたかな祝福をうけました。

また、スポーツ分野の成績が顕著で鹿屋市の名声を高めた者に贈られる鹿屋市スポーツ奨励金の贈呈式も執り行われ、受賞者を代表して杉野正亮さん（スポーツ総合課程3年・体操競技部）に中野教育長から奨励金の目録が手渡されました。

その後、学生を代表して杉野さんからご支援いただいている皆様への感謝の気持ちや今後の抱負などが語られ、最後に、瓜田吉久学長補佐（競技方向上担当）から出席者への謝辞が述べられ、盛会のうちに終了しました。



競技成績優秀者の紹介



学生代表のあいさつ



一般社団法人デンソーバーナインスカラシップの今村潤代表理事を囲んで



中野教育長からの鹿屋市スポーツ奨励金贈呈

令和元年度に日本でラグビーワールドカップが開かれた。日本ではメジャーに注目された。世界も驚いたが日本でも驚愕ものだ。なんかわれい。息子が鹿屋大OBの先生にラグビー部へ勧誘されてから、子どもたちの試合を見るたびにルールを覚え、拮抗した試合は特に応援し甲斐があった。1年前に社会人の試合を見る機会があった。会場はガラガラで動員された保護者も多かった。ラグビー界では有名な選手もいたらしいが、当時は知る由もない。でも試合は拮抗して、簡単には得点させない。ディフェンスに感服し、ラグビーの醍醐味を感じた。▼ワールドカップは当初からテレビ中継を楽しみにしていた。ルールがなんとなく判ってきたので、解説のあるテレビ観戦でも十分楽しめた。先述の先生は現地観戦のために多額の出費をしたようだ。高校の県大会では見るものがなかった「ジャッカル」はこの時知った技である。昔には「わかファン」が一気に急増した。ようやくラグビーが人気スポーツへ変わった。▼息子は進学後もラグビーをするつもりらしい。彼は代表選手ではなく競技そのものに魅力を感じている。そして僕にはこれからもビール片手に観戦する。▼今回人気が出たラグビーには、今後も魅力あるスポーツであり続けてほしい。鹿屋大OBの先生には感謝でいっぱいだ。(K・T)

令和元年度に日本でラグビーワールドカップが開かれた。日本ではメジャーに注目された。世界も驚いたが日本でも驚愕ものだ。なんかわれい。息子が鹿屋大OBの先生にラグビー部へ勧誘されてから、子どもたちの試合を見るたびにルールを覚え、拮抗した試合は特に応援し甲斐があった。1年前に社会人の試合を見る機会があった。会場はガラガラで動員された保護者も多かった。ラグビー界では有名な選手もいたらしいが、当時は知る由もない。でも試合は拮抗して、簡単には得点させない。ディフェンスに感服し、ラグビーの醍醐味を感じた。▼ワールドカップは当初からテレビ中継を楽しみにしていた。ルールがなんとなく判ってきたので、解説のあるテレビ観戦でも十分楽しめた。先述の先生は現地観戦のために多額の出費をしたようだ。高校の県大会では見るものがなかった「ジャッカル」はこの時知った技である。昔には「わかファン」が一気に急増した。ようやくラグビーが人気スポーツへ変わった。▼息子は進学後もラグビーをするつもりらしい。彼は代表選手ではなく競技そのものに魅力を感じている。そして僕にはこれからもビール片手に観戦する。▼今回人気が出たラグビーには、今後も魅力あるスポーツであり続けてほしい。鹿屋大OBの先生には感謝でいっぱいだ。(K・T)

令和元年度に日本でラグビーワールドカップが開かれた。日本ではメジャーに注目された。世界も驚いたが日本でも驚愕ものだ。なんかわれい。息子が鹿屋大OBの先生にラグビー部へ勧誘されてから、子どもたちの試合を見るたびにルールを覚え、拮抗した試合は特に応援し甲斐があった。1年前に社会人の試合を見る機会があった。会場はガラガラで動員された保護者も多かった。ラグビー界では有名な選手もいたらしいが、当時は知る由もない。でも試合は拮抗して、簡単には得点させない。ディフェンスに感服し、ラグビーの醍醐味を感じた。▼ワールドカップは当初からテレビ中継を楽しみにしていた。ルールがなんとなく判ってきたので、解説のあるテレビ観戦でも十分楽しめた。先述の先生は現地観戦のために多額の出費をしたようだ。高校の県大会では見るものがなかった「ジャッカル」はこの時知った技である。昔には「わかファン」が一気に急増した。ようやくラグビーが人気スポーツへ変わった。▼息子は進学後もラグビーをするつもりらしい。彼は代表選手ではなく競技そのものに魅力を感じている。そして僕にはこれからもビール片手に観戦する。▼今回人気が出たラグビーには、今後も魅力あるスポーツであり続けてほしい。鹿屋大OBの先生には感謝でいっぱいだ。(K・T)



ミズノスポーツ振興財団は、
スポーツの振興・普及を目指し、
スポーツを愛する人たちを応援しています。

公益財団法人
ミズノスポーツ振興財団



2020年
ミズノスポーツ振興財団は、
創立50周年を迎えました。

以下、本学 WEB サイト掲載記事

<https://www.nifs-k.ac.jp/information/2018-03-27-07-14-49.html>

リオ五輪日本代表選手激励会を開催しました

公開日:2016年06月06日



6月3日、本学水野講堂において、**本学の学生・卒業生でリオデジャネイロオリンピックに出場する選手の激励会**が行われました。

この激励会は、**自転車競技の塚越さくら選手（2014年3月卒業、2016年3月修士課程修了）及び内間康平選手（2011年3月卒業）、競泳の松田丈志選手（大学院博士後期課程3年）、以上3選手のオリンピックでの活躍を祈念して行われたものです。**

当日は、オリンピック本番に向けた強化練習参加等のため塚越選手のみのお出席でしたが、出場を決めた選手たちに向けて、会場に集まった学内外約500人の関係者及び来賓から、祝福の聲が寄せられました。

式は、福永哲夫学長（代理：瓜田吉久競技力向上委員会委員長）の挨拶に始まり、中西茂鹿屋市長（代理：福井逸人副市長）の来賓挨拶、3選手の紹介が行われました。続いて、選手挨拶が行われ、塚越選手から「オリンピックという大舞台に立てるのも、この素晴らしい大隅半島の環境や鹿屋体育大学で出会えた素晴らしい仲間がいたからこそ。オリンピックでは今までで最高のパフォーマンスを発揮できるよう本番までしっかりトレーニングを積んでいきたい。」と、感謝の言葉とオリンピックに向けての抱負が述べられました。

その後、鹿屋市体育協会、公益財団法人鹿屋体育大学体育・スポーツ振興教育財団及び鹿屋体育大学同窓会からの奨学金等授与、本学自転車競技部の後輩からの花束贈呈、学生歌の斉唱と続き、最後は田中俊實地域づくり交流実行委員会会長による万歳三唱で盛況のうちに激励会が締めくくられました。



以下、本学 WEB サイト掲載記事

<https://www.nifs-k.ac.jp/information/ob-2020-k4-501.html>

祝！ OB 宮田悠佑さん 東京 2020 オリンピック カヌー K4-500m男子代表選手に内定！

公開日:2019年09月05日

本学卒業生の宮田悠佑さん（現職：和歌山県教育センター学びの丘／平成26年3月卒）が、東京2020オリンピックのカヌーK4-500m男子の日本代表選手に内定しました。

宮田さんは「8月に行われたカヌースプリント世界選手権にて、500m4人乗りに出場し、全体で12位アジア大陸で1位となり東京五輪出場を決める事ができました。五輪出場が懸かるレベルの高い試合の中で、無事出場枠を取る事ができ、ホッとしています。一年後の五輪本番に向けて、一つでも上の順位がとれるようにしっかりと準備をし、自分の競技人生の中で最高のパフォーマンスを発揮し、多くの皆様に感動を与えられるように頑張りたいと思います」と喜びを語られました。

母校として心からの祝福と益々のご活躍を祈念しております！！



平成28年度競技成績一覧(全国大会入賞8位以上)

競技名	大会 ランク	大会名	種目	成績
カヌー	G5	第52回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-1 200m	1位
カヌー	G5	第52回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-1 500m	4位
剣道	G5	第64回全日本学生剣道選手権大会	男子	3位
自転車	G2	UCIトラックワールドカップ第1戦	女子チームパーシュート	9位
自転車	G2	UCIトラックワールドカップ第1戦	男子チームスプリント	12位
自転車	G2	UCIトラックワールドカップ第2戦	男子チームスプリント	13位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	女子エリート 3km個人パーシュート	5位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	女子エリート 3km個人パーシュート	8位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	女子エリート ポイントレース	5位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	女子エリート ポイントレース	7位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子エリート 1kmタイムトライアル	2位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子エリート 1kmタイムトライアル	7位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子エリート スクラッチ	7位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子エリート スプリント	5位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子エリート スプリント	6位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子エリート チーム・スプリント	1位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子エリート チーム・スプリント	1位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子エリート チーム・スプリント	1位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子エリート チームパーシュート	7位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子エリート チームパーシュート	7位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子エリート チームパーシュート	7位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子エリート チームパーシュート	7位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子エリート チームパーシュート	7位
自転車	G4	第85回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子マディソン	2位
自転車	G5	第18回全日本学生選手権クリテリウム大会	女子	2位
自転車	G5	第18回全日本学生選手権クリテリウム大会	女子	5位
自転車	G5	第28回全日本学生個人ロードタイムトライアル自転車競技大会	女子	3位
自転車	G5	第28回全日本学生個人ロードタイムトライアル自転車競技大会	女子	6位
自転車	G5	第28回全日本学生個人ロードタイムトライアル自転車競技大会	男子	2位
自転車	G5	第28回全日本学生個人ロードタイムトライアル自転車競技大会	男子	6位
自転車	G5	第32回全日本学生選手権個人ロードレース大会	女子	5位
自転車	G5	第32回全日本学生選手権個人ロードレース大会	女子	7位
自転車	G5	第32回全日本学生選手権個人ロードレース大会	男子	1位
自転車	G5	第55回全日本学生選手権チーム・ロード・タイムトライアル大会	男子	1位
自転車	G5	第55回全日本学生選手権チーム・ロード・タイムトライアル大会	男子	1位
自転車	G5	第55回全日本学生選手権チーム・ロード・タイムトライアル大会	男子	1位
自転車	G5	第55回全日本学生選手権チーム・ロード・タイムトライアル大会	男子	1位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	女子500mタイムトライアル	8位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	女子500mタイムトライアル	4位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	女子500mタイムトライアル	7位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	女子インディヴィデュアル・パーシュート	2位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	女子インディヴィデュアル・パーシュート	3位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	女子スプリント	1位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	女子スプリント	4位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	女子ポイントレース	2位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	女子ポイントレース	5位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子ケイリン	3位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子ケイリン	5位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子ケイリン	7位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子スプリント	2位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子スプリント	4位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子タンDEM・スプリント	7位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子タンDEM・スプリント	7位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子ポイントレース	3位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子ポイントレース	5位
自転車	G5	第57回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子マディソン	4位
自転車	G5	第85回全日本自転車競技選手権大会ロード・レース	男子U23	2位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子20kmポイントレース	1位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子20kmポイントレース	2位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子20kmポイントレース	3位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子20kmポイントレース	4位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子3kmインディヴィデュアルパーシュート	1位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子3kmインディヴィデュアルパーシュート	3位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子500mタイムトライアル	4位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子500mタイムトライアル	6位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子スプリント	2位

平成28年度競技成績一覧(全国大会入賞8位以上)

競技名	大会 ランク	大会名	種目	成績
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子チームスプリント	2位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子チームスプリント	2位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子個人ロードレース	2位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子個人ロードレース	3位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子個人ロードレース	4位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子1kmタイムトライアル	1位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子1kmタイムトライアル	5位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子40kmポイントレース	4位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子4kmインディヴィデュアルパーシュート	3位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子ケイリン	3位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子スクラッチ	6位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子スプリント	7位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子スプリント	8位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子タンデムスプリント	2位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子タンデムスプリント	2位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子チームスプリント	1位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子チームスプリント	1位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子チームスプリント	1位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子チームパーシュート	2位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子チームパーシュート	2位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子チームパーシュート	2位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子チームパーシュート	2位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子個人ロードレース	5位
自転車	G5	文部科学大臣杯第72回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子個人ロードレース	7位
柔道	G5	平成28年度全日本学生柔道体重別選手権大会	女子78kg超級	8位
水泳	G4	ジャパンオープン2016	女子200m背泳ぎ	8位
水泳	G5	第92回日本学生選手権水泳競技大会	女子200m背泳ぎ	7位
体操競技	G2	チャレンジカップハンガリー大会	あん馬	7位
体操競技	G2	チャレンジカップハンガリー大会	鉄棒	2位
体操競技	G2	チャレンジカップハンガリー大会	平行棒	5位
体操競技	G2	チャレンジカップブラジル大会	あん馬	3位
体操競技	G2	チャレンジカップブラジル大会	つり輪	4位
体操競技	G4	第70回全日本体操競技種目別選手権大会	あん馬	5位
体操競技	G4	第70回全日本体操団体選手権	男子	8位
体操競技	G5	第70回全日本学生体操競技選手権大会	あん馬	2位
体操競技	G5	第70回全日本学生体操競技選手権大会	あん馬	7位
体操競技	G5	第70回全日本学生体操競技選手権大会	男子団体種目別つり輪	4位
体操競技	G5	第70回全日本学生体操競技選手権大会	つり輪	8位
体操競技	G5	第70回全日本学生体操競技選手権大会	跳馬	4位
体操競技	G5	第70回全日本学生体操競技選手権大会	鉄棒	6位
テニス	G5	平成28年度全日本大学対抗テニス王座決定試合	男子	8位
なぎなた	G5	第55回全日本学生なぎなた選手権大会	演技の部	3位
なぎなた	G5	第55回全日本学生なぎなた選手権大会	演技の部	3位
なぎなた	G5	第55回全日本学生なぎなた選手権大会	個人の部	3位
なぎなた	G5	第55回全日本学生なぎなた選手権大会	女子	1位
バレーボール	G2	2016東アジア地区女子選手権大会	女子	2位
バレーボール	G5	第63回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会	女子	1位
ビーチバレー	G5	第28回全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会	男子	8位
ビーチバレー	G5	第28回全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会	男子	8位
ボート	G5	第43回全日本大学選手権大会	女子シングルスカル	4位
ヨット	G5	第25回全日本学生女子ヨット選手権大会	国際470級	6位
ヨット	G5	第25回全日本学生女子ヨット選手権大会	国際470級	6位
ヨット	G5	第81回全日本学生ヨット選手権大会	国際470級	7位
ヨット	G5	第81回全日本学生ヨット選手権大会	国際470級	7位
ヨット	G5	第81回全日本学生ヨット選手権大会	国際470級	7位
ヨット	G5	第81回全日本学生ヨット選手権大会	国際470級	7位
陸上競技	G4	第100回日本陸上競技選手権大会	男子十種競技	8位
陸上競技	G5	2016日本学生陸上競技個人選手権大会	女子800m	5位
陸上競技	G5	2016日本学生陸上競技個人選手権大会	女子砲丸投	8位
陸上競技	G5	2016日本学生陸上競技個人選手権大会	女子棒高跳	2位
陸上競技	G5	2016日本学生陸上競技個人選手権大会	男子円盤投	7位
陸上競技	G5	2016日本学生陸上競技個人選手権大会	男子三段跳	8位
陸上競技	G5	天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子1000m	1位
陸上競技	G5	天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子800m	6位
陸上競技	G5	天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子やり投	8位

平成28年度競技成績一覧(全国大会入賞8位以上)

競技名	大会 ランク	大会名	種目	成績
陸上競技	G5	天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子棒高跳	4位
陸上競技	G5	天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子三段跳	8位
陸上競技	G5	天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子十種競技	5位

※は外部団体選手との出場を示す。

団体名	大会 ランク	大会名	種目	成績
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	C-4 1000m	1位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	C-4 1000m	1位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-1 200m	5位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-1 4×500mリレー	4位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-1 4×500mリレー	4位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-1 4×500mリレー	4位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-1 4×500mリレー	4位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-2 1000m	5位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-2 1000m	5位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-2 200m	3位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-2 200m	3位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-4 1000m	4位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-4 1000m	4位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-4 1000m	4位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-4 1000m	4位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-1 200m	1位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-1 200m	2位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-1 4×500mリレー	5位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-1 4×500mリレー	5位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-1 4×500mリレー	5位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-1 4×500mリレー	5位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-1 500m	5位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-1 500m	8位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-2 200m	7位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-2 200m	7位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-2 500m	1位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-2 500m	1位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-4 500m	1位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-4 500m	1位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-4 500m	1位
カヌー一部	G5	第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会	WK-4 500m	1位
サッカー部	G2	第29回ユニバーシアード競技大会		1位
テニス部	G5	平成29年度全日本学生室内テニス選手権大会	女子シングルス	8位
テニス部	G5	平成29年度全日本大学対抗テニス王座決定試合	男子団体	8位
テニス部	G5	平成29年度全日本大学対抗テニス王座決定試合	女子団体	8位
なぎなた部	G5	第56回全日本学生なぎなた選手権大会	団体試合競技	1位
なぎなた部	G5	第56回全日本学生なぎなた選手権大会	個人試合競技	3位
なぎなた部	G5	第56回全日本学生なぎなた選手権大会	演技競技	8位
なぎなた部	G5	第56回全日本学生なぎなた選手権大会	演技競技	8位
ヨット部	G5	第26回全日本学生女子ヨット選手権大会	470級	8位
ヨット部	G5	第26回全日本学生女子ヨット選手権大会	470級	8位
ヨット部	G5	第26回全日本学生女子ヨット選手権大会	470級	8位
剣道部	G4	第65回全日本剣道選手権大会	男子個人	8位
剣道部	G5	第65回全日本学生剣道選手権大会	男子個人	1位
剣道部	G5	第51回全日本女子学生剣道選手権大会	女子個人	2位
剣道部	G5	第51回全日本女子学生剣道選手権大会	女子個人	8位
剣道部	G5	第36回全日本女子学生剣道優勝大会	女子団体	2位
剣道部	G5	第65回全日本学生剣道優勝大会	男子団体	2位
自転車競技部	G1	2017トラック世界選手権大会	4kmチームパーシュート	11位
自転車競技部	G2	UCI TRACK CYCLING WORLD CUP 第2戦	女子チームパーシュート	3位
自転車競技部	G2	UCI TRACK CYCLING WORLD CUP 第3戦	女子マディソン	5位
自転車競技部	G2	UCI TRACK CYCLING WORLD CUP 第3戦	女子チームパーシュート	4位
自転車競技部	G2	UCI TRACK CYCLING WORLD CUP 第4戦	女子マディソン	4位

団体名	大会 ランク	大会名	種目	成績
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	スプリント	6位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	1kmタイムトライアル	3位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	ポイントレース	5位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	スクラッチ	7位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	チームスプリント	4位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	チームスプリント	4位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	チームスプリント	4位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	500mタイムトライアル	6位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	スプリント	2位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	スプリント	7位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	ポイントレース	2位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	ポイントレース	5位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	ポイントレース	8位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	3kmインディヴィデュアル・パーシュート	2位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	3kmインディヴィデュアル・パーシュート	3位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	チームスプリント	3位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	チームスプリント	3位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	個人ロードレース	2位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	個人ロードレース	2位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	個人ロードレース	3位
柔道部	G4	平成29年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	女子70kg級	8位
柔道部	G5	全日本学生柔道体重別選手権大会	女子78kg級	4位
柔道部	G5	全日本学生柔道体重別選手権大会	女子52kg級	8位
柔道部	G5	全日本学生柔道体重別選手権大会	女子48kg級	8位
柔道部	G5	全日本学生柔道体重別選手権大会	男子100kg級	4位
柔道部	G5	全日本学生柔道体重別選手権大会	男子60kg級	8位
柔道部	G5	全日本学生柔道体重別選手権大会	男子60kg級	8位
女子バスケットボール部	G5	第69回全日本大学バスケットボール選手権大会	女子	4位
女子バレーボール部	G4	第72回国民体育大会	成年女子	7位
女子バレーボール部	G5	第64回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会	女子	4位
水泳部	G2	FINAスイミングワールドカップ2017東京大会	男子1500m自由形	16位
水泳部	G4	ジャパンオープン2017	男子1500m自由形	8位
水泳部	G4	第93回日本選手権水泳競技大会	男子1500m自由形	6位
水泳部	G5	第93回日本学生選手権水泳競技大会	男子1500m自由形	4位
水泳部	G5	第93回日本学生選手権水泳競技大会	女子200m背泳ぎ	7位
漕艇部	G3	2017年アジアジュニア選手権	女子ダブルスカル	2位
体操競技部	G2	第7回アジア体操競技選手権大会	男子個人総合	9位
体操競技部	G2	第7回アジア体操競技選手権大会	男子跳馬	3位
体操競技部	G2	第7回アジア体操競技選手権大会	団体	3位
体操競技部	G2	FIGチャレンジカップハンガリー大会	種目別 ゆか	1位
体操競技部	G2	FIGチャレンジカップハンガリー大会	種目別 あん馬	2位
体操競技部	G2	FIGチャレンジカップハンガリー大会	種目別 鉄棒	2位
体操競技部	G2	FIGチャレンジカップフランス大会	種目別あん馬	1位
体操競技部	G2	FIGチャレンジカップフランス大会	種目別鉄棒	5位
体操競技部	G2	2017チャレンジカップコト布斯大会	床	7位
体操競技部	G2	2018FIG種目別ワールドカップ・バクー大会(AGF杯)	あん馬	3位
体操競技部	G2	2018FIG種目別ワールドカップ・バクー大会(AGF杯)	吊り輪	6位
体操競技部	G2	2018FIG種目別ワールドカップ・バクー大会(AGF杯)	平行棒	4位
体操競技部	G4	第56回NHK杯体操	男子あん馬	5位
体操競技部	G4	第71回全日本体操種目別選手権	個人あん馬	6位
体操競技部	G4	第71回全日本体操種目別選手権	個人跳馬	3位
体操競技部	G4	第71回全日本体操種目別選手権	個人平行棒	5位
体操競技部	G4	第71回全日本体操団体選手権大会	団体	4位

団体名	大会 ランク	大会名	種目	成績
体操競技部	G5	第71回全日本学生体操競技選手権大会	個人総合	6位
体操競技部	G5	第71回全日本学生体操競技選手権大会	個人総合	8位
体操競技部	G5	第71回全日本学生体操競技選手権大会	ゆか	6位
体操競技部	G5	第71回全日本学生体操競技選手権大会	ゆか	8位
体操競技部	G5	第71回全日本学生体操競技選手権大会	あん馬	2位
体操競技部	G5	第71回全日本学生体操競技選手権大会	あん馬	4位
体操競技部	G5	第71回全日本学生体操競技選手権大会	あん馬	7位
体操競技部	G5	第71回全日本学生体操競技選手権大会	つり輪	8位
体操競技部	G5	第71回全日本学生体操競技選手権大会	跳馬	1位
体操競技部	G5	第71回全日本学生体操競技選手権大会	跳馬	7位
体操競技部	G5	第71回全日本学生体操競技選手権大会	鉄棒	2位
体操競技部	G5	第71回全日本学生体操競技選手権大会	鉄棒	3位
体操競技部	G5	第71回全日本学生体操競技選手権大会	鉄棒	4位
体操競技部	G5	第71回全日本学生体操競技選手権大会	男子団体総合	3位
男子バレーボール部	G5	第29回全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会		4位
男子バレーボール部	G5	第29回全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会		4位
陸上競技部	G4	第101回日本陸上競技選手権大会	男子三段跳び	3位
陸上競技部	G5	天皇賜盃第86回日本学生陸上競技対抗選手権大会	男子砲丸投げ	7位
陸上競技部	G5	天皇賜盃第86回日本学生陸上競技対抗選手権大会	女子棒高跳び	5位
陸上競技部	G5	2017日本学生陸上競技個人選手権	男子三段跳び	2位
陸上競技部	G5	2017日本学生陸上競技個人選手権	男子800m	1位

※は外部団体選手との出場を示す。

平成30年度競技成績一覧(全国大会入賞8位以上)

団体名	大会 ランク	大会名	種目	成績
陸上競技部	G4	第102回日本陸上競技選手権大会	男子 800m	4位
陸上競技部	G4	第102回日本陸上競技選手権大会	男子 三段跳	7位
陸上競技部	G5	2018日本学生陸上競技個人選手権大会	女子 1500m	2位
陸上競技部	G5	2018日本学生陸上競技個人選手権大会	女子 1500m	6位
陸上競技部	G5	2018日本学生陸上競技個人選手権大会	男子 800m	2位
陸上競技部	G5	天皇賜盃第87回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子 1500m	3位
陸上競技部	G5	天皇賜盃第87回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子 1500m	7位
陸上競技部	G5	天皇賜盃第87回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子 1500m	5位
テニス部	G5	H30年度全日本大学対抗テニス王座決定試合	女子 団体	8位
テニス部	G5	H30年度全日本大学対抗テニス王座決定試合	男子 団体	8位
テニス部	G5	平成30年度 全日本学生室内テニス選手権大会(55回)	女子 シングルス	3位
サッカー部	G5	2018年度第42回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント		8位
体操競技部	G2	2018FIG種目別チャレンジカップスロベニア大会	男子 あん馬	5位
体操競技部	G2	2018FIG種目別チャレンジカップスロベニア大会	男子 鉄棒	1位
体操競技部	G2	第18回アジア競技大会	男子 団体	2位
体操競技部	G4	第72回全日本体操種目別選手権	男子 あん馬	5位
体操競技部	G4	第72回全日本体操種目別選手権	男子 つり輪	5位
体操競技部	G4	第72回全日本体操種目別選手権	男子 跳馬	2位
体操競技部	G4	第72回全日本体操種目別選手権	男子 跳馬	7位
体操競技部	G4	第72回全日本体操団体選手権	団体	8位
体操競技部	G4	第73回国民体育大会	成年男子	4位
体操競技部	G5	第72回全日本学生体操競技選手権大会	男子種目別 跳馬	2位
体操競技部	G5	第72回全日本学生体操競技選手権大会	男子種目別 鉄棒	3位
体操競技部	G5	第72回全日本学生体操競技選手権大会	男子種目別 鉄棒	6位
体操競技部	G5	第72回全日本学生体操競技選手権大会	男子種目別 平行棒	6位
体操競技部	G5	第72回全日本学生体操競技選手権大会	男子種目別 あん馬	1位
体操競技部	G5	第72回全日本学生体操競技選手権大会	男子種目別 つり輪	2位
体操競技部	G5	第72回全日本学生体操競技選手権大会	男子個人総合	5位
体操競技部	G5	第72回全日本学生体操競技選手権大会	男子個人総合	7位
体操競技部	G5	第72回全日本学生体操競技選手権大会	男子団体	3位
水泳部	G2	FINAスイミングワールドカップ2018東京大会	女子 800m自由形	20位
水泳部	G2	FINAスイミングワールドカップ2018東京大会	男子 1500m自由形	10位
水泳部	G2	FINAスイミングワールドカップ2018東京大会	男子 1500m自由形	7位
水泳部	G2	FINAスイミングワールドカップ2018東京大会	男子 400m個人メドレー	18位
水泳部	G2	FINAスイミングワールドカップ2018東京大会	男子 400m個人メドレー	25位
水泳部	G4	ジャパンオープン2018(50m)	男子 1500m自由形	7位
水泳部	G4	ジャパンオープン2018(50m)	男子 800m自由形	8位
水泳部	G4	第94回[2018年度]日本選手権水泳競技大会	男子 1500m自由形	7位
水泳部	G5	第94回日本学生選手権水泳競技大会	女子 200m背泳ぎ	8位
水泳部	G5	第94回日本学生選手権水泳競技大会	男子 400m個人メドレー	5位
水泳部	G5	第94回日本学生選手権水泳競技大会	男子 1500m自由形	4位
水泳部	G5	第94回日本学生選手権水泳競技大会	男子 1500m自由形	5位
水泳部	G5	第94回日本学生選手権水泳競技大会	男子 400m自由形	3位
柔道部	G4	平成30年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	女子 63kg級	5位
柔道部	G4	平成30年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	男子 60kg級	5位
柔道部	G4	平成30年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	男子 73kg級	7位
柔道部	G5	平成30年度全日本学生柔道体重別選手権大会	女子 70kg級	5位
柔道部	G5	平成30年度全日本学生柔道体重別選手権大会	男子 100kg級	5位
柔道部	G5	平成30年度全日本学生柔道体重別選手権大会	男子 60kg級	3位
柔道部	G5	平成30年度全日本学生柔道体重別選手権大会	男子 73kg級	5位
剣道部	G1	第17回世界剣道選手権大会	女子 団体	1位
剣道部	G4	第57回全日本女子剣道選手権大会	女子 個人	3位
剣道部	G5	第37回全日本女子学生剣道優勝大会	女子 団体	1位
剣道部	G5	第52回全日本女子学生剣道選手権大会	女子 個人	8位
剣道部	G5	第66回全日本学生剣道選手権大会	男子 個人	8位
ヨット部	G5	第27回全日本学生女子ヨット選手権大会	470級	3位
ヨット部	G5	第27回全日本学生女子ヨット選手権大会	470級	3位
漕艇部	G4	第40回全日本軽量級選手権大会	女子 シングルスカル	4位
漕艇部	G4	第40回全日本軽量級選手権大会	男子 ダブルスカル	8位

団体名	大会 ランク	大会名	種目	成績
漕艇部	G4	第40回全日本軽量級選手権大会	男子 ダブルスカル	8位
漕艇部	G4	第96回全日本選手権大会	女子 ダブルススカル	2位
漕艇部	G4	第96回全日本選手権大会	女子 ダブルススカル	2位
漕艇部	G5	第45回全日本大学選手権大会	女子 シングルスカル	4位
自転車競技部	G2	2018世界大学自転車競技選手権	女子 ロードレース	13位
自転車競技部	G2	2018世界大学自転車競技選手権	男子 ロードレース	12位
自転車競技部	G2	2018世界大学自転車競技選手権	男子 ロードレース	31位
自転車競技部	G2	2018世界大学自転車競技選手権	男子 ロードレース	出場
自転車競技部	G2	2019トラックアジア選手権大会	女子 ポイントレース	出場
自転車競技部	G2	UCI TRACK CYCLING WORLD CUP 第2戦	女子 チームパーシュート	7位
自転車競技部	G2	UCI TRACK CYCLING WORLD CUP 第3戦	女子 チームパーシュート	15位
自転車競技部	G2	UCI TRACK CYCLING WORLD CUP 第3戦	女子 マディソン	14位
自転車競技部	G2	UCI TRACK CYCLING WORLD CUP 第5戦	女子 チームパーシュート	6位
自転車競技部	G2	UCI TRACK CYCLING WORLD CUP 第6戦	女子 チームパーシュート	14位
自転車競技部	G2	第18回アジア競技大会	女子 チームパーシュート	3位
自転車競技部	G2	第18回アジア競技大会	女子 マディソン	4位
自転車競技部	G3	2018年UCIジュニアトラック世界選手権大会	男子 1kmタイムトライアル	18位
自転車競技部	G4	第87回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース	女子 チームスプリント	3位
自転車競技部	G4	第87回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース	女子 マディソン	1位
自転車競技部	G4	第87回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子 エリート1kmタイムトライアル	6位
自転車競技部	G4	第87回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子 エリート4km個人パーシュート	8位
自転車競技部	G4	第87回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子 エリートチーム・スプリント	4位
自転車競技部	G4	第87回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子 エリートチーム・スプリント	4位
自転車競技部	G4	第87回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子 エリートチーム・スプリント	4位
自転車競技部	G4	第87回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子 エリートチームパーシュート	5位
自転車競技部	G4	第87回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子 エリートチームパーシュート	5位
自転車競技部	G4	第87回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子 エリートチームパーシュート	5位
自転車競技部	G4	第87回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子 エリートチームパーシュート	5位
自転車競技部	G4	第87回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子 マディソン	8位
自転車競技部	G4	第87回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	男子 マディソン	8位
自転車競技部	G5	全日本学生選手権 第30回全日本学生個人ロードタイムトライアル	女子 個人タイムロードトライアル	3位
自転車競技部	G5	全日本学生選手権 第30回全日本学生個人ロードタイムトライアル	女子 個人タイムロードトライアル	4位
自転車競技部	G5	全日本学生選手権 第30回全日本学生個人ロードタイムトライアル	男子 個人タイムロードトライアル	6位
自転車競技部	G5	第20回全日本学生選手権クリテリウム大会	女子 24km	3位
自転車競技部	G5	第20回全日本学生選手権クリテリウム大会	男子 40km	4位
自転車競技部	G5	第34回全日本学生選手権個人ロードレース大会	男子 個人ロードレース	1位
自転車競技部	G5	第57回全日本学生選手権チーム・ロードタイムトライアル大会	男子 チームロードタイムトライアル	6位
自転車競技部	G5	第57回全日本学生選手権チーム・ロードタイムトライアル大会	男子 チームロードタイムトライアル	6位
自転車競技部	G5	第57回全日本学生選手権チーム・ロードタイムトライアル大会	男子 チームロードタイムトライアル	6位
自転車競技部	G5	第57回全日本学生選手権チーム・ロードタイムトライアル大会	男子 チームロードタイムトライアル	6位
自転車競技部	G5	第59回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	女子 500mタイムトライアル	3位
自転車競技部	G5	第59回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	女子 スプリント	2位
自転車競技部	G5	第59回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	女子 スプリント	3位
自転車競技部	G5	第59回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	女子 ポイントレース	6位
自転車競技部	G5	第59回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子 4kmインディヴィデュアル・パーシュート	4位
自転車競技部	G5	第59回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子 4kmインディヴィデュアル・パーシュート	5位
自転車競技部	G5	第59回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子 ケイリン	3位
自転車競技部	G5	第59回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子 スプリント	5位
自転車競技部	G5	第59回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子 スプリント	7位
自転車競技部	G5	第59回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子 タンデム・スプリント	8位
自転車競技部	G5	第59回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子 タンデム・スプリント	8位
自転車競技部	G5	第59回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	男子 ポイントレース	1位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯 第74回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子 3kmインディヴィデュアルパーシュート	1位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯 第74回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子 3kmインディヴィデュアルパーシュート	6位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯 第74回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子 500mタイムトライアル	5位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯 第74回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子 オムニウム	1位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯 第74回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子 スプリント	1位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯 第74回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子 スプリント	4位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯 第74回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子 チームスプリント	4位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯 第74回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子 チームスプリント	4位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯 第74回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子 マディソン	2位
自転車競技部	G5	文部科学大臣杯 第74回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	女子 マディソン	2位

団体名	大会 ランク	大会名	種目	成績
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	C-2 1000m	7位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	C-2 200m	1位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	C-2 200m	1位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	C-2 200m	4位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	C-2 200m	4位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	C-2 200m	6位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	C-2 200m	6位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	C-4 1000m	2位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	C-4 1000m	2位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	C-4 1000m	2位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	C-4 1000m	2位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-1 200m	3位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-1 Relay4 × 500m	3位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-1 Relay4 × 500m	3位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-1 Relay4 × 500m	3位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-1 Relay4 × 500m	3位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-2 200m	3位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-2 200m	3位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-2 200m	5位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-2 200m	5位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-4 1000m	4位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-4 1000m	4位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-4 1000m	4位
カヌー一部	G5	第54回全日本学生カヌースプリント選手権大会	K-4 1000m	4位
なぎなた部	G5	第57回全日本学生なぎなた選手権大会	演技競技	8位
なぎなた部	G5	第57回全日本学生なぎなた選手権大会	演技競技	8位
なぎなた部	G5	第57回全日本学生なぎなた選手権大会	試合競技(個人の部)	1位
なぎなた部	G5	第57回全日本学生なぎなた選手権大会	試合競技(団体の部)	2位
男子バレーボール部	G5	ビーチバレージャパンカレッジ 2018	男子	4位
男子バレーボール部	G5	ビーチバレージャパンカレッジ 2018	男子	4位

※は外部団体選手との出場を示す。

令和元年度 競技成績一覧(全国大会入賞8位以上)

団体名	大会 ランク	大会名	種目	成績
陸上競技部	G5	2019日本学生陸上競技個人選手権大会	女子 やり投	6位
陸上競技部	G5	2019日本学生陸上競技個人選手権大会	男子 800m	2位
陸上競技部	G5	2019日本学生陸上競技個人選手権大会	男子 砲丸投	7位
陸上競技部	G5	天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子 1500m	5位
陸上競技部	G5	天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子 走幅跳	7位
陸上競技部	G5	天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子 1500m	2位
陸上競技部	G5	天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子 800m	5位
陸上競技部	G5	天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子 砲丸投	4位
テニス部	G5	2019年度全日本学生室内テニス選手権大会	女子 シングルス	2位
テニス部	G5	2019年度全日本学生室内テニス選手権大会	女子 ダブルス	8位
テニス部	G5	2019年度全日本学生室内テニス選手権大会	女子 ダブルス	8位
テニス部	G5	2019年度全日本大学対抗テニス王座決定試合	女子 団体	8位
テニス部	G5	2019年度全日本大学対抗テニス王座決定試合	男子 団体	8位
女子バスケットボール部	G5	第71回全日本大学バスケットボール選手権大会	女子	5位
体操競技部	G2	2019FIG種目別チャレンジカップ・ギマランイス大会	男子 あん馬	1位
体操競技部	G2	2019FIG種目別チャレンジカップ・ギマランイス大会	男子 ゆか	1位
体操競技部	G2	2019FIG種目別チャレンジカップ・ギマランイス大会	男子 鉄棒	8位
体操競技部	G4	第73回全日本体操種目別選手権	男子 あん馬	1位
体操競技部	G4	第73回全日本体操種目別選手権	男子 跳馬	8位
体操競技部	G4	第73回全日本体操種目別選手権	男子 鉄棒	5位
体操競技部	G4	第74回国民体育大会	男子 団体	7位
体操競技部	G5	第73回全日本学生体操競技選手権大会	男子 個人総合	7位
体操競技部	G5	第73回全日本学生体操競技選手権大会	男子 種目別 あん馬	1位
体操競技部	G5	第73回全日本学生体操競技選手権大会	男子 種目別 あん馬	7位
体操競技部	G5	第73回全日本学生体操競技選手権大会	男子 種目別 跳馬	6位
体操競技部	G5	第73回全日本学生体操競技選手権大会	男子 種目別 鉄棒	7位
体操競技部	G5	第73回全日本学生体操競技選手権大会	男子 種目別 平行棒	8位
体操競技部	G5	第73回全日本学生体操競技選手権大会	男子 団体総合	5位
水泳部	G4	ジャパンオープン2019	女子200m 背泳ぎ	6位
水泳部	G5	第95回日本学生選手権水泳競技大会	女子200m 背泳ぎ	6位
ウインドサーフィン部	G5	2019年度 全日本学生ボードセーリング選手権	テク/293クラス (レディースクラス)	8位
柔道部	G4	2019年度講道館杯全日本体重別選手権大会	男子 60kg級	3位
柔道部	G5	2019年度全日本学生柔道体重別選手権大会	女子 70kg級	3位
柔道部	G5	2019年度全日本学生柔道体重別選手権大会	男子 60kg級	5位
剣道部	G5	第38回全日本女子学生剣道優勝大会	女子 団体	3位
剣道部	G5	第53回全日本女子学生剣道選手権大会	女子 個人	8位
剣道部	G5	第53回全日本女子学生剣道選手権大会	女子 個人	8位
漕艇部	G3	2019年 U23 世界選手権	女子軽量級シングルスカル	13位
漕艇部	G4	第97回全日本選手権大会	女子軽量級ダブルスカル	1位
漕艇部	G4	第97回全日本選手権大会	女子軽量級ダブルスカル	1位
漕艇部	G5	第46回全日本大学選手権大会	女子シングルスカル	8位
漕艇部	G5	第46回全日本大学選手権大会	女子ダブルスカル	7位
漕艇部	G5	第46回全日本大学選手権大会	女子ダブルスカル	7位
自転車競技部	G4	第88回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース	男子 エリート1kmタイムトライアル	6位
自転車競技部	G4	第88回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース	男子 エリート1kmタイムトライアル	8位
自転車競技部	G4	第88回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース	男子 エリートチームスプリント	3位
自転車競技部	G4	第88回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース	男子 エリートチームスプリント	3位

団体名	大会 ランク	大会名	種目	成績
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	女子 WK-2 500m	1位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	女子 WK-2 500m	1位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-1 1000m	2位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-1 1000m	8位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-1 200m	1位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-1 200m	5位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-2 1000m	2位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-2 1000m	2位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-2 1000m	7位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-2 1000m	7位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-2 200m	1位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-2 200m	1位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-2 200m	7位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-2 200m	7位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-2 200m	8位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-2 200m	8位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-4 1000m	1位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-4 1000m	1位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-4 1000m	1位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 C-4 1000m	1位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-1 1000m	4位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-1 200m	2位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-1 200m	7位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-1 Relay 4×500m	2位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-1 Relay 4×500m	2位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-1 Relay 4×500m	2位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-1 Relay 4×500m	2位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-2 200m	1位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-2 200m	1位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-2 200m	5位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-2 200m	5位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-4 1000m	5位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-4 1000m	5位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-4 1000m	5位
力又一部	G5	第55回全日本学生カヌースプリント選手権大会	男子 K-4 1000m	5位
なぎなた部	G5	第58回全日本学生なぎなた選手権大会	演技競技	8位
なぎなた部	G5	第58回全日本学生なぎなた選手権大会	演技競技	8位
なぎなた部	G5	第58回全日本学生なぎなた選手権大会	試合競技(個人の部)	1位
なぎなた部	G5	第58回全日本学生なぎなた選手権大会	試合競技(団体の部)	2位
セパタクロ一部	G5	第19回全日本セパタクロージュニア選手権大会	男子団体	8位

※は外部団体選手との出場を示す。

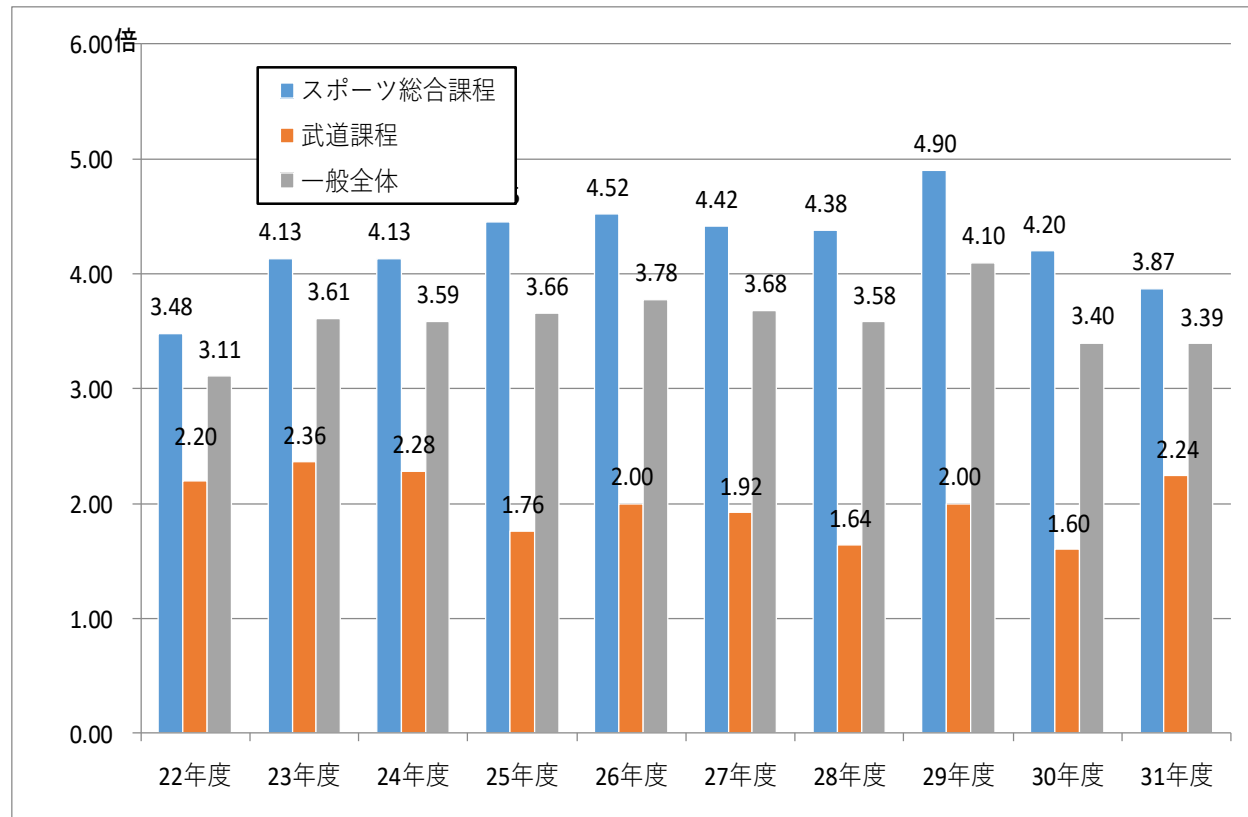
体育学部入学者選抜に係る 追跡調査結果について

アドミッションセンター

目次

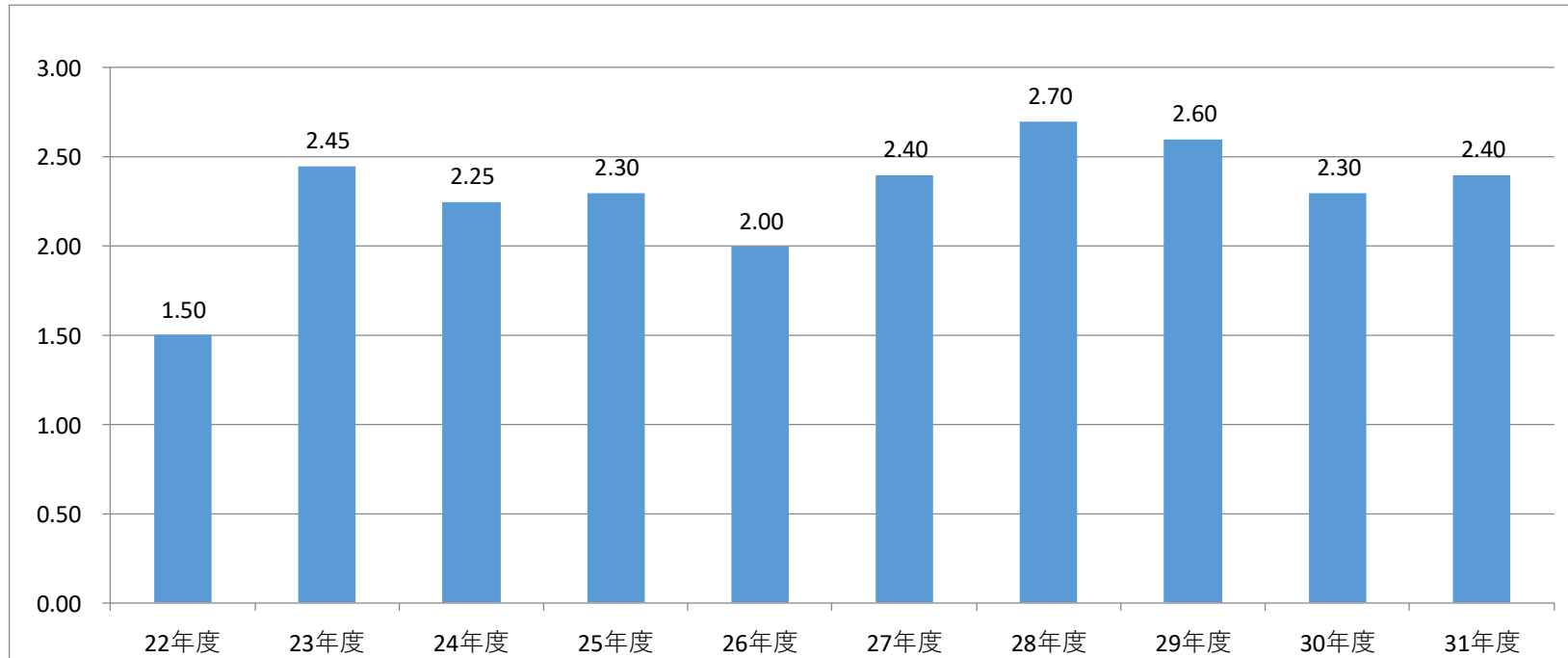
1. 志願者に関するデータ(1～5)
 - 一般入試の志願倍率の推移
 - 3年次編入学試験の志願倍率の推移
 - 一般入試地区別志願者数推移
 - 一般入試実技競技種目における志願者の割合の推移(スポーツ総合課程)
 - 一般入試実技競技種目における志願者の割合の推移(武道課程)
2. 入学者に関するデータ(6～10)
 - 入学者の高校評定平均値の推移
 - 一般入試合格者のセンター試験平均点推移
 - 大学入試センター試験点数分布状況(スポーツ総合課程入学者)
 - 大学入試センター試験点数分布状況(武道課程入学者)
 - 一般入試入学者(スポーツ総合課程)の実技検査種目別所属体育系課外活動団体
3. 入学後の競技成績に関するデータ(11～12)
 - A0・推薦入試による入学者の学長表彰受賞者数
 - 学長表彰受賞者の入学者に対する割合(A0入試、推薦入試)
4. 入学後の学業成績に関するデータ(13～15)
 - 学業成績(修得済科目数に対するA評価の割合)の比較
 - 入試区分別退学率(平成20年度以降)
 - 4年次における卒業不可率(平成19年度以降入学者)

一般入試の志願倍率の推移



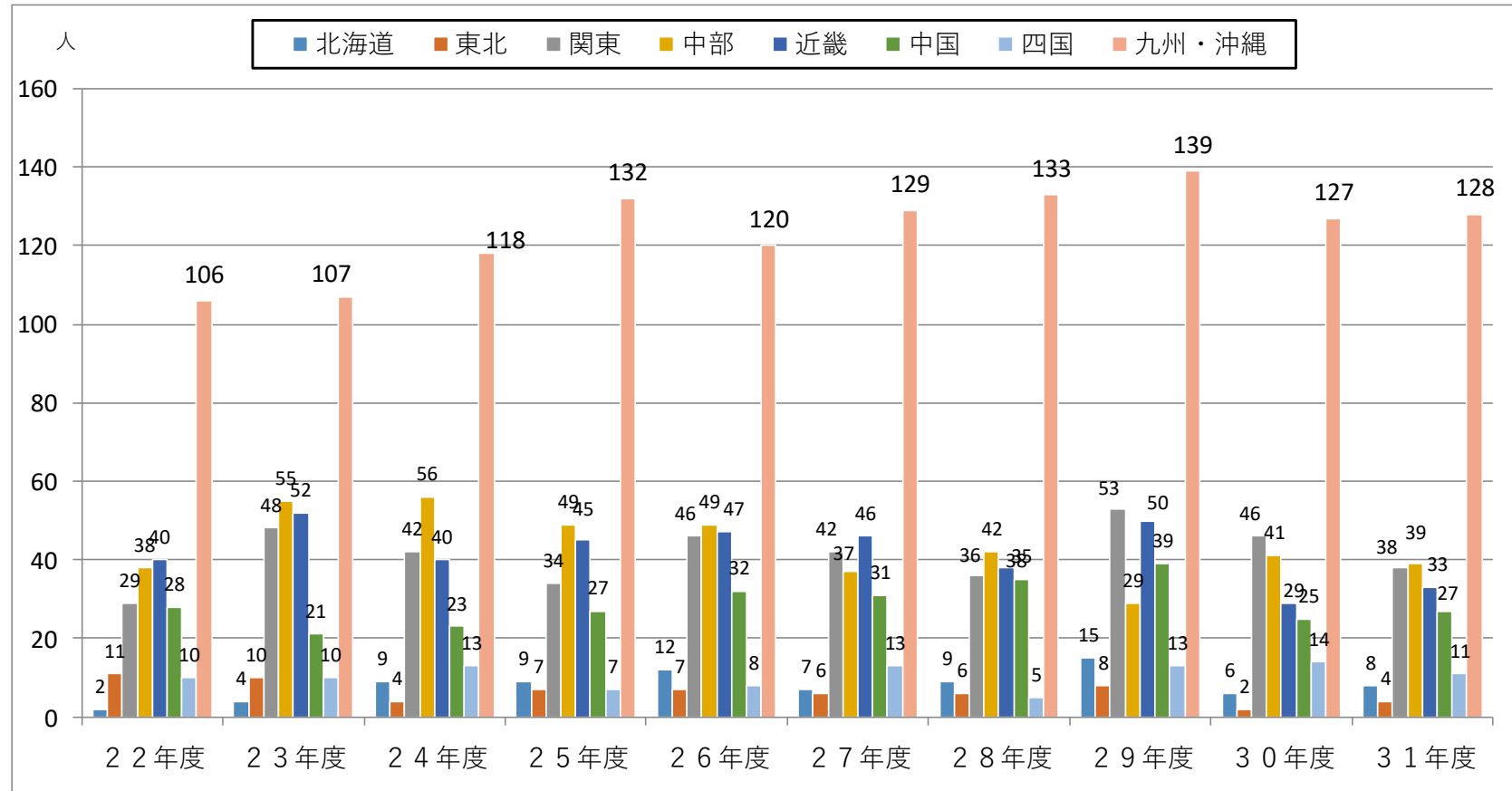
○平成31年度入試の志願倍率は、前年度と比較して、スポーツ総合課程は低下、武道課程は上昇した。

3年次編入学試験の志願倍率の推移



○3年次編入学試験の平成31年度入試の志願倍率は、前年度からやや上昇した。

一般入試地区別志願数推移



○例年、九州・沖縄地区の志願者が130名前後の高い数値で推移している。

一般入試実技競技種目における志願者の割合の推移 (スポーツ総合課程)

競技種目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
陸上競技	17.70%	12.90%	7.70%	11.20%	9.60%	12.10%	11.80%	18.00%	16.80%	18.10%
器械運動	0.50%	0.80%	1.60%	1.50%	1.10%	0.80%	2.30%	1.40%	1.20%	0.00%
水泳(競泳)	4.30%	4.00%	6.50%	4.90%	6.60%	5.30%	2.30%	6.10%	7.60%	5.17%
バスケットボール	13.40%	12.50%	10.10%	9.40%	7.70%	11.70%	9.10%	8.10%	8.80%	7.33%
サッカー	15.30%	14.20%	17.70%	19.50%	24.00%	18.00%	22.00%	18.00%	18.00%	14.66%
テニス	3.80%	4.00%	4.80%	3.70%	1.80%	4.20%	5.70%	3.40%	2.80%	2.59%
バレーボール	4.30%	3.60%	4.40%	3.70%	4.10%	2.30%	3.80%	2.70%	3.60%	3.88%
ヨット	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.40%	0.43%
ボードセーリング	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
ボート	1.00%	0.00%	1.20%	1.90%	0.40%	0.40%	0.80%	0.30%	0.00%	0.86%
カヌー	0.50%	0.00%	1.20%	0.40%	0.40%	1.10%	0.00%	0.70%	1.60%	0.00%
運動能力検査	39.20%	48.00%	44.80%	43.80%	44.30%	44.10%	42.20%	41.30%	39.20%	46.98%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

○運動能力検査を選択する志願者が前年度より増加し、約半数となっている。

一般入試実技競技種目における志願者の割合の推移 (武道課程)

競技種目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
柔道	27.30%	30.50%	35.10%	18.20%	28.00%	25.00%	31.70%	33.30%	25.00%	25.00%
剣道	72.70%	69.50%	64.90%	81.80%	72.00%	75.00%	68.30%	66.70%	75.00%	75.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

○平成31年度は、昨年度同様、柔道25%、剣道75%であった。

入学者の高校評定平均値の推移

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
AO入試	3.8	3.9	3.8	4.1	4.2	4.0	3.7	3.8	4.0	4.4
推薦入試	4.1	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1
一般入試	3.7	3.8	3.7	3.8	3.7	3.8	3.9	3.9	4.0	3.9

〇AO入試の評定平均値が例年より高かった。推薦入試、一般入試は例年並みの数値であった。

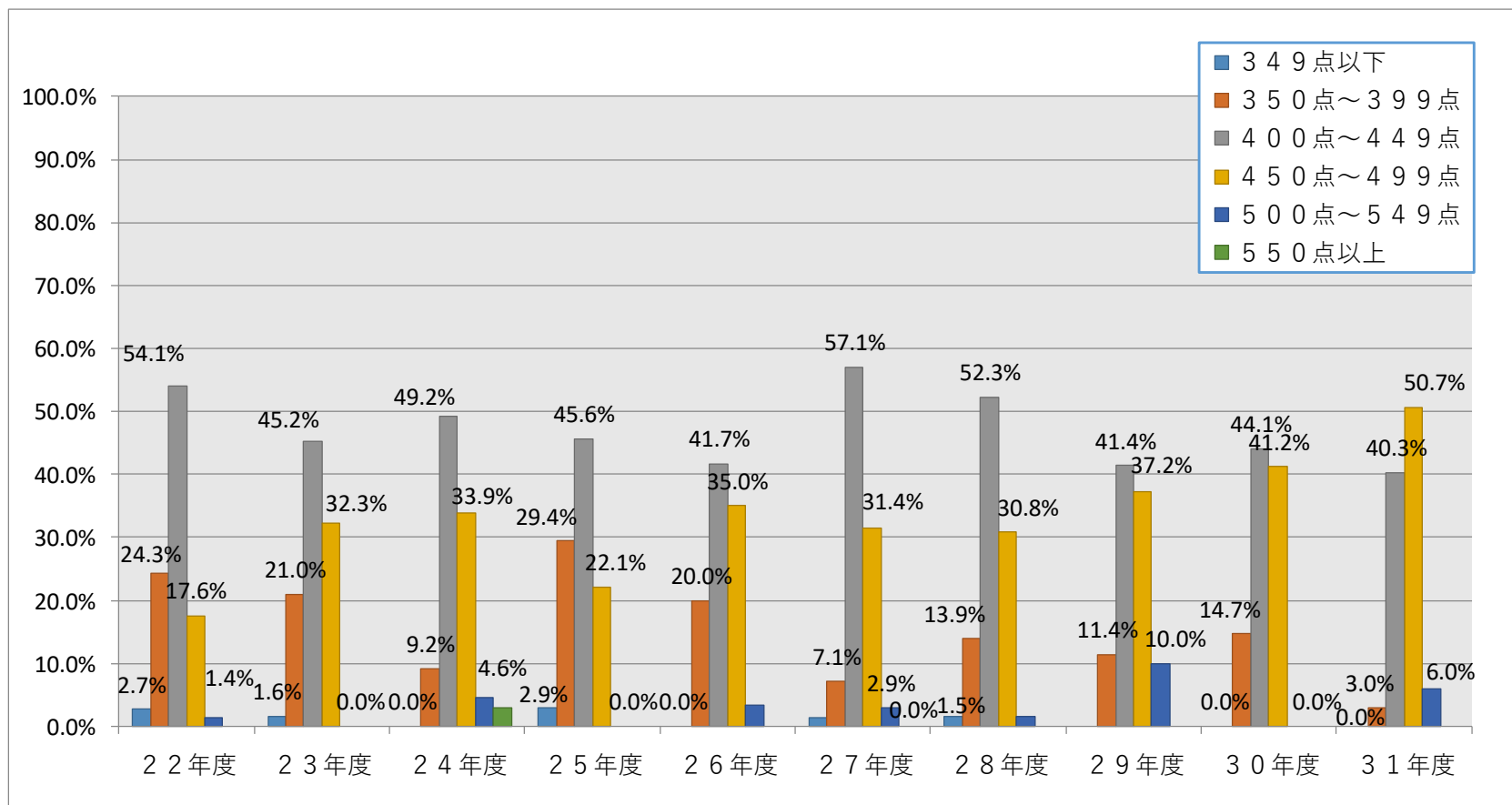
一般入試合格者のセンター試験平均点推移

満点：600点

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
スポーツ 総合	420.0	430.6	452.0	418.9	437.1	435.9	433.6	448.6	437.1	451.9
武道	373.3	389.4	405.0	369.0	383.2	378.9	379.9	385.7	358.1	388.0
全体	407.3	418.5	431.9	406.1	421.2	419.2	418.1	430.2	413.5	433.2

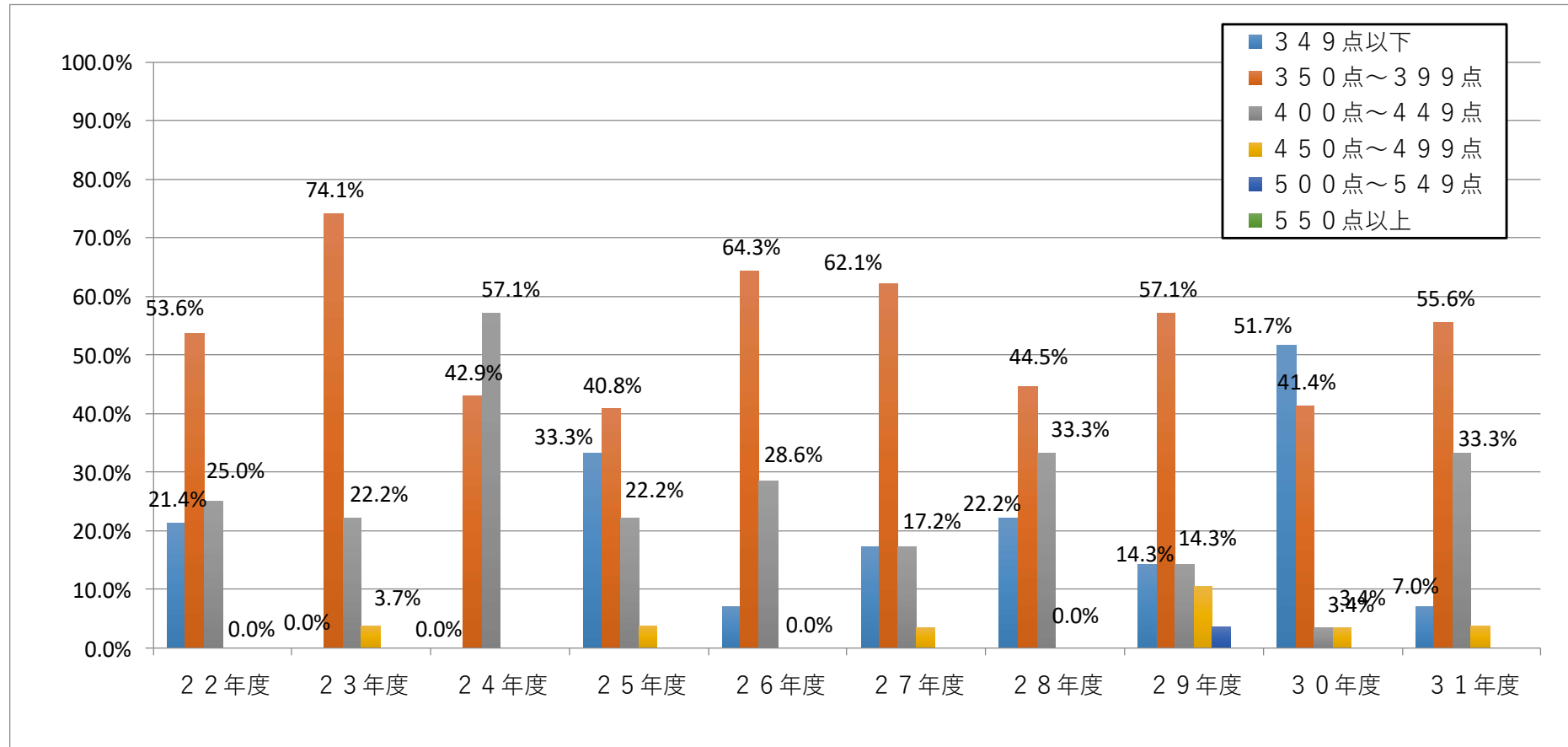
○平成31年度は、スポーツ総合課程、武道課程とも前年度から上昇した。

大学入試センター試験点数分布状況(スポーツ総合課程入学者)



○31年度は450～499点の層が増加し、全体の半分近くとなっている。

大学入試センター試験点数分布状況(武道課程入学者)

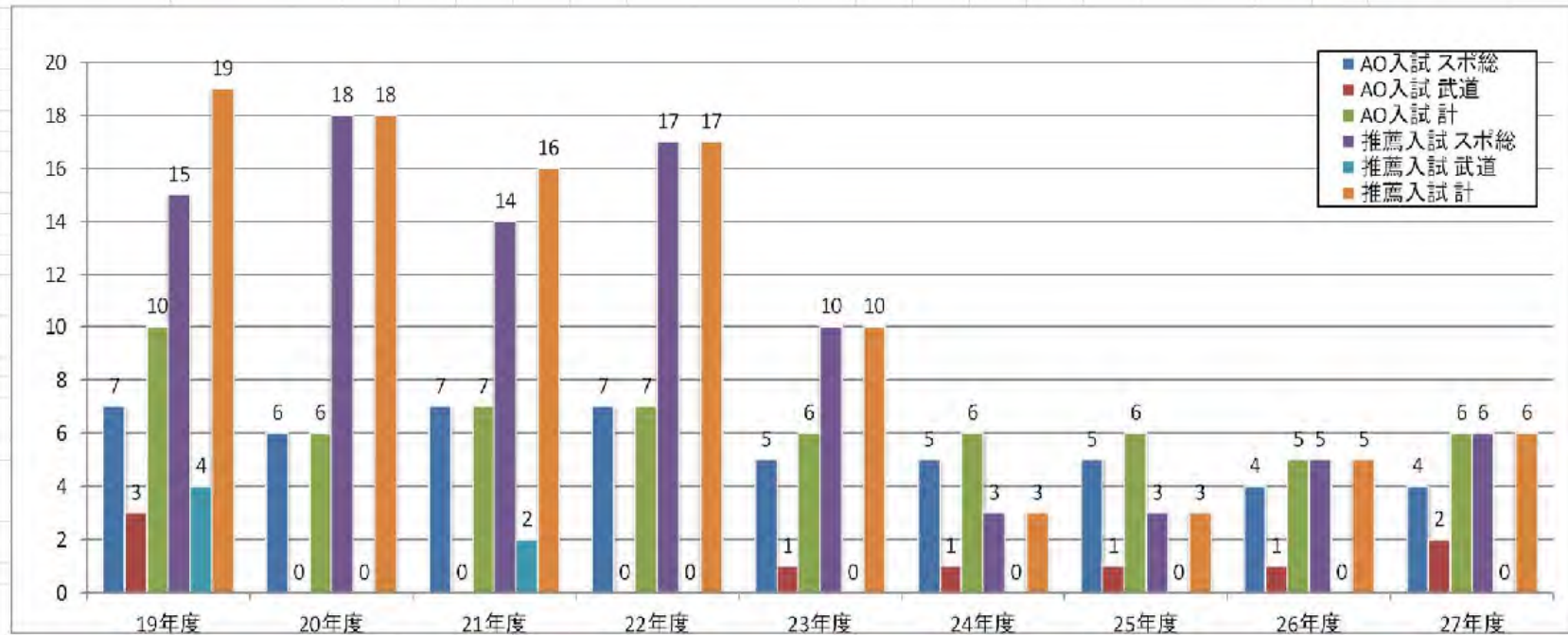


○31年度は前年度と比較して、400～449点の層が大幅に増加した。

A0・推薦入試合格者の入学後の学長表彰受賞者数

※複数回受賞者も1名として計上

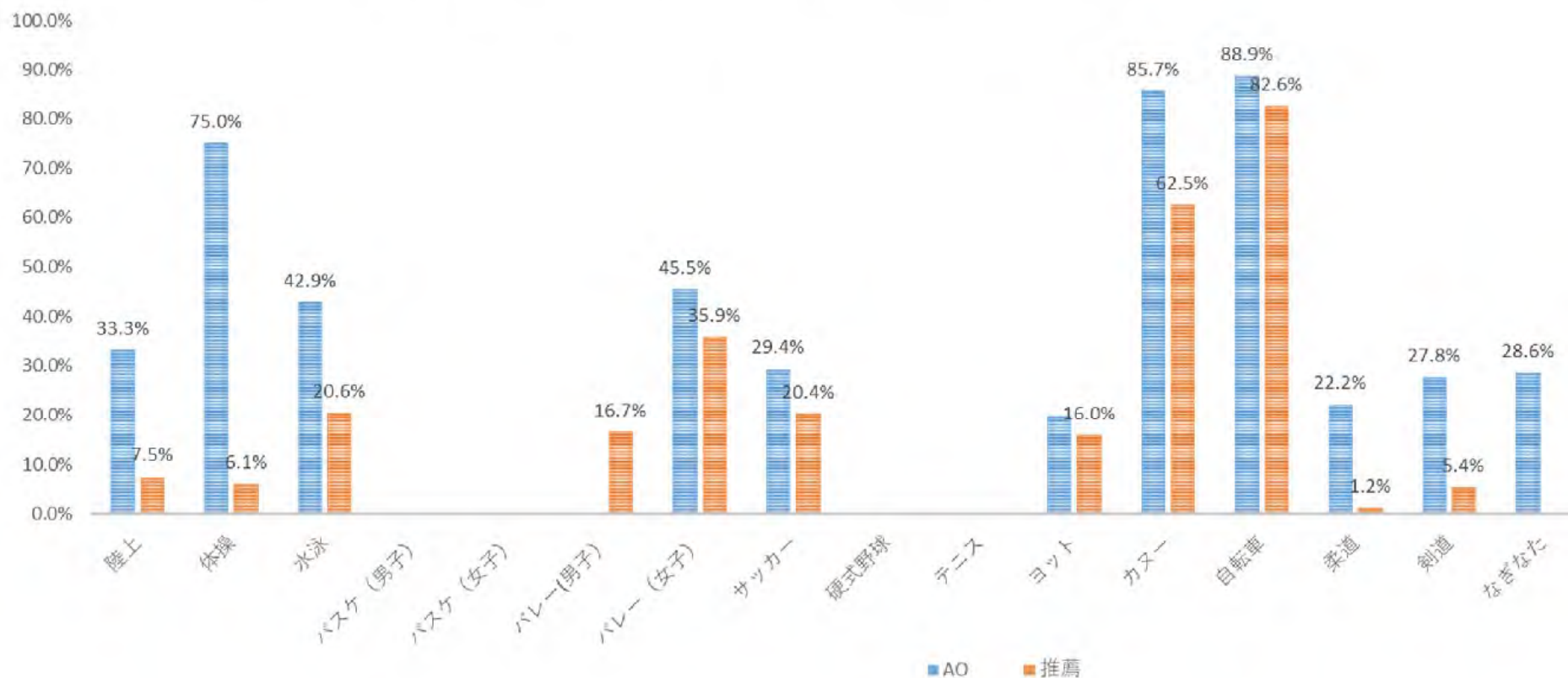
区分		入学年度								
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
AO入試	スポ総	7	6	7	7	5	5	5	4	4
	武道	3	0	0	0	1	1	1	1	2
	計	10	6	7	7	6	6	6	5	6
推薦入試	スポ総	15	18	14	17	10	3	3	5	6
	武道	4	0	2	0	0	0	0	0	0
	計	19	18	16	17	10	3	3	5	6



〇AO入試、推薦入試合格者の入学後の学長表彰受賞者数は、昨年度よりやや増加した。

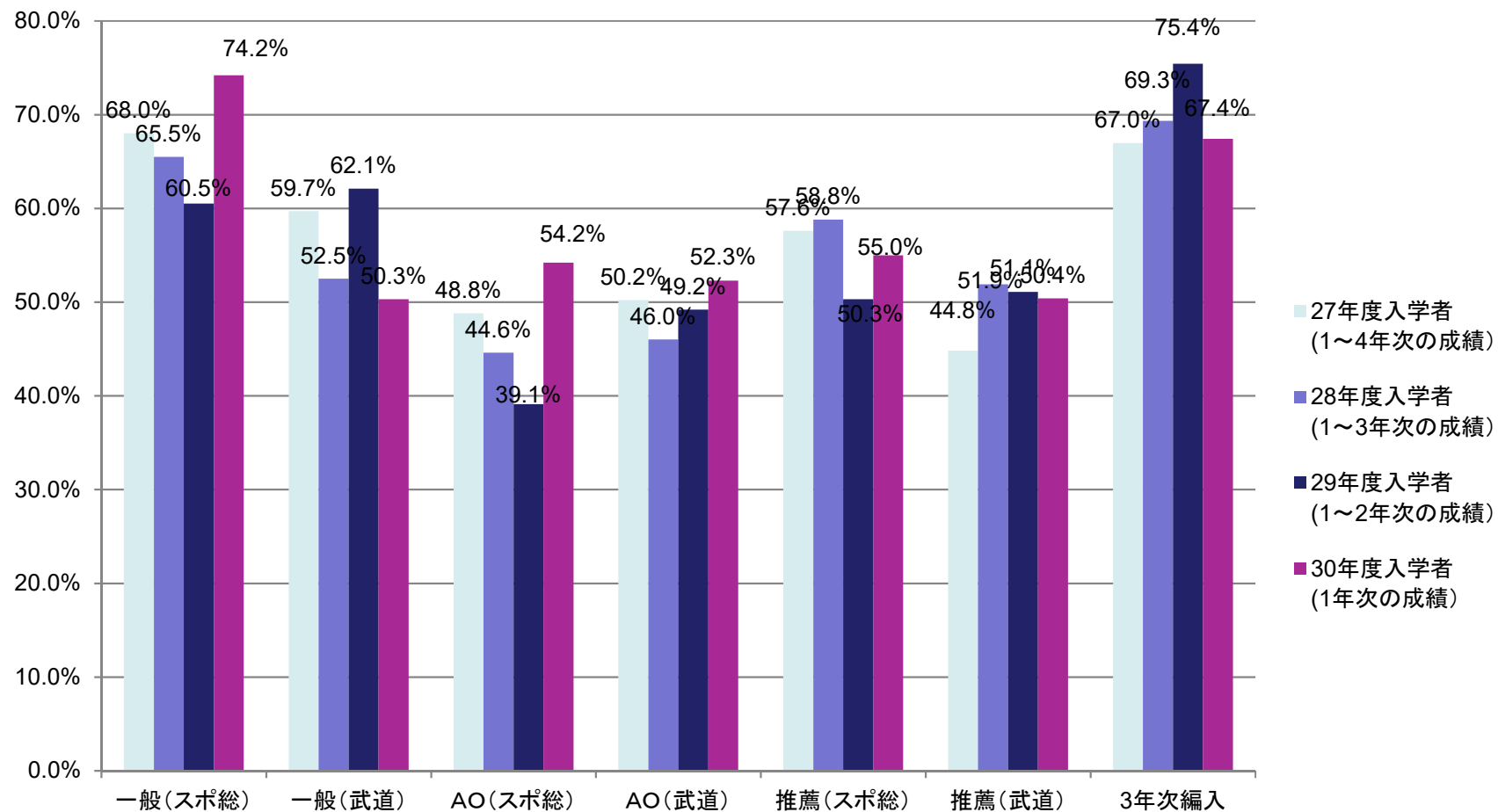
学長表彰受賞者の入学者に対する割合

(AO入試、推薦入試) ※平成19～27年度入学者累計



学業成績(修得科目数に対するA評価の割合)の比較

平成30年度末時点



入試区分別退学率(平成20年度以降)

区分	入学者数		退学者	退学率
AO入試	20年度	13		0.00%
	21年度	10		0.00%
	22年度	13	1	7.69%
	23年度	15	1	6.67%
	24年度	13		0.00%
	25年度	14		0.00%
	26年度	12	1	8.33%
	27年度	15		0.00%
	28年度	14	1	7.14%
	29年度	15		0.00%
	30年度	15		0.00%
	小計	149	4	2.68%
	推薦入試	20年度	70	4
21年度		74	9	12.16%
22年度		71	3	4.23%
23年度		71	2	2.82%
24年度		72	2	2.78%
25年度		72	1	1.39%
26年度		73	2	2.74%
27年度		70	2	2.86%
28年度		71	1	1.41%
29年度		70		0.00%
30年度		70		0.00%
小計		784	26	3.32%

※除籍者は除く

区分	入学者数		退学者	退学率
一般入試	20年度	96	4	4.17%
	21年度	94	5	5.32%
	22年度	102	6	5.88%
	23年度	90	5	5.56%
	24年度	93	2	2.15%
	25年度	95	2	2.11%
	26年度	88		0.00%
	27年度	94	4	4.26%
	28年度	92	2	2.17%
	29年度	91	2	2.20%
	30年度	91		0.00%
	小計	1026	32	3.12%
	編入学	20年度	21	
21年度		22		0.00%
22年度		20		0.00%
23年度		20	2	10.00%
24年度		20		0.00%
25年度		20		0.00%
26年度		19		0.00%
27年度		20	2	10.00%
28年度		20		0.00%
29年度		19		0.00%
30年度		19		0.00%
小計		220	4	1.82%
合計		2,179	66	3.03%

○ここ数年においては、AO、推薦入学者は退学が少ない状況である。

4年次における卒業不可率(平成19年度以降入学者)

入学年度		19年度				20年度				21年度				22年度				23年度			
選抜区分	課程	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率
AO	スポーツ 総合	10	0	0	0.0%	8	0	0	0.0%	7	0	0	0.0%	10	1	0	7.7%	10	0	2	14.3%
	武道	6	0	0		5	0	0		3	0	0		3	0	0		4	0	0	
推薦	スポーツ 総合	49	0	8	11.6%	50	2	3	10.0%	52	2	5	12.2%	50	1	0	7.0%	50	2	0	5.6%
	武道	20	0	0		20	0	2		22	2	0		21	1	3		21	0	2	
一般	スポーツ 総合	65	3	7	14.0%	66	3	3	9.4%	66	2	4	9.6%	74	3	3	8.8%	62	3	2	9.0%
	武道	28	1	2		30	1	2		28	2	1		28	1	2		27	0	3	
計	スポーツ 総合	124	3	15	11.8%	124	5	6	8.9%	125	4	9	10.1%	134	5	3	8.1%	122	5	4	8.0%
	武道	54	1	2		55	1	4		53	4	1		52	2	5		52	0	5	

入学年度		24年度				25年度				26年度				27年度				計			
選抜区分	課程	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率
AO	スポーツ 総合	10	0	0	0.0%	11	0	0	0.0%	9	1	0	8.3%	11	0	0	0.0%	86	2	2	3.3%
	武道	3	0	0		3	0	0		3	0	0		4	0	0		34	0	0	
推薦	スポーツ 総合	51	1	2	5.6%	50	1	0	4.2%	51	2	3	8.2%	50	2	1	5.7%	453	13	19	7.2%
	武道	21	1	0		22	0	2		22	0	1		20	1	0		189	5	9	
一般	スポーツ 総合	65	2	2	6.5%	70	2	3	6.1%	60	0	2	4.5%	66	3	3	7.4%	594	21	27	7.9%
	武道	28	0	2		28	0	1		28	0	2		28	0	1		253	5	14	
計	スポーツ 総合	126	5	4	6.7%	126	3	4	5.6%	131	3	3	4.9%	120	3	5	6.4%	1132	36	53	7.8%
	武道	52	1	2		52	1	2		53	0	3		53	0	3		476	10	27	

入学年度		21年度				22年度				23年度				24年度				25年度			
選抜区分	課程	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率
編入	スポーツ 総合	21	0	2	9.1%	19	0	0	0.0%	20	1	1	10.0%	20	0	1	5.0%	19	0	0	0.0%
	武道	1	0	0		1	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	

入学年度		26年度				27年度				28年度				29年度				計			
選抜区分	課程	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率	入学 者数	中途 退学者 等	卒業 不可者	卒業 不可率
編入	スポーツ 総合	20	0	3	15.0%	20	0	4	20.0%	20	0	1	5.0%	20	0	4	20.0%	179	1	16	9.4%
	武道	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0		2	0	0	

鹿屋体育大学アドミッション・ポリシーの全部改正について

鹿屋体育大学アドミッション・ポリシーの全部改正について、教育研究評議会の判断を求めるものである。

【概要】

平成28年3月31日に公布された「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」が平成29年4月1日から施行されることに伴い、全ての大学等において、「卒業の認定に関する方針」「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「入学者の受入れに関する方針」を策定し、公表することが求められた。

【変更点】

「三つの方針」を一貫性のあるものにするために、今回、「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）を全面的に見直し、新たに策定した。

なお、アドミッション・ポリシーを新たに策定する際に、各項目について、高大接続システム改革の大学入学者選抜改革に基づく、「学力の3要素」を割り振った。

鹿屋体育大学の使命・教育理念

1981年に開学した国立大学唯一の体育系単科大学である鹿屋体育大学は、スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野において実践的かつ創造的で市民性、国際性を備えたリーダー（指導者）を養成することを使命とし、本学の教育課程の中で、社会人としての豊かな教養の涵養や将来を展望し、勤労観・職業観を醸成しつつも、体育学に関してあらゆる専門性の深化と充実を目指します。

アドミッション・ポリシー（AP）求める学生像

- ① 体育学を学ぶための基礎的な力を身に付けている学生（知識・技能）
文系・理系に偏ることのない基礎学力とともに、自分の得意分野の実技能力をも身に付けている学生
- ② 自己表現ができる学生（思考力・判断力・表現力）
自分が身に付けた学力や実技で得た経験値を総合的に活用・応用し、スポーツ・武道および体育・健康づくりに関する新たな課題やその解決策を考察し、他者に伝えることができる学生
- ③ 新たな課題に挑む意欲のある学生（主体性・多様性・協働性）
礼節とスポーツマンシップを身に付けた、新たな課題に進んで挑戦しようとする、感性豊かで協調性のある学生

入学試験の基本方針

本学のアドミッション・ポリシーに基づき、以下の入試区分において入学試験の基本方針を示します。

AO（SS）入試

- スポーツ・武道の分野で極めて優れた競技能力を有し、近い将来国際大会等で活躍する資質について競技実績により判断します。（知識・技能）
- 本学への明確な志望動機や入学後の競技や学生生活に関するビジョンのほか、リーダーシップやマナー、コミュニケーション能力などについて自己推薦文や面接により判断します。（思考力・判断力・表現力）（主体性・多様性・協働性）

推薦入試

- スポーツ・武道の分野で高い競技能力を有し、将来トップレベルの競技者になりうる資質について、課程別に指定した実技検査により判断します。（知識・技能）
- スポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導・普及させるための基礎的な知識、また指導・普及における課題に対する思考・判断・表現力について小論文により判断します。（知識・技能）（思考力・判断力・表現力）

- スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおけるリーダーシップやマナー、コミュニケーション能力などについて面接により判断します。(思考力・判断力・表現力)(主体性・多様性・協働性)

一般入試

- 入学後の教育に十分に対応し自らの趣向性にあうように、文系・理系に特に偏ることなく、さらにこれからのグローバル化した社会に対応するために外国語(英語)の基礎学力を備えているかを判断するために、大学入学者選抜大学入試センター試験において本学が指定する教科・科目の成績により判断します。(知識・技能)
- スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおけるリーダーシップやマナー、コミュニケーション能力、および知識や経験に基づく思考・判断・表現力などについて面接により判断します。(思考力・判断力・表現力)(主体性・多様性・協働性)
- スポーツ・武道に関する基礎的な実技力またはあらゆるスポーツに関する基礎的な身体資質の特性を課程別に指定した実技検査により判断します。(知識・技能)

第3年次編入学入試

- スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野に関心を持ち、それらを指導し、普及させるための基礎的な知識について小論文により判断します。(知識・技能)(思考力・判断力・表現力)
- スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおけるリーダーシップやマナー、コミュニケーション能力、および知識や経験に基づく思考・判断・表現力などについて面接により判断します。(思考力・判断力・表現力)(主体性・多様性・協働性)
- スポーツ・武道に関する基礎的な身体資質の特性を運動能力検査により判断します。(知識・技能)

鹿屋体育大学のアドミッション・ポリシー（案）・ディプロマ・ポリシーと「学力の3要素」との関係

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性	備考
DP (教育目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導し、普及させるための基礎的な知識及び豊かな教養を身につけている ・スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する実技力、科学的支援力及び表現力を身につけている ・スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関して、年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や事業運営力を身につけている 	<p>スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する課題について、体育学の知識を総合的に活用・応用し、説明することができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関心をもち、主体的かつ計画的に、課題解決に向かって取り組む意志をもっている ・スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおけるリーダーシップとコミュニケーション能力をもつとともに、社会の一員として適切に振る舞う態度を身につけている 	
アドミッションポリシー (求める学生像)	<p>体育学を学ぶための基礎的な力を身に付けている学生</p> <p>文系・理系に偏ることのない基礎学力とともに、自分の得意分野の実技能力をも身に付けている学生</p>	<p>自己表現ができる学生</p> <p>自分が身に付けた学力や実技で得た経験値を総合的に活用・応用し、スポーツ・武道および体育・健康づくりに関する新たな課題やその解決策を考察し、他者に伝えることができる学生</p>	<p>新たな課題に挑む意欲のある学生</p> <p>礼節とスポーツマンシップを身に付けた、新たな課題に進んで挑戦しようとする、感性豊かで協調性のある学生</p>	
入学試験の基本方針	AO入試	<p>スポーツ・武道の分野で極めて優れた競技能力を有し、近い将来国際大会等で活躍しうる資質について競技実績により判断します。</p>	<p>本学への明確な志望動機や入学後の競技や学生生活に関するビジョンのほか、リーダーシップやマナー、コミュニケーション能力などについて自己推薦文や面接により判断します。</p>	
	推薦入試	<p>・スポーツ・武道の分野で高い競技能力を有し、将来トップレベルの競技者になりうる資質について、課程別に指定した実技検査により判断します。</p>	<p>・スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおけるリーダーシップやマナー、コミュニケーション能力などについて面接により判断します。</p>	
		<p>・スポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導・普及させるための基礎的な知識、また指導・普及における課題に対する思考・判断・表現力について小論文により判断します。</p>		
	一般入試	<p>・入学後の教育に十分に対応し自らの趣向性にあうように、文系・理系に特に偏ることなく、さらにこれからのグローバル化した社会に対応するために外国語(英語)の基礎学力を備えているかを判断するために、大学入学者選抜大学入試センター試験において本学が指定する教科・科目の成績により判断します。</p> <p>・スポーツ・武道に関する基礎的な実技力またはあらゆるスポーツに関する基礎的な身体資質の特性を課程別に指定した実技検査により判断します。</p>	<p>・スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおけるリーダーシップやマナー、コミュニケーション能力、および知識や経験に基づく思考・判断・表現力などについて面接により判断します。</p>	
3年次編入	<p>・スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野に関心をもち、それらを指導し、普及させるための基礎的な知識について小論文により判断します。</p>			
	<p>・スポーツ・武道に関する基礎的な身体資質の特性を運動能力検査により判断します。</p>	<p>・スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおけるリーダーシップやマナー、コミュニケーション能力、および知識や経験に基づく思考・判断・表現力などについて面接により判断します。</p>		

鹿屋体育大学におけるDP,CP,APの策定及び運用に関するガイドラインへの対応状況

【全体について】

◎:高い, ○:普通, △:もう少し, ×:未整備

点検項目	学部	大学院	備考・状況	引用頁
Q:課程毎にDP, CP, APを立案するか?	○	○		p4-5
Q:DP,CP,APの(再)設定に際して, 学部・課程, 大学院等との一貫性・整合性があるか?	○	△		p5
Q:DP,CP,AP(の再設定)は分かりやすいか?	◎	△		p6
Q:DP,CP,AP(の再設定)は積極的に発信, 広報しているか?	△	△		p6

【DP(ディプロマポリシー)について】[第115回教育研究評議会(H26.1.30)にて了承]

0	学部	大学院	備考・状況	出典
Q:学生が身につけるべき資質・能力の目標(教育目標)を明確にしているか?	◎	△		p5
Q:「何ができるようになる」と卒業認定されるといった学修成果(DP)を明確にしているか?	◎	△		p6
Q:大学の理念に沿った学授与方針を(DP)をより具体的(※)に設定しているか?	◎	△		p3,L2
Q:大学の個性・特色・魅力を反映したDPともなっているか?	◎	△		p2
Q:そのDPは, 学士課程答申, 分野別の参照基準を参考として作成されているか?	◎	△		p6
Q:そのDPは, 学生の進路先等社会における顕在・潜在的ニーズを踏まえて作成されているか?	◎	△		p6

※ 知識・技能, 思考力・判断力・表現等, 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

【CP(カリキュラムポリシー)について】[第115回教育研究評議会(H26.1.30)にて了承]

点検項目	学部	大学院	備考・状況	出典
Q:DPを踏まえ, 実現するプログラム(教育課程)編成方針(CP)があるか?	◎	△		p6
Q:大学の個性・特色/魅力を反映したCPとなっているか?	◎	△		p2
Q:DP等にある育成能力と個々の授業科目との関係が明確になっているか(体系的・整合性があるか)?	○	△		p7
Q:プログラム(教育課程)は, 学修方法, 学習過程, 学修成果の評価のあり方等も示しているか?	○	△		p7
Q:DP等にある育成能力を適切に評価しているか?	○	△		
Q:DP等にある育成能力を適切に評価する考え方や尺度を用意しているか?	○	△		p8
Q:プログラム(教育課程)において, 能動的学修(アクティブ・ラーニング)の充実に配慮しているか?	◎	△		p8
Q:体系的な教育課程の構築にむけ, 初年次教育, 教養教育, 専門教育, キャリア教育等について点検・評価・改善が図られているか?	○	△		p6
Q:初年次教育については, 多様な入学者(AO, 推薦, 編入学生, 社会人, 外国人入学者への対応)が自ら学修計画を立案できるようにしているか?	○	△		p6

※ 知識・技能, 思考力・判断力・表現等, 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

【AP(アドミッションポリシー)について】

点検項目	学部	大学院	備考・状況	出典
Q:大学の理念, DP,CPに沿ったアドミッションポリシー(AP)で, DP等に対応し, 求める人材の具体的な能力(※)を示しているか?	△	△		p6-7
Q:DP,CP,APの(再)設定に際して, 一貫性を持つものの, APに柔軟性を持たせるようになっているか?	△	△		p6-7
Q:入学前に学習しておくことが期待される内容を示しているか?	△	△		p6-7
Q:APを具現化するどのような評価方法を用いるべきかを具体的に, 根拠を持って示しているか?	△	△		p6-7

※ 知識・技能, 思考力・判断力・表現等, 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

【運用方針について】・・・アセスメントポリシーが必要

点検項目	学部	大学院	備考・状況	出典
Q:DP, CP, APの運用が適切に行われているかを評価・改善する仕組み(組織等)を有しているか?	○	△		p7-8
Q:DP等にある育成能力を適切に評価し, それを基にプログラムを改善しているか?	○	△		p7-8
Q:各授業担当教員がDP, CPを意識した授業改善を行うFD等を行っているか?	○	△		p7-8
Q:DP,CP,APの(再)設定に際して, 学部・課程, 大学院等との一貫性・整合性があるか?		△		

高大接続入試改革に伴う本学の2021年度入試（2020年度実施）について

【一般入試】

1. 選抜の名称：一般選抜

2. 入試方法

以下の通り、2021年度入試(2020年度実施)より、本学一般選抜を行います。

入試方法	課程(選抜区分)	
	スポーツ総合課程	武道課程
大学入学共通テスト	3教科3科目 (200点×3科目=600点満点)	3教科3科目 (200点×3科目=600点満点)
実技検査	300点	300点*
プレゼンテーション+口頭試問	100点**	100点**
合計	1,000点	1,000点

* 3-3(1)参照

**3-4(5)参照

3. 主な変更点

3-1. 合格者の決定方法

(1)上記3種類の入試方法得点の合計得点で合否を決定します。

3-2. 大学入学共通テスト

本学が課す2021年度(令和3年度)大学入学共通テストの教科・科目

(1)2020年度(令和2年度)以前の大学入試センター試験成績の利用は行いません。

(2)国語又は数学から1教科・1科目(200点)、地理歴史若しくは公民又は理科から1教科・1科目(200点)、外国語から1科目(200点)の合計3教科・3科目(600点満点)を受験していることが条件です。

なお、本学が指定する教科・科目数を超えて受験した場合は、高得点となる3教科・3科目を合否判定に用います。ただし、地理歴史及び公民並びに理科の試験時間において2科目を受験する場合には、第1解答科目の得点を用います。

教科	グループ	科目	教科科目の選択の方法
国語		『国語』	左記の2教科・7科目のうちから1教科・1科目を受験していること。
数学	①	「数学Ⅰ」 『数学Ⅰ・数学A』	
	②	「数学Ⅱ」 『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』 『情報関係基礎』	
地理歴史		「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」	左記の3教科・18科目のうちから1教科・1科目を受験していること。 ただし、「基礎を付した科目」については、2科目を受験していること。
公民		「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理 政治・経済』	
理科	①	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	左記の3教科・18科目のうちから1教科・1科目を受験していること。 ただし、「基礎を付した科目」については、2科目を受験していること。
	②	「物理」「化学」 「生物」「地学」	
外国語		『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	左記の1教科・5科目のうちから1教科・1科目を受験していること。 なお、『英語』を選択する者は、リーディングとリスニングの双方を受験すること。

3-3. 実技検査

(1) 武道課程の実技検査配点を現行の100点から300点に変更します。

(武道課程受験者の実技検査評価が90点未満となった場合には不合格とします)

(2) 実技検査における競技種目については変更はありません。

3-4. 「プレゼンテーション+口頭試問」

(1) 「プレゼンテーション+口頭試問」の試験時間は、「プレゼンテーション」：3分、「口頭

試問」：7分の合計10分とします。

- (2)「プレゼンテーション」のテーマは、スポーツ総合課程・武道課程共通とし、出題は本学のアドミッションポリシーに即して、高等学校保健体育の学習成果を応用したものを一題出題します。なお、このテーマは、大学入学共通テスト後に、本学ホームページ及び受験者心得で事前に告知します。
- (3)「口頭試問」は、主として「プレゼンテーション」の内容について質問します。
- (4)「口頭試問」の際に、調査書を参考資料として使用します。
- (5)「プレゼンテーション+口頭試問」(試験時)において、態度が著しく悪く本学の教育を受けるのにふさわしくないと認められた場合は不合格とします。

4. 募集定員

スポーツ総合課程：60人

武道課程 ：25人

※本学の一般選抜における募集定員は、現行の一般入試から変更はありません。